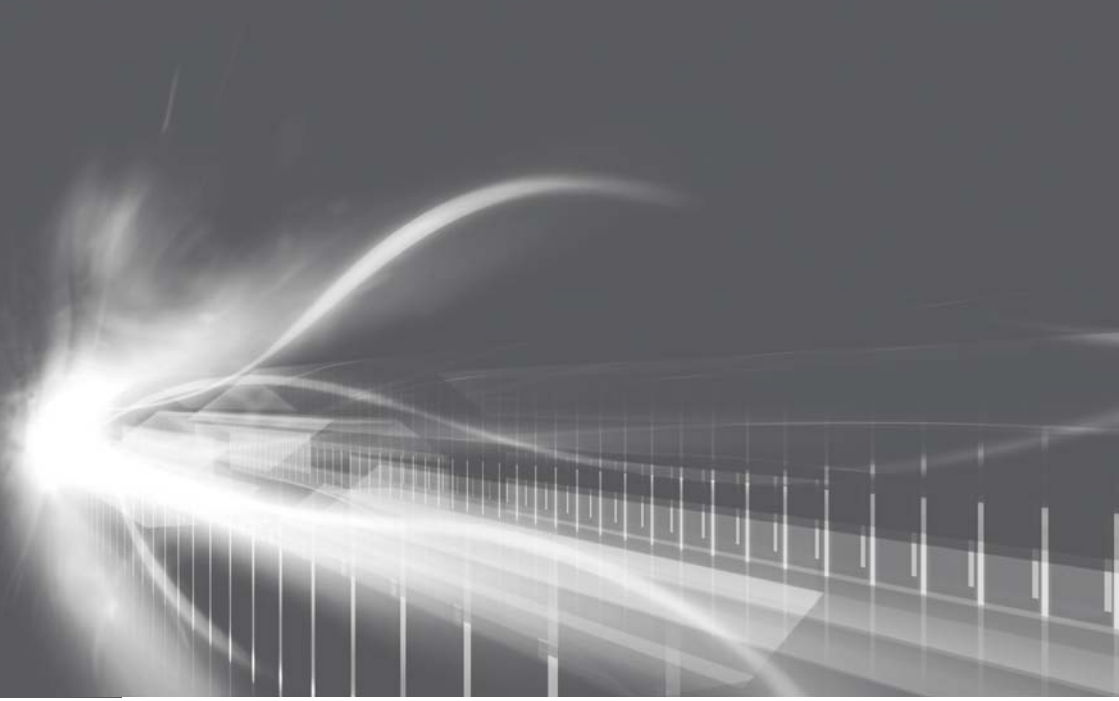


取　扱　書

よくお読みになってご使用ください。
取扱書は車の中に保管しましょう。

HARRIER

TOYOTA

	イラスト目次	**イラスト**から検索
1	安全・安心のために	お客様に**必ずお読みいただきたいこと**
2	メーターの見方	メーター・警告灯／表示灯の種類・見方など
3	各部の操作	ドア・ドアガラスの開閉や、運転操作前の調整など
4	運転	運転に必要な操作やアドバイス
5	室内装備・機能	室内装備の使い方など
6	お手入れのしかた	車のお手入れ・メンテナンスの方法
7	万一の場合には	故障したときや、緊急時などの対処
8	車両情報	車の仕様やお好みに合わせて選べる機能の情報など
	さくいん	**症状**から検索
		音から検索
		アルファベットで検索
		五十音で検索

知っておいていただきたいこと 6
本書の見方 10
検索のしかた 11
イラスト目次 12

1 安全・安心のために

1-1. 安全にお使いいただくために
運転する前に 22
安全なドライブのために 24
シートベルト 26
SRS エアバッグ 33
お子さまの安全のために 41
子供専用シート 42
チャイルドシートの取り付け 50
排気ガスに対する注意 56

1-2. 盗難防止装置
エンジンイモビライザーシステム 57
オートアラーム 58

2 メーターの見方

2. 計器の見方
警告灯／表示灯 62
計器類 65
マルチインフォメーションディスプレイ 69
燃費画面／ ESPO 画面 75

3 各部の操作

3-1. キー
キー 80

3-2. ドアの開閉、ロックのしかた
ドア（フロントドア・リヤドア） 83
バックドア 89
スマートエントリー＆スタートシステム 102

3-3. シートの調整
フロントシート 108
リヤシート 110
ポジションメモリー／メモリーコール 112
ヘッドレスト 116

3-4. ハンドル位置・ミラー
ハンドル 118
インナーミラー 121
ドアミラー 123
補助確認装置 126

3-5. ドアガラス・ムーンルーフの開閉
パワーウインドウ 127
パノラマムーンルーフ 130

4 運転

4-1. 運転にあたって
運転にあたって 138
荷物を積むときの注意 147

4-2. 運転のしかた

エンジン（イグニッション）スイッチ.....148

オートマチックトランスミッション.....154

方向指示レバー.....158

パーキングブレーキ.....159

4-3. ランプのつけ方・ワイパーの使い方

ランプスイッチ.....160

オートマチックハイビーム.....162

LED イルミネーションビーム（G's）.....166

フォグランプスイッチ.....167

ワイパー＆ウォッシャー（フロント）.....169

ワイパー＆ウォッシャー（リヤ）.....173

4-4. 給油のしかた

給油口の開け方.....175

4-5. 運転支援装置について

Toyota Stop & Start System（SMART STOP）.....178

クルーズコントロール.....186

レーダークルーズコントロール.....190

LDA（ステアリング制御付）.....201

走行モードの選択.....214

クリアランスソナー.....216

インテリジェントクリアランスソナー.....226

運転を補助する装置.....238

PCS（プリクラッシュセーフティシステム）.....245

4-6. 運転のアドバイス

寒冷時の運転.....252

5 室内装備・機能

5-1. エアコンとデフォッガーの使い方

オートエアコン.....256

シートヒーター.....265

5-2. 室内灯のつけ方

室内灯一覧.....267

・フロントパーソナルランプ／フロントルームランプ.....268

・リヤルームランプ.....268

5-3. 収納装備

収納装備一覧.....270

・小物入れ.....271

・グローブボックス.....271

・コンソールボックス.....272

・カップホルダー／ボトルホルダー.....273

ラゲージルーム内装備.....275

・デッキフック.....275

・ネットフック.....275

・デッキアンダートレイ.....276

5-4. その他の室内装備の使い方
その他の室内装備 277
・サンバイザー.....277
・バニティミラー.....277
・時計 278
・アクセサリーソケット
／アクセサリーコンセント
.....279
・ワイヤレス充電器
（おくだけ充電）.....281
・アームレスト.....287
・コートフック.....288
・アシストグリップ.....288
・ステアリングスイッチ 289

6 お手入れのしかた

6-1. お手入れのしかた
外装の手入れ.....292
内装の手入れ.....296
6-2. 簡単な点検・部品交換
ボンネット.....299
ガレージジャッキ 301
ウォッシャー液の補充 302
タイヤについて.....303
タイヤ空気圧について 306
エアコンフィルターの交換....308
電子キーの電池交換 310
ヒューズの点検・交換 312
電球（バルブ）の交換 315

7 万一の場合には

7-1. まず初めに
故障したときは 332
非常点滅灯
（ハザードランプ）..... 333
発炎筒 334
車両を緊急停止するには..... 336
7-2. 緊急時の対処法
けん引について 337
警告灯がついたときは 344
警告メッセージが
表示されたときは..... 347
パンクしたときは
（応急用タイヤ装着車）..... 364
パンクしたときは（タイヤパンク
応急修理キット装着車）..... 374
エンジンが
始動できないときは..... 387
シフトレバーが
シフトできないときは..... 389
電子キーが正常に
働かないときは 390
バッテリーが
あがったときは 392
オーバーヒートしたときは... 396
スタックしたときは 399

8 車両情報

8-1. 仕様一覧
メンテナンスデータ（指定燃料・オイル量など）.....402
8-2. カスタマイズ機能
ユーザーカスタマイズ機能一覧.....408
8-3. 初期設定
初期設定が必要な項目.....416

さくいん

こんなときは（症状別さくいん）.....418
車から音が鳴ったときは（音さくいん）.....421
アルファベット順さくいん.....423
五十音順さくいん.....424

知っておいていただきたいこと

本書の内容について

本書はオプションを含むすべての装備の説明をしています。
そのため、お客様の車にはない装備の説明が記載されている場合があります。また、車の仕様変更により、内容がお車と一致しない場合がありますのでご了承ください。
トヨタ販売店で取り付けられた装備（販売店オプション）の取り扱いについては、その商品に付属の取扱説明書をお読みください。

イラストは、記載している仕様などの違いにより、お客様の車の装備と一致しない場合があります。

不正改造について

- トヨタが国土交通省に届け出をした部品以外のものを装着すると、不正改造になることがあります。
- 車高を下げたり、ワイドタイヤを装着するなど、車の性能や機能に適さない部品を装着すると、故障の原因となったり、事故を起こし、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- ハンドルの改造は絶対にしないでください。ハンドルには SRS エアバッグが内蔵されているため、不適切に扱うと、正常に作動しなくなったり、誤ってふくらみ、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- 次の場合はトヨタ販売店にご相談ください。
  - ・タイヤ・ディスクホイール・ホイール取り付けナットの交換
    異なった種類や指定以外のものを使用すると、走行に悪影響をおよぼしたり、不正改造になることがあります。
  - ・電装品・無線機の取り付け・取りはずし
    電子機器部品に悪影響をおよぼしたり、故障や車両火災など事故につながるおそれがあり危険です。
- フロントウインドウガラス、および運転席・助手席のドアガラスに着色フィルム（含む透明フィルム）などを貼り付けないでください。視界をさまたげるばかりでなく、不正改造につながるおそれがあります。

車両データの記録について

お車には、車両の制御や操作に関するデータなどを記録するコンピューターが複数装備されており、主に次のようなデータを記録します。

・エンジン回転数
・アクセルの操作状況
・ブレーキの操作状況
・車速
・シフトポジション

グレード･オプション装備により記録されるデータ項目は異なります。なお、コンピューターは会話などの音声や映像は記録しません。

● データの取り扱いについて

トヨタはコンピューターに記録されたデータを車両の故障診断・研究開発・品質の向上を目的に取得・利用することがあります。

なお、次の場合を除き、トヨタは取得したデータを第三者へ開示または提供することはありません。

・お車の使用者の同意（リース車は借主の同意）がある場合
・警察・裁判所・政府機関などの法的強制力のある要請に基づく場合
・統計的な処理を行う目的で、使用者や車両が特定されないように加工したデータを研究機関などに提供する場合

● T-Connect によるデータの取り扱いについて

お客様が T-Connect をご利用の場合、記録データとその使用について、T-Connect 利用規約をご覧ください。

イベントデータレコーダー

お車には、イベントデータレコーダー（EDR）が装備されています。EDRは、一定の衝突や衝突に近い状態（SRS エアバッグの作動および路上障害物との接触など）が発生したときに車両システムの作動状況に関するデータを記録します。EDR は車両の動きや安全システムに関するデータを短時間記録するように作られています。ただし、衝突の程度と形態によっては、データが記録されない場合があります。

EDR は次のようなデータを記録します。
・車両の各システムの作動状況
・アクセルペダルおよびブレーキペダルの操作状況
・車速

これらのデータは、衝突や傷害が発生した状況を把握するのに役立ちます。

注意：EDR は衝突が発生したときにデータを記録します。通常走行時にはデータは記録されません。また、個人情報（例：氏名・性別・年齢・衝突場所）は記録されません。ただし、事故調査の際に法執行機関などの第三者が、通常の手続きとして収集した個人を特定できる種類のデータと EDR データを組み合わせて使用することがあります。EDR で記録されたデータを読み出すには、特別な装置を車両または EDR へ接続する必要があります。トヨタにくわえ、法執行機関などの特別な装置を所有する第三者が車両またはEDRに接続した場合でも情報を読み出すことができます。

● EDR データの情報開示

次の場合を除き、トヨタは EDR で記録されたデータを第三者へ開示することはありません。
・お車の使用者の同意（リース車は借主の同意）がある場合
・警察・裁判所・政府機関などの法的強制力のある要請に基づく場合
・トヨタが訴訟で使用する場合

ただし、トヨタは
・データを車両安全性能の研究に使用することがあります。
・使用者・車両が特定されないデータを調査目的で第三者に開示することがあります。

RF 送信機の取り付けについて

お車へ RF 送信機を取り付けると、次のようなシステムに影響をおよぼす可能性があります。

- EFI コンピュータ
- レーダークルーズコントロール
- クルーズコントロール
- ABS（アンチロックブレーキシステム）
- SRS エアバッグ
- シートベルトプリテンショナー

悪影響を防ぐための措置や取り付け方法については、必ずトヨタ販売店にお問い合わせください。

ご希望により、RF 送信機の取り付けに関する詳しい情報（周波数帯域・電力レベル・アンテナ位置・取り付け条件）をトヨタ販売店にてご提供します。

保証および点検について

保証および点検整備については、別冊「メンテナンスノート」に記載していますので、併せてお読みください。

日常点検整備や定期点検整備は、お客様の責任において実施してください。（法律で義務付けられています）

本書の見方

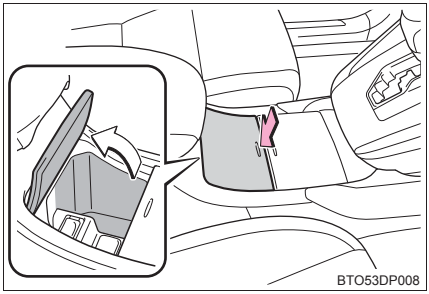
警告 お守りいただかないと、お客様自身と周囲の人々が死亡、または重大な傷害につながるおそれがあることを説明しています。

注意 お守りいただかないと、車や装備品の故障や破損につながるおそれがあることを説明しています。

1 2 3… 操作・作業の手順を示しています。番号の順に従ってください。

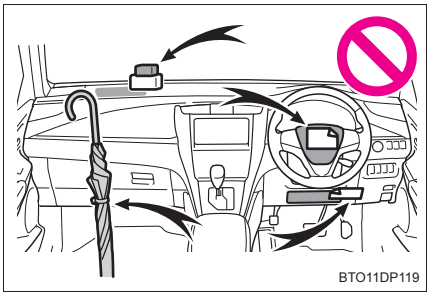
押す・まわすなど、していただきたい操作を示しています。

フタが開くなど、操作後の作動を示しています。



説明の対象となるもの・場所を示しています。

“してはいけません”“このようにしないでください”“このようなことを起こさないでください”という意味です。

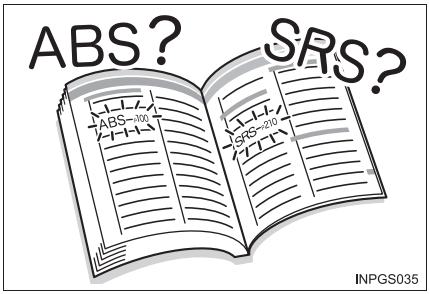


知識 機能や操作方法の説明以外で知っておいていただきたい、知っておくと便利なことを説明しています。

検索のしかた

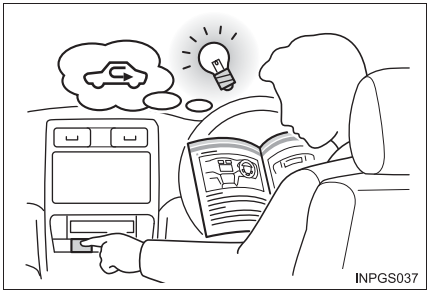
■ 名称から探す

・五十音順さくいん.....424
・アルファベット順
さくいん.....423



■ 取り付け位置から探す

・イラスト目次.....12

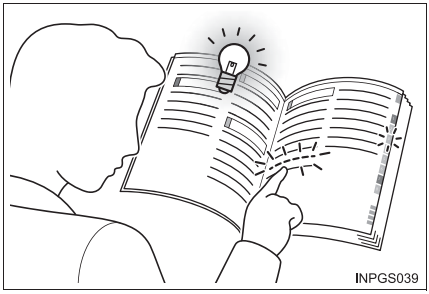


■ 症状や音から探す

・こんなときは
（症状別さくいん）.....418
・車から音が鳴ったときは
（音さくいん）.....421

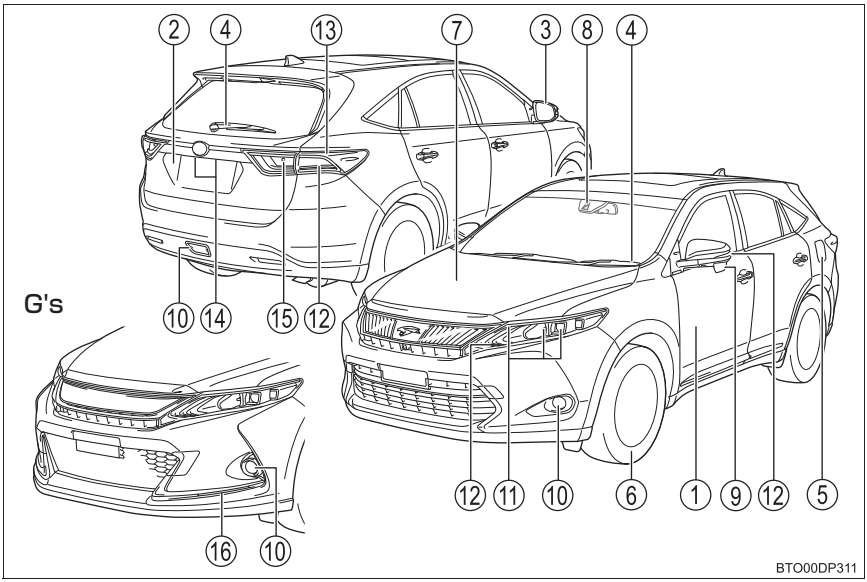
■ タイトルから探す

・目次 2



イラスト目次

■ 外観



① **ドア . . . . . P. 83**

施錠／解錠 . . . . . P. 83

ドアガラスの開閉 . . . . . P. 127

メカニカルキーでの施錠／解錠 . . . . . P. 390

警告メッセージ . . . . . P. 351

② **バックドア . . . . . P. 89**

施錠／解錠 . . . . . P. 89

車内から開ける★ . . . . . P. 90

車外から開ける . . . . . P. 90

警告メッセージ . . . . . P. 351

③ **ドアミラー . . . . . P. 123**

鏡面の角度調整 . . . . . P. 123

ミラーの格納 . . . . . P. 123

曇りを取る（ミラーヒーター）★ . . . . . P. 265

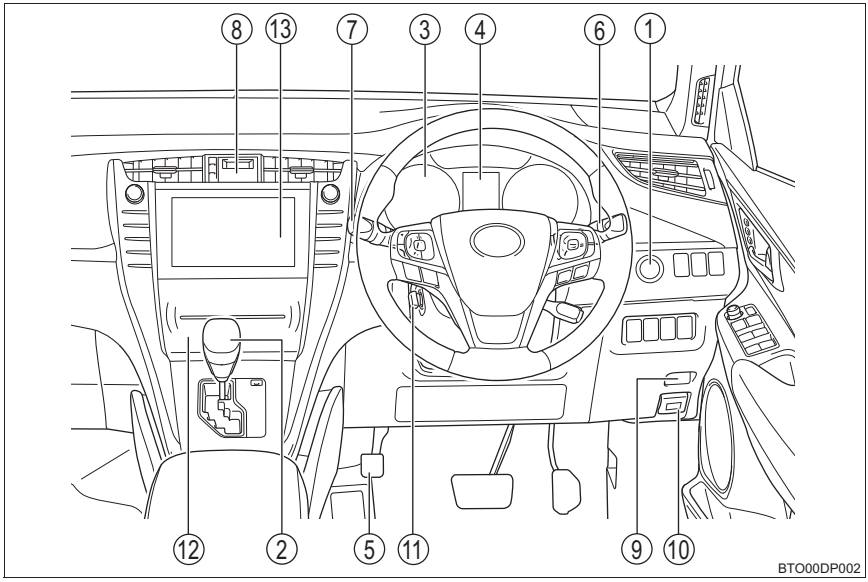
④ **ワイパー**.....P. 169, 173
冬季の注意.....P. 252
凍結防止（フロントワイパーデアイサー）★.....P. 258
洗車時の注意.....P. 294
⑤ **給油口**.....P. 175
給油方法.....P. 175
燃料の種類・燃料タンク容量.....P. 402
⑥ **タイヤ**.....P. 303
サイズ・空気圧.....P. 407
冬用タイヤ・タイヤチェーン.....P. 252
点検・ローテーション.....P. 303
パンク時の対処.....P. 364, 374
⑦ **ボンネット**.....P. 299
開け方.....P. 299
エンジンオイル.....P. 403
オーバーヒート時の対処.....P. 396
警告メッセージ.....P. 351
⑧ **LDA（ステアリング制御付）用カメラ★**.....P. 201
⑨ **補助確認装置★**.....P. 126

走行に関わる外装のランプバルブ
（交換要領：P. 315, ワット数：P. 407）

⑩ **フロントフォグランプ・リヤフォグランプ★**.....P. 167
⑪ **ヘッドランプ・車幅灯**.....P. 160
⑫ **方向指示灯**.....P. 158
⑬ **尾灯**.....P. 160
⑭ **番号灯**.....P. 160
⑮ **後退灯**
シフトポジションをRにする.....P. 154
⑯ **LED イルミネーションビーム（G's）**.....P. 166

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ インストルメントパネル



① **エンジンスイッチ . . . . . P. 148**

エンジンの始動・モード切りかえ . . . . . P. 148

エンジンの緊急停止 . . . . . P. 336

エンジンが始動できないときの対処. . . . . P. 387

警告メッセージ. . . . . P. 359

② **シフトレバー . . . . . P. 154**

シフトポジションの切りかえ. . . . . P. 154

けん引時の注意. . . . . P. 337

シフトレバーが動かないときの対処. . . . . P. 389

③ **メーター . . . . . P. 65**

明るさの調整 . . . . . P. 66

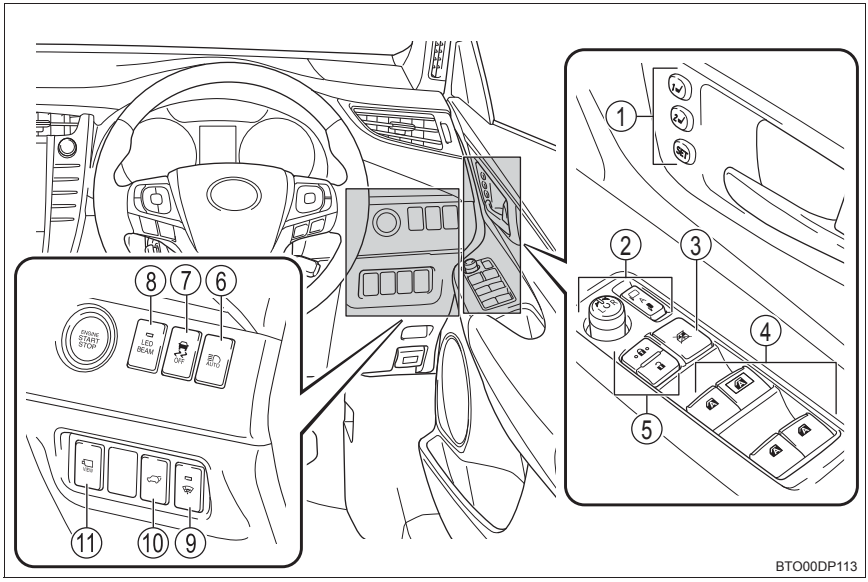
警告灯／表示灯. . . . . P. 62

警告灯点灯時の対処 . . . . . P. 344

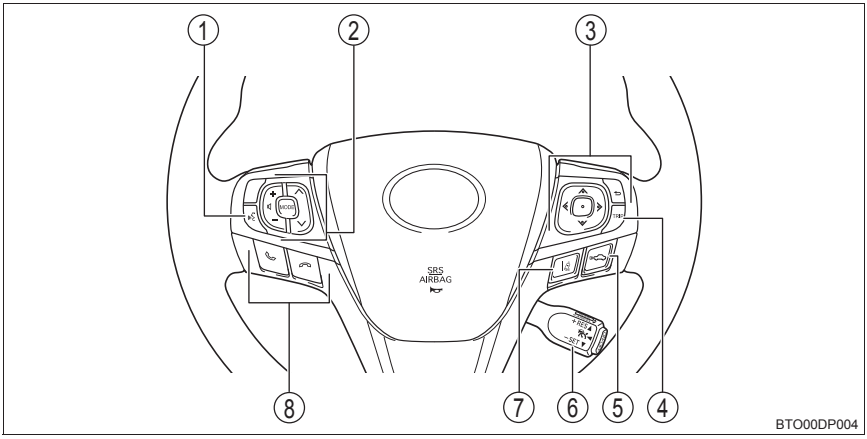
④ **マルチインフォメーションディスプレイ . . . . . P. 69**
表示内容 . . . . . P. 69
警告メッセージ表示時の対処. . . . . .P. 347
⑤ **パーキングブレーキ . . . . . .P. 159**
かける・解除する . . . . . .P. 159
冬季の注意 . . . . . .P. 253
警告ブザー・警告メッセージ. . . . . .P. 344, 355
⑥ **方向指示レバー. . . . . .P. 158**
ランプスイッチ. . . . . .P. 160
ヘッドランプ・車幅灯・尾灯. . . . . .P. 160
フロントフォグランプ・リヤフォグランプ★. . . . . .P. 167, 168
⑦ **ワイパー&ウォッシャースイッチ . . . . . .P. 169, 173**
使い方. . . . . .P. 169, 173
ウォッシャー液の補充. . . . . .P. 302
⑧ **非常点滅灯スイッチ . . . . . .P. 333**
⑨ **給油口オープナー . . . . . .P. 176**
⑩ **ボンネット解除レバー. . . . . .P. 299**
⑪ **ハンドル位置調整スイッチ . . . . . .P. 118**
調整方法 . . . . . .P. 118
調整位置の登録. . . . . .P. 112
⑫ **オートエアコン. . . . . .P. 256**
調整方法 . . . . . .P. 256
リヤウインドウの曇り取り（リヤウインドウデフォッガー）. . .P. 258
⑬ **オーディオ★※**
音楽を聴く※
電話をかける・受ける（ハンズフリー）※

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。
※：別冊「ナビゲーションシステム取扱書」を参照してください。

■ スイッチ類



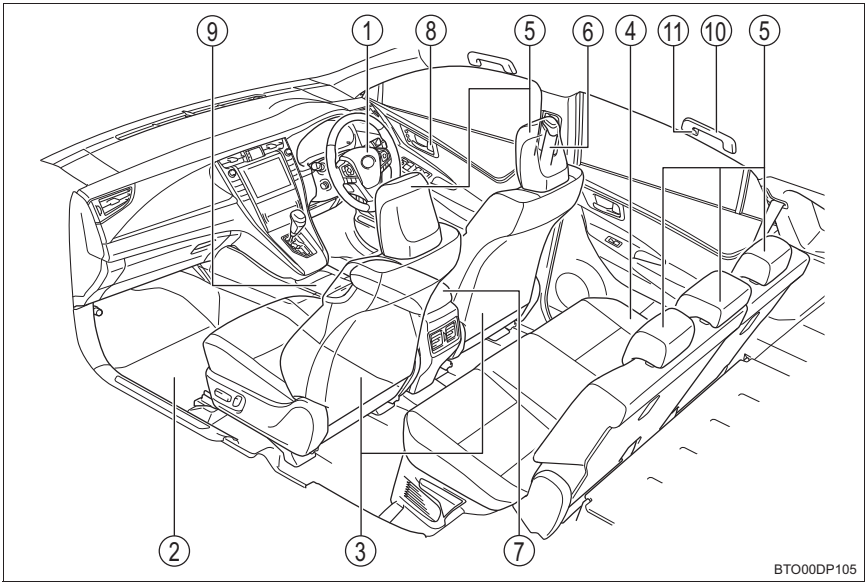
① ドライビングポジションメモリースイッチ★ . . . . . .P. 112
② ドアミラースイッチ . . . . . .P. 123
③ ウインドウロックスイッチ . . . . . .P. 127
④ パワーウインドウスイッチ . . . . . .P. 127
⑤ ドアロックスイッチ . . . . . P. 85
⑥ オートマチックハイビームスイッチ★ . . . . . .P. 162
⑦ VSC OFF スイッチ . . . . . .P. 240
⑧ LED イルミネーションビームスイッチ（G's）. . . . . .P. 166
⑨ フロントワイパーデアイサースイッチ★. . . . . .P. 258
⑩ バックドアオープンスイッチ★ . . . . . P. 90
⑪ パノラミックビューモニター（左右確認サポート付）
メインスイッチ★※



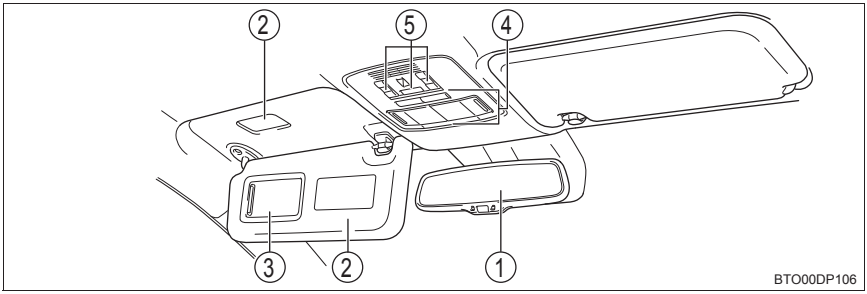
① トークスイッチ※
② オーディオスイッチ . . . . . .P. 289
③ メーター操作スイッチ. . . . . .P. 70
④ TRIP スイッチ . . . . . .P. 66
⑤ 車間距離切りかえスイッチ★ . . . . . .P. 190
⑥ クルーズコントロールスイッチ
クルーズコントロール★ . . . . . .P. 186
レーダークルーズコントロール★. . . . . .P. 190
⑦ LDA（ステアリング制御付）スイッチ★ . . . . . .P. 203
⑧ 電話スイッチ※

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。
※：別冊「ナビゲーションシステム取扱書」を参照してください。

■ 室内



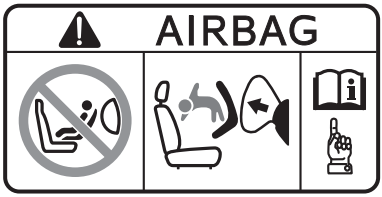
① SRS エアバッグ . . . . . P. 33
② フロアマット . . . . . P. 22
③ フロントシート . . . . . P. 108
④ リヤシート . . . . . P. 110
⑤ ヘッドレスト . . . . . P. 116
⑥ シートベルト . . . . . P. 26
⑦ コンソールボックス . . . . . P. 272
⑧ ロックレバー . . . . . P. 85
⑨ カップホルダー . . . . . P. 273
⑩ アシストグリップ . . . . . P. 288
⑪ コートフック . . . . . P. 288



① インナーミラー.....P. 121
② サンバイザー※／バニティミラーランプ.....P. 277
③ バニティミラー.....P. 277
④ フロントパーソナルランプ／フロントルームランプ.....P. 268
⑤ パノラマムーンルーフスイッチ★.....P. 130

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

※ やむを得ず助手席にチャイルドシートを取り付ける場合には、チャイルドシートをうしろ向きに取り付けないでください。重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。(→P. 54)



安全・安心のために

～必ずお読みください～

1

1-1. 安全にお使いいただくために
運転する前に.....22
安全なドライブのために.....24
シートベルト.....26
SRS エアバッグ.....33
お子さまの安全のために.....41
子供専用シート.....42
チャイルドシートの取り付け
.....50
排気ガスに対する注意.....56
1-2. 盗難防止装置
エンジンイモビライザー
システム.....57
オートアラーム.....58

運転する前に

点検整備

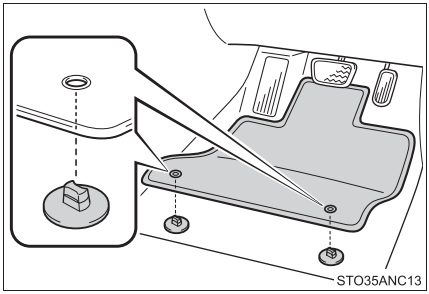
日常点検整備や定期点検整備は、お客様の責任において実施していただくことが法律で義務付けられています。適切な時期に点検整備を実施し、車に異常がないことを確認してください。

日常点検整備や点検項目などの詳細については、別冊「メンテナンスノート」を参照してください。
異常が見つかった場合は、トヨタ販売店で必ず点検整備を受けてください。

フロアマット

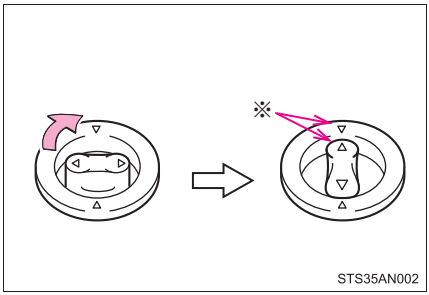
専用のフロアマットを、フロアカーペットの上にしっかりと固定してお使いください。

1 固定フック（クリップ）にフロアマット取り付け穴をはめ込む



2 固定フック（クリップ）上部のレバーをまわして、フロアマットを固定する

※ △マークを必ず合わせてください。



固定フック（クリップ）の形状はイラストと異なる場合があります。

警告

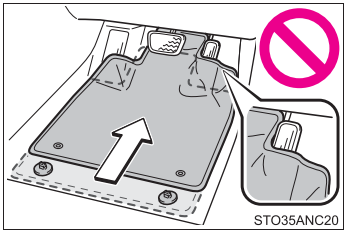
次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、フロアマットがずれて運転中に各ペダルと干渉し、思わぬスピードが出たり車を停止しにくくなるなど、事故の原因になり重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■運転席にフロアマットを敷くとき

- トヨタ純正品であっても、他車種および異なる年式のフロアマットは使用しない
- 運転席専用のフロアマットを使用する
- 固定フック（クリップ）を使って、常にしっかりと固定する
- 他のフロアマット類と重ねて使用しない
- フロアマットを前後逆さまにしたり、裏返して使用しない

■運転する前に

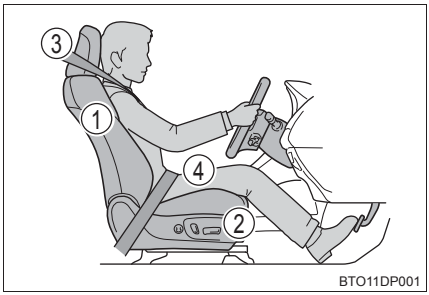
- フロアマットがすべての固定フック（クリップ）で正しい位置にしっかりと固定されていることを定期的に確認し、特に洗車後は必ず確認を行う
- エンジン停止およびシフトレバーが P の状態で、各ペダルを奥まで踏み込み、フロアマットと干渉しないことを確認する



安全なドライブのために

安全に運転するために、走行前にシートやミラーなどを適切に調整してください。

正しい運転姿勢について



① まっすぐ座り、運転操作時に体が背もたれから離れないよう、背もたれの角度を調整する（→P. 108）

② ペダルがしっかりと踏み込め、ハンドルを握ったときにひじが少し曲がるようなシート位置にする（→P. 108）

③ ヘッドレストの中央が耳のいちばん上のあたりになるようにする（→P. 116）

④ シートベルトを正しく着用する（→P. 26）

シートベルトを正しく着用する

すべての乗員は、走行前に必ずシートベルトを正しく着用してください。（→P. 26）

シートベルトを正しく着用できない小さなお子さまを乗せるときは、適切な子供専用シートをご用意ください。（→P. 42）

ミラーを調整する

後方が確実に確認できるように、インナーミラー・ドアミラーを正しく調整してください。（→P. 121, 123）

警告

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 走行中は運転席の調整をしないでください。
  運転を誤るおそれがあります。
- 背もたれと背のあいだにクッションなどを入れないでください。
  正しい運転姿勢がとれないばかりか、衝突したとき、シートベルトやヘッドレストなどの効果が十分に発揮されないおそれがあります。
- フロントシートの下にものを置かないでください。
  ものが挟まるとシートが固定されず、思わぬ事故や調整機構の故障の原因になります。
- 公道を走行するときは、法定速度や制限速度を遵守してください。
- 他の車や歩行者など、周囲の状況に常に注意を払い、安全運転を心がけてください。
- 飲酒運転は絶対にしないでください。お酒を飲むと注意力と判断力がにぶり、思いがけない事故を引き起こすおそれがあります。また、眠気をもよおす薬を飲んだときも運転を控えてください。
- 運転中に携帯電話を使用したり、装置の調節などをしないでください。周囲の状況などへの注意が不十分になり、大変危険です。ハンズフリー以外の自動車電話や携帯電話を運転中に使用することは法律で禁止されています。
- 長距離ドライブの際は、疲れを感じる前に定期的に休憩してください。
  また、運転中に疲労感や眠気を感じたときは、無理に運転せず、すみやかに休憩してください。

シートベルト

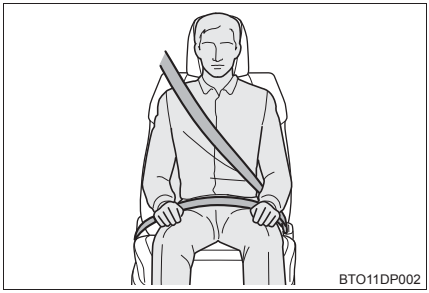
走行前にすべての乗員は必ずシートベルトを正しく着用してください。

正しく着用する

- 肩部ベルトを肩に十分かける

  首にかかったり、肩からはずれないようにしてください。

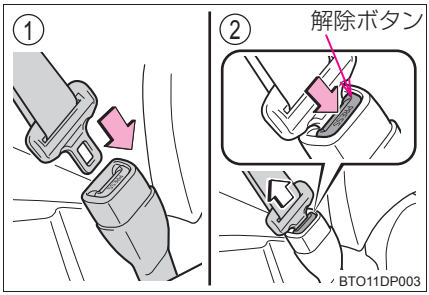
- 腰部ベルトを必ず腰骨のできるだけ低い位置に密着させる
- 背もたれを調整し、上体を起こし、深く腰かけて座る
- ねじれがないようにする



着け方・はずし方（フロント席・リヤ外側席）

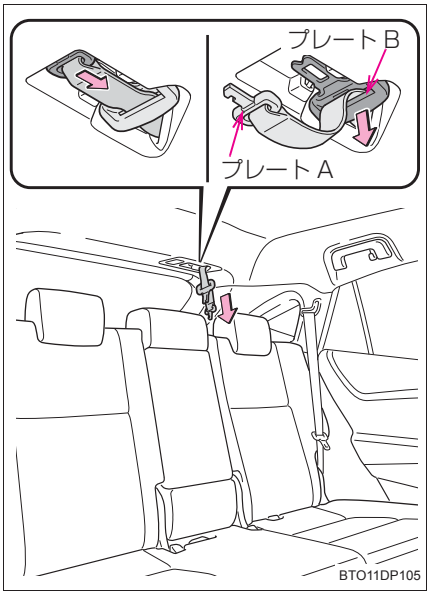
① ベルトを固定するには、“カチッ”と音がするまでプレートをバックルに挿し込む

② ベルトを解除するには、解除ボタンを押す



着け方（リヤ中央席）

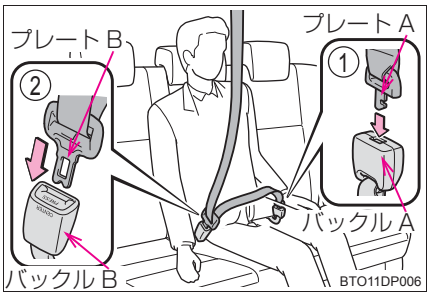
1 プレートを取り出す



2 ベルトを固定するには、プレート A、プレート B の順に“カチッ”と音がするまでプレートをバックルに挿し込む

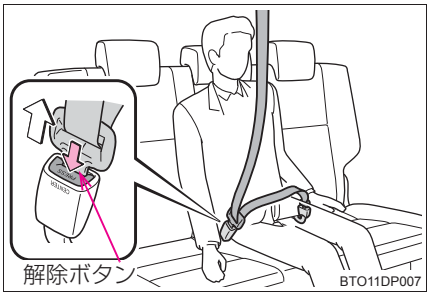
① プレート A、バックル A

② プレート B、バックル B



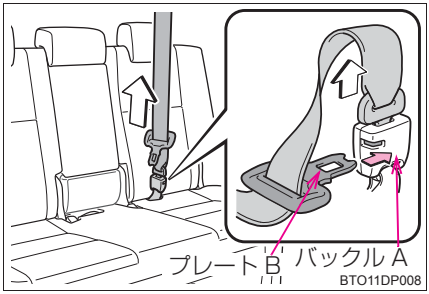
はずし方・格納のしかた（リヤ中央席）

1 バックル B の解除ボタンを押して、ベルトを解除する



2 プレート B をバックル A に挿し込み、ベルトを分離する

シートベルトを格納するときは、ベルトを持ちながらゆっくり巻きもどします。

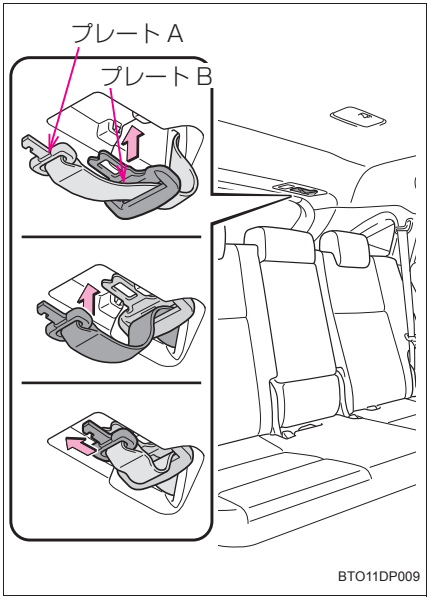


3 プレート A、B をホルダーに格納する

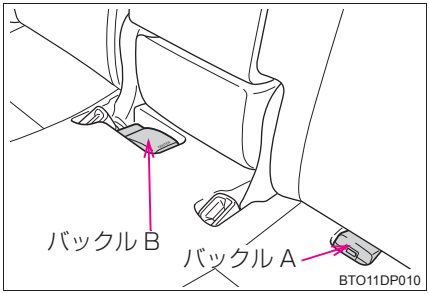
ベルトを持ちながらゆっくり巻きもどします。

・もとにもどすときは、それぞれのホルダーにプレートを挿し込みます。

確実に固定されるよう、しっかり奥まで挿し込んでください。



4 中央席シートベルトのバックル A、バックル B をポケットに格納する

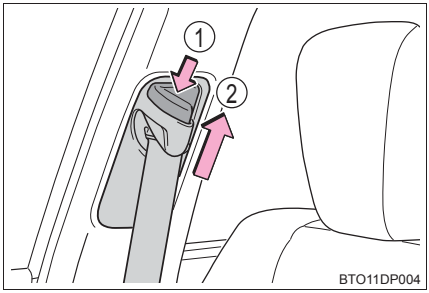


シートベルトの高さ調節（フロント席）

① 解除ボタンを押しながら、アジャスターを下げる

② アジャスターを上げる

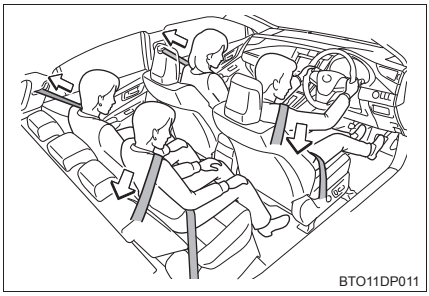
“カチッ”と音がして固定されるところまで動かしてください。



シートベルトプリテンショナー（フロント席・リヤ外側席）

前方・側方から強い衝突を受けたとき、シートベルトを引き込むことで適切な乗員拘束効果を確保します。

前方・側方からの衝撃が弱いときや、うしろからの衝撃、横転のときは通常は作動しません。



知識

■シートベルトロックの解除方法

急停止や衝撃があったときベルトがロックされます。急に体を前に倒したり、シートベルトをすばやく引き出してもロックする場合があります。シートベルトがロックしたまま引き出せないときは、一度ベルトを強く引いてからゆるめ、ゆっくり動かせば、ベルトを引き出すことができます。

■お子さまのシートベルトの使い方

この車のシートベルトは、シートベルトを装着するのに十分な、大人の体格を持った人用に設計されています。

- シートベルトが正しい位置で着用できない小さなお子さまの場合は、お子さまの体に合った子供専用シートを使用してください。（→P. 42）
- シートベルトが正しい位置で着用できるお子さまの場合は、シートベルトの着用のしかたに従ってください。（→P. 26）

■シートベルトプリテンショナーについて

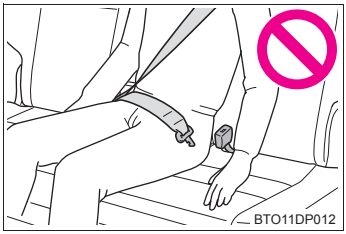
シートベルトプリテンショナーは一度しか作動しません。玉突き衝突などで連続して衝撃を受けた場合でも、一度作動したあとは、その後の衝突では作動しません。

警告

急ブレーキや事故の際のけがを避けるため、次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■シートベルトの着用について

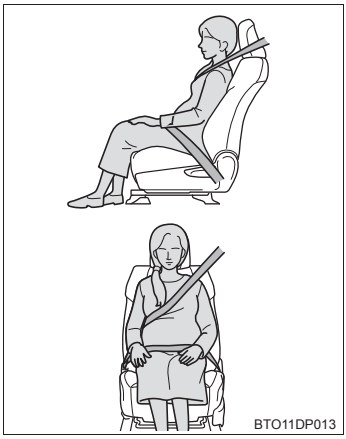
- 全員がシートベルトを着用する
- シートベルトを正しく着用する
- シートベルトは一組につき一人で使用する
  お子さまでも一組のベルトを複数の人で使用しない
- お子さまはリヤ席に座らせてシートベルトを着用させる
- 背もたれは必要以上に倒さず、上体を起こし、シートに深く座る
- 肩部ベルトを腕の下に通して着用しない
- 腰部ベルトはできるだけ低い位置に密着させ着用する
- リヤ中央席のシートベルトを使用するときは、プレート A とバックル A および、プレート B とバックル B を結合する



■妊娠中の女性の場合

医師に注意事項を確認の上、必ず正しく着用してください。（→P. 26）
通常の着用のしかたと同じように、腰部ベルトが腰骨のできるだけ低い位置にかかるようにお腹のふくらみの下に、肩部ベルトは確実に肩を通し、お腹のふくらみを避けて胸部にかかるように着用してください。

ベルトを正しく着用していないと、衝突したときなどに、母体だけでなく胎児までが重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。



■疾患のある方の場合

医師に注意事項を確認の上、必ず正しく着用してください。

警告

■**お子さまを乗せるとき**

お子さまをシートベルトで遊ばせないでください。
万一ベルトが首に巻き付いた場合、窒息など重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
誤ってそのような状態になってしまい、バックルもはずせない場合は、ハサミなどでシートベルトを切断してください。

■**プリテンショナー付きシートベルトについて**

シートベルトプリテンショナーが作動すると、SRS エアバッグ／プリテンショナー警告灯が点灯します。その場合は、シートベルトを再使用することができないため、必ずトヨタ販売店で交換してください。

■**シートベルトの損傷・故障について**

●ベルトやプレート・バックルなどは、シートやドアに挟むなどして損傷しないようにしてください。

●シートベルトが損傷したときはシートベルトを修理するまでシートは使用しないでください。

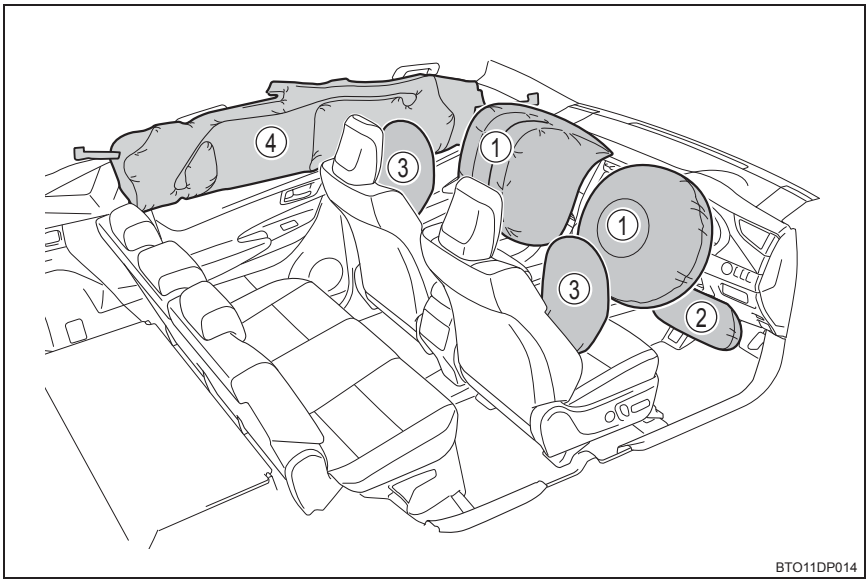
●プレートがバックルに確実に挿し込まれているか、シートベルトがねじれていないかを確認してください。うまく挿し込めない場合はただちにトヨタ販売店に連絡してください。

●もし重大な事故にあったときは、明らかな損傷が見られない場合でも、シート、シートベルトを交換してください。

●プリテンショナー付きシートベルトの取り付けや取りはずし・分解・廃棄などは、トヨタ販売店以外でしないでください。
不適切に扱うと、正常に作動しなくなるおそれがあります。

SRS エアバッグ

SRS エアバッグは乗員に重大な危害がおよぶような強い衝撃を受けたときにふくらみ、シートベルトが体を拘束する働きと併せて乗員への衝撃を緩和させます。



◆ フロント SRS エアバッグ

① 運転席 SRS エアバッグ／助手席 SRS エアバッグ
（運転者と助手席乗員の頭や胸などへの衝撃を緩和）

② SRS ニーエアバッグ
（運転者の衝撃緩和を補助）

◆ SRS サイド＆カーテンシールドエアバッグ

③ SRS サイドエアバッグ
（フロント席乗員の胸などへの衝撃を緩和）

④ SRS カーテンシールドエアバッグ
（フロント席とリヤ外側席乗員の主に頭部への衝撃を緩和）

警告

■SRS エアバッグについて

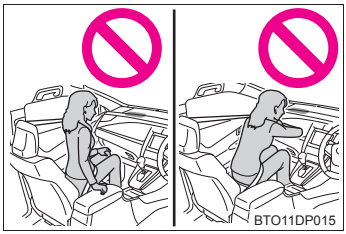
次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●運転者と乗員すべてがシートベルトを正しく着用してください。
SRS エアバッグはシートベルトを補助するためのものです。

●助手席 SRS エアバッグは強い力でふくらむため、特に乗員がエアバッグに近付きすぎると、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。乗員が SRS エアバッグのふくらむ場所に近い場合は特に危険です。シートの背もたれを調整して、シートをできるだけ SRS エアバッグから離し、まっすぐに座ってください。

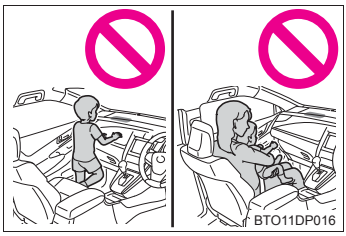
●お子さまがシートにしっかり座っていないと、SRS エアバッグのふくらむ衝撃で重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。お子様が小さくてシートベルトを使用できないときは、チャイルドシートでしっかり固定してください。
お子さまはリヤ席に乗せ、チャイルドシートまたはシートベルトを着用させることをおすすめします。(→P. 42)

●シートの縁に座ったり、ダッシュボードにもたれかかったりしない



●お子さまを助手席SRSエアバッグの前に立たせたり、ひざの上に抱いたりしない

●運転者および助手席乗員は、ひざの上に何も持たない



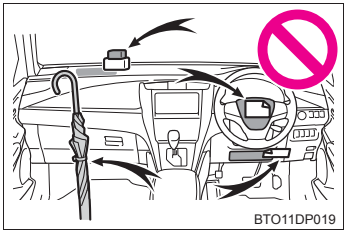
警告

■SRS エアバッグについて

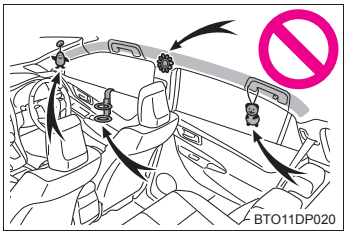
● ドアやフロントピラー・センターピラー・リヤピラー・ルーフサイドレールへ寄りかからない

● 助手席では、ドアに向かってひざをついたり、窓から顔や手を出したりしない

● ダッシュボード・ハンドルのパッド部分・インストルメントパネル下部・グローブボックスのドアなどには何も取り付けたり、置いたりしない



● ドア・フロントウインドウガラス・ドアガラス・フロントピラーおよびリヤピラー・ルーフサイドレール・アシストグリップなどには何も取り付けない
（速度制限ラベルを除く：→P. 380）



● コートフックにハンガーなどの硬いものをかけないでください。
SRS カーテンシールドエアバッグが作動したときに投げ出されるおそれがあります。

警告

■SRS エアバッグについて

●SRS　ニーエアバッグがふくらむ場所にビニールカバーが付いている場合は、取り除いてください。

●SRS サイドエアバッグがふくらむ場所を覆うようなシートアクセサリーを使用しないでください。エアバッグが作動する際、アクセサリーが干渉するおそれがあります。そのようなアクセサリーがエアバッグが正常に作動するのをさまたげ、システムを不能にしたり、またはエアバッグが誤って展開したりして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●SRS エアバッグシステム構成部品の周辺は、強くたたくなど過度の力を加えないでください。
SRS エアバッグが正常に作動しなくなるおそれがあります。

●SRS エアバッグがふくらんだ直後は、構成部品が熱くなっているため、ふれないでください。

●SRS エアバッグがふくらんだあとに、もし呼吸が苦しく感じたら、ドアやドアガラスを開けて空気を入れるか、安全を確認して車外に出てください。皮膚の炎症を防ぐため、残留物はできるだけ早く洗い流してください。

●SRS エアバッグが収納されているパッド部およびフロントピラーガーニッシュ部に傷が付いていたり、ひび割れがあるときは、そのまま使用せずトヨタ販売店で交換してください。

■改造・廃棄について

トヨタ販売店への相談なしに、次の改造・廃棄をしないでください。
SRS エアバッグが正常に作動しなくなったり、誤ってふくらむなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●SRS エアバッグの取りはずし・取り付け・分解・修理

●ハンドル・インストルメントパネル・ダッシュボード・シート・シート表皮・フロントピラー・センターピラー・リヤピラー・ルーフサイドレール周辺の修理・取りはずし・改造

●フロントフェンダー・フロントバンパー・車内側面部の修理・改造

●グリルガード（ブルバー・カンガルーバーなど）・除雪装置・ウインチなどの取り付け

●サスペンションの改造

●CD プレーヤー・無線機などの電化製品の取り付け

知識

■SRS エアバッグが展開すると

●SRS エアバッグは高温のガスにより非常に速い速度でふくらむため、すり傷・やけど・打撲などを受けることがあります。

●作動音と共に白いガスが発生します。

●フロント席・フロントピラー・リヤピラー・ルーフサイドレールの一部分などだけでなくエアバッグ構成部品（ハンドルのハブ・エアバッグカバー・インフレーター）も数分間熱くなることがあります。エアバッグそのものも熱くなります。

●フロントウインドウガラスが破損することがあります。

■SRS エアバッグが作動するとき（フロント SRS エアバッグ）

●フロント SRS エアバッグは、衝撃の強さが設定値（移動も変形もしない固定された壁に、車速約 20 ～ 30km/h で正面衝突した場合の衝撃の強さに相当する値）以上の場合に作動します。
ただし、次のような場合はエアバッグが作動する車速は設定値より高くなります。

・駐車している車や標識のような衝撃によって移動や変形するものに衝突した場合
・もぐり込むような衝突の場合（例えば、車両前部がもぐり込む、下に入り込む、トラックの下敷きになるなど）

●衝突条件によってはシートベルトプリテンショナーのみ作動する場合があります。

■SRS エアバッグが作動するとき（SRS サイド＆カーテンシールドエアバッグ）

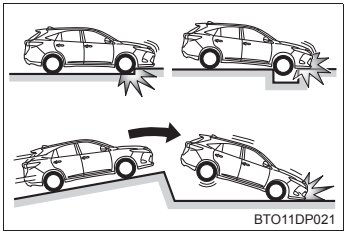
●SRS サイド＆カーテンシールドエアバッグは、衝撃の強さが設定値（約 1.5 t の車両が約 20 ～ 30km/h の速度で客室へ直角に衝突した場合の衝撃の強さに相当する値）以上の場合に作動します。

●前面衝突時でも、特に衝撃が大きい場合は左右の SRS カーテンシールドエアバッグが開く場合があります。

■衝突以外で作動するとき

次のような状況で車両下部に強い衝撃を受けたときも、フロントSRSエアバッグ、SRSカーテンシールドエアバッグが作動する場合があります。

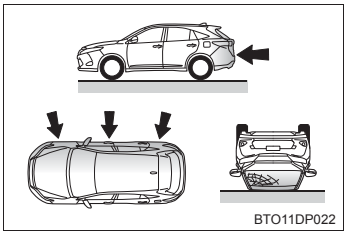
- 縁石や歩道の端など、固いものにぶつかったとき
- 深い穴や溝に落ちたり、乗りこえたとき
- ジャンプして地面にぶつかったり、道路から落下したとき



■SRSエアバッグが作動しないとき（フロントSRSエアバッグ）

フロントSRSエアバッグは、側面や後方からの衝撃・横転・または低速での前方からの衝撃では、通常は作動しません。ただし、それらの衝撃が前方への減速を十分に引き起こす場合には、フロントSRSエアバッグが作動することがあります。

- 側面からの衝突
- 後方からの衝突
- 横転

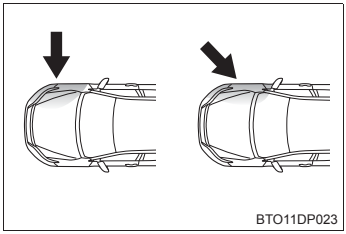


■SRS エアバッグが作動しないとき（SRS サイド＆カーテンシールドエアバッグ）

斜めから衝撃を受けた場合や、客室部分以外の側面に衝撃を受けたときには、SRS サイド＆カーテンシールドエアバッグが作動しない場合があります。

●客室部分以外の側面への衝撃

●斜めからの衝撃

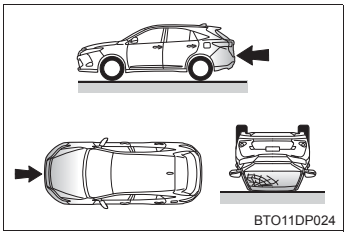


SRS サイドエアバッグは、前方や後方からの衝撃・横転・または低速での側面からの衝撃では、通常は作動しません。

●前方からの衝突

●後方からの衝突

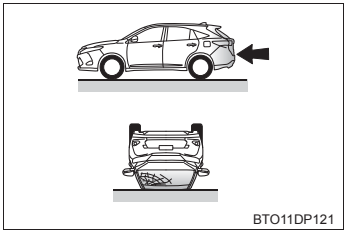
●横転



SRS カーテンシールドエアバッグは、後方からの衝撃・横転・または低速での前方や側面からの衝撃では、通常は作動しません。

●後方からの衝突

●横転

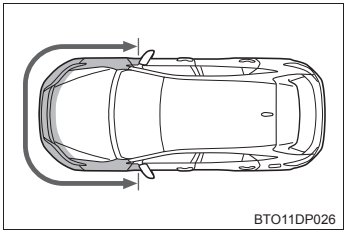


■トヨタ販売店に連絡が必要な場合

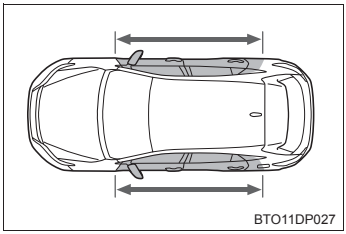
次のような場合には、点検・修理が必要になります。できるだけ早くトヨタ販売店へご連絡ください。

●いずれかの SRS エアバッグがふくらんだとき

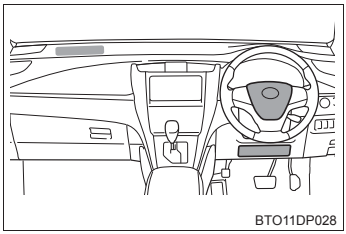
●フロント SRS エアバッグはふくらまなかったが、事故で車両の前部を衝突したとき、または破損・変形などがあるとき


BTO11DP026

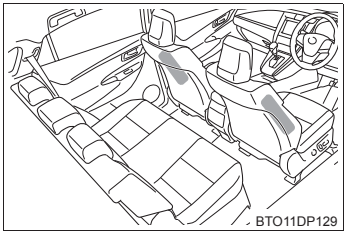
●SRS サイド&カーテンシールドエアバッグはふくらまなかったが、事故でドア部分を衝突したとき、または破損・変形などがあるとき


BTO11DP027

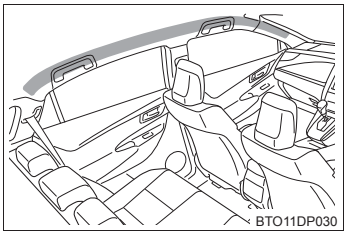
●ハンドルのパッド部分・ダッシュボードの助手席 SRS エアバッグ付近・インストルメントパネル下部が傷付いたり、ひび割れたり、その他の損傷を受けたとき


BTO11DP028

●SRS サイドエアバッグが内蔵されているシート表面が傷付いたり、ひび割れたり、その他の損傷を受けたとき


BTO11DP129

●SRS カーテンシールドエアバッグが内蔵されているフロントピラー部・リヤピラー部・ルーフサイド部が傷付いたり、ひび割れたり、その他の損傷を受けたとき


BTO11DP030

お子さまの安全のために

お子さまを乗せるときは、次のことをお守りください。

- お子さまにも必ずシートベルトを着用させてください。シートベルトを正しく着用できない小さなお子さまを乗せるときは、適切な子供専用シートをご用意ください。（→P. 42）
- 運転装置にふれるのを防ぐため、お子さまはリヤシートに乗せることをおすすめします。
- 走行中にドアを開けたり、パワーウインドウを誤操作したりしないように、チャイルドプロテクター（→P. 86）・ウインドウロックスイッチ（→P. 127）をご使用ください。
- 小さなお子さまには、パワーウインドウ・ボンネット・バックドアやシートなど、体を挟まれるおそれがある装備類を操作させないでください。

警告

- お子さまを車の中に残したままにしないでください。車内が高温になって熱射病や脱水症状になり、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
  また、お子さまが車内の装置を操作し、ドアガラスなどに挟まれたり、発炎筒などでやけどしたり、運転装置を動かして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- 車にお子さまを乗せる場合は、お子さまの安全を確保するための注意事項やチャイルドシートの取り付け方などをまとめた「チャイルドシートの取り付け」を参照してください。（→P. 50）

子供専用シート

子供専用シートの固定機構を使用して、子供専用シートを固定することができます。

知っておいていただきたいこと

- 車の仕様やお子さまの年齢・体格に合わせて、適切な子供専用シートをお選びください。
- 子供専用シートの取り付け方法および取りはずし方は、それぞれの子供専用シートに付属の取扱説明書をお読みください。
- この車は2006年10月1日施行の保安基準に適合したISOFIX対応チャイルドシート固定専用バーを標準装備しています。

子供専用シートの適合性一覧表について

■ 質量グループについて

ECE R44 ※の基準に適合する子供専用シートはお子さまの体重により次の5種類に分類されます。

グループ0：10kgまで
グループ0＋：13kgまで
グループⅠ：9～18kg
グループⅡ：15～25kg
グループⅢ：22～36kg

この本では代表的な次の3種類の子供専用シートをシートベルトで固定する方法を紹介します。

※ ECE R44は、子供専用シートに関する国際法規です。

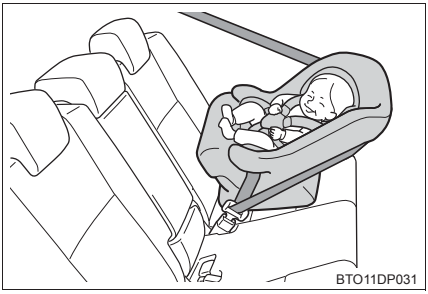
■ サイズ等級、固定具について

子供専用シートに表示される分類記号と、それにともなう取り付け器具の記号になります。

子供専用シートの種類

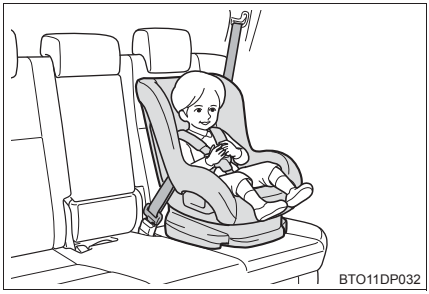
▶ ベビーシート

ECE R44 基準のグループ 0、0 ＋に相当



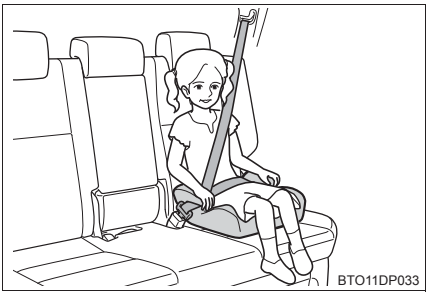
▶ チャイルドシート

ECE R44 基準のグループ 0 ＋、Ⅰに相当



▶ ジュニアシート

ECE R44 基準のグループⅡ、Ⅲに相当



シート位置別子供専用シート適合性一覧表（シートベルトでの取り付け）

質量グループ	着席位置（または他の位置）		
	フロントシート	リヤシート	
	助手席	左右席	中央席
0（10kg まで）	×	U ※3	×
0＋（13kg まで）	×	U ※3	×
Ⅰ（9 ～ 18kg）	うしろ向き×	U ※2，3	×
	前向き UF ※1		
Ⅱ（15 ～ 25kg）	UF ※1，2	U ※2，3	×
Ⅲ（22 ～ 36kg）	UF ※1，2	U ※2，3	×

● 上表に記入する文字の説明

U：この質量グループでの使用を許可された汎用（ユニバーサル）カテゴリーの子供専用シートに適しています。

UF：この質量グループでの使用を許可された汎用（ユニバーサル）カテゴリーの前向きの子供専用シートに適しています。

×：子供専用シートを取り付けることはできません。

※1 背もたれを直立状態にしてください。シートの高さ調整ができる場合は、いちばん高い位置に調整してください。

※2 ヘッドレストと子供専用シートが干渉して子供専用シートが正しく取り付けられない場合、ヘッドレストの取りはずしが可能なときは、ヘッドレストを取りはずしてください。

※3 背もたれを子供専用シートが搭載できるところまで倒す。倒した状態で子供専用シートを搭載し、安定するところまで背もたれを起こす。

リヤシート左席に子供専用シートを取り付けたときは、リヤシート中央席に乗車しないでください。

子供専用シートの装着については、子供専用シートの取扱説明書もご確認ください。表に記載されていない子供専用シートを使用する場合は、子供専用シート製造業者または販売業者にご相談ください。

シート位置別子供専用シートの適合性一覧表（ISOFIX 対応トップテザーアンカーでの取り付け）

質量グループ	サイズ等級	固定具	車両 ISOFIX 位置
			リヤシート左右席
キャリコット	F	ISO/L1	×
	G	ISO/L2	×
0（10kg まで）	E	ISO/R1	IL ※2
0＋（13kg まで）	E	ISO/R1	IL ※2
	D	ISO/R2	IL ※2
	C	ISO/R3	IL ※2
Ⅰ（9～18kg）	D	ISO/R2	×
	C	ISO/R3	×
	B	ISO/F2	IUF、IL ※1
	B1	ISO/F2X	IUF、IL ※1
	A	ISO/F3	IUF、IL ※1

● 上表に記入する文字の説明

IUF：この質量グループでの使用を許可された汎用（ユニバーサル）カテゴリーの ISOFIX 対応の前向き子供専用シートに適しています。

IL： ISOFIX 子供専用シートのリストに示す準汎用（セミユニバーサル）カテゴリーの子供専用シートに適しています。

×：ISOFIX 子供専用シートを取り付けることはできません。

※1 ヘッドレストと子供専用シートが干渉して子供専用シートが正しく取り付けられない場合、ヘッドレストの取りはずしが可能なときは、ヘッドレストを取りはずしてください。

※2 背もたれを子供専用シートが搭載できるところまで倒す。倒した状態で子供専用シートを搭載し、安定するところまで背もたれを起こす。

リヤシート左席に ISOFIX 子供専用シートを取り付けたときは、リヤシート中央席に乗車しないでください。

子供専用シートの装着については、子供専用シートの取扱説明書もご確認ください。表に記載されていない子供専用シートを使用する場合は、子供専用シート製造業者または販売業者にご相談ください。

ISOFIX 子供専用シートのリスト

質量グループ	サイズ等級	固定具	ISOFIX 子供専用シート	カテゴリー
0（10kg まで）	E	ISO/R1	トヨタ純正 NEO G-Child ISO baby	準汎用
	E	ISO/R1	トヨタ純正 NEO G-Child ISO leg	準汎用
0＋（13kg まで）	E	ISO/R1	トヨタ純正 NEO G-Child ISO baby	準汎用
	E	ISO/R1	トヨタ純正 NEO G-Child ISO leg	準汎用
	D	ISO/R2		
	C	ISO/R3		
Ⅰ（9 ～ 18kg）	B	ISO/F2	トヨタ純正 NEO G-Child ISO leg	準汎用
	B1	ISO/F2X		
	A	ISO/F3		

知識

■ISOFIX 対応チャイルドシート固定専用バーについて

この車に標準装備されている ISOFIX 対応チャイルドシート固定専用バーは、ECE R44 に適合している子供専用シート取り付け専用です。それ以外のものを使用することはできません。

■子供専用シートの選択、使用について

●お子さまに最適な子供専用シートについては、子供専用シート製造業者、または販売業者にご相談ください。

●お子さまが成長し、適切にシートベルトが着用できるようになるまでは、お子さまに合った子供専用シートを使用してください。

●体が十分大きく、子供専用シートが不必要なお子さまは、リヤシートに乗せて車のシートベルトを使用してください。

■シートベルトで取り付けるタイプの子供専用シートの選択について

「シート位置別子供専用シート適合性一覧表」（→P. 44）を参照し、子供専用シートを取り付け可能な位置と、対応する子供専用シートの種類（記号）をご確認の上、適したものを選択してください。

■ECE R44 適合の ISOFIX 対応子供専用シートの選択について

「シート位置別子供専用シートの適合性一覧表」（→P. 45）を確認して、適切なシートを選択してください。

1 お子さまの体重から、該当する「質量グループ」を確認する

（例 1）：体重が 12kg の場合、質量グループは「0 ＋」になります。

（例 2）：体重が 15kg の場合、質量グループは「Ｉ」になります。

2 サイズ等級を選択する

手順1で確認した「質量グループ」から該当するサイズ等級を確認します。※

（例 1）：質量グループが「0 ＋」の場合、サイズ等級は「C」・「D」・「E」が該当します。

（例 2）：質量グループが「Ｉ」の場合、サイズ等級は「A」・「B」・「B1」・「C」・「D」が該当します。

※ ただし、該当のサイズ等級でも適合性一覧表の「車両 ISOFIX 位置」に「×」と記載されているものは選択できません。

3 子供専用シートに表示されているマーク／ラベルを確認して、基準に適合したシートであることを確認する

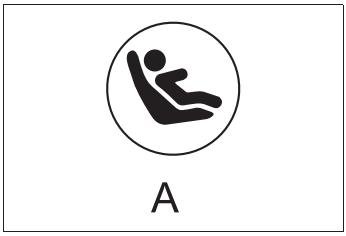
汎用（ユニバーサル）子供専用シートには、次に示すマーク・ラベル類が表示されています。

※ 表示されている位置・記号などは、商品により異なります。

① ISOFIX 対応子供専用シートであることを示す表示

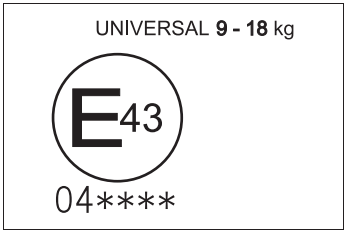
サイズ等級が示されています。（表示される文字は、製品により異なります）

手順2で確認したサイズ等級に適合しているものを選択してください。



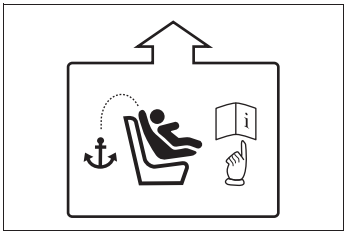
② 汎用（ユニバーサル）子供専用シートの認可マーク

UNIVERSAL は汎用品の認可であることを表し、併せて、対象となるお子さまの体重の範囲が記載されています。



③ トップテザー（→P. 50）を示すマーク

商品の取り付け装置の位置により、意匠は異なります。



■ISOFIX 対応子供専用シートの種類（サイズ等級別）

A-ISO/F3	全高前向き幼児用チャイルドシート
B-ISO/F2	低型前向き幼児用チャイルドシート
B1-ISO/F2X	低型前向き幼児用チャイルドシート （B-ISO/F2 と別形状のもの）
C-ISO/R3	大型後向き幼児用チャイルドシート
D-ISO/R2	小型後向き幼児用チャイルドシート
E-ISO/R1	後向き乳児用チャイルドシート
F-ISO/L1	左向き位置用チャイルドシート（キャリコット）
G-ISO/L2	右向き位置用チャイルドシート（キャリコット）

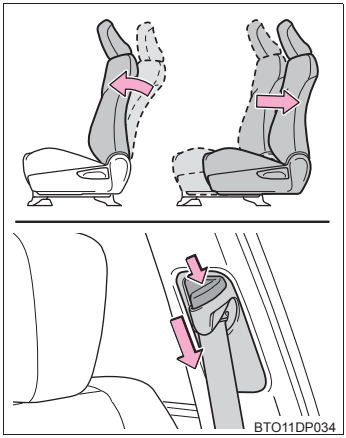
■助手席に子供専用シートを取り付けるとき

やむを得ず助手席に子供専用シートを取り付ける場合には、助手席シートを次のように調整し、子供専用シートを前向きに取り付けてください。

●背もたれを直立状態にする

●シートをいちばんうしろにさげる

●シートベルトの高さをいちばん低い位置まで下げる



■キャリコットについて

キャリコットは横向きに取り付けることのできるベビーシートのことです。詳しくは子供専用シート製造業者または販売業者におたずねください。

警告

■子供専用シートを使用しない場合

●子供専用シートを使用しないときであっても、シートに適切にしっかりと取り付けた状態にしてください。ゆるめた状態で客室内に置くことは避けてください。

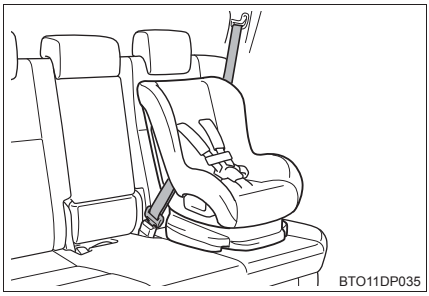
●子供専用シートの取りはずしが必要な場合は、車両からはずして保管するか、ラゲージルーム内に容易に動かないように収納してください。

チャイルドシートの取り付け

シートベルトを正しく着用できない小さなお子さまを乗せるときは、チャイルドシートをお使いください。お子さまの安全のために、チャイルドシートはリヤシートに取り付けてください。

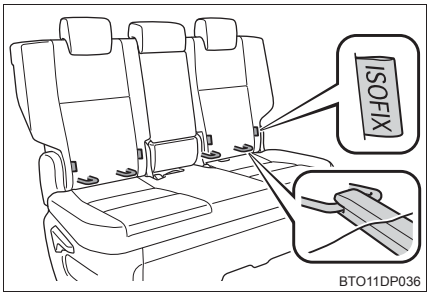
取り付け方法は、商品に付属の取扱説明書に必ず従ってください。

シートベルトによる取り付け
（→P. 51）



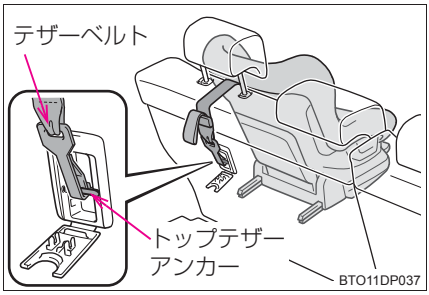
ISOFIX 対応チャイルドシート固定専用バー（→P. 52）

リヤ外側シートに装備されています。（固定専用バーが装備されていることを示すタグがシートに付いています）



トップテザーアンカー（→P. 52）

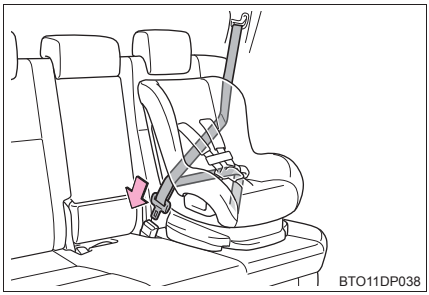
テザーベルトを固定するときに使います。
トップテザーアンカーはリヤ外側席に装備されています。



シートベルトで固定する

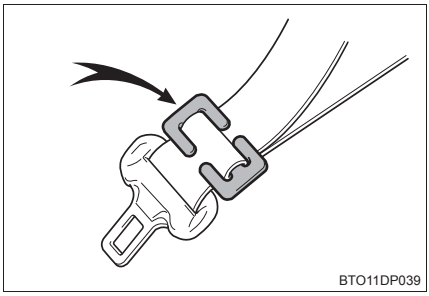
1 チャイルドシートにシートベルトを取り付け、プレートをバックルに“カチッ”と音がするまで挿し込む。ベルトがねじれていないようにする

チャイルドシートに付属の取扱説明書に従い、シートベルトをチャイルドシートにしっかりと固定させてください。



2 チャイルドシートにシートベルトの固定装置が備わっていない場合は、ロッキングクリップ（別売）を使用して固定する

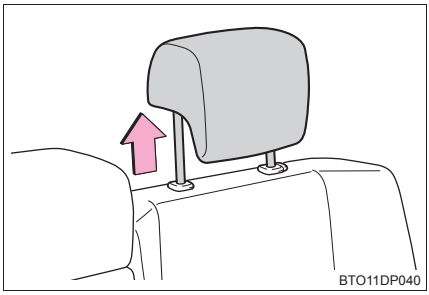
ロッキングクリップの購入にあたっては、トヨタ販売店にご相談ください。（ロッキングクリップ品番：73119-22010）



取り付け後はチャイルドシートを前後左右にゆすり、しっかりと固定されていることを確認してください。

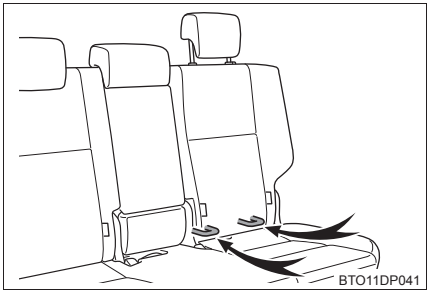
ISOFIX 対応チャイルドシート固定専用バー＆トップテザーアンカーで固定する

1 ヘッドレストを上げる



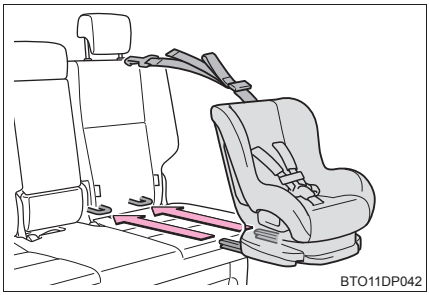
2 ISOFIX 対応チャイルドシート固定専用バーの位置を確認する

固定専用バーは、シートクッションの奥にあります。



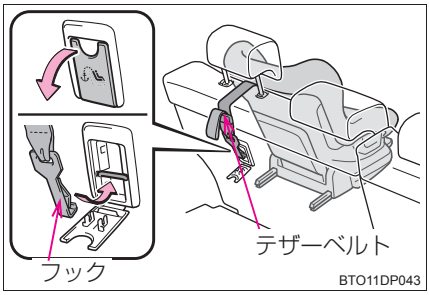
3 チャイルドシートをシートに取り付ける

チャイルドシートの取り付け金具をチャイルドシート固定専用バーに取り付けます。
取り付け方法は、それぞれのチャイルドシートに付属の取扱説明書に従ってください。

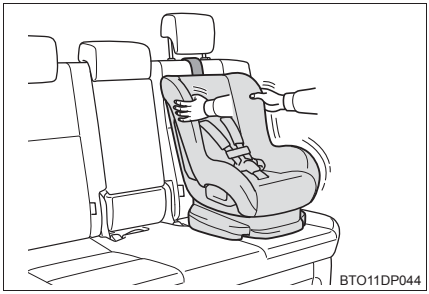


4 フタを開けてトップテザーアンカーにフックを固定し、テザーベルトを締める

テザーベルトをピンと張り、フックがしっかり固定されていることを確認します。



5 取り付けたチャイルドシートを前後左右にゆすり、固定されていることを確認する



警告

■チャイルドシートについて

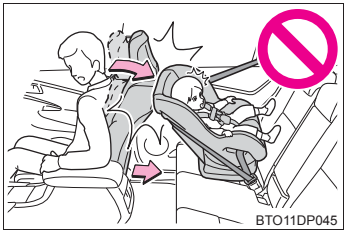
- 事故や急停止の際、効果的にお子さまを保護するために、必ずお子さまの年齢や体の大きさに合ったシートベルトまたはチャイルドシートを使用してください。お子さまを腕の中に抱くのはチャイルドシートのかわりにはなりません。事故の際、お子さまがフロントウインドウガラスや乗員、車内の装備にぶつかり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- お子さまの年齢や体の大きさに合ったチャイルドシートを使用して、リヤシートに取り付けてください。
- チャイルドシートに座らせている場合でも、ドア・シート・フロントピラー・リヤピラー・ルーフサイドレール付近にお子さまの頭や体のどの部分ももたれかけないようにしてください。SRS エアバッグがふくらんだ場合、大変危険であり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- チャイルドシートによっては、取り付けができない、または取り付けが困難な場合があります。必ずチャイルドシートに付属の取扱説明書をよくお読みの上、確実に取り付け、使用方法をお守りください。使用方法を誤ったり、確実に固定されていないと、急ブレーキや衝突時などに、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■チャイルドシートを取り付けるとき

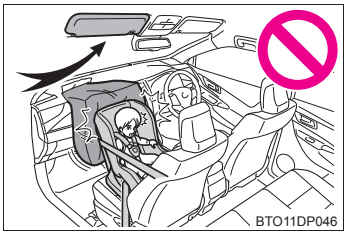
- お子さまをシートベルトで遊ばせないでください。万一ベルトが首に巻き付いた場合、窒息など重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
  誤ってそのような状態になってしまい、バックルもはずせない場合は、ハサミなどでシートベルトを切断してください。
- シートベルトのプレートとバックルがしっかり固定されて、ベルトがねじれていないか確認してください。
- チャイルドシートを前後左右にゆすって、しっかり固定されているか確認してください。
- チャイルドシートを固定したあとは、シートを調整しないでください。

警告

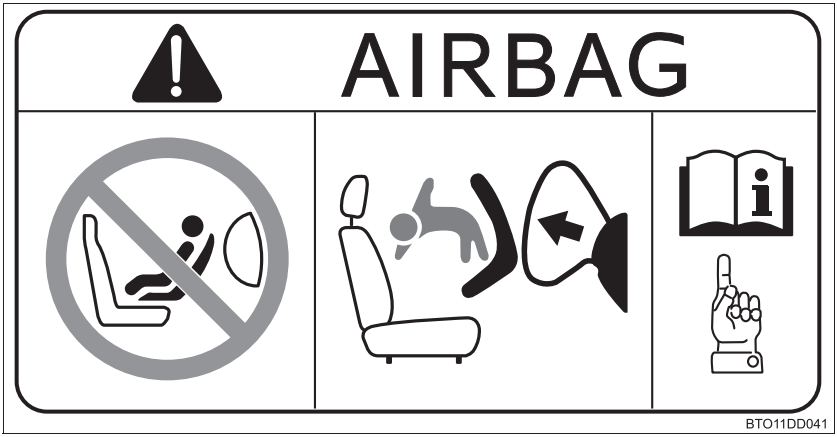
■チャイルドシートを取り付けるとき



- 運転席とチャイルドシートが干渉し、チャイルドシートが正しく取り付けられない場合は、助手席側のリヤ席に取り付けてください。
- 助手席シートとチャイルドシートが干渉しないように、助手席シートを調整してください。

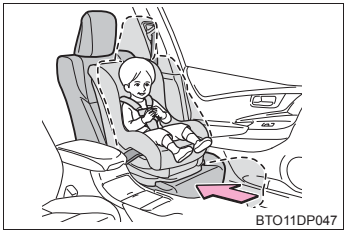


- やむを得ず助手席にチャイルドシートを取り付ける場合には、チャイルドシートをうしろ向きに取り付けないでください。
  うしろ向きに取り付けていると、事故などで助手席SRSエアバッグがふくらんだとき、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
  助手席側のサンバイザーに、同内容のラベルが貼られています。併せて参照してください。

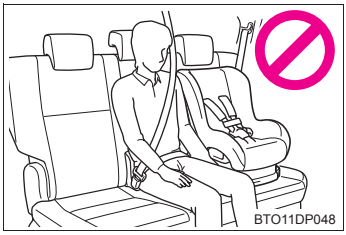


警告

■チャイルドシートを取り付けるとき



- やむを得ず助手席に前向きにチャイルドシートを取り付ける場合には、助手席シートをいちばんうしろにさげて取り付けてください。
  助手席SRSエアバッグはかなりの速度と力でふくらむので、お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- ジュニアシートを使用している場合は、肩部ベルトが常にお子さまの肩の中心にくるようにしてください。ベルトを首から離すと共に肩から落ちないようにしてください。お守りいただかないと、事故や急ブレーキの際に重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- ISOFIX対応チャイルドシート固定専用バーを使用するときは、周辺に障害物がないか、シートベルトが挟まっていないかなどを確認してください。



- リヤシート左席にチャイルドシートを取り付けたときはリヤシート中央席に座らないでください。シートベルトとチャイルドシートが干渉しシートベルトが正しく着用できず、急ブレーキや衝突の際に、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

排気ガスに対する注意

排気ガスには吸引すると人体に有害な物質が含まれています。

警告

排気ガスには無色・無臭で有害な一酸化炭素（CO）が含まれているため、次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、排気ガスが車内に侵入し、多量の排気ガスが眠気を招き事故の原因となるほか、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■走行中の留意事項

バックドアを閉じてください。
バックドアが閉じているのに車内で排気ガス臭がするときは、ドアガラスを開けて空気を入れかえ、すみやかにトヨタ販売店で点検整備を受けてください。

■駐車するとき

- 車庫内など換気が悪い場所や囲まれた場所では、エンジンを停止してください。
- 長時間エンジンをかけたままにしないでください。
  やむを得ないときは、開かれた場所に車を停め、排気ガスが車内に入ってこないことを確認してください。
- 降雪時や雪が積もった場所では、エンジンをかけたままにしないでください。
  まわりに積もった雪で排気ガスが滞留して、車内に侵入するおそれがあります。

■排気管について

排気管は定期的に点検する必要があります。排気管等の腐食などによる穴や亀裂、および継ぎ手部の損傷、また、排気音の異常などに気付いた場合は、必ずトヨタ販売店で点検を受けてください。

エンジンイモビライザーシステム

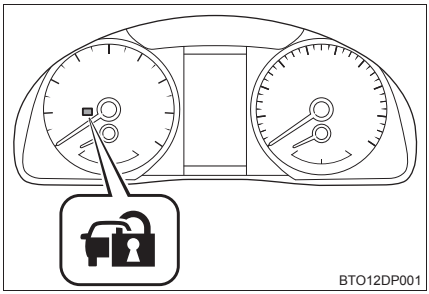
キーに信号発信機が内蔵してあり、あらかじめ登録されたキー以外ではエンジンを始動できません。

車両から離れる場合は、車内にキーを残さないでください。

このシステムは車両盗難の防止に寄与する機能であり、すべての車両盗難に対する完全なセキュリティを保証するものではありません。

エンジンスイッチを OFF にすると、システムの作動を知らせるためにインジケーターが点滅します。

登録されたキーを携帯し、エンジンスイッチをアクセサリーモードまたはイグニッションONモードにするとシステムが解除され、インジケーターが消灯します。



知識

■メンテナンスについて

エンジンイモビライザーシステムのメンテナンスは不要です。

■システムが正常に作動しないとき

- キーが金属製のものに接したり、覆われているとき
- キーが他の車両のセキュリティシステム用キー（信号発信機内蔵キー）と重なっているときや接近しているとき

注意

■エンジンイモビライザーシステムを正常に作動させるために

システムの改造や取りはずしをしないでください。システムが正常に作動しないおそれがあります。

オートアラーム

オートアラームとは

オートアラームとは、侵入を検知した場合に音と光で警報する機能です。オートアラームを設定すると、次のような状況でオートアラームが作動します。

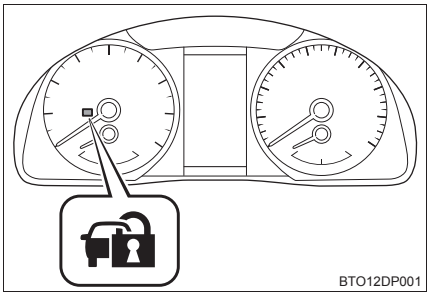
- 施錠されたドアまたはバックドアが、スマートエントリー＆スタートシステム・ワイヤレスリモコン・メカニカルキーを使わずに解錠されたり、開けられたとき
- ボンネットが開けられたとき

オートアラームを設定する

全ドア・ボンネット・バックドアを閉め、すべてのドアを施錠※します。
30 秒以上経過すると自動的に設定されます。

オートアラームが設定されるとインジケーターは点灯から点滅にかわります。

※ メカニカルキーで施錠した場合、オートアラームはセットされません。



オートアラームの設定を解除・作動を停止する

次のいずれかを行ってください。

- ドアを解錠する
- エンジンスイッチをアクセサリーモードまたはイグニッション ON モードにするか、エンジンを始動する（数秒後に解除・停止します）

知識

■メンテナンスについて

オートアラームシステムのメンテナンスは不要です。

■ドアを施錠する前の確認

オートアラームの思わぬ作動、および盗難を防ぐため、次のことを必ず確認してください。

●車内に人が乗っていないか

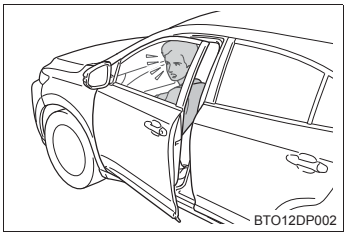
●ドアガラスとパノラマムーンルーフ★が閉じているか

●車内に貴重品などを放置していないか

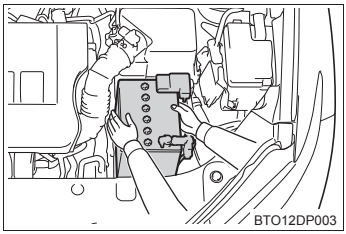
■オートアラームの作動について

次のような場合、オートアラームが作動することがあります。オートアラームの設定を解除・作動を停止する操作を行ってください。

●車内に残った人が、ドアやボンネットを開けたとき



●施錠後、バッテリーあがりなどでバッテリーの充電や交換をしたとき（→P. 392）



■オートアラーム作動によるドアロック機能について

次のような場合、車内への不正な侵入を防止するため自動的にドアが施錠されることがあります。

●ドアがキー以外で解錠されオートアラームが作動したとき

●オートアラーム作動中にドアがキー以外で解錠されたとき

●バッテリーあがりなどで充電・交換したとき

■カスタマイズ機能

メカニカルキーを使って解錠したとき、オートアラームが作動するように設定を変更できます。（カスタマイズ一覧：→P. 408）

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

注意

■**オートアラームを正常に作動させるために**

システムの改造や取りはずしをしないでください。システムが正常に作動しないおそれがあります。

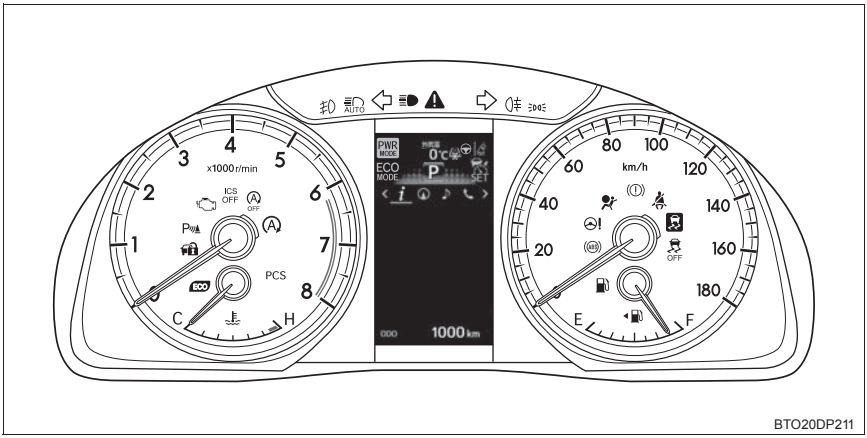
メーターの見方

2

2. 計器の見方
警告灯／表示灯.....62
計器類.....65
マルチインフォメーション
ディスプレイ.....69
燃費画面／ ESPO 画面.....75

警告灯／表示灯

メーター内の警告灯／表示灯でお車の状況をお知らせします。
次のイラストは、説明のためすべての警告灯／表示灯を示しています。



警告灯

システム異常などを警告します。

※ ブレーキ警告灯（→P. 344）

燃料残量警告灯（→P. 345）

※ エンジン警告灯（→P. 344）

シートベルト非着用警告灯（→P. 345）

※ SRS エアバッグ／プリテンショナー警告灯（→P. 344）

※ マスターウォーニング（→P. 345）

※ ABS ＆ブレーキアシスト警告灯（→P. 344）

※ スリップ表示灯（→P. 345）（点灯）

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

※
パワーステアリング警告灯（赤色／黄色）
（→P. 344）

※
ICS OFF（点滅）
ICS OFF 表示灯★
（→P. 345）

※
PCS（点滅）
PCS 警告灯★（→P. 345）

※
Stop & Start キャンセル表示灯（点滅）
（→P. 345）

※ 作動確認のためにエンジンスイッチをイグニッションONモードにすると点灯し、数秒後またはエンジンをかけると消灯します。点灯しない場合や点灯したままのときはシステム異常のおそれがあります。トヨタ販売店で点検を受けてください。

表示灯

システムの作動状況を表示します。

方向指示表示灯
（→P. 158）

尾灯表示灯（→P. 160）

ハイビーム表示灯
（→P. 160）

※1
オートマチックハイビーム表示灯★
（→P. 162）

フロントフォグランプ表示灯（→P. 167）

リヤフォグランプ表示灯★
（→P. 168）

クリアランスソナー表示灯★
（→P. 216）

※1
ICS OFF
ICS OFF 表示灯★
（→P. 226）

※1
スリップ表示灯（点滅）
（→P. 240）

※1
VSC OFF 表示灯
（→P. 240）

※1
PCS（点灯、または速い点滅）
PCS 警告灯★（→P. 245）

※1
エコドライブインジケーターランプ（→P. 73）

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

※2 LDA（ステアリング制御付）表示灯★（→P. 201）

※2 パワーモード表示灯（→P. 214）

※1 Stop & Start 表示灯（→P. 178）

※2 クルーズコントロール表示灯★（→P. 186, 190）

※2 エコドライブモード表示灯（→P. 214）

※2 クルーズコントロールセット表示灯★（→P. 186, 191）

※2 レーダークルーズコントロール表示灯★（→P. 190）

セキュリティ表示灯（→P. 57, 58）

※2 ステアリング操舵力支援表示灯★（→P. 206）

※2 低温表示灯（→P. 65）

※1 Stop & Start キャンセル表示灯（→P. 179）

※1 作動確認のためにエンジンスイッチをイグニッションONモードにすると点灯し、数秒後またはエンジンをかけると消灯します。点灯しない場合や点灯したままのときはシステム異常のおそれがあります。トヨタ販売店で点検を受けてください。

※2 マルチインフォメーションディスプレイ内に表示されます

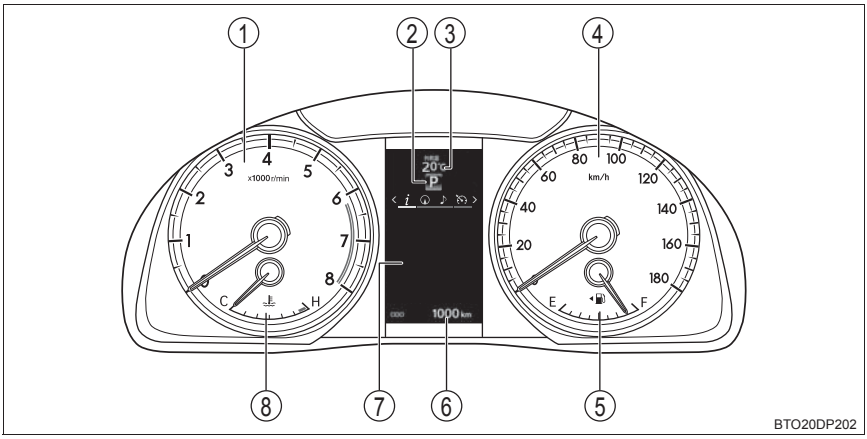
警告

■安全装置の警告灯が点灯しないとき

ABS や SRS エアバッグなど安全装置の警告灯がエンジンスイッチをイグニッションONモードにしても点灯しない場合や点灯したままの場合は、事故にあったときに正しく作動せず、重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

計器類



① タコメーター

毎分のエンジン回転数を示します

② シフトポジション・シフトレンジ表示

選択されているシフトポジションまたはシフトレンジを表示します。（→P. 154）

③ 外気温

外気温を -40 ℃～ 50 ℃の間で表示します。外気温が約３℃以下のときは、低温表示灯（→P. 64）が点灯します。

④ スピードメーター

車両の走行速度を示します。

⑤ 燃料計

燃料残量を示します。次の場合、実際の燃料残量と燃料計の針の位置が異なる場合があります。

・少量給油（約 5L 以下）を行ったとき
・坂道など傾いた場所に停車したとき
・坂道やカーブを走行したとき

⑥ オドメーター／トリップメーター／メーター照度調整／エンジンスイッチモード表示

オドメーター：
走行した総距離を km の単位で表示します。

トリップメーター：
リセットしてからの走行距離を km の単位で表示します。区間距離は、トリップ A・トリップ B の 2 種類で使い分けることができます。

メーター照度調整：
メーター照度が調整できます。

エンジンスイッチモード表示：
選択中のエンジンスイッチのモードを表示します。（→P. 149）

⑦ マルチインフォメーションディスプレイ

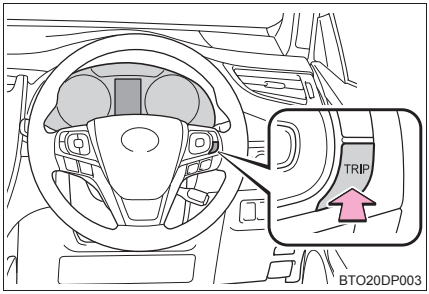
走行に関するさまざまな情報を表示します。（→P. 69）

⑧ 水温計

エンジン冷却水の温度を示します。

表示の切りかえ

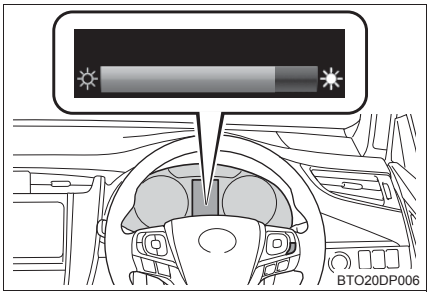
TRIP スイッチを押すごとに表示が ODO → TRIP A → TRIP B →メーター照度調整→非表示の順に切りかわります。
また、トリップメーター表示中に押し続けると、走行距離を 0 にもどします。



■ メーター照度調整

メーター照度調整を表示中に TRIP スイッチを押し続けることでメーター照度が調整できます。

車幅灯消灯時と点灯時それぞれの明るさレベルを調整することができます。



知識

■メーター・ディスプレイの作動条件

エンジンスイッチがイグニッション ON モードのとき

■外気温表示について

次の場合は、正しい外気温が表示されなかったり、温度表示の更新が遅くなったりすることがありますが、故障ではありません。

- 停車しているときや、低速走行（約 20km/h 以下）のとき
- 外気温が急激に変化したとき（車庫・トンネルの出入り口付近など）
- “--”または“E”が表示されたときは、システム故障のおそれがあります。トヨタ販売店で点検を受けてください。

■割り込み表示について

スイッチの操作方法などを状況に応じてマルチインフォメーションディスプレイに一定時間表示します。割り込み表示・非表示を切りかえることができます。（→P. 72）

■燃料計と航続可能距離について

燃料計と航続可能距離（→P. 70）は連動しています。少量給油後に燃料計と航続可能距離の表示が更新されない場合、次の操作を行うことで更新することができます。

1. 車両を平坦な場所に停車させる
2. TRIP スイッチを押してオドメーター／トリップメーター／メーター照度調整／エンジンスイッチモード表示をオドメーター表示に切りかえる
3. エンジンスイッチを OFF にする
4. TRIP スイッチを押したまま、エンジンスイッチをイグニッション ON モードにする
5. そのまま 5 秒間 TRIP スイッチを押し続け、オドメーターが点滅を開始したら手をはなす

オドメーターが約 5 秒間点滅したのち、点灯に変わります。点灯に変われば更新は終了です。

■液晶ディスプレイについて

ディスプレイに小さな斑点や光点が表示されることがあります。これは液晶ディスプレイ特有の現象でそのまま使用しても問題ありません。

■カスタマイズ機能

マルチインフォメーションディスプレイでメーターの表示を変更できます。（→P. 409）

注意

■**エンジンや構成部品への損傷を防ぐために**

●タコメーターの針がレッドゾーン（エンジンの許容回転数をこえている範囲）に入らないようにしてください。

●水温計の針がHのレッドゾーンに入ったときは、オーバーヒートのおそれがあるので、ただちに安全な場所に停車してください。完全に冷えたあと、エンジンを確認してください。（→P. 396）

マルチインフォメーションディスプレイ

マルチインフォメーションディスプレイは、外気温や走行に関するさまざまな情報を表示します。

トリップインフォメーション

走行に関するさまざまな情報を表示します。（→P. 70）

ナビゲーションシステム連携表示★

ナビゲーションシステムと連携して、方位計などを表示します。
また、ナビゲーションシステムで目的地案内中に交差点案内が行われると、マルチインフォメーションディスプレイにも交差点案内が表示されます。

目的地の設定・地図の向きの切りかえなどについては、別冊「ナビゲーションシステム取扱書」を参照してください。

オーディオシステム連携表示★

オーディオモードの選択、選曲などを操作することができます。

レーダークルーズコントロール操作支援

（レーダークルーズコントロール装着車）

レーダークルーズコントロール（→P. 190）の操作方法を表示します。

定速制御モード時はレーダークルーズコントロール操作支援の表示が にかわります。（→P. 186）

LDA（ステアリング制御付）★の作動状況も表示します。（→P. 206）

LDA（ステアリング制御付）操作支援

（レーダークルーズコントロール装着車を除くLDA<ステアリング制御付＞装着車）

LDA（ステアリング制御付）（→P. 206）の作動状況を表示します。

Stop & Start システム情報

Stop & Start システムの作動状態を表示できます。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

警告メッセージ

車両に異常が発生した場合に、内容・対処法などのメッセージを表示します。（→P. 347）

設定

メーターの表示設定や、各システムの設定などを切りかえることができます。（→P. 71）

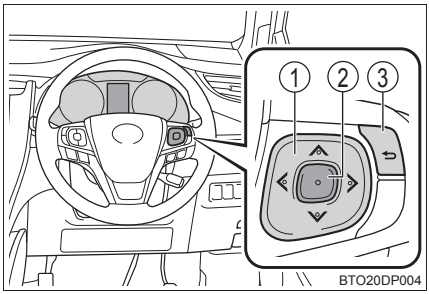
◆ 操作方法

メーター操作スイッチを使って次のように操作します。

① 選択 / ページ送り

② 決定 / 設定

③ ひとつ前の画面にもどる



トリップインフォメーション

■ 平均燃費（リセット間・始動後・給油後）

リセット後、エンジン始動後、給油後の平均燃費（参考値）を表示します。

■ 平均車速（リセット間・始動後）

リセット後、エンジン始動後の平均車速（参考値）を表示します。

■ 走行時間（リセット間・始動後）

リセット後、エンジン始動後の経過時間（参考値）を表示します。

■ 航続可能距離

運転履歴から学習した燃費と現在の燃料残量から算出した走行可能な距離を表示します。

・使用環境（気象、渋滞など）や運転方法（急発進、エアコンの使用など）に応じて燃費は変わるため、実際に走行できる距離とは異なります。

・燃料給油量が少量（約 5 L 以下）の場合、表示が更新されないことがあります。この場合、燃料計と共に更新することができます。（→P. 67）

■ エコドライブインジケーターゾーン表示

→P. 73

■ 4WD 作動状態表示★

→P. 73

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

Stop & Start システム情報

■ SMART STOP 設定

→P. 178

■ アイドリングストップ時間

現在のアイドリングストップ時間（Stop & Start システムによるエンジン停止時間）を表示します。

■ アイドリングストップ時間（リセット間・始動後）

リセット後、エンジン始動後のアイドリングストップ時間（Stop & Start システムによるエンジン停止時間）を通算で表示します。

■ アイドリングストップ時間節約燃料（リセット間・始動後）

リセット後、エンジン始動後のアイドリングストップ時間の間での節約燃料（参考）を表示します。

設定

■ クリアランスソナー★

クリアランスソナーを ON・OFF できます。（→P. 216）

■ パワーバックドア★

パワーバックドアを ON・OFF できます。（→P. 89）

■ 操舵支援★

LDA（ステアリング制御付）の操舵力支援の有無を切りかえできます。（→P. 201）

■ 警報感度★

LDA（ステアリング制御付）の警報感度を切りかえできます。（→P. 201）

■ エコドライブインジケーターランプ

エコドライブインジケーターランプを ON・OFF できます。

■ Stop & Start システム

エアコンの A/C を ON にしているときのアイドリングストップ時間を切りかえできます。（→P. 184）

■ インテリジェントクリアランスソナー★

インテリジェントクリアランスソナーを ON・OFF できます。（→P. 226）

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ プリクラッシュセーフティーシステム★

プリクラッシュセーフティーシステムを ON・OFF できます。
（→P. 245）

■ 操作ガイド★

レーダークルーズコントロールスイッチの操作ガイド（→P. 197）を ON・OFF できます。

■ 割り込み表示

状況に応じて割り込み表示される項目の表示・非表示を選択することができます。

・交差点案内★
・電話着信★
・Stop & Start システム作動時間
・Stop & Start システム状態通知

■ テーマカラー★

メーカーオプションのナビゲーションシステム装着車では、マルチインフォメーションディスプレイのカーソル色を選択することができます。
また、カーソル色を変更すると、ナビゲーション画面のテーマカラーも連動して変更されます。

■ 表示設定初期化

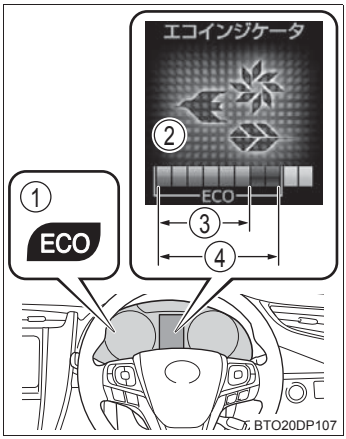
メーターの下記表示設定を初期状態に戻すことができます。

・エコドライブインジケーター
・操作ガイド★
・割り込み表示
・テーマカラー★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

知識

■エコドライブインジケーター



① エコドライブインジケーターランプ
環境に配慮した運転をしているとき、エコドライブインジケーターランプが点灯します。必要以上にアクセルペダルを踏んだときや停車中は消灯します。

② エコドライブインジケーターゾーン表示
エコ運転の範囲と現状のアクセル開度を表示します。

③ 現状のアクセル開度
現状のアクセル開度がエコ運転の範囲をこえたとき、エコドライブインジケーターゾーン表示の右側が点灯します。
このとき、エコドライブインジケーターランプは消灯します。

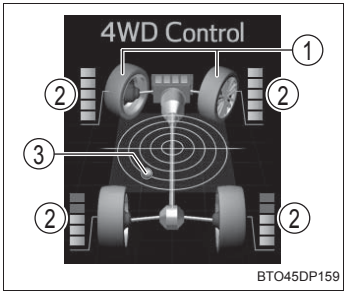
④ エコ運転の範囲

次の場合、エコドライブインジケーターは作動しません。

- シフトレバーが D 以外にあるとき
- 走行モードがパワーモードのとき
- 車速が約 100km/h 以上のとき

■4WD 作動状態表示（4WD 車）

4WD システム作動による走行状況を表示します。



① 操舵表示
操舵量・操舵方向をタイヤの切れ角で表示します。

② 駆動力表示
各輪にかかる駆動力をセグメントの数で表示します。

③ G 表示
車両にかかる G の大きさをボールの位置で表示します。

■設定画面の操作について

設定画面操作中に次の状態になると操作が一時中断されます。

●警告メッセージが表示されたとき

●走行し始めたとき

■液晶ディスプレイについて

→P. 67

警告

■低温時の画面表示について

画面の温度が極めて低いときは、画面表示の切りかえが遅れる場合がありますので、車室内を暖めてからご使用ください。

例えばギヤ段表示を使用した場合、シフト操作をしてもすぐにギヤ段の表示が切りかわらないことで運転者がダウンシフトしなかったと誤解し、再度ダウンシフトすることによって急激に過度のエンジンブレーキがかかり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ディスプレイの設定を変更するとき

エンジンがかかった状態で操作を行うため、車庫内など囲まれた場所では、十分に換気をしてください。換気をしないと、排気ガスが充満し、排気ガスに含まれる一酸化炭素（CO）により、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

注意

■ディスプレイの設定を変更するとき

バッテリーあがりを起こす可能性がありますので、確実にエンジンがかかっている状態で実施してください。

燃費画面★／ESPO 画面★

燃費に関する情報をナビゲーション画面に表示します。

表示のしかた

1 画面外の「INFO・TC」スイッチにタッチし、「情報」画面を表示させる

「オンライン」または、「Apps」画面が表示されたときは、「情報」を選択してください。

2 燃費画面：「燃費」を選択する
ESPO 画面：「 ESPO 」を選択する

燃費画面の見方

■ 毎分燃費の見方

区間燃費が表示されたときは、「毎分燃費」を選択する

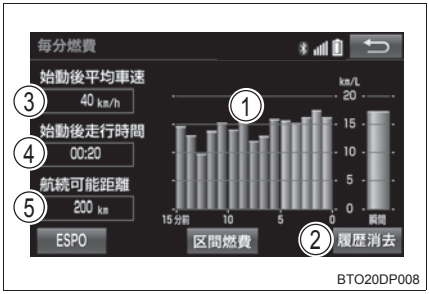
① 過去 15 分間の 1 分ごとの燃費（平均燃費）

② 履歴消去

③ エンジン始動後平均車速

④ エンジン始動後走行時間

⑤ 航続可能距離（→P. 70）



BTO20DP008

平均燃費はエンジンスイッチをイグニッション ON モードにしてからと、前回走行時で色分けして表示されます。

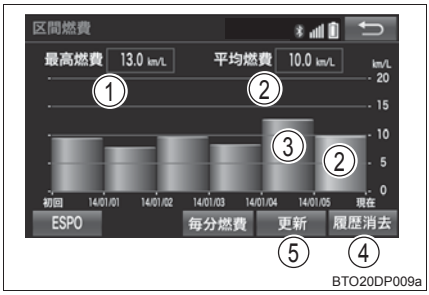
表示される平均燃費は、参考として利用してください。

表示画面については実際の状況とわずかに異なる場合があります。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ 区間燃費の見方

毎分燃費が表示されたときは、「区間燃費」を選択する



① 最高燃費表示

② 平均燃費表示

③ 過去平均燃費表示

平均燃費は最後に更新してからの平均、過去の平均で色分けして表示されます。

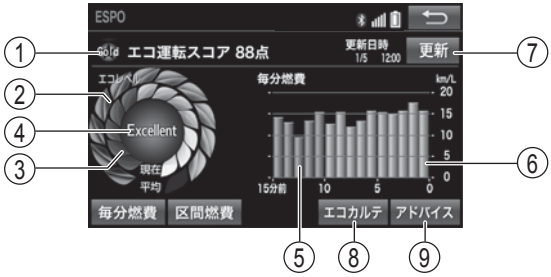
④ 履歴消去

⑤ 平均燃費更新

表示される平均燃費は、参考として利用してください。

表示画面については実際の状況とわずかに異なる場合があります。

ESPO 画面の見方



① ステータス／エコ運転スコア表示※

エコ運転の採点結果や走行情報をトヨタスマートセンターに送信し、計算されたデータをもとにエコ運転スコアやステータスを表示します。
ステータスはエコ運転を継続することでブロンズ、シルバー、ゴールドの順にランクがアップします。

② エコレベル平均値

エコレベルインジケーターの平均値を表示します。マークが増えるほど、環境に配慮した運転をしていることになります。

③ エコレベルメーター

エコ運転のレベルを表示します。マークが増えるほど、環境に配慮した運転をしていることになります。

④ エコレベルインジケーター

エコレベルメーターのレベルに応じて Good・Excellent が表示されます。レベルが低い場合は表示されません。

⑤ 毎分燃費（前回エンジン始動～エンジン停止）

1 分ごとの平均燃費を最大 15 分前までグラフ表示します。
今回と前回の平均燃費を色分けして表示します。

⑥ 毎分燃費（今回エンジン始動～現在）

1 分ごとの平均燃費を最大 15 分前までグラフ表示します。
今回と前回の平均燃費を色分けして表示します。

⑦ 更新スイッチ※

走行情報などをトヨタスマートセンターへ送信し、ステータスなどを更新します。

⑧ エコカルテスイッチ※

お車から送信された情報を反映して、月間の走行距離・ガソリン消費量・CO_2 排出量・平均燃費・獲得ポイント・エコ運転スコアが表示されます。

⑨ アドバイススイッチ

・ドライバーの運転操作についてエコ運転の観点で診断した結果を表示します。良いところを確認したり、さらに良くするにはどうしたら良いかを知ることができます。

・エコ運転や環境に関する豆知識を表示します。

※ T-Connect をご利用されているときに表示されます。
詳しくは、別冊「ナビゲーションシステム取扱書」を参照してください。

知識

■過去の区間平均燃費の記録を更新するには

区間燃費画面で「更新」を選択すると、平均燃費の値とグラフが更新され、新たに平均燃費の記録を開始します。

■燃費データをリセットするには

「履歴消去」を選択すると、燃費データがリセットされます。

■航続可能距離について

現在の燃料残量で走行できるおよその距離を示します。
表示される距離は、過去の平均燃費をもとに算出されるため、表示される距離を実際に走行できるとは限りません。

■トヨタスマートセンターへ送信する走行情報について

トヨタスマートセンターへ送信する走行情報は、ナビゲーションシステムが算出するものであり、マルチインフォメーションディスプレイに表示される走行距離や燃費などとは一致しないことがあります。

各部の操作 3

3-1. キー

キー.....80

3-2. ドアの開閉、ロックのしかた

ドア（フロントドア・リヤドア）.....83

バックドア.....89

スマートエントリー＆スタートシステム.....102

3-3. シートの調整

フロントシート.....108

リヤシート.....110

ポジションメモリー／メモリーコール.....112

ヘッドレスト.....116

3-4. ハンドル位置・ミラー

ハンドル.....118

インナーミラー.....121

ドアミラー.....123

補助確認装置.....126

3-5. ドアガラス・ムーンルーフの開閉

パワーウインドウ.....127

パノラマムーンルーフ.....130

キー

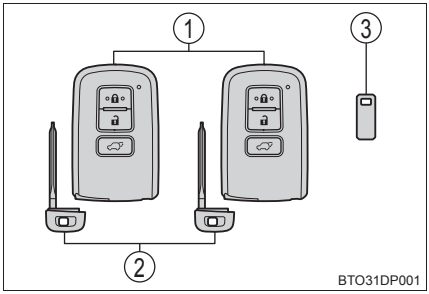
キーについて

お客様へ次のキーをお渡しします。

① 電子キー
- スマートエントリー＆スタートシステムの作動（→P. 83）
- ワイヤレス機能の作動

② メカニカルキー

③ キーナンバープレート



ワイヤレスリモコン

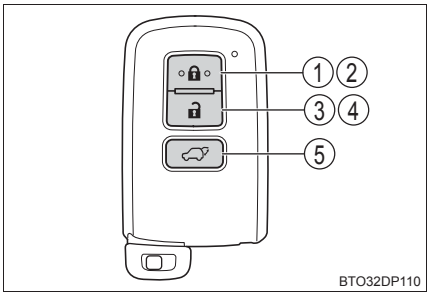
① ドアの施錠（→P. 83）

② ドアガラスを閉める※（→P. 83）

③ ドアの解錠（→P. 83）

④ ドアガラスを開く※（→P. 83）

⑤ パワーバックドア★を開閉する（→P. 89）

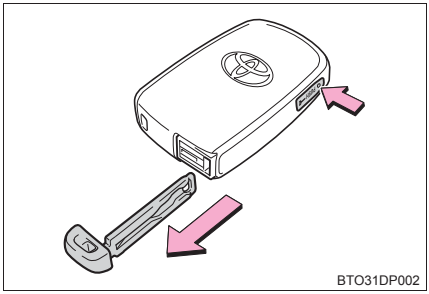


※ カスタマイズ機能での設定変更が必要です。（→P. 412）

メカニカルキーを使うには

メカニカルキーを取り出すには、解除ボタンを押してキーを取り出してください

使用後はもとにもどし、電子キーと一緒に携帯してください。電子キーの電池が切れたときやスマートエントリー＆スタートシステムが正常に作動しないとき、メカニカルキーが必要になります。（→P. 390）



★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

知識

■メカニカルキーを紛失したとき

キーナンバープレートに打刻されたキーナンバーと残りのメカニカルキーから、トヨタ販売店でトヨタ純正品の新しいメカニカルキーを作ることができます。
キーナンバープレートは車の中以外の安全な場所（財布の中など）に保管してください。

■航空機に乗るとき

航空機に電子キーを持ち込む場合は、航空機内で電子キーのスイッチを押さないでください。また、かばんなどに保管する場合でも、簡単にスイッチが押されないように保管してください。スイッチが押されると電波が発信され、航空機の運行に支障をおよぼすおそれがあります。

■電池の消耗について

●電池の標準的な寿命は 1 ～ 2 年です。

●電池残量が少なくなると、エンジンを停止した際に車内から警告音が鳴ります。（→P. 361）

●電子キーは常に電波を受信しているため、使用していないあいだでも電池が消耗します。次のような状態になったときは、電池が消耗している可能性があります。新しい電池に交換してください。

・スマートエントリー＆スタートシステムやワイヤレスリモコンが作動しない
・作動範囲が狭くなった
・電子キーの LED が点灯しない

●電池の著しい消耗を防ぐため、次のような磁気を発生する電化製品の1m以内に電子キーを保管しないでください。

・TV
・パソコン
・携帯電話やコードレス電話機、および充電器
・電気スタンド
・電磁調理器

■電池の交換方法

→P. 310

■キー登録本数の確認について

車両に登録されたキーの本数を確認することができます。詳しくはトヨタ販売店へご相談ください。

⚠注意

■キーの故障を防ぐために

- ●落としたり、強い衝撃を与えたり、曲げたりしない
- ●温度の高いところに長時間放置しない
- ●ぬらしたり超音波洗浄器などで洗ったりしない
- ●電子キーに金属製または磁気を帯びた製品を取り付けたり、近付けたりしない
- ●分解しない
- ●電子キー表面にシールなどを貼らない
- ●テレビやオーディオ・電磁調理器などの磁気を帯びた製品や、低周波治療器などの電気医療機器の近くに置かない

■電子キー取り扱いの注意

電子キーは電波法の認証に適合しています。必ず次のことをお守りください。

- ●電池交換時以外は、不用意に分解しないでください。分解・改造したものを使用することは法律で禁止されています。
- ●必ず日本国内でご使用ください。

■キーを携帯するとき

電源を入れた状態の電化製品とは約 10cm 以上離して携帯してください。
約10cm以内にあると電化製品の電波と干渉し正常に機能しない場合があります。

■スマートエントリー＆スタートシステムの故障などで販売店に車両を持っていくとき

車両に付属しているすべての電子キーをお持ちください。

■電子キーを紛失したとき

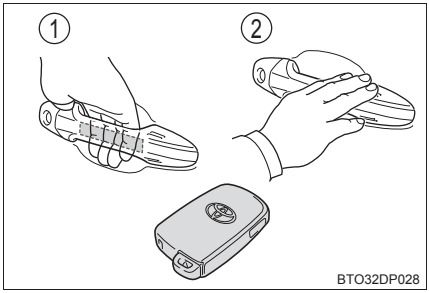
電子キーを紛失した状態で放置すると、盗難の危険性が極めて高くなります。
車両に付属している残りの電子キーをすべてお持ちの上、ただちにトヨタ販売店にご相談ください。

ドア（フロントドア・リヤドア）

車外からの施錠／解錠

◆ スマートエントリー＆スタートシステム

電子キーを携帯して操作します。



① フロント席ドアハンドルを握って解錠する

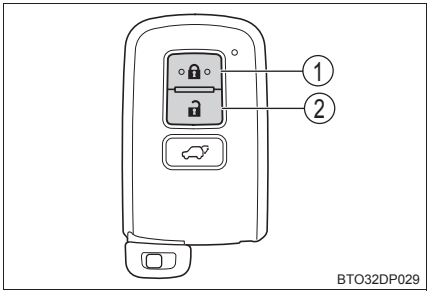
ハンドル裏面のセンサー部に確実にふれてください。

施錠操作後３秒間は解錠できません。

② フロント席ドアハンドル上側、または下側のロックセンサー部（ハンドルのくぼみ部）にふれ施錠する

必ず施錠されたことを確認してください。

◆ ワイヤレスリモコン



① 全ドアを施錠する

必ず施錠されたことを確認してください。

押し続けるとドアガラスが閉まります※

② 全ドアを解錠する

押し続けるとドアガラスが開きます※

※ カスタマイズ機能での設定変更が必要です。（→P. 411）

知識

■作動の合図

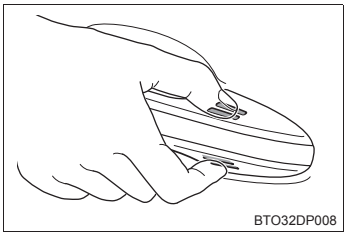
- ドアの施錠・解錠を、ブザーと非常点滅灯の点滅で知らせます。（施錠は 1 回、解錠は 2 回）
- ドアガラスの開閉をブザーで知らせます。（→P. 412）

■解錠操作のセキュリティ機能

解錠操作後、約 30 秒以内にドアを開けなかったときは、盗難防止のため自動的に施錠されます。

■ドアハンドル上側のロックセンサーで施錠できないとき

ドアハンドル上側のロックセンサー部にふれても施錠できないときは、上下のロックセンサー部に同時にふれてください。



■半ドア警告ブザー

ドアが完全に閉まっていない状態でドアを施錠しようとすると、ブザーが鳴ります。
ドアを完全に閉めてから、もう一度施錠してください。

■オートアラームの設定

施錠するとオートアラームが設定されます。（→P. 58）

■スマートエントリー＆スタートシステムやワイヤレスリモコンが正常に作動しないとき

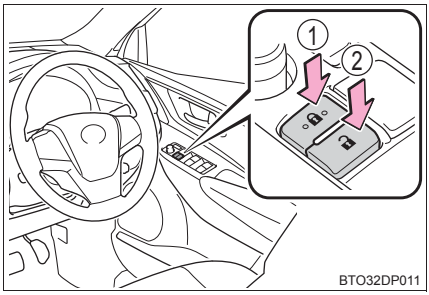
- メカニカルキーを使ってドアの施錠・解錠ができます。（→P. 390）
- 電池が消耗しているときは、電池を交換してください。（→P. 310）

車内からの施錠／解錠

◆ ドアロックスイッチ

① 全ドアを施錠する

② 全ドアを解錠する

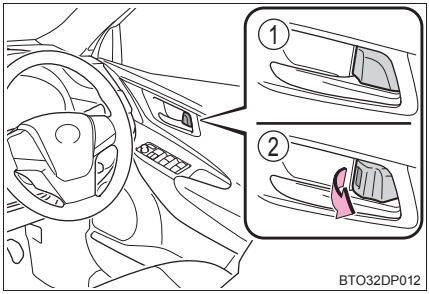


◆ ロックレバー

① ドアを施錠する

② ドアを解錠する

運転席ドアは、ロックレバーが施錠側になっていても、車内のドアレバーを引くと開きます。



キーを使わずに外側からフロント席を施錠

1 ロックレバーを施錠側にする

2 ドアハンドルを引いたままドアを閉める

エンジンスイッチがアクセサリーモードまたはイグニッション ON モードのときや、車内に電子キーが放置されているときは施錠されません。ただし、キーが正しく検知されずに施錠される場合があります。

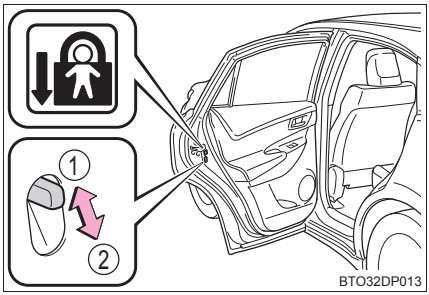
チャイルドプロテクター

施錠側にすると、リヤ席ドアが車内から開かなくなります。

① 解錠

② 施錠

お子さまが車内からリヤ席ドアを開けられないようにできます。両側のリヤ席ドアを施錠側にしてください。



知識

■ **チャイルドプロテクター使用時のドアの開け方**

ドアを解錠して車外のドアハンドルを引くと開きます。万一、車内から開ける場合は、ドアガラスを下げて手を出し、車外のドアハンドルを引いてください。

オートドアロック・アンロック機能

次の機能を設定・解除することができます。

機能	作動内容
車速感応オートドアロック	速度が約 20 km/h 以上になると全ドアが施錠されます。
シフト操作連動ドアロック	エンジンが作動中にシフトレバーを P から動かすと全ドアが施錠されます。
シフト操作連動アンロック	シフトレバーを P に入れると全ドアが解錠されます。
運転席ドア開連動アンロック	エンジンスイッチを OFF にしてから約 43 秒以内に運転席ドアを開けると全ドアが解錠されます。

■ **設定・解除のしかた**

▶ メーカーオプションのナビゲーションシステム非装着車

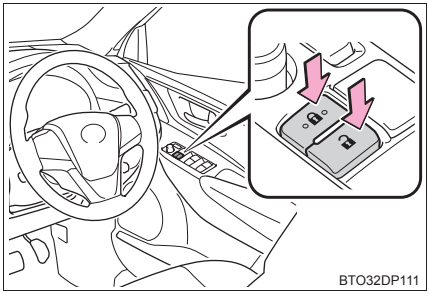
次の手順で、各機能の設定と解除が交互に切りかわります。

1 すべてのドアを閉め、エンジンスイッチをイグニッション ON モードにする（その後 20 秒以内に 2 を行う）

2 シフトレバーを P または N に入れ、運転席ドアロックスイッチの 🔒 または 🔓 を約 5 秒間押して離す

設定を行う機能によってシフトレバーとスイッチの位置を次の表から選択します。

機能を解除するには、同じ手順を行います。



機能	シフトレバーの位置	運転席ドアロックスイッチ
シフト操作連動ドアロック	P	🔒
シフト操作連動アンロック		🔓
車速感応オートドアロック	N	🔒
運転席ドア開連動アンロック		🔓

設定または解除の切りかえ操作が完了すると、すべてのドアが施錠されたあと、解錠されます。

▶ メーカーオプションのナビゲーションシステム装着車

設定の変更は、ナビゲーションシステムの画面で行います。
（→P. 408, 410）

知識

■衝撃感知ドアロック解除システム

車両が前後左右から強い衝撃を受けると、すべてのドアが解錠されます。
衝撃の度合いや事故の状況によっては作動しないことがあります。

■メカニカルキーでの施錠・解錠

メカニカルキーを使ってドアの施錠・解錠ができます。（→P. 390）

■スマートエントリー＆スタートシステムやワイヤレスリモコンが正常に働かないおそれのある状況

→P. 104

■カスタマイズ機能

スマートエントリー＆スタートシステムを非作動にするなどの変更ができます。
（カスタマイズ一覧：→P. 411）

警告

■事故を防ぐために

運転中は次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、不意にドアが開き、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- すべてのドアを確実に閉め、施錠する
- 走行中はドア内側のドアレバーを引かない
  特に、運転席はロックレバーが施錠側になっていてもドアが開くため、注意してください。
- お子さまをリヤ席に乗せるときは、チャイルドプロテクターを使用して車内からドアが開かないようにする

■ドアを開閉するときは

傾斜した場所・ドアと壁などのあいだが狭い場所・強風など、周囲の状況を確認し、予期せぬ動きにも対処できるよう、ドアハンドルを確実に保持してドアを開閉してください。

バックドア

バックドアは次の方法で施錠・解錠および開けることができます。

車外からの施錠・解錠

◆ スマートエントリー&スタートシステム

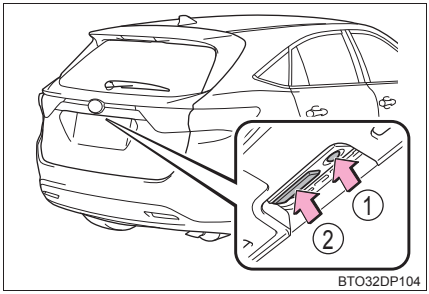
電子キーを携帯して操作します。

① 施錠

必ず施錠されたことを確認してください。

② 解錠

施錠操作後 3 秒間は解錠できません。



◆ ワイヤレスリモコン

→P. 80

◆ ドアロックスイッチ

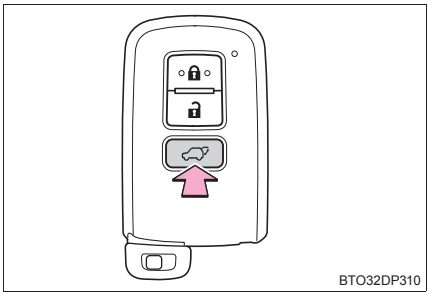
→P. 85

ワイヤレスリモコンでのバックドアの開閉★

スイッチを押し続ける

バックドアドア解錠時※に作動させることができます。

※ カスタマイズ機能により、施錠時からでも作動できるように設定できます。(→P. 411)



★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

車外からバックドアを開けるには

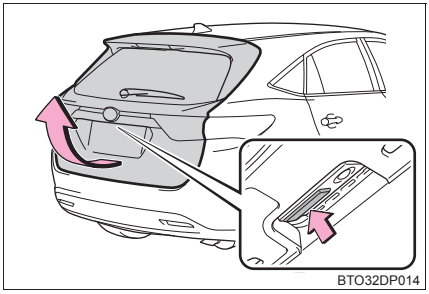
▶ パワーバックドア非装着車

バックドア解錠時に、バックドアオープンスイッチを押したまま、バックドアを持ち上げる

▶ パワーバックドア装着車

バックドア解錠時：バックドアオープンスイッチを押す

バックドア施錠時：電子キーを携帯して、バックドアオープンスイッチを長押しする



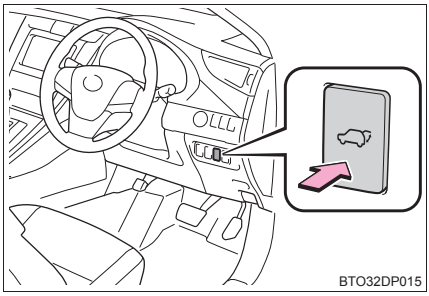
開閉作動中に再度スイッチを押すと、作動を停止します。

車内からバックドアを開閉するには（パワーバックドア装着車）

スイッチを約 1 秒長押しする

ブザーが鳴りバックドアが自動で開閉します。

開閉作動中にスイッチを押すと、作動を停止します。
作動を停止した状態から再度、スイッチを約 1 秒間長押しすると、バックドアは反転作動します。

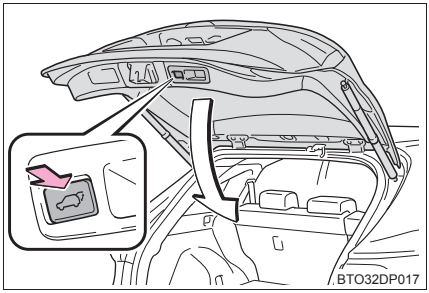


車外からバックドアを閉じるには（パワーバックドア装着車）

スイッチを押す

ブザーが鳴りバックドアが自動で閉まります。

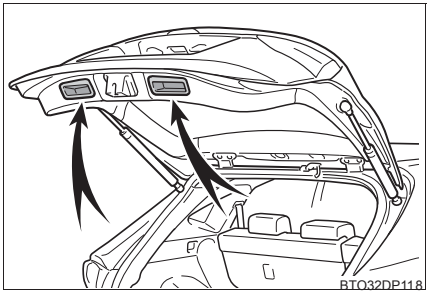
バックドアが閉まる途中でスイッチを押すと、作動を停止します。
再度スイッチを押すと、バックドアは自動で開きます。



バックドアを閉めるときは

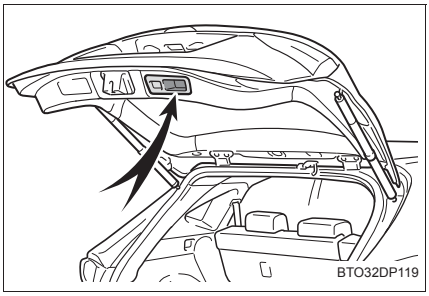
▶ パワーバックドア非装着車

バックドアグリップを持ってバックドアを引き下げ、必ず外から押して閉めてください。



▶ パワーバックドア装着車

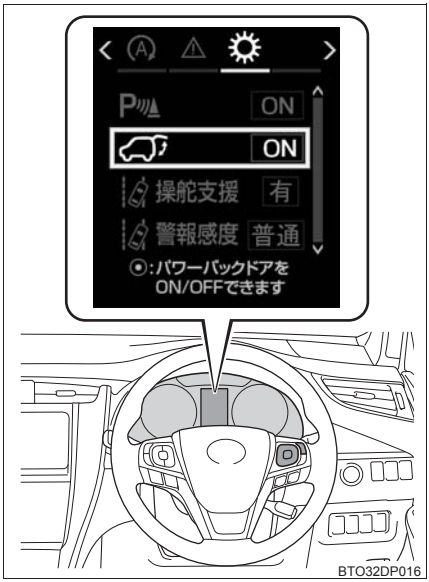
バックドアグリップを持ってバックドアを引き下げると、ブザーが鳴りバックドアが自動で閉まります。



パワーバックドアの作動を ON ／ OFF するには（パワーバックドア装着車）

マルチインフォメーションディスプレイの「設定」（→P. 71）で ON（作動）・OFF（停止）の切りかえができます。

1 メータ操作スイッチ（→P. 70）の ⌃ または、⌄ を押して「 」を選択する



※グレード、オプションなどにより、マルチインフォメーションディスプレイに表示される項目は、上図と異なる場合があります。

2 メータ操作スイッチの を押すごとに ON・OFF が切りかわる

OFF を選択して、パワーバックドアの作動を停止させた場合、再度、マルチインフォメーションディスプレイの「設定」から「 」を ON にし、システム作動状態にしないとパワーバックドアの作動は復帰しません。

（エンジンスイッチの操作では復帰しません）

バックドア自動開停止位置調整について（パワーバックドア装着車）

パワーバックドアを自動で開けたときに、開く位置を調整できます。

1 バックドアをお好みの位置で停止させる（→P. 89, 90）

2 バックドア下部の スイッチを約 2 秒間押し続ける

・設定が完了するとブザーが 4 回鳴ります。
・次回パワーバックドアを開けると、その位置でバックドアが停止します。

調整した位置を初期の状態にもどすには（→P. 95）

知識

■パワーバックドアの作動可能条件（パワーバックドア装着車）

パワーバックドアの作動が ON で、次のときに自動で開閉できます。

●バックドアが解錠されているとき、ただし次のときはバックドアが施錠されていてもパワーバックドアは作動します。

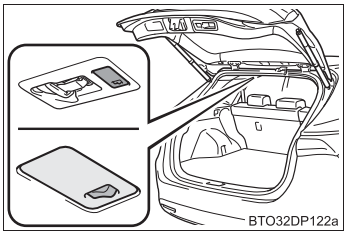
・電子キーを携帯してバックドアオープンスイッチを押したとき
・ワイヤレスリモコン使用時では、カスタマイズ機能により施錠時からでも作動できるように設定したとき（→P. 411）

● エンジンスイッチがイグニッション ON モードのとき開作動するには、上記に加え、車速が約 3km/h 未満で、次のいずれかの条件で作動します。
ただし、ワイヤレスリモコンによる開閉はできません。

・パーキングブレーキがかかっている
・ブレーキペダルを踏んでいる
・シフトレバーが P の位置にある

■ラゲージルームランプ

スイッチを ON にしておくとバックドアを開けたとき、ラゲージルームランプが点灯します。

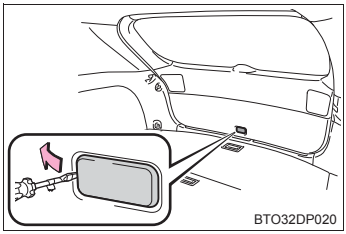


■バックドアが開かなくなったら

バックドアを内側から開けることができます。

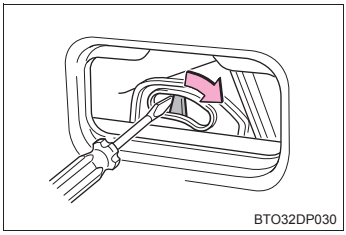
1 カバーをはずす

傷が付くのを防ぐため、マイナスドライバーの先端に布などを巻いて保護してください。

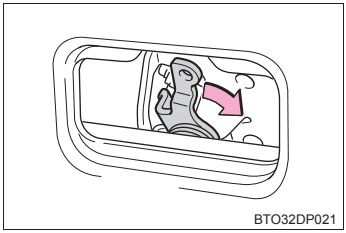


2 レバーを押す

▶パワーバックドア非装着車



▶パワーバックドア装着車



■バックドアイージークローザー（パワーバックドア装着車）

バックドアが半ドア状態になったとき、バックドアイージークローザーが作動し、バックドアが自動で完全に閉まります。

●エンジンスイッチがどの状態であっても、バックドアイージークローザーは作動します。

●バックドアイージークローザーが作動中でも、バックドアオープンスイッチを押してバックドアを開けることができます。

■パワーバックドアの作動について（パワーバックドア装着車）

●作動開始時にブザーが鳴ります。

●パワーバックドアの作動が OFF のときは、パワーバックドアは作動しませんが手動で開閉できます。

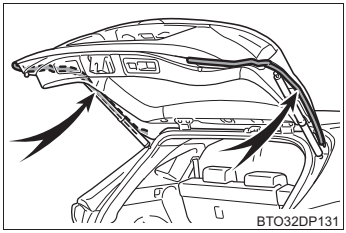
●パワーバックドアを自動で開いているときに、人や異物などにより異常を感知すると、作動が停止します。

■バッテリーを再接続したときは（パワーバックドア装着車）

パワーバックドアを適切に作動させるために、初期設定としてバックドアを手動で一度全閉にしてください。

■挟み込み防止機能（パワーバックドア装着車）

パワーバックドアの左右端部には、センサーが付いています。ドアを自動で閉めているときに、挟み込みなどによりセンサーが押されると挟み込み防止機能が作動し、その位置からドアは自動的に反対方向に少し動き、作動が停止します。



■バックドア自動開停止位置調整で設定した停止位置を解除するには（パワーバックドア装着車）

バックドア下部の スイッチを約 7 秒間押し続ける。

ブザーが 2 回鳴ります。次回パワーバックドアを開ける操作をすると、初期状態の位置までバックドアが開きます。

■カスタマイズ機能（パワーバックドア装着車）

パワーバックドアの開度調節などの変更ができます。
（カスタマイズ一覧：→P. 410）

警告

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■走行する前に

●走行前にバックドアが閉まっていることを確認してください。
完全に閉まっていないと走行中に突然開き、車外のものにあたったり、荷物が投げ出されたりして思わぬ事故につながるおそれがあります。

●ラゲージルームでお子さまを遊ばせないでください。
誤って閉じ込められた場合、熱射病などを引き起こすおそれがあります。

●お子さまにはバックドアの開閉操作をさせないでください。
不意にバックドアが開いたり、閉めるときに手・頭・首などを挟んだりするおそれがあります。

■走行中の留意事項

●走行中はバックドアを閉めてください。
開けたまま走行すると、バックドアが車外のものにあたったり荷物が投げ出されたりして、思わぬ事故につながるおそれがあります。

●ラゲージルームには絶対に人を乗せないでください。
急ブレーキ・急旋回をかけたときや衝突したときなどに、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

警告

■**バックドアの操作にあたって**

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、体を挟むなどして重大な傷害につながるおそれがあり危険です。

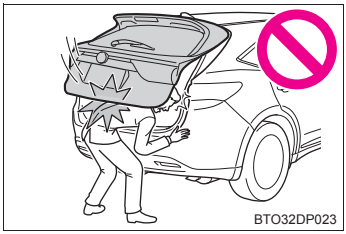
●バックドアを開ける前に、バックドアに貼り付いた雪や氷などの重量物を取り除いてください。開いたあとに重みでバックドアが突然閉じるおそれがあります。

●バックドアを開閉するときは、十分に周囲の安全を確かめてください。

●人がいるときは、安全を確認し動かすことを知らせる「声かけ」をしてください。

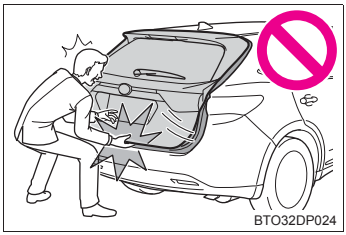
●強風時の開閉には十分注意してください。
バックドアが風にあおられ、勢いよく開いたり閉じたりするおそれがあります。

●半開状態で使用すると、バックドアが突然閉じて重大な傷害を受けるおそれがあります。特に傾斜地では、平坦な場所よりもバックドアの開閉がしにくく、急にバックドアが開いたり閉じたりするおそれがあります。必ずバックドアが全開で静止していることを確認して使用してください。


BTO32DP023

●バックドアを閉めるときは、指などを挟まないよう十分注意してください。

●バックドアは必ず外から軽く押して閉めてください。バックドアグリップを持ったままバックドアを閉めると、手や腕を挟むおそれがあります。


BTO32DP024

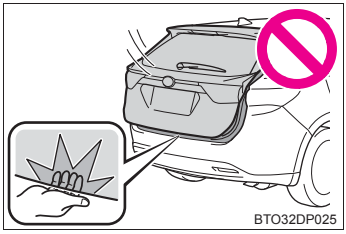
●バックドアダンパーステー（パワーバックドア非装着車）または、スピンドルユニット（パワーバックドア装着車）を持ってバックドアを閉めたり、ぶらさがったりしないでください。
手を挟んだり、バックドアダンパーステー（パワーバックドア非装着車）または、スピンドルユニット（パワーバックドア装着車）が破損したりして、思わぬ事故につながるおそれがあります。

●バックドアにトヨタ純正品以外のアクセサリー用品を付けないでください。
バックドアの重量が重くなり、開けたあとにバックドアが突然閉じて、手・頭・首などを挟むおそれがあります。

警告

■バックドアイージークローザーについて（パワーバックドア装着車）

●バックドアが半ドア状態になったとき、バックドアイージークローザーが動き自動で完全に閉まります。また、作動し始めるまでに数秒かかります。指などを挟まないように注意してください。骨折など重大な傷害を受けるおそれがあります。



●バックドアイージークローザーは、パワーバックドアの作動が OFF のときにも作動するため、指などの挟みこみには十分注意してください。

■パワーバックドアについて（パワーバックドア装着車）

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、体を挟むなどして重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●周辺の安全を確かめ、障害物がないか、身のまわりの品が挟み込まれる危険がないか確認してください。

●人がいるときは、作動させる前に安全を確認し、動かすことを知らせる「声かけ」をしてください。

●自動開閉中にパワーバックドアの作動を OFF にすると、作動が停止し手動操作に切りかわります。この場合、バックドアが急に開いたり閉じたりするおそれがあるので、十分注意してください。

●自動開閉中に作動可能条件（→P. 93）を満たさなくなったときは、ブザーが鳴り、作動が停止し手動操作に切りかわる場合があります。
この場合、傾斜した場所ではバックドアが急に開いたり閉じたりするおそれがあるので十分注意してください。

●傾斜した場所では、開いたあとにドアが突然閉じる場合があります。必ずドアが全開で静止していることを確認してください。

●次のような場合、システムが異常と判断して自動作動が停止し、手動操作に切りかわることがあります。この場合、バックドアが急に開いたり閉じたりするおそれがあるので、十分注意してください。

・自動作動中、障害物に干渉したとき
・エンジン停止時でパワーバックドアが自動作動しているときに、エンジンスイッチをイグニッション ON モードにしたりエンジンを始動したりして、バッテリー電圧が急に低下したとき

警告

- バックドアにキャリアなどの重いものを取り付けると、自動で作動できずにパワーバックドアが故障したり、開いたあとにドアが突然閉じて、手・頭・首などを挟むおそれがあります。バックドアには、トヨタ純正品以外のアクセサリー用品を付けないでください。

■挟み込み防止機能（パワーバックドア装着車）

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、体を挟むなどして重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

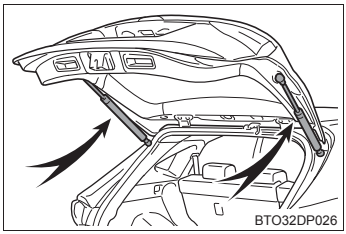
- 挟み込み防止機能を故意に作動させようとして、体の一部を挟んだりしないでください。
- 挟み込み防止機能は、バックドアが完全に閉まる直前に異物を挟むと作動しない場合があります。指などを挟まないように注意してください。
- 挟み込み防止機能は、挟まれるものの形状や挟まれかたによっては作動しない場合があります。指などを挟まないように注意してください。

⚠注意

■ダンパーステーについて（パワーバックドア非装着車）

バックドアにはバックドアを支えるためのダンパーステーが取り付けられています。ダンパーステーの損傷や作動不良を防ぐため次のことをお守りください。

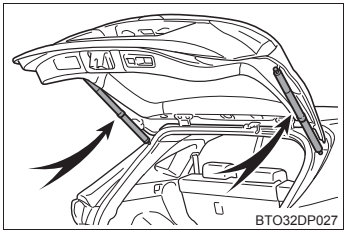
- ビニール片・ステッカー・粘着材などの異物をステーのロッド部（棒部）に付着させない
- ロッド部を軍手などでふれない
- バックドアにトヨタ純正品以外のアクセサリー用品を付けない
- ステーに手をかけたり、横方向に力をかけたりしない



■スピンドルユニットについて（パワーバックドア装着車）

バックドアにはバックドアを支えるためのスピンドルユニットが取り付けられています。スピンドルユニットの損傷や作動不良を防ぐため次のことをお守りください。

- ビニール片・ステッカー・粘着材などの異物をスピンドルユニットに付着させない
- バックドアにトヨタ純正品以外のアクセサリー用品を付けない
- スピンドルユニットに手をかけたり、横方向に力をかけたりしない



⚠注意

■バックドアイージークローザーの故障を防ぐために（パワーバックドア装着車）

●バックドアイージークローザーの作動中は無理な力をかけないでください。無理な力をかけると、バックドアイージークローザーの故障の原因となります。

●バックドアの開け閉めを短時間にくり返すとバックドアイージークローザーが作動しないことがあります。この場合、いったんバックドアを開け、少し時間をおいてから閉めなおすと作動します。

■パワーバックドアの故障を防ぐために（パワーバックドア装着車）

●パワーバックドアを作動させる前に、凍結によるバックドアの貼り付きがないことを確認してください。バックドアに無理な力がかかっている状態で作動させると、故障の原因になります。

●パワーバックドアの作動中は、バックドアに無理に力をかけないでください。

●パワーバックドア左右端部のセンサー（→P. 95）を刃物などの鋭利なもので傷付けないように注意してください。センサーが切断されると自動で閉めることができなくなります。

スマートエントリー&スタートシステム

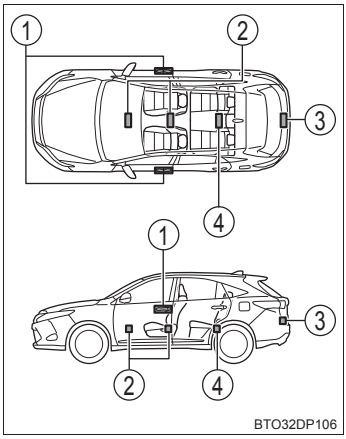
電子キーをポケットなどに携帯すると、次の操作が行えます。必ず運転者がキーを携帯してください。

- ドアを施錠・解錠する （→P. 83）
- バックドアを施錠・解錠する （→P. 89）
- エンジンを始動する（→P. 148）

知識

■アンテナの位置

①車外アンテナ
②室内アンテナ
③ラゲージルーム外アンテナ
④ラゲージルーム内アンテナ



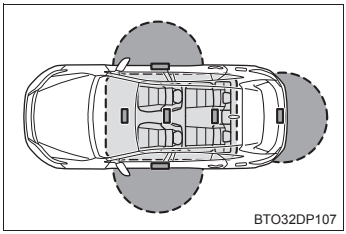
■作動範囲（電子キーの検知エリア）

●: ドアの施錠・解錠時

ドアハンドルから周囲約 70cm 以内で電子キーを携帯している場合に作動します。（電子キーを検知しているドアハンドルのみ作動します）

●: エンジン始動時またはモード切りかえ時

車内で電子キーを携帯している場合に作動します。



■警告音と警告表示について

誤操作などによる予期せぬ事故や盗難を防ぐため、警告音が鳴ったり、マルチインフォメーションディスプレイに警告が表示されることがあります。警告が表示されたときは、ディスプレイの表示をもとに適切に対処してください。
(→P. 347)

警告音のみが鳴る場合の状況と対処方法は次のとおりです。

警告音	状況	対処方法
車外から“ピー”と5秒間鳴る	いずれかのドアが開いているときにスマートエントリー&スタートシステムもしくは、ワイヤレス機能で施錠しようとした	全ドアを閉めたあと、再度施錠する
車内から“ポーン、ポーン”と鳴り続ける	運転席ドアが開いている状態でエンジンスイッチをアクセサリーモードにした（エンジンスイッチがアクセサリーモードのとき運転席ドアを開いた）	エンジンスイッチをOFFにしたあと、運転席ドアを閉める

■節電機能

長期駐車時に電子キーの電池と車両のバッテリーあがりを防止するため、節電機能が働きます。

●次の状況では、スマートエントリー&スタートシステムによる解錠に時間がかかる場合があります。

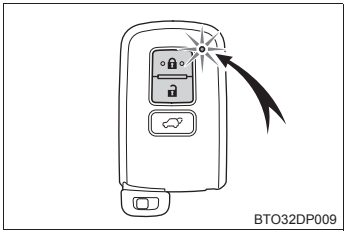
・車の外約2m以内に電子キーを10分以上放置した
・5日間以上スマートエントリー&スタートシステムを使用しなかった

●14日間以上スマートエントリー&スタートシステムを使用しなかった場合、運転席以外での解錠ができなくなります。この場合は、運転席のドアハンドルを握る、もしくは、ワイヤレス機能、メカニカルキーで解錠してください。

■電子キーの節電モードについて

節電モードに設定すると、電子キーによる電波の受信待機を停止し、電子キーの電池の消耗を抑えることができます。

電子キーの 🔒 を押しながら、🔓 を2回押し、電子キーのインジケータが4回光ることを確認してください。



節電モード中は、スマートエントリー＆スタートシステムを使用できません。節電モードを解除するには、電子キーのいずれかのスイッチを押してください。

■機能が正常に働かないおそれのある状況

スマートエントリー＆スタートシステムは微弱な電波を使用しています。次のような場合は電子キーと車両間の通信をさまたげ、スマートエントリー＆スタートシステムやワイヤレスリモコン、エンジンイモビライザーシステムが正常に作動しない場合があります。（対処方法：→P. 390）

●電子キーの電池が消耗しているとき

●近くにテレビ塔や発電所・ガソリンスタンド・放送局・大型ディスプレイ・空港があるなど、強い電波やノイズの発生する場所にいるとき

●無線機や携帯電話・コードレス式電話などの無線通信機器を携帯しているとき

●電子キーが、次のような金属製のものに接していたり、覆われたりしているとき

・アルミ箔などの金属の貼られたカード
・アルミ箔を使用したタバコの箱
・金属製の財布やかばん
・小銭
・カイロ
・CD や DVD などのメディア

●近くで他の電波式ワイヤレスリモコンを使用しているとき

●電子キーを、次のような電波を発信する製品と同時に携帯しているとき

・無線機や携帯電話・コードレス式電話などの無線通信機器
・他の車の電子キーや電波式ワイヤレスリモコン
・パソコンや携帯情報端末（PDA など）
・デジタルオーディオプレーヤー
・ポータブルゲーム機器

●リヤウインドウガラスに金属を含むフィルムなどが貼ってあるとき

●充電器など電子機器の近くにキーを置いた場合

■ご留意いただきたいこと

●電子キーが作動範囲内（検知エリア内）にあっても、次のような場合は正しく作動しないことがあります。

・施錠・解錠時、電子キーがドアガラスやドアハンドルに近付きすぎている、または地面の近くや高い場所にある
・バックドアを開けるとき、電子キーが地面の近くや高い場所にある、またはリヤバンパー中央に近付きすぎている
・エンジン始動時やエンジンスイッチの切りかえ時、電子キーがインストルメントパネルやフロア上・ドアポケット、またはグローブボックス内などに置かれている

●インストルメントパネル上面やドアポケット付近に電子キーを置いたまま車外に出ると、電波の状況によっては車外アンテナに検知され車外から施錠でき、電子キーが車内に閉じ込められるおそれがあります。

●電子キーが作動範囲内にあれば、電子キーを携帯している人以外でも施錠・解錠できます。ただし、電子キーを検知しているドア以外は解錠しません。

●車外でも電子キーがドアガラスに近づいていると、エンジンを始動できることがあります。

●電子キーが作動範囲内にあるとき、洗車や大雨などでドアハンドルに大量の水がかかると、ドアが施錠・解錠することがあります。（ドアの開閉操作がなければ、解錠されても約 30 秒後に自動で施錠します）

●ワイヤレスリモコンなどでの施錠時にキーが車両の近くにあると、スマートエントリー＆スタートシステムでの解錠ができないことがあります。（ワイヤレスリモコンを使用すると解錠できます）

●手袋を着用していると施錠・解錠しないことがあります。

●電子キーを携帯したまま洗車をすると、水がドアハンドルにかかったときに施錠・解錠をくり返すことがあります。その場合は次のような処置をしてください。

・キーを車両から約 2m 以上離れた場所に置く（盗難に注意し保管してください）
・キーを節電モードに設定してスマートエントリー＆スタートシステムの作動を停止する （→P. 104）

●洗車機での洗車中にキーが車内にあると、水がドアハンドルにかかったときに、マルチインフォメーションディスプレイに警報が表示され車外のブザーが吹鳴することがあります。すべてのドアを施錠すると警報は止まります。

●ロックセンサーの表面に氷や雪、泥が付着すると、センサーが反応しないことがあります。その場合は氷や雪、泥を取り除いて操作するか、ドアハンドル下部のロックセンサーで操作してください。

●すばやいドアハンドル操作や、車外アンテナの作動範囲内へ入ってすぐのドアハンドル操作では、解錠しないことがあります。センサーにふれ解錠したことを確認してからドアハンドルを引いてください。

●作動範囲内に他の電子キーがあると、解錠に時間がかかることがあります。

■長期間運転しないとき

●盗難防止のため、電子キーを車両から約 2m 以上離しておいてください。

●あらかじめスマートエントリー＆スタートシステムを非作動にすることができます。
詳しくはトヨタ販売店にお問い合わせください。

■システムを正しく作動させるために

電子キーを必ず携帯した上で作動させてください。また、車外から操作する場合は電子キーを車両に近付けすぎないようにしてください。
作動時の電子キーの位置や持ち方によっては、電子キーが正しく検知されず、システムが正しく作動しないことがあります。（誤って警報が鳴ったり、キー閉じ込み防止機能が働かないこともあります：→P. 360）

■スマートエントリー＆スタートシステムが正常に作動しないとき

●ドア・バックドアの解錠・施錠：→P. 390

●エンジンの始動：→P. 390

●節電モードが設定されている：→P. 104

■カスタマイズ機能

スマートエントリー＆スタートシステムを非作動にするなどの変更ができます。（カスタマイズ一覧：→P. 411）

■販売店でスマートエントリー＆スタートシステムを非作動にしたとき

●ドアの解錠・施錠：ワイヤレス機能、またはメカニカルキーを使ってドアの解錠・施錠ができます。（→P. 89, 390）

●エンジンの始動・エンジンスイッチのモード切りかえ：→P. 390

●エンジンの停止：→P. 148

警告

■電波がおよぼす影響について

●植込み型心臓ペースメーカー、植込み型両心室ペーシングパルスジェネレータおよび植込み型除細動器を装着されている方は、室内アンテナ・車外アンテナ（→P. 102）から約 22cm 以内に近付かないようにしてください。電波により植込み型心臓ペースメーカー、植込み型両心室ペーシングパルスジェネレータおよび植込み型除細動器の作動に影響を与えるおそれがあります。

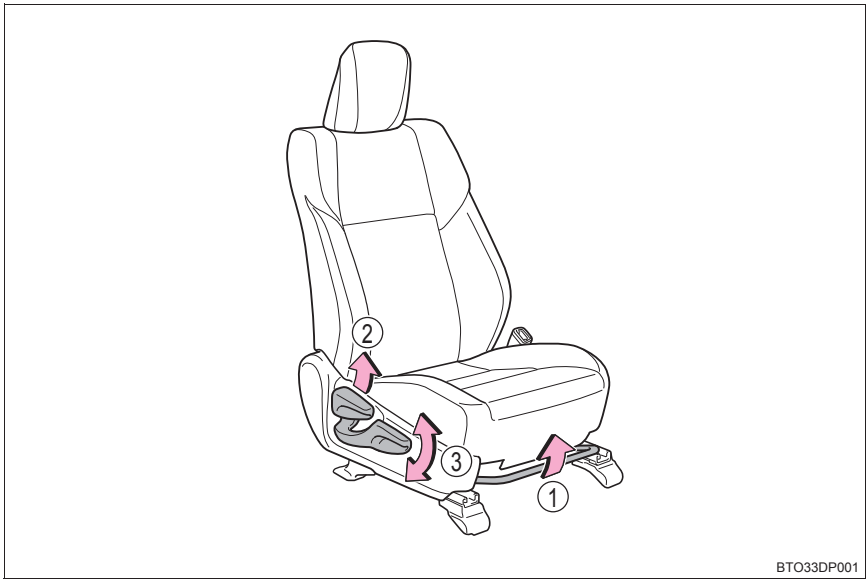
●植込み型心臓ペースメーカー、植込み型両心室ペーシングパルスジェネレータおよび植込み型除細動器以外の医療用電気機器をお使いの方は、電波による影響について医療用電気機器製造業者などに事前に確認してください。電波が医療用電気機器の動作に影響を与えるおそれがあります。

スマートエントリー＆スタートシステムを非作動にすることもできます。
詳しくはトヨタ販売店にお問い合わせください。

フロントシート

調整のしかた

▶ マニュアルシート装着車

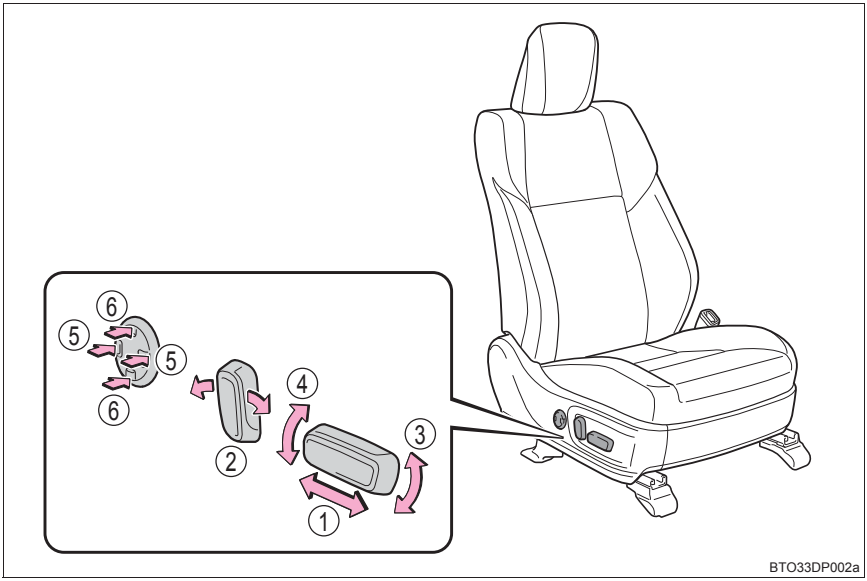


① 前後位置調整

② リクライニング調整

③ シート全体の上下調整（運転席のみ）

▶ パワーシート装着車



① 前後位置調整
② リクライニング調整
③ クッション前端の上下調整（運転席のみ）
④ シート全体上下調整（運転席のみ）
⑤ 腰部硬さ調整（運転席のみ）
⑥ 腰部高さ調整（運転席のみ）★

警告

■シートを調整するとき

●同乗者がシートにあたってけがをしないように注意してください。

●シートの下や動いている部分に手を近付けないでください。
指や手を挟み、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

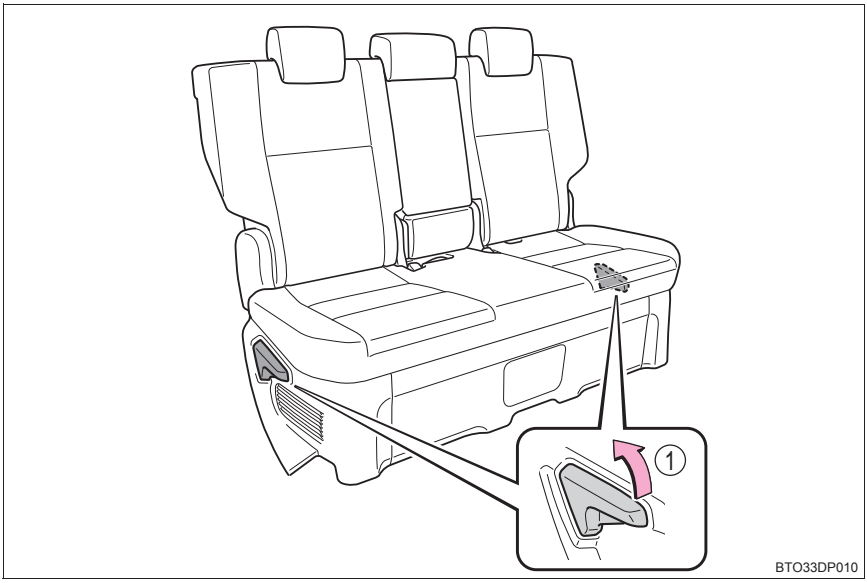
■リクライニング調整について

背もたれは必要以上に倒さないでください。
必要以上に倒しすぎると、事故のときに体がシートベルトの下にもぐり、腹部などに強い圧迫を受けたり肩部ベルトが首にかかるなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

リヤシート

調整のしかた



① リクライニング調整

警告

■背もたれを前倒しするとき

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●走行中に前倒しをしない

●平坦な場所でパーキングブレーキを確実にかけ、シフトレバーをＰにする

●操作するときに、可動部や結合部に手や足などを挟まないように注意する

●倒した背もたれの上やラゲージルームに人を乗せて走行しない

●お子さまがラゲージルームに入らないよう注意する

■リクライニング調整について

背もたれは必要以上に倒さないでください。
必要以上に倒しすぎると、事故のときに体がシートベルトの下にもぐり、腹部などに強い圧迫を受けたり肩部ベルトが首にかかるなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■背もたれをもとの位置にもどしたあとは

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●シートを前後に軽くゆさぶり、確実に固定されていることを確認する

●シートベルトを挟み込まないようにする

注意

■背もたれを前倒しするときは

背もたれを倒す前に、必ずシートベルトとバックルを格納してください。
（→P. 28）

ポジションメモリー／メモリーコール★

お好みのドライビングポジションを登録できます。

ポジションメモリー

お好みのドライビングポジション（シートの位置、ハンドルの位置※）を登録して、ワンタッチで呼び出すことができます。
ドライビングポジションは 2 パターンまで登録できます。

◆ 登録方法

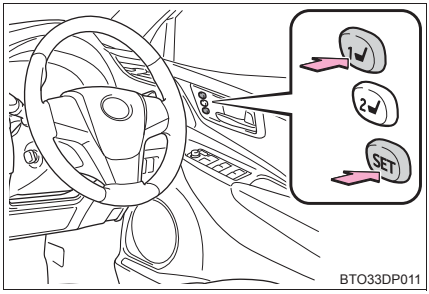
1 エンジンスイッチをイグニッション ON モードにする

2 シフトレバーが P の位置にあることを確認する

3 運転席、ハンドル※をお好みの位置に調整する

4 SET ボタンを押しながら、または SET ボタンを押したあと 3 秒以内に、1 または 2 のうち登録したいボタンをブザーが鳴るまで押す

すでに同じボタンに登録されている場合は、上書きされます。

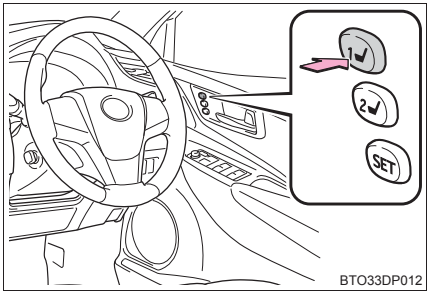


◆ 呼び出し方法

1 エンジンスイッチをイグニッション ON モードにする

2 シフトレバーが P の位置にあることを確認する

3 1 または 2 のうち呼び出したいポジションのボタンをブザーが鳴るまで押す



※：電動チルト＆テレスコピックステアリング装着車のみ
★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

知識

■ドライビングポジションの呼び出し作動を途中で止めたいとき

次のいずれかの操作をします。

●SET ボタンを押す

●1 または2のボタンを押す

●シート調整スイッチのいずれかを操作する（シートのみ作動停止）

●ハンドルの位置を調整する※（ハンドルのみ作動停止）

■登録できるシート位置（→P. 109）

次のシート位置が登録できます。

●前後位置調整

●リクライニング調整

●シート全体の上下調整

●クッション前端の上下調整

■エンジンスイッチ OFF 後の作動

運転席ドアを開けて 180 秒以内、または運転席ドアを閉め、60 秒以内に呼び出したいポジションのボタンを押すと、シートの位置が調整されます。

■ポジションメモリーを正しくお使いいただくために

登録位置が各シート調整位置の最端部にある状態で、さらに同じ方向に操作をすると、呼び出し位置にずれが生じることがあります。

※：電動チルト＆テレスコピックステアリング装着車のみ

メモリーコール機能

お好みのドライビングポジションを電子キーに登録することで、電子キーごとにお好みのドライビングポジションを自動で呼び出すことができます。

◆ 登録方法

お好みのドライビングポジションをあらかじめ１または２のいずれかのボタンに登録しておきます。
登録させたいキーのみ携帯して、運転席ドアを閉めてください。
車内にキーが２つ以上あると、正確に登録できません。

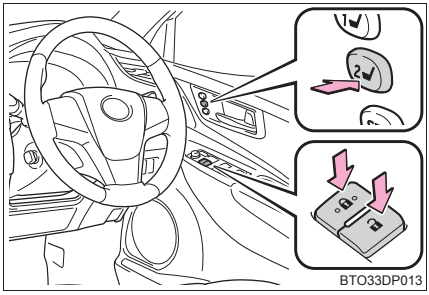
1 エンジンスイッチをイグニッション ON モードにする

2 シフトレバーが P の位置にあることを確認する

3 登録させたいドライビングポジション（１または２）を呼び出す

4 呼び出したドライビングポジションのボタンを押しながら、ドアロックスイッチの施錠側または解錠側を“ピー”とブザーが鳴るまで押す

登録できなかった場合は、約３秒間ブザーが鳴り続けます。



◆ 呼び出し方法

1 ドライビングポジションを登録した電子キーを携帯し、運転席ドアをスマートエントリー＆スタートシステムまたはワイヤレスリモコンで解錠してドアを開ける

シートが登録した位置へ動きます。（シートがすでに登録された位置にある場合は動きません）

2 エンジンスイッチをアクセサリーモードまたはイグニッションONモードにするか、シートベルトを着用する

電動チルト＆テレスコピックステアリング装着車は、ハンドルが登録した位置へ動きます。（ハンドルがすでに登録された位置にある場合は動きません）

◆ 解除方法

解除させたいキーのみ携帯してください。
車内にキーが 2 つ以上あると、正確に解除できません。

1 エンジンスイッチをイグニッション ON モードにする

2 SET ボタンを押しながら、ドアロックスイッチの施錠側または解錠側を“ピッピッ”とブザーが鳴るまで押す

解除できなかった場合は、ブザーが約 3 秒間鳴り続けます。

知識

■メモリーコール機能によるドライビングポジションの呼び出しについて

●電子キーごとにドライビングポジションを登録できるため、携帯する電子キーによっては呼び出されるドライビングポジションが異なる場合があります。

●運転席ドア以外のドアをスマートエントリー＆スタートシステムで解錠した場合は、ドライビングポジションの呼び出しはしません。
その場合は、登録したドライビングポジションのボタンを押してください。

■カスタマイズ機能

メモリーコール機能による解錠ドアの設定を変更できます。
（カスタマイズ一覧 →P. 412）

⚠ 警告

■シート調整時の警告

シート調整中は、シートがリヤ席乗員にあたったり、運転者の体がハンドルに圧迫されたりしないよう注意してください。

ヘッドレスト

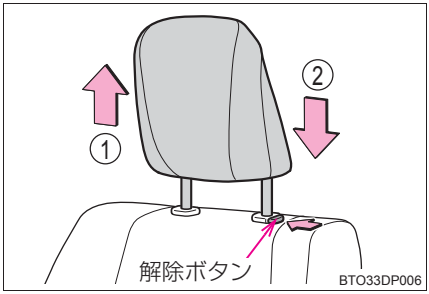
フロント席

上下調整

① 上げる

② 下げる

下げるときは、解除ボタンを押しながら操作します。

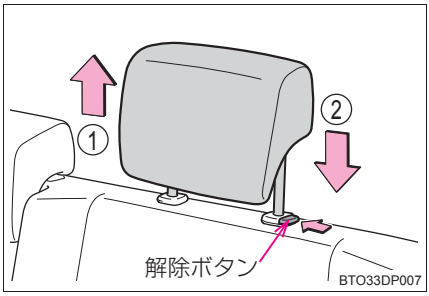


リヤ席

① 上げる

② 下げる

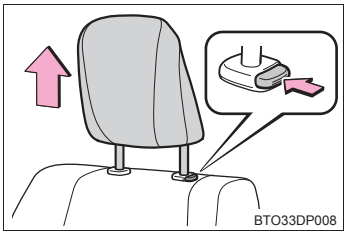
下げるときは、解除ボタンを押しながら操作します。



知識

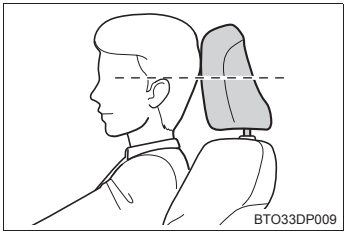
■ヘッドレストを取りはずすとき

解除ボタンを押しながらヘッドレストを引き上げます



■ヘッドレストの高さについて

必ずヘッドレストの中心が両耳のいちばん上のあたりになるよう調整してください。



■リヤ席について

使用するときは、常に格納位置から上げた位置にしてください。

警告

■ヘッドレストについて

次のことをお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

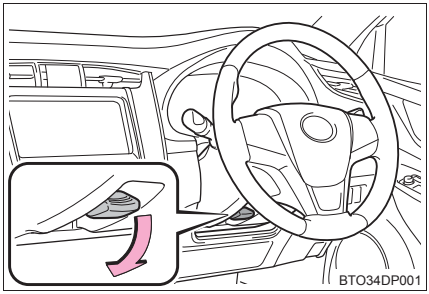
- ●ヘッドレストは、それぞれのシート専用のものを使用する
- ●ヘッドレストを必ず正しい位置に調整する
- ●ヘッドレストを調整したあとは、ヘッドレストを押し下げて固定されていることを確認する
- ●ヘッドレストをはずしたまま走行しない

ハンドル

調整のしかた

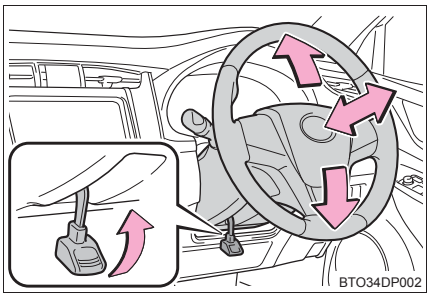
▶ マニュアルチルト＆テレスコピックステアリング

1 ハンドルを持ち、レバーを下げる



2 ハンドルを前後・上下に動かし、適切な位置にする

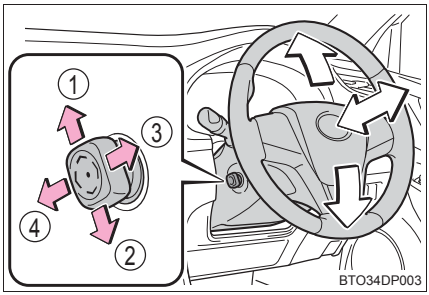
位置が決定したら、レバーを上げてハンドルを固定してください。



▶ 電動チルト＆テレスコピックステアリング

スイッチを操作すると、ハンドルを次の方向に動かします。

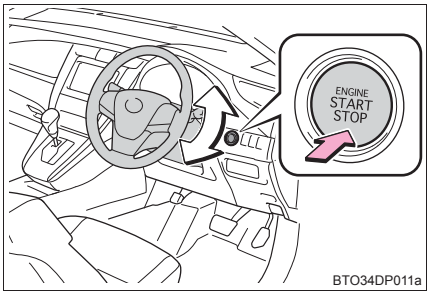
① 上方へ
② 下方へ
③ 手前へ
④ 前方へ



オートチルトアウェイ＆リターン機能（電動チルト＆テレスコピックステアリング装着車）

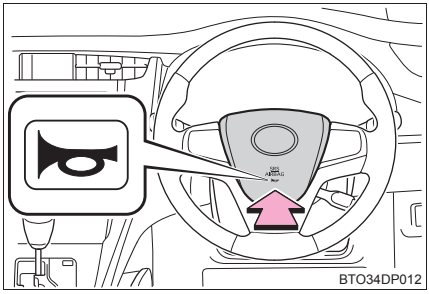
エンジンスイッチをOFFにする、またはシートベルトをはずすと、乗り降りがしやすいようにハンドルが最前方・最上段に移動します。

エンジンスイッチをアクセサリーモードかイグニッションONモードにする、またはシートベルトを着用するともとの位置にもどります。



ホーン（警音器）

ハンドルの 周辺部を押すとホーンが鳴ります。



知識

■**電動チルト＆テレスコピックステアリングの作動条件**

エンジンスイッチがアクセサリーモード、またはイグニッション ON モードのとき※

※ 運転席シートベルトを装着していれば、エンジンスイッチのモードにかかわらず、ハンドルの調整ができます。

■**ハンドル位置の自動調整★**

お好みのハンドル位置をドライビングポジションメモリーに登録すると、自動で調整されます。（→P. 112）

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

警告

■**走行中の警告**

走行中はハンドル位置の調整をしないでください。
運転を誤って、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■**ハンドル位置を調整したあとは（マニュアルチルト＆テレスコピックステアリング装着車）**

ハンドルが確実に固定されていることを確認してください。
固定が不十分だと、ハンドルの位置が突然かわり、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

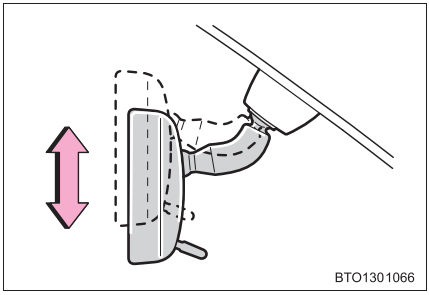
インナーミラー

後方を十分に確認できるようにミラーの位置を調整することができます。

上下調整のしかた

運転姿勢に合わせてインナーミラーの高さを調整することができます。

インナーミラー本体を持って、上下方向に調整する



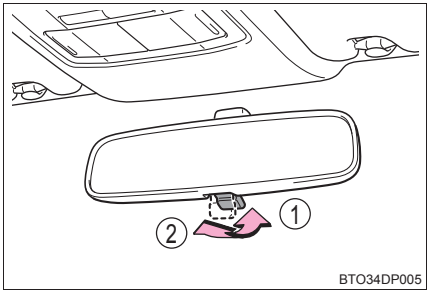
防眩機能

▶ 手動防眩ミラー装着車

レバーを操作することで、後続車のヘッドランプによる反射光を減少させます。

① 通常使用時

② 防眩時

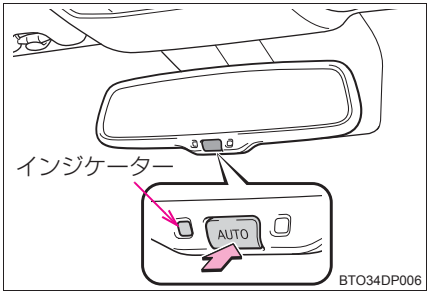


▶ 自動防眩ミラー装着車

後続車のヘッドランプのまぶしさに応じて反射光を自動的に減少させます。

自動防眩機能の切りかえ
ON ／ OFF

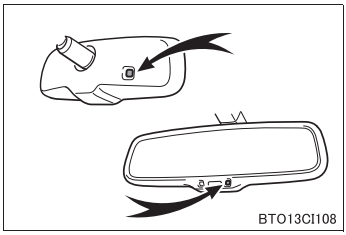
ON のときはインジケーターが点灯します。
エンジンスイッチをイグニッションON モードにしたときは、ミラーは常に自動防眩機能がONになっています。ボタンを押すとOFFになりインジケーターが消灯します。



知識

■ センサーの誤作動防止（自動防眩ミラー装着車）

センサーの誤作動を防ぐため、センサーにふれたりセンサーを覆ったりしないでください。



警告

走行中はミラーの調整をしないでください。
運転を誤って、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

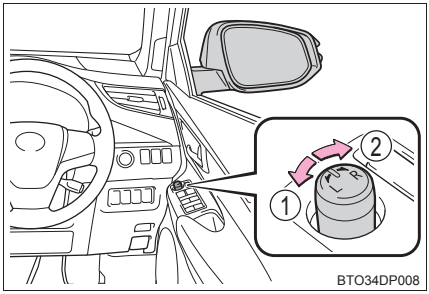
ドアミラー

調整のしかた

1 調整するミラーを選ぶには、スイッチをまわす

① 左

② 右



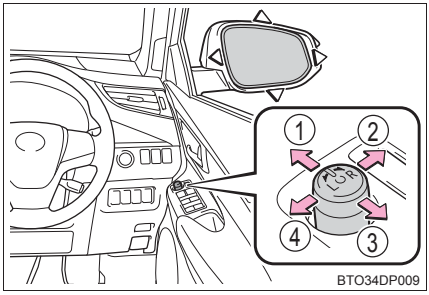
2 ミラーの鏡面を調整するには、スイッチを操作する

① 上

② 右

③ 下

④ 左



ドアミラーを格納する

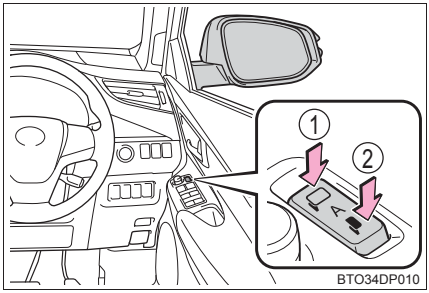
■ マニュアル作動での格納・復帰のしかた

スイッチを押す

① もとの位置にもどす

② 格納する

スイッチを中立の位置（A）にするとオート作動に切りかわり、ドアの解錠・施錠と連動します。



■ オート作動での格納・復帰のしかた

スマートエントリー＆スタートシステムやワイヤレスリモコン、ドアロックスイッチなどによるドアの施錠・解錠に連動して、ドアミラーを自動的に格納・復帰させることができます。また、エンジンスイッチをイグニッション ON モードにすることにより、復帰させることができます。

知識

■鏡面調整の作動条件

エンジンスイッチがアクセサリーモードまたはイグニッションONモードのとき

■ミラーが曇ったとき

リヤウインドウデフォッガーを作動させると、ミラーヒーター★が同時に作動し、曇りを取ることができます。（→P. 258）

■レインクリアリングミラー

鏡面に付着した水滴を膜状に広げる親水効果を持つコーティングを施しており、雨天時における後方視認性を向上させます。

- 鏡面に汚れなどが付着したときや、地下や屋内駐車場などの日のあたらない場所に長時間駐車したときなどは親水効果が低下しますが、晴天時に 1・2 日間太陽光をあてることで親水効果は徐々に回復します。
- 低下した親水効果を早く回復させたいときは回復作業（→P. 293）を行ってください。

■寒冷時にオート作動で使用するとき

寒冷時にオート作動で使用しているとき、ドアミラーが凍結すると、自動で格納・復帰ができないことがあります。この場合、ドアミラーに付着している氷や雪などを取り除いたあと、「マニュアル作動」で作動させるか、手で動かしてください。

⚠警告

■走行中の留意事項

走行中は次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、運転を誤って重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ミラーの調整をしない
- ドアミラーを格納したまま走行しない
- 走行前に必ず、運転席側および助手席側のミラーをもとの位置にもどして、正しく調整する

■ミラーが動いているとき

手をふれないでください。
手を挟んでけがや、ミラーの故障などの原因になるおそれがあります。

■ミラーヒーターが作動しているとき

鏡面が熱くなるのでふれないでください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

注意

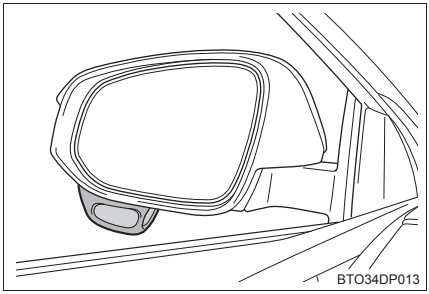
■**レインクリアリングミラーの取り扱いについて**

親水効果には限りがあります。長持ちさせるためには次のことをお守りください。

- シリコーン入りの撥水剤や油膜取り剤、ワックス、その他のカーメンテナンス商品を使用する場合は、鏡面に付着させないよう十分注意してください。
- 砂の付いた布、油膜取り剤、研磨剤など、鏡面を傷付けるものでこすらないでください。
- 鏡面が凍結したときは、温水をかけるか、ミラーヒーターを作動させるなどして解氷してください。
  鏡面の凍結部分はプラスチックの板などで削り落とさないでください。
- 撥水洗車を行ったときは、鏡面を大量の水で洗い、きれいなやわらかい布などでふき取ってください。

補助確認装置★

発進時またはごく低速時に、左側車両側面を確認するときに役立ちます。

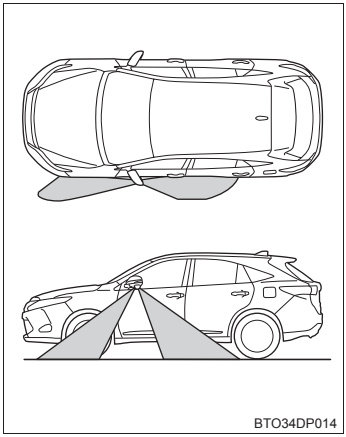


知識

■ミラーに映るおよその範囲

身長・シートの位置により、確認できる範囲は異なります。

ミラーの鏡面は固定式のため、鏡面を動かして確認できる範囲の調整をすることはできません。



注意

■補助確認装置について

- 補助確認装置の鏡面部に汚れが付着しているときは、やわらかい布などを使用して汚れをふき取ってください。
- 車両直前・直左部や後方の確認は、直接確認するかインナーミラー・ドアミラーなども併用し十分注意して行ってください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

パワーウインドウ

開閉のしかた

スイッチでドアガラスを開閉できます。

スイッチを操作すると、ドアガラスを次のように動かします。

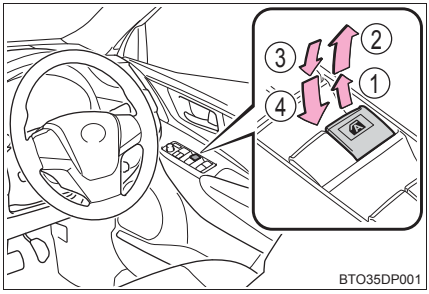
① 閉める

② 自動全閉※

③ 開ける

④ 自動全開※

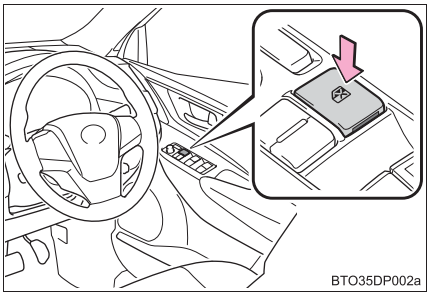
※ 途中で停止するときは、スイッチを反対側へ操作します。



ウインドウロックスイッチ

スイッチを押すと運転席以外のドアガラスが作動不可になります。

お子さまが誤ってドアガラスを開閉することを防止できます。



知識

■ **作動条件**

エンジンスイッチがイグニッション ON モードのとき

■ **エンジン停止後の作動**

エンジンスイッチをアクセサリーモードまたは OFF にしたあとでも、約 45 秒間はドアガラスを開閉できます。ただし、そのあいだに運転席ドアを開閉すると作動しなくなります。

■ **挟み込み防止機能**

ドアガラスを閉めているときに、窓枠とドアガラスのあいだに異物が挟まると、作動が停止し、少し開きます。

■巻き込み防止機能

ドアガラスを開けているときに、異物がドア内に巻き込まれると作動が停止します。

■ドアガラスを開閉することができないとき

挟み込み防止機能や巻き込み防止機能が異常に作動してしまい、ドアガラスを開閉することができないときは、開閉することができないドアのパワーウインドウスイッチで、次の操作を行ってください。

●車を停止し、エンジンスイッチをイグニッション ON モードの状態で、挟み込み防止機能や、巻き込み防止機能が作動したあと約 4 秒以内に、パワーウインドウスイッチを「自動全閉」の位置で引き続ける。または、「自動全開」の位置で押し続けることでドアガラスを開閉することができます。

●上記の操作を行ってもドアガラスが開閉できない場合、機能の初期化を次の手順で実施してください。

1 エンジンスイッチをイグニッション ON モードにする

2 パワーウインドウスイッチを「自動全閉」の位置で引き続け、ドアガラスを全閉にする

3 いったんパワーウインドウスイッチから手を離して、再度パワーウインドウスイッチを「自動全閉」の位置で約 4 秒以上引き続ける

4 パワーウインドウスイッチを「自動全開」の位置で押し続け、ドアガラスを全開にしたあと、さらにスイッチを約 1 秒以上押し続ける

5 再度、パワーウインドウスイッチを「自動全閉」の位置で引き続け、ドアガラスを閉めたあと、さらにスイッチを約 1 秒以上引き続ける

ドアガラス作動途中でスイッチから手を離すと、最初からやり直しとなります。以上の操作を行っても反転して閉じ切らない。または全開にならない場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。

■ドアロック連動ドアガラス開閉機能

●メカニカルキーでドアガラスを開閉できます。※（→P. 390）

●ワイヤレスリモコンでドアガラスを開閉できます。※（→P. 83）

※ カスタマイズ機能での設定変更が必要です。（→P. 412）

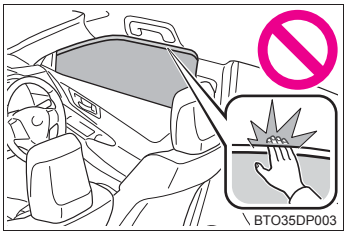
■カスタマイズ機能

ドアロック連動ドアガラス開閉機能などの設定を変更できます。
（カスタマイズ一覧：→P. 412）

警告

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ドアガラスを開閉するとき



- ドアガラスを開閉するときは、乗員の手・腕・頭・首などを挟んだり巻き込んだりしないようにしてください。特にお子さまへは手などを出さないよう声かけをしてください。
- お子さまには、ドアガラスの操作をさせないでください。
  ドアガラスに挟まれたり巻き込まれたりするおそれがあります。

■挟み込み防止機能

- 挟み込み防止機能を故意に作動させるため、乗員の手・腕・頭・首などを挟んだりしないでください。
- 挟み込み防止機能は、ドアガラスが完全に閉まる直前に異物を挟むと作動しない場合があります。指などを挟まないように注意してください。

■巻き込み防止機能

- 巻き込み防止機能を故意に作動させるため、乗員の手・腕・服などを巻き込ませたりしないでください。
- 巻き込み防止機能は、ドアガラスが完全に開く直前に異物を巻き込むと作動しない場合があります。手・腕・服などを巻き込まないように注意してください。

パノラマムーンルーフ★

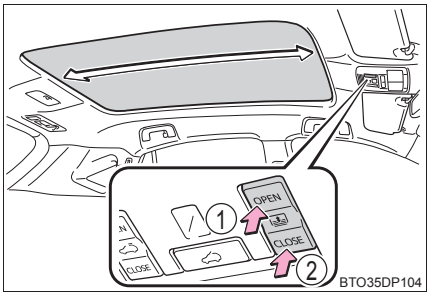
頭上のスイッチでパノラマムーンルーフを開閉・チルトアップ／ダウン、電動サンシェードを開閉できます。

電動サンシェードを開閉する

① 開ける※

② 閉める※

※ 途中で停止するときは、スイッチをもう一度押します。



パノラマムーンルーフをチルトアップ／ダウンする

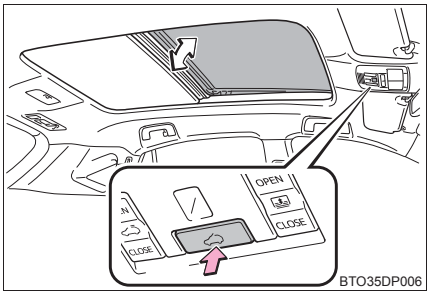
チルトアップ（単押し）※

パノラマムーンルーフをチルトアップすると、電動サンシェードがルーフの半分の位置まで開きます。

※ 途中で停止するときは、スイッチをもう一度押します。

チルトダウン（長押し）

パノラマムーンルーフがチルトアップしている状態のときに、チルトダウンできます。



★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

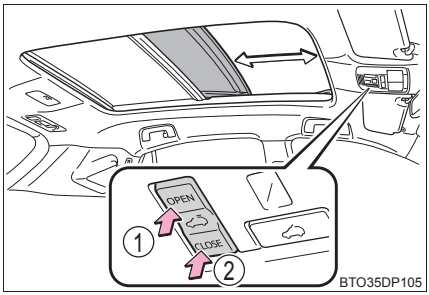
パノラマムーンルーフを開閉する

① 開ける※

スイッチを押すと、パノラマムーンルーフと電動サンシェードが開きます。

チルトアップした状態からでも開くことができます。

※ 途中で停止するときは、スイッチをもう一度押します。



② 閉める

スイッチを押すと、パノラマムーンルーフが閉じ、チルトアップの位置でいったん停止します。
再度スイッチを押し続けることで、全閉にできます。

知識

■作動条件

エンジンスイッチがイグニッション ON モードのとき

■エンジン停止後の作動

エンジンスイッチをアクセサリーモードまたは OFF にしたあとでも、約 45 秒間はパノラマムーンルーフ・電動サンシェードの操作ができます。ただし、そのあいだに運転席ドアを開閉すると作動しなくなります。

■パノラマムーンルーフが開いているときにパノラマムーンルーフと電動サンシェードの両方を閉じるには

1 電動サンシェードスイッチの“CLOSE”を押す（単押し）

電動サンシェードがルーフの半分の位置まで閉まった後、いったん停止し、パノラマムーンルーフがチルトアップの位置まで閉まり、いったん停止します。

2 電動サンシェードスイッチの“CLOSE”を押す（長押し）

スイッチを押し続けて、パノラマムーンルーフを全閉します。

3 電動サンシェードスイッチの“CLOSE”を押す（単押し）

電動サンシェードが全閉します。

■挟み込み防止機能

次の操作中に異物の挟み込みを感知すると、作動が停止し少し開きます。

●パノラマムーンルーフを閉めるとき、またはチルトダウンする

●電動サンシェードを閉める

■ムーンルーフ開警告ブザー

エンジンスイッチが OFF でパノラマムーンルーフが開いていると、運転席ドアを開けて約 6 秒後にブザーが鳴り、メーター内のマルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。（→P. 351）

■パノラマムーンルーフが正常に閉まらないとき

次の操作を行ってください。

1 車を停止する

2 電動サンシェードスイッチの“CLOSE”側を押し続ける※1
パノラマムーンルーフが閉じ、再び開き、約 10 秒間停止します。※2 その後再び閉じ、チルトアップし、1 秒間停止します。チルトダウン後、いったん開いてから閉じます。

3 パノラマムーンルーフが完全に閉まったことを確認し、スイッチから手を離す

※1 途中でスイッチから手を離すと、最初からやり直しとなります。

※2 10 秒間停止したあとにスイッチから手を離すと、それ以降オート作動できなくなります。その場合は、電動サンシェードスイッチの“OPEN”側、または、“CLOSE”側を押し続けてください。パノラマムーンルーフがチルトアップし、1 秒間停止します。その後、チルトダウンし、いったん開いてから閉じます。パノラマムーンルーフが完全に閉まったことを確認したら、スイッチから手を離してください。

以上の操作を行っても反転して閉じ切らない場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。

■電動サンシェードが正常に閉まらないとき

次の操作を行ってください。

1 車を停止する

2 パノラマムーンルーフを完全に閉める

3 電動サンシェードが止まっている状態で、電動サンシェードスイッチの“CLOSE”側を 10 秒以上（電動サンシェードが完全に閉まるまで）押し続ける※

※ 途中でスイッチから手を離すと、最初からやり直しとなります。

以上の操作を行っても反転して閉じ切らない場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。

■バッテリーを脱着したときは

パノラマムーンルーフまたは、電動サンシェードを操作している途中や、操作直後（約 2 秒以内）にバッテリーの脱着を行った場合、次の手順で初期化を行ってください。

1 エンジンスイッチをイグニッション ON モードにする

2 パノラマムーンルーフスイッチの“OPEN”側を押し続けてパノラマムーンルーフ・電動サンシェードを全開にする

パノラマムーンルーフ・電動サンシェードが全開位置まで開き、その後わずかに閉まる（閉じ方向に動く）まで、パノラマムーンルーフスイッチの“OPEN”側を押し続ける

操作後、自動で開閉操作ができることを確認してください。
以上の操作を行っても自動で開閉操作ができない場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。

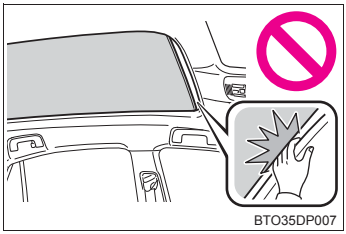
警告

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■電動サンシェードを開閉するときは

●電動サンシェードを開閉するときは、乗員の手・腕・頭・首を挟んだり巻き込んだりしないように注意してください。

●お子さまには、電動サンシェードの操作をさせないでください。
電動サンシェードに挟まれたり巻き込まれたりするおそれがあります。

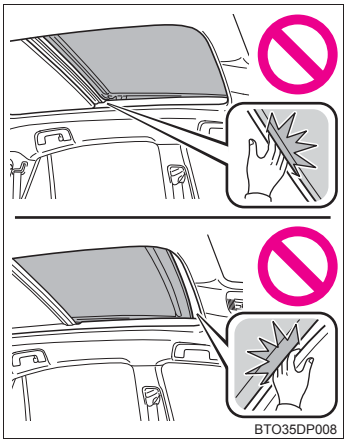


警告

■パノラマムーンルーフを開閉するときは

●パノラマムーンルーフを開閉や、チルトダウンするときは、乗員の手・腕・頭・首を挟んだり巻き込んだりしないように注意してください。

●お子さまには、パノラマムーンルーフの操作をさせないでください。
パノラマムーンルーフに挟まれたり巻き込まれたりするおそれがあります。



■挟み込み防止機能

●挟み込み防止機能を故意に作動させるため、乗員の手・腕・頭・首などを挟んだりしないでください。

●挟み込み防止機能は、パノラマムーンルーフが完全に閉まる直前に異物を挟むと作動しない場合があります。また、挟み込み防止機能は、スイッチを押し続けた状態では作動しません。指などを挟まないように注意してください。

■やけどやけがを防ぐために

ルーフの下側とパノラマルーフシェードの隙間にはふれないでください。
手を挟んでけがをするおそれがあります。また、車を直射日光のあたる場所に長時間駐車するとルーフの下側が熱くなるため、やけどをするおそれもあります。

注意

■**パノラマムーンルーフの損傷を防ぐために**

●開く前は、開口部付近に石や氷などの異物がないことを確認してください。

●パノラマムーンルーフの表面・端面には、固いものをぶつけないでください。

●パノラマムーンルーフが全開･全閉したあとにスイッチを押し続けないでください。

■**洗車後や雨が降ったあとなどは**

パノラマムーンルーフを開く前にルーフに付いた水をふき取ってください。そのまま開くと、車内に水が入るおそれがあります。

運転 4

4-1. 運転にあたって

運転にあたって 138
荷物を積むときの注意..... 147

4-2. 運転のしかた

エンジン（イグニッション）スイッチ 148
オートマチックトランスミッション 154
方向指示レバー 158
パーキングブレーキ..... 159

4-3. ランプのつけ方・ワイパーの使い方

ランプスイッチ 160
オートマチックハイビーム 162
LED イルミネーションビーム（G's）..... 166
フォグランプスイッチ..... 167
ワイパー＆ウォッシャー（フロント）..... 169
ワイパー＆ウォッシャー（リヤ）..... 173

4-4. 給油のしかた

給油口の開け方.....175

4-5. 運転支援装置について

Toyota Stop & Start System（SMART STOP）.....178
クルーズコントロール.....186
レーダークルーズコントロール 190
LDA（ステアリング制御付）.....201
走行モードの選択.....214
クリアランスソナー.....216
インテリジェントクリアランスソナー 226
運転を補助する装置.....238
PCS（プリクラッシュセーフティシステム）.....245

4-6. 運転のアドバイス

寒冷時の運転.....252

運転にあたって

安全運転を心がけて、次の手順で走行してください。

エンジンを始動する

→P. 148

発進する

1 ブレーキペダルを踏んだまま、シフトレバーを D にする（→P. 154）

2 パーキングブレーキを解除する（→P. 159）

3 ブレーキペダルから徐々に足を離し、アクセルペダルをゆっくり踏み発進する

停車する

1 シフトレバーは D のまま、ブレーキペダルを踏む

2 必要に応じて、パーキングブレーキをかける

長時間停車する場合は、シフトレバーを P または N にします。（→P. 154）

駐車する

1 シフトレバーは D のまま、ブレーキペダルを踏む

2 パーキングブレーキをかける

3 シフトレバーを P にする（→P. 154）

4 エンジンスイッチを押してエンジンを停止する

5 電子キーを携帯していることを確認し、ドアを施錠する

坂道の途中で駐車をする場合は、必要に応じて輪止め※を使用してください。

※ 輪止めはトヨタ販売店で購入することができます。

上り坂の発進のしかた

1 パーキングブレーキをかけ、シフトレバーを D にする

2 アクセルペダルをゆっくり踏む

3 車が動き出す感触を確認したら、パーキングブレーキを解除し発進する

知識

■上り坂発進について

ヒルスタートアシストコントロールが作動します。（→P. 238）

■雨の日の運転について

●雨の日は視界が悪くなり、またガラスが曇ったり、路面がすべりやすくなったりするので、慎重に走行してください。

●雨の降りはじめは路面がよりすべりやすいため、慎重に走行してください。

●雨の日の高速走行などでは、タイヤと路面のあいだに水膜が発生し、ハンドルやブレーキが効かなくなるおそれがあるので、スピードは控えめにしてください。

■走行中のエンジン回転数について

次の場合、走行中にエンジン回転数が高くなることがあります。これは走行状況にあわせてシフトアップの制限、またはシフトダウンの実施を自動的に行うためで、急加速を示すものではありません。

●車両が上り坂、または下り坂を走行していると判断したとき

●アクセルペダルを離したとき

●パワーモード選択時にブレーキペダルを踏んだとき（→P. 214）

■駆動力の抑制について（ブレーキオーバーライドシステム）

●アクセルペダルとブレーキペダルが同時に踏まれたとき、駆動力を抑制する場合があります。

●ブレーキオーバーライドシステム作動中は、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。（→P. 357）

■駆動力の抑制について（ドライブスタートコントロール）

●次のような通常と異なる操作が行われた場合、急発進事故の被害を軽減するため、駆動力を抑制する場合があります。

・アクセルペダルを踏み込んだまま、シフトレバーを操作した（R から D、D から R、N から R、P から D、P から R）とき。（D は M ポジションを含む）この場合、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。（→P. 354）

・後退時にアクセルペダルを踏みすぎたとき。

●ドライブスタートコントロールが作動していると、ぬかるみや新雪などからの脱出が困難な場合があります。そのようなときは、TRC の作動を停止（→P. 240）することにより、ドライブスタートコントロールが停止し、脱出しやすくなります。

■運転標識の取り付け

磁石式の初心運転者標識や高齢運転者標識などを樹脂バンパーやアルミ部分に取り付けることはできません。

■オーバーヒートについて

次のようなきびしい走行状況ではオーバーヒートになるおそれがあります。

●暑い日に長い上り坂を走行する

●高速走行直後に急減速や急停止をする

■高摩擦ブレーキパッドについて（G's）

車速、制動力や車両を取り巻く環境（気温、湿度など）によってはブレーキノイズが発生することがあります。

警告

次の警告をお守りください。お守りいただかないと重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■発進するとき

エンジンがかかったまま停車しているときは、常にブレーキペダルを踏んでください。クリープ現象で車が動き出すのを防ぎます。

■運転するとき

●踏み間違いを避けるため、ブレーキペダルとアクセルペダルの位置を十分把握した上で運転してください。

・アクセルペダルをブレーキペダルと間違えて踏むと、車が急発進して思わぬ事故につながるおそれがあります。
・後退するときは体をひねった姿勢となるため、ペダルの操作がしにくくなります。ペダル操作が確実にできるよう注意してください。
・車を少し移動させるときも正しい運転姿勢をとり、ブレーキペダルとアクセルペダルが確実に踏めるようにしてください。
・ブレーキペダルは右足で操作してください。左足でのブレーキ操作は緊急時の反応が遅れるなど、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●燃えやすいものの上を走行したり、可燃物付近に車を停めたりしないでください。
排気管や排気ガスは高温になり、可燃物が近くにあると火災になるおそれがあり危険です。

●通常走行時は、走行中にエンジンを停止しないでください。走行中にエンジンを停止してもハンドルやブレーキの操作は可能ですが、操作力補助がなくなり、ハンドルとブレーキの操作が困難になります。安全を確認した上で、すみやかに道路脇に停車してください。
なお、通常の方法で車両を停止することができないような緊急時は、P. 336を参照してください。

●急な下り坂では、エンジンブレーキを使用してスピードを下げてください。フットブレーキを連続して使いすぎると、ブレーキが過熱して正常に機能しなくなります。（→P. 154）

●走行中はハンドル・シート・ドアミラー・インナーミラーの調整をしないでください。
運転を誤るおそれがあります。

●すべての乗員は頭や手、その他の体の一部を車から出さないようにしてください。

●4WD 車：オフロード走行をしないでください。
本格的なオフロード走行を目的とした 4WD 車ではありません。やむを得ずオフロード走行をするときは、慎重に運転してください。

警告

次の警告をお守りください。お守りいただかないと重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■すべりやすい路面を運転するとき

●急ブレーキ・急加速・急ハンドルはタイヤがスリップし、車両の制御ができなくなるおそれがあります。

●急激なアクセル操作、シフトチェンジによるエンジンブレーキやエンジン回転数の変化は、車が横すべりするなどのおそれがあります。

●水たまり走行後はブレーキペダルを踏んでブレーキが正常に働くことを確認してください。ブレーキパッドがぬれるとブレーキの効きが悪くなったり、ぬれていない片方だけが効いたりしてハンドルをとられるおそれがあります。

■シフトレバーを操作するとき

●シフトレバーを前進側のシフトポジションに入れたまま惰性で後退したり、Rに入れたまま惰性で前進することは絶対にやめてください。
エンジンが停止し、ブレーキの効きが悪くなったり、ハンドルが重くなったりして、思わぬ事故や故障の原因となるおそれがあります。

●車両が動いているあいだは、シフトレバーをPに入れないでください。
トランスミッションにダメージを与えたり、車両のコントロールができなくなるおそれがあります。

●車両が前進しているあいだは、シフトレバーをRに入れないでください。
トランスミッションにダメージを与えたり、車両のコントロールができなくなるおそれがあります。

●車両が後退しているあいだは、シフトレバーをDに入れないでください。
トランスミッションにダメージを与えたり、車両のコントロールができなくなるおそれがあります。

●走行中にシフトレバーをNにすると、トランスミッションとエンジンの動力伝達が解除され、エンジンブレーキが効かなくなります。

●アクセルペダルを踏み込んだまま操作しないように気を付けてください。
シフトレバーがPまたはN以外にあると、車が急発進して思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

警告

次の警告をお守りください。お守りいただかないと重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■継続的にブレーキ付近から警告音（キーキー音）が発生したとき

できるだけ早くトヨタ販売店で点検を受け、ブレーキパッドを交換してください。
必要なときにパッドの交換が行われないと、ディスクローターの損傷につながる場合があります。

パッドやローターなどの部品は、役割を果たすと共に摩耗していきます。摩耗の限度をこえて走行すると故障を引き起こすばかりでなく、事故につながるおそれがあります。

■停車するとき

●空ぶかしをしないでください。
シフトレバーがPまたはN以外にあると、車が急発進して思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●車が動き出すことによる事故を防ぐため、エンジン回転中は常にブレーキペダルを踏み、必要に応じてパーキングブレーキをかけてください。

●坂道で停車するときは、前後に動き出して事故につながることを防ぐため、常にブレーキペダルを踏み、必要に応じてパーキングブレーキをかけてください。

●停車中に空ぶかしをしないでください。
排気管が過熱し、可燃物が近くにあると火災につながるおそれがあり危険です。

警告

次の警告をお守りください。お守りいただかないと重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■駐車するとき

●炎天下では、メガネ・ライター・スプレー缶や炭酸飲料の缶などを車内に放置しないでください。
放置したままでいると、次のようなことが起こるおそれがあり危険です。

・ライターやスプレー缶からガスがもれたり、出火する
・プラスチックレンズ・プラスチック素材のメガネが、変形またはひび割れを起こす
・炭酸飲料の缶が破裂して車内を汚したり、電気部品がショートする原因になる

●ライターを車内に放置したままにしないでください。ライターをグローブボックスなどに入れておいたり、車内に落としたままにしておくと、荷物を押し込んだりシートを動かしたときにライターの操作部が誤作動し、火災につながるおそれがあり危険です。

●フロントウインドウガラスなどには吸盤を取り付けないでください。また、インストルメントパネルやダッシュボードの上に芳香剤などの容器を置かないでください。
吸盤や容器がレンズの働きをして、車両火災につながるおそれがあり危険です。

●シルバー色などの金属蒸着フィルムを曲面ガラスに貼った場合は、ドアやウインドウを開けたまま放置しないでください。
直射日光が曲面ガラスの内側に反射し、レンズの働きをして火災につながるおそれがあり危険です。

●車から離れるときは、必ずパーキングブレーキをかけ、シフトレバーをＰに入れ、エンジンを停止し、施錠してください。
エンジンがかかっているあいだは、車から離れないでください。

●エンジン回転中またはエンジン停止直後は排気管にふれないでください。
やけどをするおそれがあります。

■仮眠するとき

必ずエンジンを停止してください。
エンジンをかけたまま仮眠すると、無意識にシフトレバーを動かしたり、アクセルペダルを踏み込んだりして、事故やエンジンの異常過熱による火災が発生するおそれがあります。さらに、風通しの悪い場所に停めると、排気ガスが車内に侵入し、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

警告

次の警告をお守りください。お守りいただかないと重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ブレーキをかけるとき

- ブレーキがぬれているときは、普段よりも注意して走行してください。
  ブレーキがぬれていると、制動距離が長くなり、ブレーキのかかりに、左右の違いが出るおそれがあります。また、パーキングブレーキがしっかりとかからないおそれもあります。
- ブレーキ倍力装置が機能しないときは、他の車に近付いたりしないでください。また、下り坂や急カーブを避けてください。
  この場合ブレーキは作動しますが、通常よりも強く踏む必要があります。また制動距離も長くなります。ただちにブレーキの修理を受けてください。
- ブレーキシステムは二つの独立したシステムで構成されており、一方の油圧システムが故障しても、もう一方は作動します。この場合、ブレーキペダルを通常より強く踏む必要があり、制動距離が長くなります。ただちにブレーキの修理を受けてください。

■万一脱輪したとき（4WD 車）

いずれかのタイヤが宙に浮いているときは、むやみに空転させないでください。駆動系部品の損傷や、車両の飛び出しによる思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

注意

■運転しているとき

- 運転中にアクセルペダルとブレーキペダルを同時に踏まないでください。
  アクセルペダルとブレーキペダルを同時に踏むと、駆動力を抑制する場合があります。
- 坂道で停車するために、アクセルペダルを使ったり、アクセルペダルとブレーキペダルを同時に踏んだりしないでください。

■駐車するとき

必ずシフトレバーを P にしてください。P にしておかないと、車が動き出したり、誤ってアクセルペダルを踏み込んだときに急発進するおそれがあります。

⚠注意

■部品の損傷を防ぐために

●パワーステアリングモーターの損傷を防ぐため、ハンドルをいっぱいにまわした状態を長く続けないでください。

●ディスクホイールなどの損傷を防ぐため、段差などを通過するときは、できるだけゆっくり走行してください。

■走行中にタイヤがパンクしたら

次のようなときはタイヤのパンクや損傷が考えられます。ハンドルをしっかり持って徐々にブレーキをかけ、スピードを落としてください。

●ハンドルがとられる

●異常な音や振動がある

●車両が異常に傾く

タイヤがパンクした場合の対処法は P. 364, 374 を参照してください。

■冠水路走行に関する注意

大雨などで冠水した道路では、次のような重大な損傷を与えるおそれがあるため、走行しないでください。

●エンストする

●電装品がショートする

●水を吸い込んでのエンジン破損

万一、冠水した道路を走行し、水中に浸かってしまったときは必ずトヨタ販売店で次の点検をしてください。

●ブレーキの効き具合

●エンジン・オートマチックトランスミッション・トランスファー（4WD 車）・ディファレンシャルなどのオイルやフルードの量および質の変化

●プロペラシャフト（4WD 車）・各ベアリング・各ジョイント部などの潤滑不良

■段差や凹凸のある路上を走行するときの注意（G's）

G's は標準車に比べ最低地上高が低くなっているため、段差や凹凸のある路上を走行するときは特に注意してください。
車体下部などを損傷するおそれがあります。

荷物を積むときの注意

安全で快適なドライブをするために、荷物を積むときは次のことをお守りください。

警告

■積んではいけないもの

次のようなものを積むと引火するおそれがあり危険です。

●燃料が入った容器

●スプレー缶

■荷物を積むとき

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、ブレーキペダル・アクセルペダルを正しく操作できなかったり、荷物が視界をさえぎったり、荷物が乗員に衝突したりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●できるだけ荷物はラゲージルームに積んでください。

●次の場所には荷物を積まないでください。

・運転席足元
・助手席やリヤ席（荷物を積み重ねる場合）
・インストルメントパネル
・ダッシュボード

●室内に積んだ荷物はすべてしっかりと安定させてください。

■荷物の重量・荷重のかけ方について

●荷物を積み過ぎないでください。

●荷重を不均等にかけないようにしてください。

これはタイヤに負担をかけるだけでなく、ハンドル操作性やブレーキ制御の低下により思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

エンジン（イグニッション）スイッチ

電子キーを携帯して次の操作を行うことで、エンジンの始動またはエンジンスイッチのモードを切りかえることができます。

エンジンのかけ方

1 パーキングブレーキがかかっていることを確認する

2 シフトレバーが P の位置にあることを確認する

3 ブレーキペダルをしっかり踏む

マルチインフォメーションディスプレイに が表示されます。

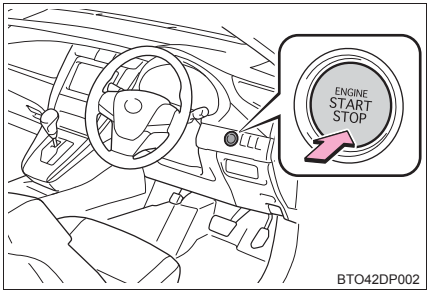
表示されないと、エンジンは始動しません。

4 エンジンスイッチを押す

エンジンが始動するまで最大 30 秒間スターターが回転します。

完全にエンジンが始動するまでブレーキペダルを踏み続けてください。

エンジンスイッチのどのモードからでもエンジンを始動できます。



エンジンの停止のしかた

1 車両を完全に停止させる

2 パーキングブレーキをかける（→P. 159）

3 シフトレバーを P の位置にする

4 エンジンスイッチを押す

5 ブレーキペダルから足を離した状態にしてマルチインフォメーションディスプレイの「アクセサリー」の表示が消灯していることを確認する

エンジンスイッチの切りかえ

ブレーキペダルを踏まずにエンジンスイッチを押すと、モードを切りかえることができます。（スイッチを押すごとにモードが切りかわります）

① OFF ※

非常点滅灯が使用できます。

② アクセサリーモード

オーディオなどの電装品が使用できます。

マルチインフォメーションディスプレイに「アクセサリー」が表示されます。

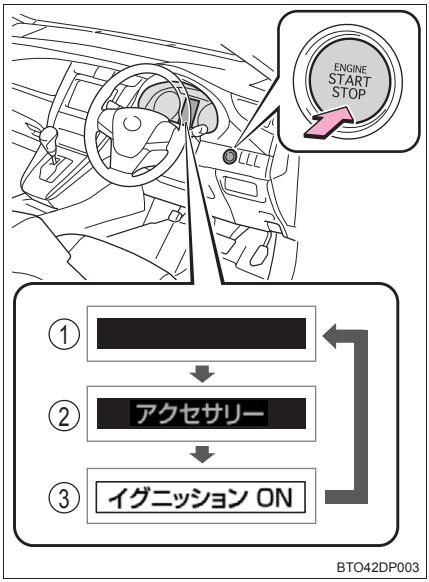
③ イグニッション ON モード

すべての電装品が使用できます。

マルチインフォメーションディスプレイに「イグニッション ON」が表示されます。

TRIP スイッチを押すと表示がオドメーター、トリップメーター、またはメーター照度調整に切りかわります。（→P. 66）

※ シフトレバーが P 以外のときはアクセサリーモードになり、OFF になりません。



シフトレバーが P 以外でエンジンを停止したとき

シフトレバーが P 以外でエンジンを停止させた場合、エンジンは停止しますが、エンジンスイッチのモードは OFF になりません。次の手順で OFF にしてください。

1 パーキングブレーキがかかっていることを確認する

2 シフトレバーを P の位置にする

3 マルチインフォメーションディスプレイに「電源を OFF してください」が表示されていることを確認し、エンジンスイッチを 1 回押す

4 マルチインフォメーションディスプレイの「電源を OFF してください」の表示が消灯していることを確認する

知識

■自動電源 OFF 機能

シフトレバーが P にあるとき、20 分以上アクセサリーモードか 1 時間以上イグニッション ON モード（エンジンがかかっていない状態）にしたままにしておくと、エンジンスイッチが自動で OFF になります。
ただし、自動電源 OFF 機能は、バッテリーあがりを完全に防ぐものではありません。エンジンがかかっていないときは、エンジンスイッチをアクセサリーモード、またはイグニッション ON モードにしたまま長時間放置しないでください。

■電子キーの電池の消耗について

→P. 81

■スマートエントリー＆スタートシステムが正常に働かないおそれのある状況

→P. 104

■ご留意いただきたいこと

→P. 105

■エンジンが始動しないとき

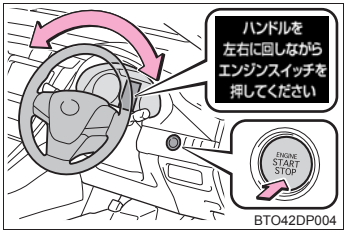
- エンジンイモビライザーシステムが解除されていない可能性があります。（→P. 57）トヨタ販売店へご連絡ください。
- シフトレバーが P の位置にあるか確認してください。エンジンを始動するときに、シフトレバーが傾いたり、P 以外の位置にするとステアリングロック機能が作動しエンジンを始動することができない場合があります。

■ステアリングロックについて

エンジンスイッチを OFF にしたあとにドアを開閉すると、ステアリングロック機能によりハンドルが固定されます。エンジンスイッチを操作すると、ステアリングロックは自動で解除されます。

■ステアリングロックが解除できないとき

マルチインフォメーションディスプレイに「ハンドルを左右に回しながらエンジンスイッチを押してください」が表示されます。シフトレバーが P の位置にあることを確認して、ハンドルを左右にまわしながら再操作してください。



■ステアリングロックモーターのオーバーヒート防止について

短時間にエンジンの始動・停止をくり返すと、モーターのオーバーヒート防止のために作動制限することがあります。その場合は操作を控えてください。10 秒程度でもとの状態にもどります。

■マルチインフォメーションディスプレイに「スマートエントリー＆スタートシステム故障　取扱書を確認」が表示されたときは

システムに異常があるおそれがあります。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

■電子キーの電池が切れたときは

→P. 310

■エンジンスイッチの操作について

●エンジンスイッチを操作する際は、短く確実に押してください。確実に押せてない場合は、モードの切りかえやエンジンの始動ができない場合があります。また、確実に操作すれば押し続ける必要はありません。

●エンジンスイッチ OFF 後、すぐに再始動した場合は、エンジンが始動しない場合があります。エンジンスイッチ OFF 後の再始動は、数秒待ってから操作してください。

■カスタマイズ機能でスマートエントリー＆スタートシステムを非作動にしたときは

→P. 390

警告

■**エンジンを始動するとき**

必ず運転席に座って行ってください。このとき決してアクセルペダルは踏まないでください。
思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■**走行中の警告**

エンジンの停止などで車両滑走状態になったときは、車両が安全な状態で停止するまでドアを開けたり、ロック操作をしたりしないでください。ステアリングロック機能が作動し、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■**緊急時のエンジン停止方法**

走行中にエンジンを緊急停止したい場合には、エンジンスイッチを 2 秒以上押し続けるか、素早く 3 回以上連続で押してください。（→P. 336）
ただし、緊急時以外は走行中にエンジンスイッチにふれないでください。走行中にエンジンを停止してもハンドルやブレーキの操作は可能ですが、操作力補助がなくなり、ハンドルとブレーキの操作が困難になります。安全を確認した上で、すみやかに道路脇に停車してください。

⚠注意

■バッテリーあがりを防止するために

●エンジンがかかっていないときは、エンジンスイッチをアクセサリーモードまたはイグニッション ON モードにしたまま長時間放置しないでください。

●エンジンがかかっていないときに、マルチインフォメーションディスプレイの「アクセサリー」の表示が消灯していない場合、エンジンスイッチが OFF になっていません。エンジンスイッチを OFF にしてから車両を離れてください。

●シフトレバーが P 以外でエンジンを停止させないでください。シフトレバーが P 以外でエンジンを停止させた場合、エンジンスイッチがアクセサリーモードとなるため、そのまま放置するとバッテリーあがりの原因となります。

■エンジンを始動するとき

●エンジンが冷えた状態で空ぶかししないでください。

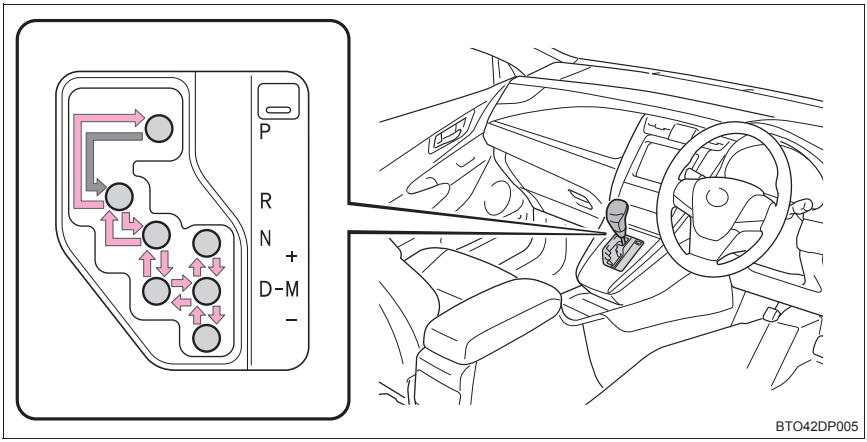
●もしエンジンが始動しにくかったり、ひんぱんにエンストする場合は、ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

■エンジンスイッチの操作について

エンジンスイッチ操作時に引っかかりなどの違和感があるときは、故障のおそれがあります。すみやかにトヨタ販売店にご連絡ください。

オートマチックトランスミッション

シフトレバーの動かし方



エンジンスイッチがイグニッション ON モードの状態で、ブレーキペダルを踏んだまま操作します。

P と D のあいだの操作は、ブレーキペダルを踏み、車を完全に止めてから行ってください。

シフトポジションの使用目的

シフトポジション	目的および状態
P	駐車またはエンジンの始動
R	後退
N	動力が伝わらない状態
D	通常走行※
M	7 速スポーツシーケンシャルシフトマチックモード走行（→P. 155）

※ 燃費向上や騒音の低減のために、通常は D ポジションを使用してください。

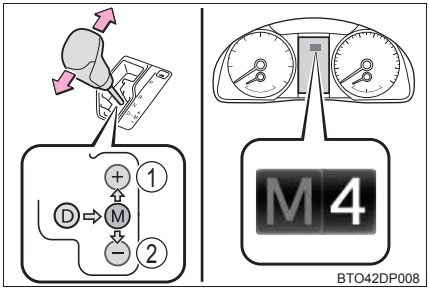
7 速スポーツシーケンシャルシフトマチックモードでの変速段切りかえ

シフトレバーを M ポジションにすると、7 速スポーツシーケンシャルシフトマチックモードに切りかわります。シフトレバーの操作で思いどおりのギヤ段を選択し、運転することができます。シフトレバーの“－”側または“＋”側の操作で変速段を切りかえることができます。

① シフトアップ

② シフトダウン

シフトレバーを操作するごとに 1 速ずつ変速します。
M 1 ～ M7 速のあいだで選択されているギヤ段がメーターに表示されます。



知識

■ 7 速スポーツシーケンシャルシフトマチックモードに関する自動変速について

●エンジン回転数が上がりすぎないように自動的に 1 段シフトアップされます。

●エンジン回転数が下がりすぎないように自動的に 1 段シフトダウンされます。

■ シフトダウン警告ブザー
（7 速スポーツシーケンシャルシフトマチックモード走行時）

安全や走行性能を確保するため、シフト操作には制限があり、シフトレバーを操作してもシフトできない場合があります。シフト操作によるシフトダウンが行われない場合は警告ブザーが鳴ります。

知識

■オートマチックトランスミッションの保護

トランスミッションフルードの温度が高くなると、マルチインフォメーションディスプレイに「AT オイル高温 取扱書を確認してください」が表示され、自動的にシフトアップします。トヨタ販売店で点検を受けてください。

■クルーズコントロール★またはレーダークルーズコントロール★を使って走行しているとき

シフトレバーを D から M にシフトしてもエンジンブレーキは効きません

エンジンブレーキを目的に7速スポーツシーケンシャルシフトマチックモード走行中で M6 または M5、M4 にシフトダウンしてもクルーズコントロールまたはレーダークルーズコントロールが解除されないため、エンジンブレーキは効きません。(→P. 186,190)

■駆動力の抑制について（ドライブスタートコントロール）

次のような通常と異なる操作が行われた場合、駆動力を抑制する場合があります。

- アクセルペダルを踏み込んだまま、シフトレバーを操作した（R から D、D から R、N から R、P から D、P から R）とき。（D は M ポジションを含む）
  この場合、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。(→P. 354)
- 後退時にアクセルペダルを踏みすぎたとき。

■リバース警告ブザー

シフトレバーをRに入れるとブザーが鳴り、Rにあることを運転者に知らせます。

■エコドライブモード時のエアコン作動について

エコドライブモードは、暖房／冷房の作動や風量を抑制して、燃費向上を図っています。空調の効きをより良くしたいときは、風量の調整またはエコドライブモードの解除をしてください。

■G AI-SHIFT について

G AI-SHIFT は、運転者の運転操作と走行状況により、自動的に適切なギヤ段に切りかえます。
G AI-SHIFT はパワーモードを選択にしているとき自動的に作動します（シフトレバーを M ポジションにすると機能が解除されます）。

■シフトレバーを P からシフトできないとき

→P. 389

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

警告

■すべりやすい路面を走行するとき

急なアクセル操作やシフト操作を行わないでください。エンジンブレーキ力の急激な変化が横すべりやスピンの原因になりますので注意してください。

方向指示レバー

操作のしかた

① 左折

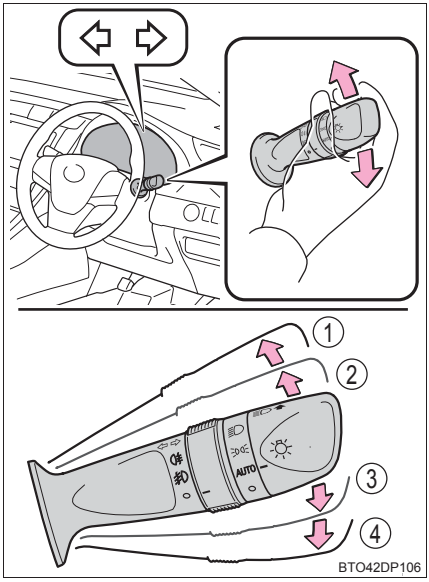
② 左側へ車線変更
（レバーを途中で保持）

レバーを離すまで左側方向指示灯が点滅します。

③ 右側へ車線変更
（レバーを途中で保持）

レバーを離すまで右側方向指示灯が点滅します。

④ 右折



知識

■ **作動条件**

エンジンスイッチがイグニッション ON モードのとき

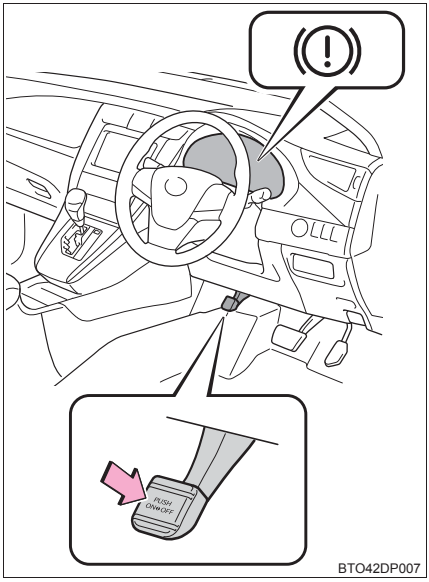
■ **表示灯の点滅が異常に速くなったとき**

方向指示灯の電球が切れていないか確認してください。

パーキングブレーキ

操作のしかた

パーキングブレーキをかけるには、右足でブレーキペダルを踏みながら、左足でパーキングペダルをいっぱいまで踏み込む
（再度踏み込むと解除される）



知識

■冬季のパーキングブレーキの使用について

→P. 253

■パーキングブレーキ未解除走行時警告ブザー

→P. 355

注意

■走行前の注意

パーキングブレーキを完全に解除してください。
パーキングブレーキをかけたまま走行すると、ブレーキ部品が過熱し、ブレーキの効きが悪くなったり、早く摩耗したりするおそれがあります。

ランプスイッチ

自動または手動でヘッドランプなどを点灯できます。

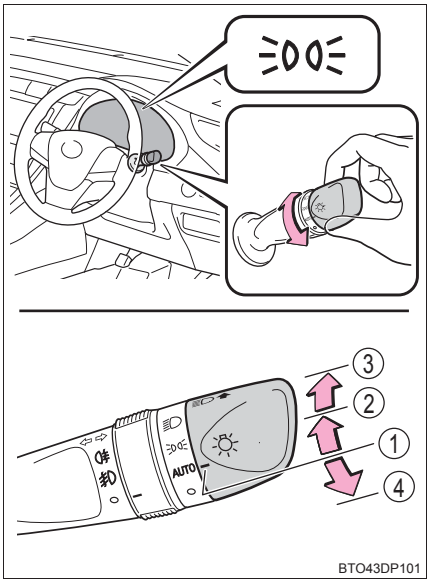
操作のしかた

① AUTO ヘッドランプ・車幅灯などを自動点灯・消灯（エンジンスイッチがイグニッション ON モードのとき）

② 車幅灯・尾灯・番号灯・インストルメントパネルランプを点灯

③ 上記ランプとヘッドランプを点灯

④ ○ 消灯



BTO43DP101

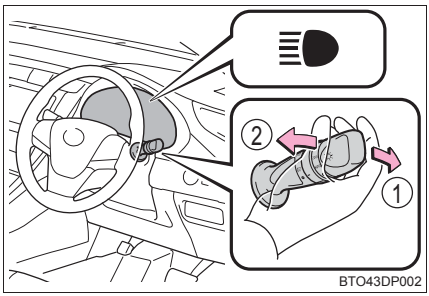
ハイビームにする

① ヘッドランプ点灯時ハイビームに切りかえ

レバーをもとの位置へもどすとロービームにもどります。

② レバーを引いているあいだ、ハイビームを点灯

ランプが消灯していても、ハイビームが点灯します。レバーを離すと、ロービームにもどる、または消灯します。

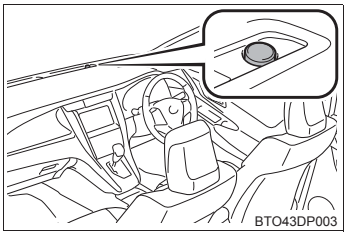


BTO43DP002

知識

■ライトセンサー

センサーの上にものを置いたり、センサーをふさぐようなものをフロントウインドウガラスに貼らないでください。周囲からの光がさえぎられると、自動点灯・消灯機能が正常に働かなくなります。



■ランプ消し忘れ防止機能

エンジンスイッチをアクセサリーモードまたは OFF にしてランプが点灯した状態で運転席ドアを開けるとすべてのランプが自動的に消灯します。

再びランプを点灯する場合は、エンジンスイッチをイグニッション ON モードにするか、一度ランプスイッチを ○ の位置にもどし、再度 ≣DC または ≣D の位置にします。

■節電機能

バッテリーあがりを防止するため、エンジンスイッチが OFF の状態でランプが点灯している場合、節電機能が働き約 20 分後すべてのランプが自動消灯します。
エンジンスイッチをイグニッション ON モードにすると節電機能は解除されます。
次のいずれかを行った場合、節電機能は一旦解除され、再度節電機能が働き約 20 分後すべてのランプが自動消灯します。

- ランプスイッチを操作したとき
- ドアを開閉したとき

■ランプ消し忘れ警告ブザー

ヘッドランプ・尾灯が点灯している状態で運転席ドアを開けると、ランプ類の消し忘れを警告するブザーが鳴ります。

■オートレベリングシステム

通行人や対向車がまぶしくないように、乗車人数・荷物の量などによる車の姿勢の変化に合わせて、ヘッドランプの光軸を自動で調整します。

■カスタマイズ機能

ライトセンサーの感度の設定などを変更できます。(カスタマイズ一覧:→P. 412)

⚠注意

■バッテリーあがりを防止するために

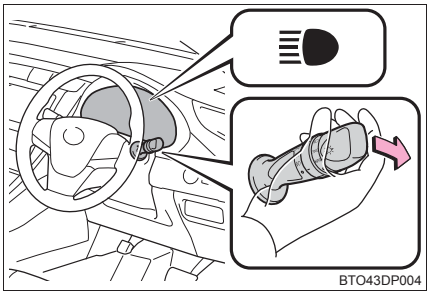
エンジンを停止した状態でランプ類を長時間点灯しないでください。

オートマチックハイビーム★

オートマチックハイビームは、フロントウインドウガラス上部に設置されたカメラセンサーにより対向車または先行車のランプや街路灯などの明るさを判定し、自動的にハイビームとロービームを切りかえます。

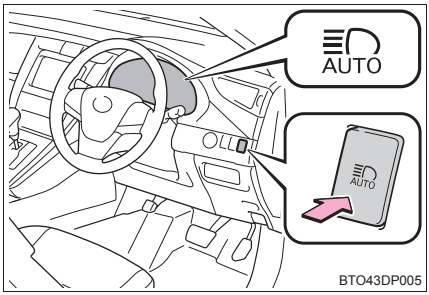
オートマチックハイビームの使い方

1 ランプスイッチをAUTOまたは にし、レバーを前方へ押す



2 オートマチックハイビームスイッチを押す

オートマチックハイビームが作動すると、オートマチックハイビーム表示灯が点灯します。



ハイビームとロービームの自動切りかえ条件

次の条件をすべて満たすと、ハイビームを点灯します。

- 車速が約 30km/h 以上
- 車両前方が暗い
- 対向車または先行車が存在しない、またはランプを点灯していない
- 前方の道路沿いの街路灯の光が少ない

次の条件のいずれかのときはロービームが点灯します。

- 車速が約 25km/h 以下
- 車両前方が明るい
- 対向車または先行車がランプを点灯している
- 前方の道路沿いの街路灯の光が多い

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

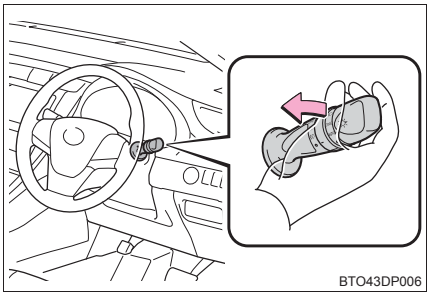
手動切りかえのしかた

■ ロービームへの切りかえ

レバーをもとの位置にもどす

オートマチックハイビーム表示灯が消灯します。

オートマチックハイビームにもどすには、再度レバーを前方に押します。

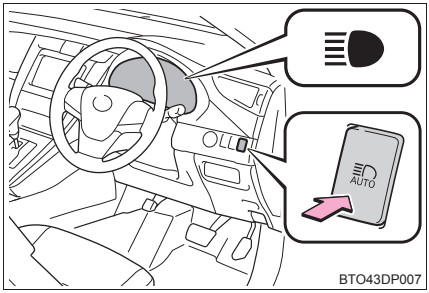


■ ハイビームへの切りかえ

オートマチックハイビームスイッチを押す

オートマチックハイビーム表示灯が消灯し、ハイビーム表示灯が点灯します。

オートマチックハイビームにもどすには、再度スイッチを押します。



知識

■ 作動条件

エンジンスイッチがイグニッション ON モードのとき

■オートマチックハイビームについて

●次の状況では、ハイビームが自動でロービームに切りかわらない場合があります。

・見通しの悪いカーブで対向車と突然すれ違ったとき
・他車が前方を横切ったとき
・連続するカーブや中央分離帯、街路樹などで対向車や先行車が見え隠れするとき

●対向車のフォグランプにより、ハイビームからロービームに切りかわる場合があります。

●街路灯や信号・広告などの照明、または標識・看板などの反射物によりハイビームがロービームに切りかわる場合や、ロービームが継続する場合があります。

●次の原因により、ハイビームとロービームの切りかえのタイミングが変化する場合があります。

・対向車または先行車のランプの明るさ
・対向車または先行車の動きや向き
・対向車または先行車のランプが片側のみ点灯しているとき
・対向車または先行車が二輪車のとき
・道路の状態（勾配やカーブ、路面状況など）
・乗車人数や荷物の量

●オートマチックハイビームは車両前方にあるランプの明るさなどで周囲の状況を認識します。従って、ハイビームとロービームが運転者の感覚に合わず切りかわる場合があります。

●自転車などの軽車両は検知しない場合があります。

●次の状況では、周囲の明るさが正確に検知されず、ハイビームが対向車や先行車の迷惑になる場合や、ロービームが継続する場合があります。このような場合は、手動でハイビームとロービームを切りかえてください。

・悪天候時（霧・雪・砂嵐・大雨など）
・フロントウインドウガラスが汚れているときや、曇っているとき
・フロントウインドウガラスにひび割れや破損があるとき
・カメラセンサーが変形しているときや、汚れているとき
・周囲にヘッドランプや尾灯などに似た光があるとき
・対向車または先行車のランプが無灯火のときや、ランプに汚れや変色があったり光軸がずれているとき
・急激な明るさの変化が連続するとき
・起伏や段差が多い道路を走行しているとき
・カーブが多い道路を走行しているとき
・車両前方に標識やミラーのように光を強く反射するものがあるとき
・コンテナなど、先行車両の後部が光を強く反射するとき
・自車のヘッドランプが破損または汚れているとき
・パンクやけん引などにより車両が傾いているとき

警告

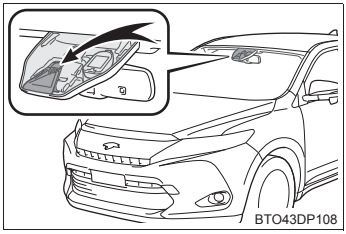
■**安全にお使いいただくために**

オートマチックハイビームを過信しないでください。運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、安全運転を心がけ、必要に応じて手動でハイビームとロービームを切りかえてください。

注意

■**オートマチックハイビームを正しく作動させるために**

オートマチックハイビームを正しく作動させるために次のことをお守りください。



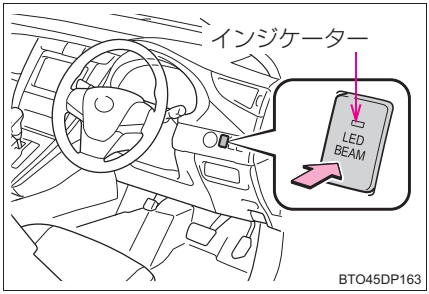
- カメラセンサーのレンズにふれない
- カメラセンサーに強い衝撃を与えない
- カメラセンサーを分解しない
- カメラセンサーに液体をかけない
- カメラセンサーの近くのフロントウインドウガラスにステッカーを貼らない
- ダッシュボードの上にものを置かない
- カメラセンサー周囲にアクセサリーを取り付けない
- 荷物を積み過ぎない
- 車両を改造しない
- トヨタ純正品以外のフロントウインドウガラスに交換しない

LED イルミネーションビーム（G's）

LED イルミネーションビームの使い方

LED イルミネーションビームスイッチを押す

ON にするとスイッチ上のインジケーターが点灯し、フロントバンパーのLED イルミネーションビームが点灯します。



知識

■作動条件

エンジンスイッチがイグニッションONモードのとき

注意

■バッテリーあがりを防止するために

エンジンを停止した状態でLEDイルミネーションビームを長時間点灯しないでください。

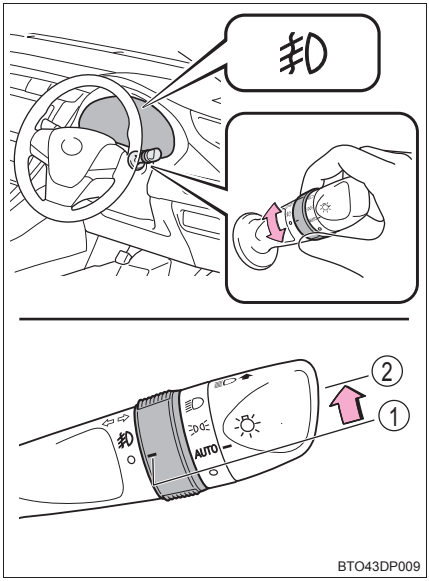
フォグランプスイッチ

雨や霧などの悪天候下での視界を確保します。

▶ フロントフォグランプスイッチ

① ○ 消灯する

② 点灯する



▶ フロント＆リヤフォグランプスイッチ★

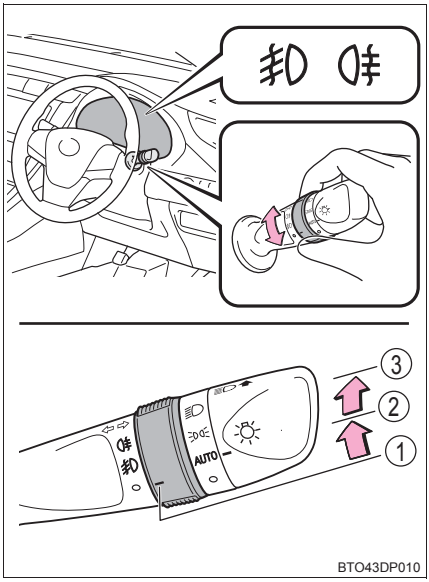
① ○ 消灯する

② フロントフォグランプを点灯する

③ フロント＆リヤフォグランプを点灯する

手を離すとの位置までもどります。

再度操作すると、リヤフォグランプのみ消灯します。



知識

■点灯条件

フロントフォグランプ：
ヘッドランプまたは車幅灯が点灯しているときに使用できます。
リヤフォグランプ：
リヤフォグランプは、フロントフォグランプが点灯しているときのみ使用できます。

■リヤフォグランプについて

●リヤフォグランプが点灯しているときは、メーター内の表示灯が橙色に点灯します。

●雨や霧などで視界が悪いときに後続車に自分の車の存在を知らせるために使用します。
視界が悪いとき以外に使用すると後続車の迷惑になる場合があります。
必要なとき以外は使用しないでください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

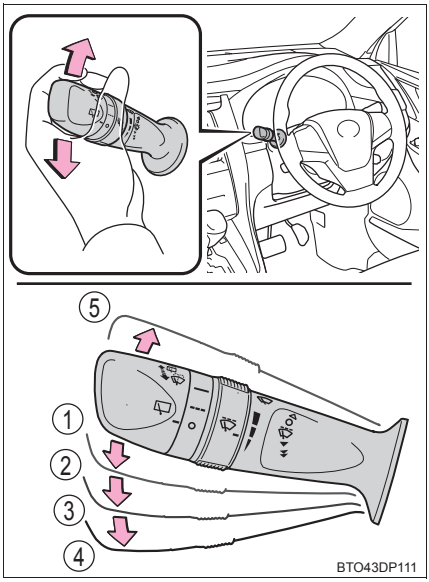
ワイパー & ウォッシャー（フロント）

操作のしかた

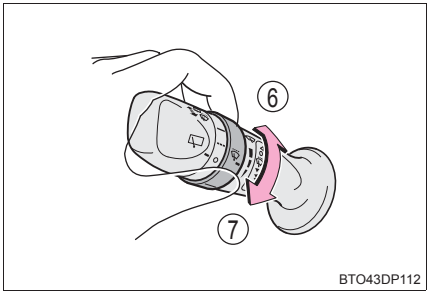
▶ 間欠時間調整式ワイパー

を選択しているとき、間欠作動の作動頻度を調整することができます。
次のようにレバーを操作して、ワイパーの作動を選択します。ワイパーの間欠時間も調整できます。

① ○ 停止
② 間欠作動
③ ▼ 低速作動
④ ▼▼ 高速作動
⑤ △ 一時作動

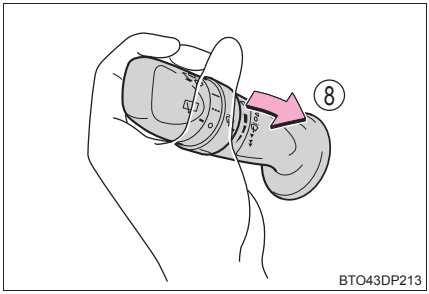


⑥ 間欠ワイパーの作動頻度（増）
⑦ 間欠ワイパーの作動頻度（減）



⑧ ウォッシャー液を出す

ワイパーが連動して作動します。



▶ 雨滴感知式ワイパー

AUTOを選択しているとき、雨滴量と車速に応じてワイパーが作動します

AUTOが選択されているときは、次のようにツマミをまわして、雨滴センサーの感度を調整できます。

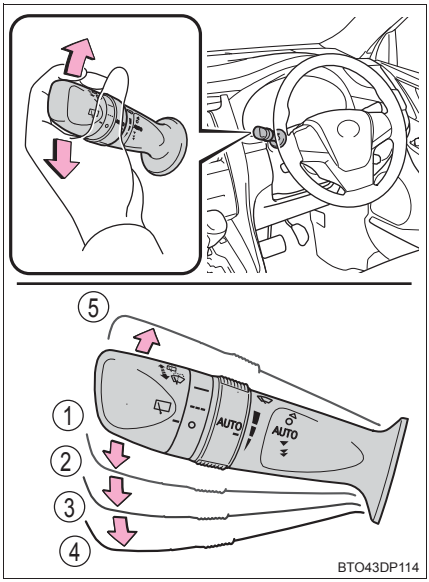
① ○ 停止

② AUTO AUTO モード

③ ▼ 低速作動

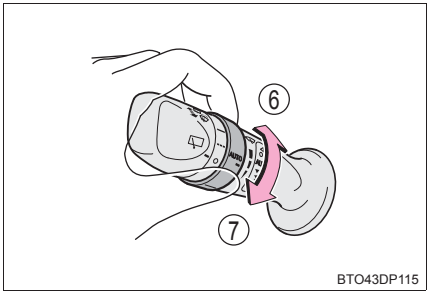
④ ▼▼ 高速作動

⑤ △ 一時作動



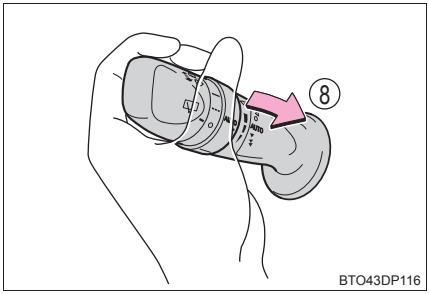
⑥ 雨滴センサーの感度調整（高）

⑦ 雨滴センサーの感度調整（低）



⑧ ウォッシャー液を出す

ワイパーが連動して作動します。



知識

■作動条件

エンジンスイッチがイグニッション ON モードのとき

■液だれ防止作動

ウォッシャー液を噴射するとワイパーが数回作動し、その後、液だれ防止のためにさらに 1 回作動します。

■車速による作動への影響

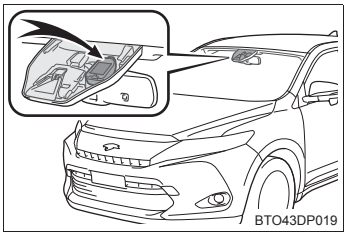
車速によってワイパー作動への影響があります。

- 間欠時間
- ウォッシャー連動時のワイパー作動（液だれ防止作動が働くまでの時間）

■雨滴感知センサー（雨滴感知式ワイパー装着車）

- 雨滴感知センサーが雨滴量を判定します。

  光学センサーを使用しているため、フロントウインドウガラスに朝日や夕日が断続的にあたるときや、虫などで汚れたときに、正しく作動しないことがあります。



- エンジンスイッチがONモードのときにAUTOモードにすると、動作確認のためワイパーが 1 回作動します。
- AUTO モードのとき雨滴感知センサーの感度調整を（高）側へ調整すると、動作確認のためワイパーが 1 回作動します。
- 雨滴感知センサーの温度が 90 ℃以上または－ 15 ℃以下のときは、AUTO 作動しないことがあります。その場合は、AUTO モード以外でワイパーを使用してください。

■ウォッシャー液が出ないとき

ウォッシャー液量が不足していないのにウォッシャー液が出ないときは、ノズルのつまりを点検してください。

警告

■**AUTO モード時のワイパー作動について**

AUTO モードでは、センサーにふれたり、フロントウインドウガラスに振動があるなどの要因で不意にワイパーが動くおそれがあります。ワイパーで指などを挟まないように注意してください。

■**ウォッシャー使用時の警告**

寒冷時はフロントウインドウガラスが暖まるまでウォッシャー液を使用しないでください。ウォッシャー液がフロントウインドウガラスに凍りつき、視界不良を起こして思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

注意

■**フロントウインドウガラスが乾いているとき**

ワイパーを使わないでください。
ガラスを傷付けるおそれがあります。

■**ウォッシャー液が出ないとき**

ウォッシャースイッチを操作し続けないでください。
ポンプが故障するおそれがあります。

■**ノズルがつまったとき**

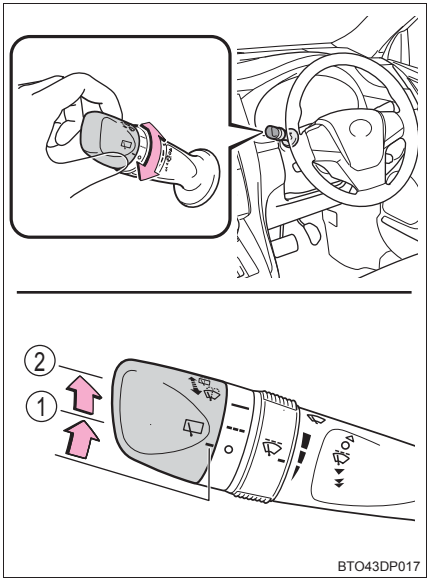
ノズルがつまったときはトヨタ販売店へご連絡ください。
ピンなどで取り除かないでください。
ノズルが損傷するおそれがあります。

ワイパー&ウォッシャー（リヤ）

次のようにレバーをまわして、ワイパーの作動を選択します。

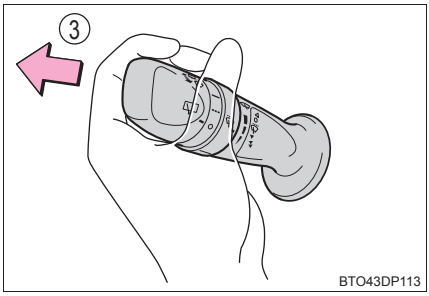
① ---- 間欠作動

② ━━ 通常作動



③ ウォッシャー液を出す

ワイパーが連動して作動します。



知識

■作動条件

エンジンスイッチがイグニッションONモードのとき

■ウォッシャー液が出ないときは

ウォッシャー液量が不足していないのにウォッシャー液が出ないときは、ノズルのつまりを点検してください。

注意

■**リヤウインドウガラスが乾いているとき**

ワイパーを使わないでください。
ガラスを傷付けるおそれがあります。

■**ウォッシャー液が出ないとき**

ウォッシャースイッチを操作し続けないでください。
ポンプが故障するおそれがあります。

■**ノズルがつまったとき**

ノズルがつまったときはトヨタ販売店へご連絡ください。
ピンなどで取り除かないでください。
ノズルが損傷するおそれがあります。

給油口の開け方

給油する前に

- ドアとドアガラスを閉め、エンジンスイッチを OFF にしてください。
- 燃料の種類を確認してください。

知識

■燃料の種類

●無鉛レギュラーガソリン

●バイオ混合ガソリン（レギュラー）

■バイオ混合ガソリンについて

エタノールの混合率 10% 以下、または ETBE の混合率 22% 以下のガソリン（酸素含有率 3.7% 以下）を使用することができます。

警告

■給油するときは

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと火災を引き起こすなど、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●給油前にボデーなどの金属部分にふれて体の静電気を除去してください。除去したあとは給油が完了するまで、車内にもどったり、他の人やものにふれないでください。また、給油口に静電気を除去していない人を近付けないでください。
静電気を帯電した人が給油口に近付くと、放電による火花で燃料に引火するおそれがあります。

●キャップはツマミ部分を持ち、ゆっくりと開けてください。また、キャップをゆるめたときに、“シュー” という音がする場合は、その音が止まるまでキャップを保持してください。
すぐに開けると、気温が高いときなどに、給油口から燃料が噴き出るおそれがあります。

●気化した燃料を吸わないようにしてください。
燃料の成分には、有害物質を含んでいるものもあります。

●喫煙しないでください。

●給油口にノズルを確実に挿入してください。

●継ぎ足し給油をしないでください。

●正常に給油できない場合は、スタンドの係員を呼んで指示に従ってください。

⚠注意

■給油するとき

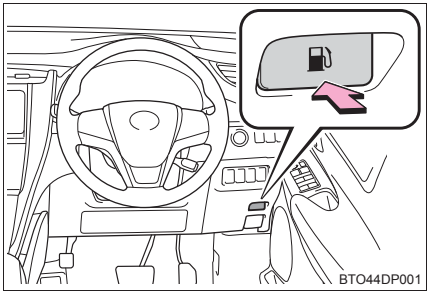
指定のガソリンを使用してください。
指定以外のガソリンや他の燃料（粗悪ガソリン・軽油・灯油・高濃度バイオ混合ガソリン※）を使用したり、燃料をこぼしたりしないでください。
次のような状態になるおそれがあります。

- エンジンの始動性が悪くなる
- エンジンからの異音や振動など（ノッキング）が発生する
- エンジン出力が低下する
- 排気制御システムが正常に機能しない
- 燃料系部品が損傷する
- 塗装が損傷する

※ エタノール混合率 10% をこえるもの、または ETBE 混合率 22% をこえるもの

給油口の開け方

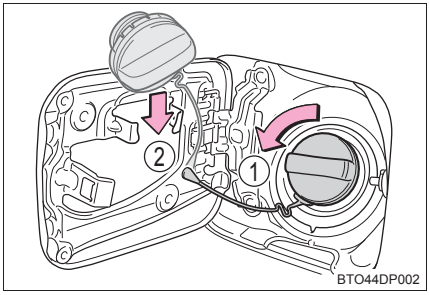
1 給油口オープナースイッチを押して、給油扉を開ける



2 キャップをゆっくりまわして開け、ホルダーにはめ込む

① まわす

② はめ込む



知識

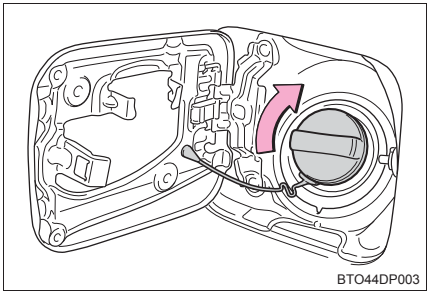
■給油扉が開かないとき

給油口オープナーを押しても給油扉が開かないときは、トヨタ販売店で点検を受けてください。

給油口の閉め方

キャップを“カチッ”と音がするまでまわして閉める

手を離すと、キャップが逆方向に少しもどります。



警告

■キャップが正常に閉まらないとき

必ずトヨタ販売店へご連絡ください。
正常に閉まらないキャップをそのまま使用したり、純正品以外のキャップを使用すると、火災などを引き起こし、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

Toyota Stop & Start System (SMART STOP)

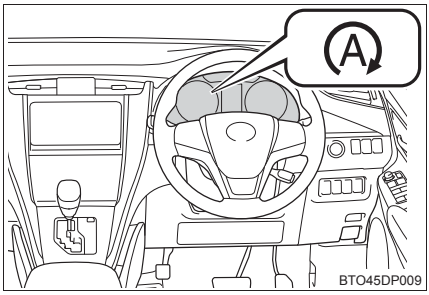
赤信号や交差点などの一時的な停車中、燃費向上やアイドリング騒音低減のため、エンジンスイッチを操作することなく、ブレーキペダルなどの操作によってエンジンを停止・再始動させるシステムです。

アイドリングストップが作動しているとき

■ エンジンが停止する

シフトレバーを D または M で走行中、ブレーキペダルを踏み車両を完全に停止させると、エンジンが自動的に停止する

エンジンが停止し、Stop & Start 表示灯が点灯します。



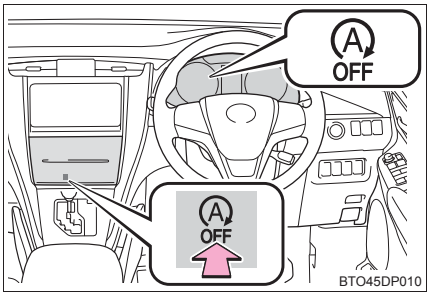
■ エンジンが再始動する

ブレーキペダルから足を離すと、エンジンが再始動する

エンジンが再始動し、Stop & Start 表示灯が消灯します。

Stop & Start システムを非作動にするには

Stop & Start システムを非作動にするにはStop & Start キャンセルスイッチにタッチする



Stop & Start キャンセル表示灯が点灯します。

もう一度 Stop & Start キャンセルスイッチにタッチすると、作動可能状態にもどり、Stop & Start キャンセル表示灯が消灯します。

■ Stop & Start キャンセルスイッチにタッチしたとき

- Stop & Start システムによるエンジン停止中、Stop & Start キャンセルスイッチにタッチするとエンジンが再始動します。
- Stop & Start システムが非作動のとき、もう一度 Stop & Start キャンセルスイッチにタッチすると、Stop & Start システムが作動可能状態にもどりますが、エンジンは停止しません。
  次に車両が停止したときに（Stop & Start システムが作動可能状態にもどる）、Stop & Start システムによって、エンジンが停止します。

坂道発進補助機能

Stop & Start システムによって坂道でエンジン停止後の発進の際、ブレーキペダルを離してエンジンを再始動し駆動力が発生するまでのあいだ、ブレーキ油圧（ブレーキの効き）を一時的に保持して車両が後退するのを抑制し坂道発進を容易にします。
駆動力が発生すると、保持していたブレーキ油圧（ブレーキの効き）を自動的に解除します。

知識

■作動条件

●次の条件がすべて満たされたとき、Stop & Start システムが作動可能状態になります。

・エンジンが十分暖まっているとき
・バッテリー状態（充電・温度など）が良好であるとき
・運転席ドアが閉まっているとき
・運転席シートベルトを着用しているとき
・ボンネットが閉まっているとき
・アクセルペダルを踏んでいないとき
・シフトレバーが D または M のとき
・外気温が -5 ℃以上のとき
・ハンドル操作をしていないとき
・ブレーキペダルをしっかりと踏んでいるとき

●次の状況では、Stop & Start システムによるエンジン停止が行われない場合がありますが、異常ではありません。

・エンジン冷却水温やトランスミッション油温が低いとき、または高すぎるとき
・車内温度が高いときに、エアコンを使用しているとき
・バッテリーが十分に充電されていないとき、および定期的な充電中
・渋滞などで、断続的に停車するとき
・ブレーキペダルを踏む力が弱いとき
・勾配が急な坂道で停車したとき
・ブレーキ倍力装置の負圧が低下したとき
・消費電力が大きいとき
・標高が高いとき
・外気温度が低いとき
・ハンドル操作をしているとき
・運転席シートベルト非装着時
・運転席ドアが開いているとき
・ボンネットが開いているとき

●Stop & Start システムによるエンジン停止中、次のときはエンジンが自動的に再始動する場合があります。

・ポンピングブレーキをする、またはブレーキペダルをさらに強く踏み込んだとき
・エアコンを使用しているとき、またはオンにしたとき
・バッテリーが十分に充電されていないとき
・傾斜などで車両が動き出したとき
・アクセルペダルを踏んだとき
・消費電力が大きいとき
・運転席ドアを開けたとき
・運転席シートベルトをはずしたとき
・ハンドル操作をしたとき

●次の状況では、Stop & Start システムが作動するまでに時間がかかる場合があります。

・バッテリーが放電しているとき
・バッテリー交換などにより、バッテリー端子をはずしたあと
・エンジン冷却水温が低いとき

■Stop & Start システムの自動再開

Stop & Start システムを Stop & Start キャンセルスイッチによって非作動にしていても、一度エンジンスイッチを OFF にして 3 秒以上経過してからイグニッション ON モードにすることによって、Stop & Start システムは自動的に作動可能状態にもどります。

■Stop & Start システム保護機能

●大音量でオーディオを使用しているとき、バッテリーの消費を抑えるために、オーディオを自動的にオフにする場合があります。
そのような状態になった場合は、エンジンスイッチを OFF にして 3 秒以上経過してからアクセサリーモードまたはイグニッション ON モードにすることによってオーディオを再開させてください。

●バッテリーの端子を外して再接続したときに、オーディオ（メーカーオプションのナビゲーションシステムを除く）が作動しないことがあります。
この場合には、いったんエンジンスイッチを OFF にし、次の操作を 2 回繰り返すことでオーディオ（メーカーオプションのナビゲーションシステムを除く）が正常に作動できます。

・エンジンスイッチをイグニッション ON モードにし、再度エンジンスイッチをイグニッション OFF にする

■ボンネットを開けたときは

Stop & Start システムによるエンジン停止中にボンネットを開けた場合、エンジンは自動で再始動しません。通常のエンジン始動操作（→P. 148）でエンジンを始動させてください。

■坂道発進補助機能について

●勾配が急な上り坂では、坂道発進補助機能が解除されたあと、車両が後退することがあります。このような場所では、パーキングブレーキをかけたり、ブレーキペダルを操作して発進してください。

●坂道だけでなく、平坦な場所でも作動します。

●Stop & Start システムによるエンジン停止中に、ブレーキペダルの踏力がかわる場合がありますが、異常ではありません。

■Stop & Start システムについて

Stop & Start システムは赤信号や交差点などの一時的な停車のときに使用し、長時間停車する場合などには、エンジンを停止してください。

■Stop & Start システムの警告メッセージ・警告ブザーについて

システムが作動できないときや、キャンセルされたときや、システムに異常が発生したときには、警告メッセージ・警告ブザーで注意をうながします。
（→P. 349、350）

■Stop & Start システムによるエンジン停止中のエアコンについて

Stop & Start システムによるエンジン停止中、エアコン（冷房・暖房・除湿機能）がオフになり、送風または無風になります。エアコンがオフにならないようにするには、Stop & Start キャンセルスイッチにタッチし、Stop & Start システムを非作動にしてください。

■Stop & Start システムによるエンジン停止中、フロントウインドウガラスが曇ったとき

Stop & Start キャンセルスイッチにタッチしてエンジンを再始動し、エアコンの A/C にタッチして曇りを取ってください。

断続的にフロントウインドウガラスが曇るときは、Stop & Start キャンセルスイッチにタッチし、Stop & Start システムを非作動にしてください。

■アイドリングストップ時間など Stop & Start システムの作動表示

→P. 71

■バッテリーを交換するとき

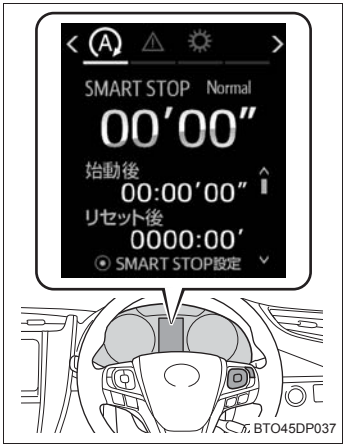
装着されているバッテリーは、Stop & Start システム専用品です。同等の性能のものと交換してください。
詳しくはトヨタ販売店にご相談ください。

■アイドリングストップ時間の調整について

マルチインフォメーションディスプレイの「Stop & Start システム情報」（→P. 71）または、「設定」（→P. 71）のそれぞれの画面から、エアコンの A/C が ON のときの Stop & Start システムによるエンジン停止時間を調整できます。

▶「Stop & Start システム情報」画面からの設定

1 「Stop & Start システム情報」画面表示時に、メータ操作スイッチ（→P. 70）の を押す

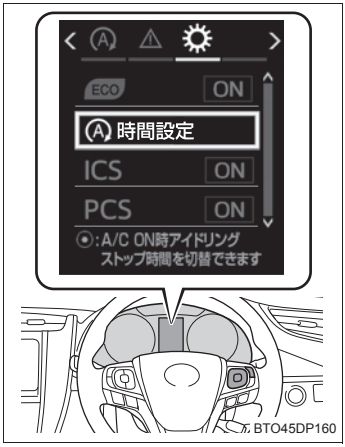


2 メータ操作スイッチの または、 を押して「 時間設定」を選択し、メータ操作スイッチの を押す

3 メータ操作スイッチの または、 を押し、「Normal」（通常）・「Long」（長め）を選択し、メータ操作スイッチの を押す

▶「設定」画面からの設定

1 「設定」画面表示時に、メータ操作スイッチ（→P. 70）の ⌃ または、⌄ を押して「 Ⓐ 時間設定」を選択し、メータ操作スイッチの ⊙ を押す



※グレード、オプションなどにより、マルチインフォメーションディスプレイに表示される項目は、上図と異なる場合があります。

2 メータ操作スイッチの ⌃ または、⌄ を押し、「Normal」（通常）・「Long」（長め）を選択し、メータ操作スイッチの ⊙ を押す

警告

■**Stop & Start システムが作動しているとき**

●Stop & Start システムによるエンジン停止中（Stop & Start 表示灯が点灯中）は、ブレーキペダルを踏み、必要に応じてパーキングブレーキをかけてください。

●Stop & Start システムによるエンジン停止中（Stop & Start 表示灯が点灯中）は、車から離れないでください。
エンジンが自動的に始動する場合があるため、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●換気が悪い場所では、Stop & Start システムを非作動にしてください。
エンジンが自動的に再始動する場合があるため、排気ガスが充満し、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

⚠注意

■Stop & Start システムを正常に作動させるために

次のようなときは Stop & Start システムが正常に作動しないおそれがあります。トヨタ販売店で点検を受けてください。

- 運転席シートベルトを着用しているときに、メーター内のシートベルト非着用警告灯が点滅するとき
- 運転席シートベルトをはずしているときに、メーター内のシートベルト非着用警告灯が点灯しないとき
- 運転席ドアを閉めているときに、マルチインフォメーションディスプレイにドア開警告表示（→P. 351）が表示される、またはルームランプのスイッチがドアポジションのときにルームランプが点灯するとき
- 運転席ドアを開けているときに、マルチインフォメーションディスプレイにドア開警告表示（→P. 351）が表示されない、またはルームランプのスイッチがドアポジションのときにルームランプが点灯しないとき

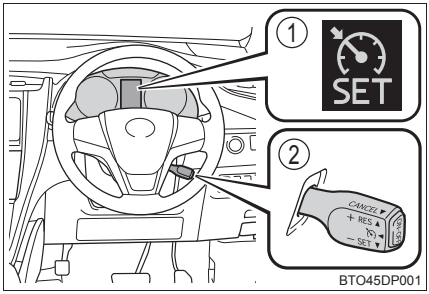
クルーズコントロール★

機能概要

アクセルペダルを踏まなくても一定の速度で走行できます。

① 表示灯

② クルーズコントロールスイッチ

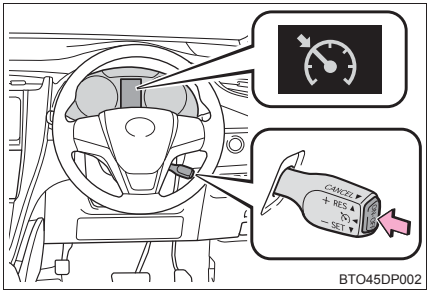


速度を設定する

1 ON-OFF スイッチを押して、システムを ON にする

マルチインフォメーションディスプレイにクルーズコントロール表示灯が点灯します。

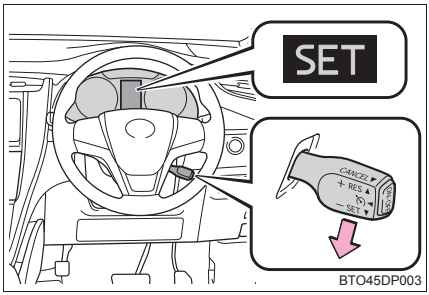
OFF にするには、再度スイッチを押します。



2 希望の速度まで加速／減速し、レバーを下げて設定する

マルチインフォメーションディスプレイにセット表示灯が点灯します。

レバーを離したときの速度で定速走行できます。



★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

設定速度をかえる

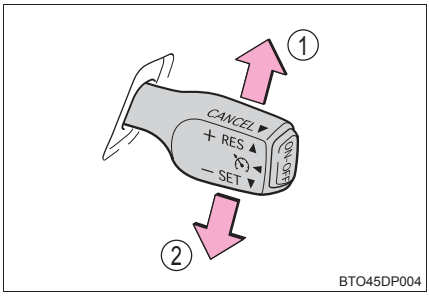
設定速度をかえるには、希望の速度になるまでレバーを操作します。

① 速度を上げる

② 速度を落とす

微調整：
レバーを上または下に軽く操作して手を離す

調整：
希望の車速になるまでレバーを保持する



設定速度は、次のとおりに増減されます。

微調整：
レバー操作するごとに約 1.6km/h

調整：
レバーを保持するあいだ

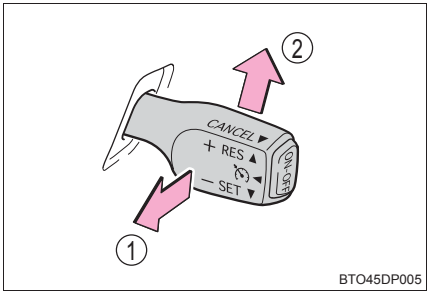
定速走行を解除する・復帰させる

① 解除するには、レバーを手前に引く

ブレーキペダルを踏んだときも解除されます。

② 定速走行にもどすには、レバーを上げる

レバーを上げると、もとの定速走行にもどります。ただし、実際の速度が約40km/h 以下になると設定速度が消去されるため、復帰しません。



知識

■設定条件について

●シフトレバーが D または M の 4 レンジ以上のとき設定できます。

●車速は約 40 ～約 100km/h の範囲で設定できます。

■車速設定後の加速について

●通常走行と同様にアクセルで加速できます。加速後、設定車速にもどります。

●クルーズコントロールを解除しなくても、希望の速度まで加速して、レバーを下げることにより設定車速を変更することができます。

■定速走行の自動解除

次のとき、自動的に定速走行が解除されます。

●設定速度より実際の速度が約 16km/h 以上低下した

●実際の速度が約 40km/h 以下になった

●VSC が作動した

●TRC が一定時間作動した

●TRC または VSC を OFF にした

■定速走行中、マルチインフォメーションディスプレイに「クルーズコントロール故障 販売店で点検してください」が表示されたとき

ON-OFF スイッチでシステムを一度 OFF にし、再度設定してください。
設定できないとき、またはすぐに解除されるときは、システム異常のおそれがあります。トヨタ販売店で点検を受けてください。

警告

■**誤操作を防ぐために**

クルーズコントロールを使用しないときは、ON-OFF スイッチでシステムをOFF にしてください。

■**クルーズコントロールを使用してはいけない状況**

次の状況では、クルーズコントロールを使用しないでください。
車のコントロールを失い、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●交通量の多い道

●急カーブのある道

●曲がりくねった道

●雨天時や、凍結路・積雪路などのすべりやすい路面

●急な下り坂
急な下り坂では設定車速以上になることがあります。

レーダークルーズコントロール★

機能概要

アクセルペダルを踏まなくても、車間制御モードで先行車の車速変化に合わせた追従走行を行ったり、定速制御モードにより一定の速度で走行できます。

先行車との車間距離が確保しやすい高速道路や自動車専用道路などで使用してください。

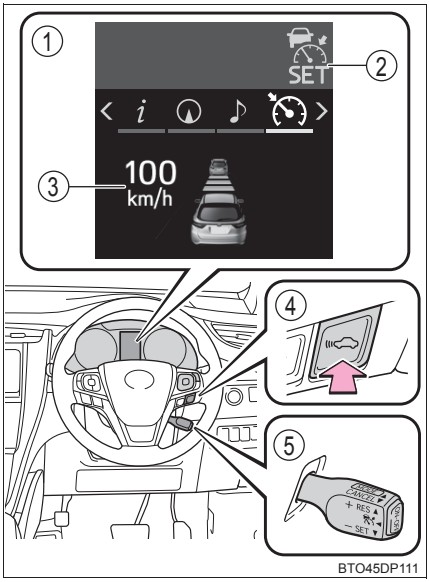
① マルチインフォメーションディスプレイ

② 表示灯

③ 設定速度

④ 車間距離切りかえスイッチ

⑤ レーダークルーズコントロールスイッチ



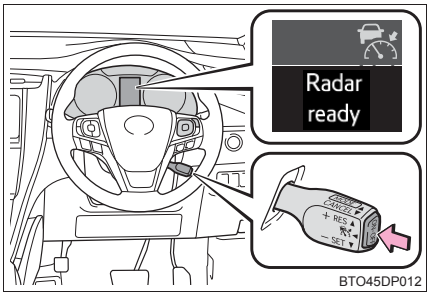
★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

車速を設定する

1 ON-OFF スイッチを押してシステムを ON にする

マルチインフォメーションディスプレイにレーダークルーズコントロール表示灯が点灯します。

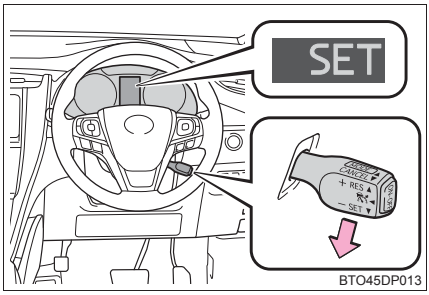
OFF にするには、再度スイッチを押します。



2 希望の速度まで加速／減速し、レバーを下げて速度を設定する

マルチインフォメーションディスプレイにセット表示灯が点灯します。

レバーを離したときの速度で定速走行できます。

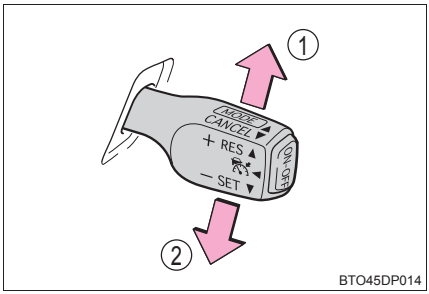


設定速度をかえる

設定速度をかえるには、希望の速度が表示されるまでレバーを操作します

① 速度を上げる

② 速度を落とす



微調整：
レバーを上または下に軽く操作して手を離す

調整：
希望の車速になるまでレバーを保持する

車間制御モードでは、設定速度は、次のとおりに増減されます。：
微調整：レバー操作するごとに約 1km/h
調整：レバーを保持するあいだ、0.75 秒ごとに約 5km/h

定速制御モード（→P. 195）では、設定速度は、次のとおりに増減されます。：
微調整：レバー操作するごとに約 1.6km/h
調整：レバーを保持するあいだ

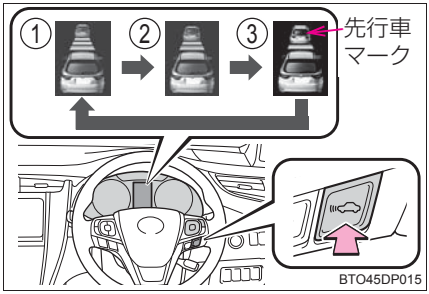
車間距離を変更する

スイッチを押すごとに次のように車間距離を切りかえます。

① 長い

② 中間

③ 短い



エンジンスイッチがイグニッションONモードになるたびに①に設定されます。

先行車がいる場合、先行車マークも表示されます。

車間距離選択の目安

次の目安を参考に車間距離を選択してください。
（速度 80km/h で走行している場合）
なお、車速に応じて車間距離は増減します。

車間距離選択	車間距離
長い	約 50m
中間	約 40m
短い	約 30m

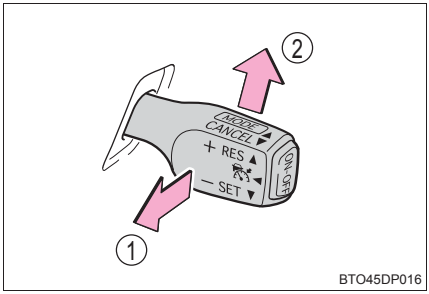
制御を解除する・復帰させる

① 解除するには、レバーを手前に引く

ブレーキペダルを踏んだときも解除されます。

② もとの制御状態にもどすには、レバーを上げる

レバーを上げると、もとの定速走行にもどります。

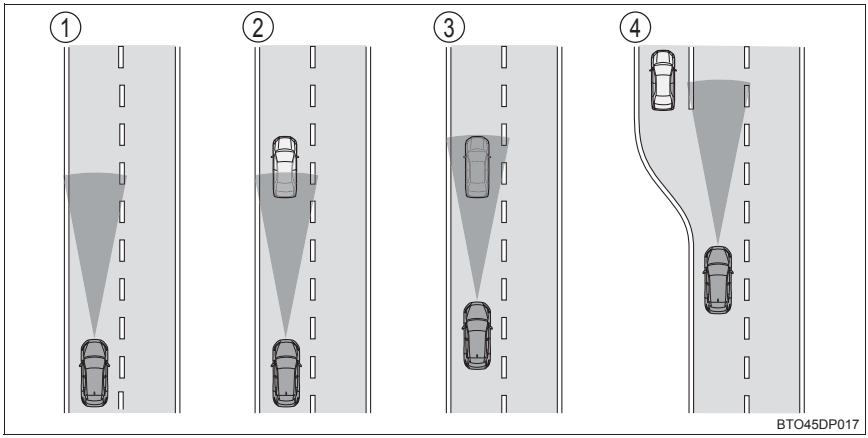


ただし、定速制御モード時は実際の速度が約 40km/h 以下になると設定速度が消去されるため、復帰しません。

車間制御モードでの走行

レーダーセンサーにより、車両前方約 100m 以内の先行車の有無・先行車との車間距離を判定して先行車との適切な車間距離を確保する制御をします。

長い下り坂を走行しているときは、車間距離が短めになります。



① 定速走行：
先行車がいないとき

運転者が設定した車速で定速走行します。また、車間距離切りかえスイッチを操作して、希望の車間距離に設定することもできます。

② 減速走行：
設定した車速より遅い先行車が現れたとき

先行車を検知すると自動で減速し、より大きな減速が必要な場合はブレーキがかかります。十分に減速できない状態で先行車に接近した場合は、接近警報を鳴らします。

③ 追従走行：
設定した車速より遅い先行車に追従するとき

先行車の車速変化に合わせて、運転者の設定した車間距離になるよう追従します。

④ 加速走行：
設定した車速より遅い先行車がいなくなったとき

設定車速まで加速し、定速走行にもどります。

接近警報

追従走行中の他車の割り込みなど、十分な減速ができない状態で先行車に接近したときは、表示の点滅とブザーで運転者に注意をうながします。その場合は、ブレーキを踏むなど適切な車間距離を確保してください。

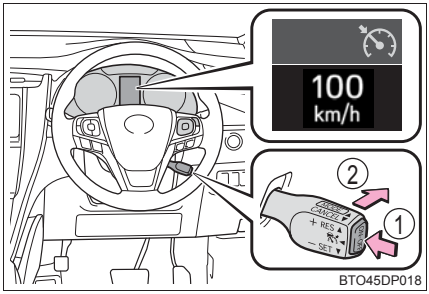
■ 警報されないとき

車間距離が短くても、次のような場合は警報されないことがあります。

- 先行車と自車の車速が同じか先行車の方が速いとき
- 先行車が極端な低速走行をしているとき
- 速度を設定した直後
- アクセルペダルが踏まれたとき

定速制御モードを選択する

定速制御モードは先行車の車速変化に合わせた追従走行を行わず、一定の速度で走行します。レーダーセンサーの汚れなどにより、車間制御モードで走行できない場合のみご使用ください。



① ON-OFF スイッチを押して、システムを ON にする

マルチインフォメーションディスプレイにレーダークルーズコントロール表示灯が点灯します。

OFF にするには再度 ON-OFF スイッチを押します。

② 定速制御モードに切りかえ（約 1 秒間レバーを前方に押し続ける）

定速制御モードに切りかえると、クルーズコントロール表示灯が点灯します。

定速制御モードから車間制御モードにもどすには、再度レバーを前方に約 1 秒間押し続けます。

希望の速度を設定したあとは車間制御モードに切りかえることはできません。

エンジンスイッチを OFF にし、再度エンジンスイッチをイグニッション ON モードにした場合は、自動で車間制御モードにもどります。

設定速度をかえるには
→P. 192

制御を解除する・復帰させるには
→P. 193

知識

■設定条件について

●シフトレバーが D または M の 4 レンジ以上のとき設定できます。

●車速は約 50 ～約 100km/h の範囲で設定できます。

■車速設定後の加速について

通常走行と同様にアクセル操作で加速できます。加速後、設定車速にもどります。ただし、車間制御モード時は先行車との距離を保持するため設定車速以下になることもあります。

■車間制御走行の自動解除

次のとき、自動的に車間制御走行が解除されます。

●速度が約 40km/h 以下になった

●VSC が作動した

●TRC が一定時間作動した

●TRC または VSC を OFF にした

●センサーが何かでふさがれて適切に働かない

●ワイパーが高速で作動した（ワイパーの設定を AUTO モードまたは高速作動にしたとき）

●プリクラッシュブレーキが作動した

その他の理由で車間制御走行が自動解除されるときは、システムが故障している可能性があります。トヨタ販売店にご相談ください。

■定速制御走行の自動解除

次のとき、自動的に定速制御が解除されます。

●設定速度より実際の速度が約 16km/h 以上低下した

●車速が約 40km/h 以下になった

●VSC が作動した

●TRC が一定時間作動した

●TRC または VSC を OFF にした

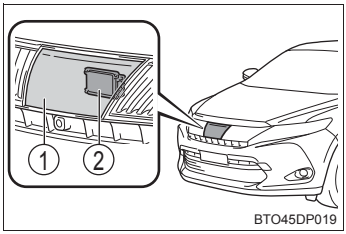
●プリクラッシュブレーキが作動した

■レーダーセンサーとグリルカバーについて

車間制御を正しく作動させるためにセンサーとグリルカバーは常にきれいにしておいてください。（ビニールやつらら・雪など、汚れ検知機能で検知できないものもあります）
汚れを検知したときは、レーダークルーズコントロールは解除されます。

① グリルカバー

② レーダーセンサー



■レーダークルーズコントロール操作支援表示について

レーダークルーズコントロールスイッチを操作すると、レーダークルーズコントロールスイッチの操作ガイドをマルチインフォメーションディスプレイに数秒間表示します。

■レーダークルーズコントロールの警告メッセージ・警告ブザー

走行操作に関して注意が必要な場合や、システムに異常が発生したときには、警告メッセージ・警告ブザーで注意をうながします。（→P. 347）

警告

■**安全にお使いいただくために**

安全運転を行う責任は運転者にあります。システムを過信せず、運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、安全運転を心がけてください。
レーダークルーズコントロールは運転者の操作の一部を支援し、操作負担を軽減するためのシステムで、支援の範囲には限りがあります。
システムが正常に機能していても、運転者が認識している先行車の状況とシステムが検知している状況が異なる場合があります。従って注意義務・危険性の判断・安全の確保は運転者が行う必要があります。なお、誤った使い方をしたり、操作慣れなどで注意を怠ったりすると、思わぬ危険を招くことがあります。

■**システムの支援内容に関する注意点**

システムの支援には限界があるため、次の点に注意してください。
システムを過信すると思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●運転者が見る過程での支援内容
レーダークルーズコントロールは、自車と設定された先行車との車間距離を検知するのみであり、わき見やぼんやり運転を許容するシステムでも、視界不良を補助するシステムでもありません。
運転者自らが周囲の状況に注意を払う必要があります。

●運転者が判断する過程での支援内容
レーダークルーズコントロールは、自車と設定された先行車との車間距離が適正かどうかを判断しており、それ以外の判断はしません。このため、危険性があるかどうかなど運転者は自ら安全の判断をする必要があります。

●運転者が操作する過程での支援内容
レーダークルーズコントロールは、先行車への追突を防止する機能はありません。このため、危険性があれば運転者自らが安全を確保する必要があります。

■**誤操作を防ぐために**

レーダークルーズコントロールを使わないときはON-OFFスイッチでシステムを OFF にしてください。

警告

■**レーダークルーズコントロールを使用してはいけない状況**

次の状況では、レーダークルーズコントロールを使用しないでください。
適切な制御が行われず、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●一般道（高速道路や自動車専用道以外）

●交通量の多い道

●急カーブのある道

●曲がりくねった道

●雨天時や、凍結路・積雪路などのすべりやすい路面

●急な下り坂や急で勾配の変化が激しい坂
急な下り坂では設定車速以上になることがあります。

●高速道路の出入り口

●レーダーセンサーが正しく働かないような悪天候時（霧・雪・砂嵐・激しい雨など）

●接近警報がひんぱんに鳴るとき

■**センサーが正しく検知しないおそれのある先行車**

次のような場合は、必要に応じてブレーキで減速（場合によってアクセルを操作）してください。
センサーが正しく車両を検知できず、接近警報（→P. 195）も作動しないため、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●先行車が急に割り込んできたとき

●先行車が低速で走行中のとき

●停車中の車がいるとき

●先行車のうしろ部分が小さすぎるとき（荷物を積んでいないトレーラーなど）

●同じ車線を二輪車が走行中のとき

●周囲の車両より水や雪がまき散らされ、レーダーセンサーの作動のさまたげになる場合

●自車の車両姿勢が上向きになる場合（重い荷物を積んだときなど）

警告

■**車間制御が正しく働かないおそれのある状況**

次の状況では、必要に応じてブレーキで減速してください。
レーダーセンサーが正常に車両を検知せず、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●カーブ路や車線幅が狭い道路などを走行する場合

●ハンドル操作が不安定な場合や、車線内の位置が一定でない場合

●先行車が急ブレーキをかけた場合

■**レーダーセンサーの取り扱い**

レーダークルーズコントロールが効果を発揮できるように次のことをお守りください。お守りいただかないと、センサーが正しく作動せず、思わぬ事故につながるおそれがあります。

●センサーとグリルカバーは常にきれいにしておく
お手入れをする際は、センサーやグリルカバーを傷付けないよう、やわらかい布を使ってください。

●センサー周辺への強い衝撃を避ける
センサーの位置がずれると、システムに異常が起こるおそれがあります。センサー、または周辺に強い衝撃を受けた際は、必ずトヨタ販売店にて点検を受け、調整してください。

●センサーを分解しない

●センサーやグリルカバー周辺にアクセサリーを付けたり、ステッカーを貼ったりしない

●センサーやグリルカバーを改造したり塗装したりしない

●レーダーセンサーの交換が必要な場合は、トヨタ販売店にご相談ください

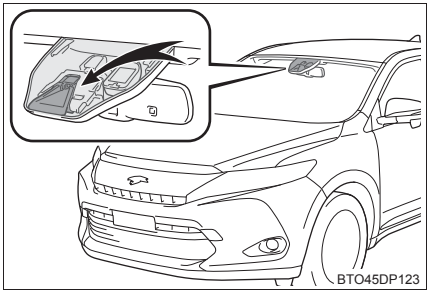
●センサーは電波法の基準に適合しています。センサーに貼り付けられているラベルはその証明ですので、はがさないでください。また、センサーを分解・改造すると罰せられることがあります。

LDA※（ステアリング制御付）★

機能概要

白（黄）線の整備されたカーブの少ない自動車専用道路を走行中に、フロントウインドウガラス上部の白線認識用カメラを利用して白（黄）線を認識し、走行中の車線を逸脱したとシステムが判断した場合に、ブザーおよびマルチインフォメーションディスプレイ表示で運転者に警告するとともに、車線の逸脱を回避するためのハンドル操作を支援します。

白線認識用カメラ

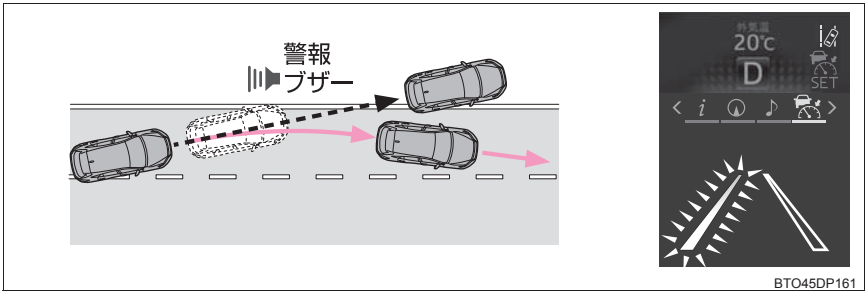


※：Lane Departure Alert の略で「車線逸脱警報」の意味。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

LDA（ステアリング制御付）に含まれる機能

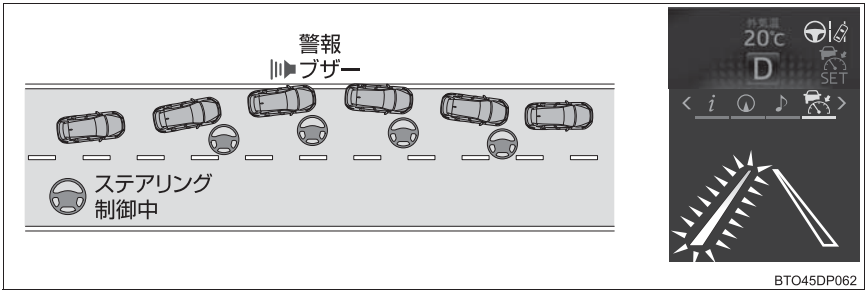
◆ 車線逸脱警報機能



車線から逸脱する可能性があるとシステムが判断した場合に、警告ブザーが「ピピピピ」と鳴り、マルチインフォメーションディスプレイの表示により注意をうながします。

警告ブザーが鳴ったときは、周りの道路状況を確認して、安全なハンドル操作で白（黄）線内の中央付近にもどってください。

◆ ステアリング制御機能

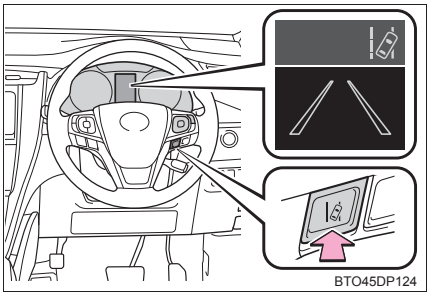


車線から逸脱する可能性があるとシステムが判断した場合に、マルチインフォメーションディスプレイ表示および、ハンドルへの操舵力支援を行い、車線逸脱の回避に必要なハンドル操作の一部をアシストします。

システムへの過信を防ぐため、ステアリング制御機能中に、ハンドルを操作しなかったり、ハンドルに軽く手を添えた運転が続いたりしたときは、マルチインフォメーションディスプレイに警告メッセージが表示され、機能が一時的に解除されます。（→P. 352）

設定のしかた

LDA（ステアリング制御付）を使用するにはスイッチを押す



マルチインフォメーションディスプレイ内のLDA（ステアリング制御付）表示灯が点灯します。

解除するには再度スイッチを押します。

LDA（ステアリング制御付）のON/OFF状態は、エンジンスイッチをOFFにすると、OFF状態に戻ります。

作動条件

■ 車線逸脱警報機能

次の条件をすべて満たしたとき作動します。

車線逸脱警報機能が作動しているときは、マルチインフォメーションディスプレイ内に車線表示（→P. 206）が表示されます。

- システムを ON にしているとき（→P. 203）
- 車速が約 50km/h 以上のとき
- システムが白（黄）線を認識しているとき
- 車線の幅が約 2.5m 以上のとき
- 方向指示レバーを操作していないとき
- 非常点滅灯を作動させていないとき
- 直線路またはゆるいカーブ（半径約 100m 以上）を走行しているとき
- システムの異常が検知されていないとき（→P. 351, 352）

■ ステアリング制御機能

車線逸脱警報機能の作動条件に加えて、次の条件をすべて満たしたとき作動します。

操舵力支援中はマルチインフォメーションディスプレイ内のステアリング操舵力支援表示灯が点灯します。（→P. 206）

- マルチインフォメーションディスプレイの「設定」で「操舵支援」を「有」に設定しているとき（→P. 209）
- 一定以上の減速をしていないとき
- 車線変更に相当する程度の操舵力でハンドルを操作していないとき
- VSC・TRC・ABS・PCS★が作動していないとき
- 加速を意図としたアクセル操作をしていないとき

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

機能が一時的に解除するとき

■ 車線逸脱警報機能

次のいずれかの場合、車線逸脱警報機能を一時的に解除します。解除されたときの状況が改善されると、作動を再開します。

- 作動条件以外の車速になったとき
- 方向指示レバーを操作したとき
- 非常点滅灯を作動させたとき
- 走行中の白（黄）線が認識できなくなったとき
- システム異常時
- 車線逸脱警報吹鳴直後

  車線逸脱警報が作動してから数秒間は、再度車線を逸脱しても警報は作動しません。
- 車体のおよそ半分以上がレーンをまたいだとき

■ ステアリング制御機能

車線逸脱警報機能が一時的に解除される条件に加えて、次のいずれかの場合、ステアリング制御機能を一時的に解除します。解除されたときの状況が改善されると、作動を再開します。

- 車線変更に相当する程度の操舵力でハンドルを操作したとき
- 一定以上の減速をしたとき
- VSC・TRC・ABS・PCS★が作動しているとき
- 加速を意図としたアクセル操作をしたとき
- システムが手放し運転をしていると判断したとき
- VSC・TRC の作動を停止したとき（→P. 240）

ステアリング制御機能が解除するとき

ステアリング制御機能に関するシステムが、異常を判断した場合、ステアリング制御機能を解除し、マルチインフォメーションディスプレイに警告メッセージが表示されます。（→P. 352）
ステアリング制御機能が解除された場合は、マルチインフォメーションディスプレイの「設定」から「操舵支援」を「有」にし、ステアリング制御を作動状態にしないとシステムは復帰しません。（車線逸脱警報機能は作動可能です。）

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

車線表示

両側の白線点灯：

左右の白（黄）線が認識されていることを示しています。

車両が車線から逸脱すると、逸脱している側の白線表示が黄色で点滅します。（→P. 348）

BTO45DP140

片側の白線点灯：

左右いずれか一方の白（黄）線が認識されていることを示しています。

認識されている側の白（黄）線から車両が逸脱すると、逸脱している側の白線表示が黄色で点滅します。（→P. 348）

BTO45DP240

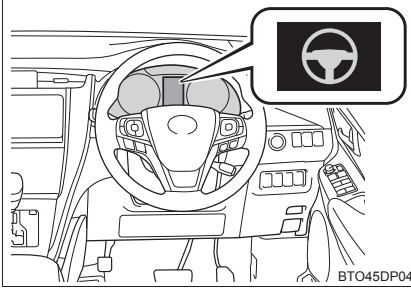
両側の白ぬき線点灯：

白（黄）線が認識されていない。または、システムが一時的に解除されていることを示しています。

BTO45DP340

操舵力支援が作動しているとき

操舵力支援中は、マルチインフォメーションディスプレイ内のステアリング操舵力支援表示灯が点灯します。



BTO45DP047

知識

■LDA（ステアリング制御付）表示灯について

LDA（ステアリング制御付）スイッチを押してもLDA（ステアリング制御付）表示灯が点灯しないときや、LDA（ステアリング制御付）作動中に LDA（ステアリング制御付）表示灯が消灯したときはシステム故障のおそれがあります。トヨタ販売店で点検を受けてください。

■ステアリング制御機能について

車速や車線の逸脱状況・路面状況などにより、制御が感じにくい場合があります。

■車線逸脱警報について

オーディオ・エアコン使用時は、音楽やファンの音などにより、警報音が聞き取りづらくなる場合があります。

■炎天下に駐車したあとは

走行開始後、しばらくのあいだ LDA（ステアリング制御付）は作動せず、警告メッセージ（→P. 352）が表示されることがあります。室内温度が低下し、白線認識用カメラ周辺（→P. 201）の温度が適温になると作動するので、いったんLDAスイッチをOFFにして、しばらくしてからONにしてください。

■白（黄）線が片側にしかないとき

白（黄）線が認識できていない方向への車線逸脱警報は作動しません。

■機能が正常に作動しないおそれのある状況

次の状況では、白線認識用カメラが白（黄）線を正しく検知できず、車線逸脱警報機能が正しく作動しないことがありますが、故障ではありません。

●白（黄）線と平行に近い影があったり、白（黄）線が影の中にあるとき
●料金所や検札所の手前や交差点など、白（黄）線がない場所を走行するとき
●白（黄）線がかすれていたり、キャッツアイや置き石などがあるとき
●白（黄）線が砂ぼこりなどで見えない、または見えにくくなっているとき
●雨天・雨上がり・水たまりなどぬれた路面を走行するとき
●車線が黄色のとき（白線にくらべて認識率が低下することがあります）
●白（黄）線が縁石等の上に引かれているとき
●コンクリート路のような明るい路面を走行するとき
●照り返しなどにより明るくなった路面を走行するとき
●トンネルの出入口など明るさが急変する場所を走行するとき
●対向車のヘッドランプ光・太陽光などがカメラに入射するとき
●分岐・合流路などを走行するとき
●坂道を走行するとき
●左右に傾いた道路やうねった道路を走行するとき
●急カーブを走行するとき
●車線の幅が極端に狭いとき、または広いとき
●重い荷物の積載やタイヤ空気圧の不足などで、車両が著しく傾いているとき
●先行車との車間距離が極端に短くなったとき
●悪路や道路の継ぎ目などを走行時に、車両に大きな上下動が発生するとき
●夜間にヘッドランプのレンズが汚れて照射が弱いときや、光軸がずれているとき
●横風を受けているとき
●舗装されていない道路や荒れた道路を走行するとき

■タイヤを交換したとき

冬用タイヤなど、タイヤによっては十分な性能が確保できない場合があります。

■LDA（ステアリング制御付）の警告メッセージ

走行操作に関して注意が必要な場合や、システムに異常が発生したときには、警告メッセージで注意をうながします。（→P. 351, 352）
また、警告メッセージは表示されても通常の走行に支障はありません。

■操舵支援を ON ／ OFF するには

マルチインフォメーションディスプレイの「設定」（→P. 71）から、操舵支援を ON ／ OFF にできます。

1 メータ操作スイッチ（→P. 70）の ⌃ または、⌄ を押して「操舵支援」を選択する

※グレード、オプションなどにより、マルチインフォメーションディスプレイに表示される項目は、上図と異なる場合があります。

2 メータ操作スイッチの ⊙ を押すごとに制御の「有（ON）」・「無（OFF）」が切りかわる

「無」を選択して、ステアリング制御を停止したときは、再度、マルチインフォメーションディスプレイの「設定」から「操舵支援」を「有」にし、ステアリング制御を作動状態にしないとシステムは復帰しません。
（エンジンスイッチの操作では復帰しません）

■警報感度の調整について

マルチインフォメーションディスプレイの「設定」（→P. 71）から、車線逸脱時の警報ブザーが吹鳴する感度を調整できます。

1 メータ操作スイッチ（→P. 70）の ⌃ または、⌄ を押して「警報感度」を選択する

※グレード、オプションなどにより、マルチインフォメーションディスプレイに表示される項目は、上図と異なる場合があります。

2 メータ操作スイッチの ⊙ を押すごとに警報感度の「高」・「普通」が切りかわる

警告

■LDA（ステアリング制御付）をお使いになる前に

LDA（ステアリング制御付）を過信しないでください。LDA（ステアリング制御付）は自動で運転する装置でも前方への注意を軽減する装置でもないため、運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、ハンドル操作で進路を修正し、安全運転を心がけてください。また、長時間の運転などによる疲労時は休憩をとるなどしてください。
適切な運転操作をしなかったり、注意を怠ったりすると、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

■手放し運転はしないでください

ステアリング制御機能中に、システムが手放し運転をしていると判断したとき、ステアリング制御機能が一時的に解除され、同時に警告メッセージが表示されます。（→P. 352）
適切なハンドル操作をしなかったり、注意を怠ったりすると、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
走行中は、ハンドルをしっかりと持ち、安全運転を心がけてください。

■誤操作を防ぐために

LDA（ステアリング制御付）を使用しないときは、LDA スイッチ（→P. 203）でシステムを OFF にしてください。

■LDA（ステアリング制御付）を使用してはいけない状況

次の状況では、LDA（ステアリング制御付）を OFF にしてください。
システムが適切に作動せず、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

- 応急用タイヤ・タイヤチェーンなどを装着しているとき
- 構造・メーカー・銘柄・トレッドパターンが異なるタイヤを使用したとき
- タイヤの残り溝が十分にないとき、または空気圧が不足しているとき
- サスペンションを改造しているとき
- 路側物に白（黄）線と見間違えるような構造物。模様があるとき（ガードレール・縁石・反射ポール）
- 雪道を走行するとき
- 雨・雪・霧・砂ぼこりなどで白（黄）線が見えにくいとき
- 道路の修復で、アスファルト修復跡や白（黄）線の跡が残っているとき
- 工事によって規制された車線や仮設の車線を走行するとき
- 雪や雨などで、すべりやすい路面を走行しているとき
- 自動車専用道以外の車線を走行するとき
- 工事区間を走行するとき

注意

■**LDA（ステアリング制御付）の故障や誤作動を防ぐために**

LDA（ステアリング制御付）の故障や誤作動を避けるために、次のことをお守りください。

- ヘッドランプを改造したり、ランプの表面にステッカーなどを貼ったりしないでください。
- サスペンションなどを改造したり、純正品以外の部品に交換したりしないでください。
- ボンネットやグリルの上には、何も取り付けたり置いたりしないでください。また、グリルガード（ブルバー・カンガルーバーなど）を取り付けたりしないでください。
- フロントウインドウガラスの修理が必要な場合は、トヨタ販売店にご相談ください。
- 荷物を積み過ぎないでください。

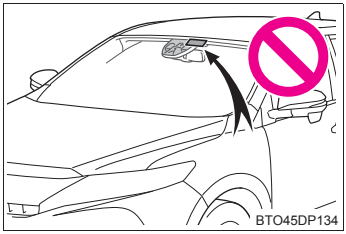
⚠注意

■白線認識用カメラ

LDA（ステアリング制御付）の故障や誤作動を避けるために、次のことをお守りください。

●フロントウインドウガラスは、いつもきれいにしておく
汚れていたり、雨滴・結露・氷雪などが付着していたりすると、性能が低下することがあります。

●カメラのレンズ付近のフロントウインドウガラスにステッカーなどを貼らない



●カメラに液体をかけない

●フロントウインドウガラスにフィルムを貼らない

●カメラのレンズ前にアンテナを取り付けない

●フロントウインドウガラスが曇った場合は、フロントウインドウガラスの曇りを取る（→P. 258）
寒冷時などにヒーターを足元モードで使用していると、フロントウインドウガラスの上部が曇り、映像に影響を与えることがあります。

●カメラのレンズを汚したり、傷を付けたりしない
フロントウインドウガラスの内側を掃除するときは、ガラスクリーナーなどがレンズに付着しないようにしてください。また、レンズにはふれないでください。
カメラのレンズのお手入れは、トヨタ販売店にご相談ください。

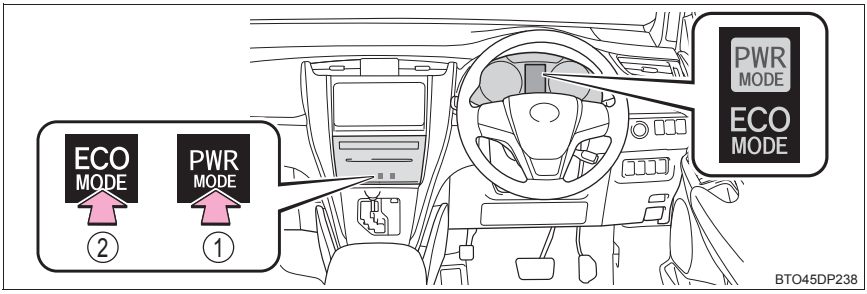
●カメラの向きは細密に調整されているため、取り付け位置や向きを変更したり、取りはずしたりしない

●カメラに強い衝撃や力を加えない、また分解しない

●フロントウインドウガラスを純正品以外のものに交換しないでください。
交換が必要な場合は、トヨタ販売店にご相談ください。

走行モードの選択

走行・使用状況に合わせて次のモードを選択できます。



① パワーモード※

ステアリングのフィーリング・およびトランスミッションの制御によるアクセルレスポンスなどがスポーツ走行に適した制御にかわります。
山岳路などで、きびきびとした走りを楽しみたいときに適しています。

パワーモード時以外のときに PWR MODE スイッチにタッチすると、パワーモードに切りかわり、パワーモード表示灯が点灯します。

再度 PWR MODE スイッチにタッチすると、パワーモード表示灯が消灯し、パワーモードは解除されます。

② エコドライブモード※

通常にくらべてアクセルペダルの踏み込みに対するトルクの発生がゆるやかになり、またエアコン（暖房／冷房）の作動を抑え、燃費を向上させる走行に適しています。

エコドライブモード時以外のときにECO MODEスイッチにタッチすると、エコドライブモードに切りかわり、エコドライブモード表示灯が点灯します。

再度 ECO MODE スイッチにタッチすると、エコドライブモード表示灯が消灯し、エコドライブモードは解除されます。

エコドライブモードがONの状態はエンジンスイッチをOFFにしても記憶されています。

※ パワーモード・エコドライブモード共に解除された状態のときは、通常の走行に適した通常走行モードとなります。

知識

■エコドライブモード時のエアコン作動について

エコドライブモードは、暖房／冷房の作動や風量を抑制して、燃費向上を図っています。空調の効きをよりよくしたいときは、風量の調整またはエコドライブモードの解除をしてください。

■パワーモードの自動解除

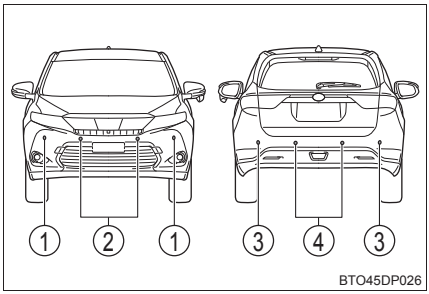
パワーモードを選択して走行後、エンジンスイッチを OFF にし、再度エンジンスイッチをイグニッション ON モードにした場合は、自動でパワーモードは解除され、通常走行モードに切りかわります。

クリアランスソナー★

クリアランスソナーは、車両と障害物とのおおよその距離を超音波センサーによって感知して、メーター内のマルチインフォメーションディスプレイおよびナビゲーション画面★の距離表示とブザー音で運転者にお知らせします。

センサーの位置・種類

① フロントコーナーセンサー
② フロントセンサー
③ リヤコーナーセンサー
④ バックセンサー

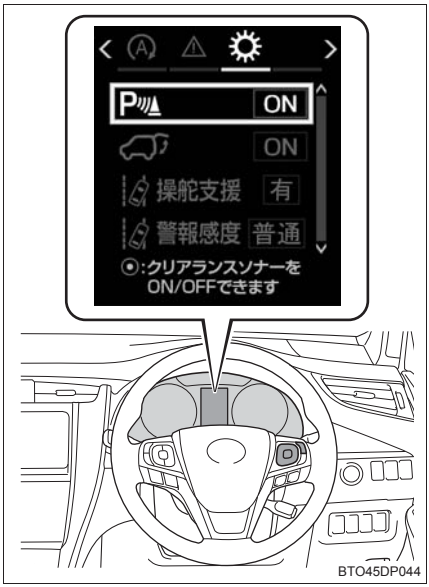


★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

クリアランスソナーの切りかえ

マルチインフォメーションディスプレイの「設定」（→P. 71）で ON（作動）・OFF（停止）の切りかえができます。

1 メータ操作スイッチ（→P. 70）の ⌃ または、⌄ を押して P))) を選択する



※グレード、オプションなどにより、マルチインフォメーションディスプレイに表示される項目は、上図と異なる場合があります。

2 メータ操作スイッチの を押すごとに ON・OFF が切りかわる

ON を選択すると、クリアランスソナー表示灯が点灯します。

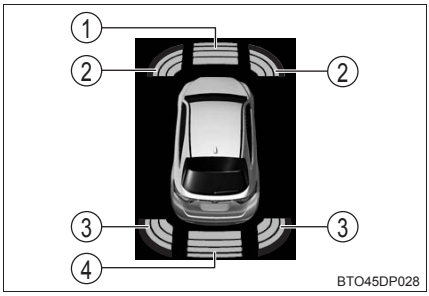
OFF を選択して、クリアランスソナーを停止させた場合、再度、マルチインフォメーションディスプレイの「設定」から P))) を ON にし、システム作動状態にしないとクリアランスソナーは復帰しません。

（エンジンスイッチの操作では復帰しません）

クリアランスソナーの表示のしかた

■ マルチインフォメーションディスプレイの表示

① フロントセンサー作動表示
② フロントコーナーセンサー作動表示
③ リヤコーナーセンサー作動表示
④ バックセンサー作動表示



■ ナビゲーション画面の表示（メーカーオプションのナビゲーションシステム装着車）

障害物を感知すると自動的に表示されます。

クリアランスソナー表示

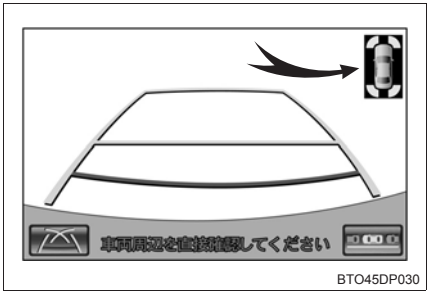
バックガイドモニター★・パノラミックビューモニター（左右確認サポート付）★非表示時

表示されないように設定することができます。（→P. 222）

割り込み表示

バックガイドモニター★・パノラミックビューモニター（左右確認サポート付）★表示時

画面上に簡略表示されます。
（右の画面はバックガイドモニターの場合です。パノラミックビューモニター（左右確認サポート付）表示時の割り込み表示については、別冊「ナビゲーションシステム取扱書」を参照してください。）



★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

距離表示の見方

通常表示	割り込み表示		障害物までのおおよその距離	
	バックガイドモニター	パノラミックビューモニター	フロントコーナー＆フロントセンサー	リヤコーナー＆バックセンサー
（点灯）	（遅い点滅）	（遅い点滅）	フロントセンサー：約 100cm ～ 60cm	バックセンサー：約 150cm ～ 60cm
（点灯）	（点滅）	（点滅）	コーナーセンサー：約 60cm ～ 45cm フロントセンサー：約 60cm ～ 45cm	コーナーセンサー：約 60cm ～ 45cm バックセンサー：約 60cm ～ 45cm
（点灯）	（速い点滅）	（速い点滅）	コーナーセンサー：約 45cm ～ 30cm フロントセンサー：約 45cm ～ 35cm	コーナーセンサー：約 45cm ～ 30cm バックセンサー：約 45cm ～ 35cm
（点滅※1 または 点灯※2）	（点灯）	（点灯）	コーナーセンサー：約 30cm 以下 フロントセンサー：約 35cm 以下	コーナーセンサー：約 30cm 以下 バックセンサー：約 35cm 以下

※1 マルチインフォメーションディスプレイ

※2 ナビゲーション画面

音声案内とブザー音

障害物を感知すると、ブザーが鳴ります。

ナビゲーションシステム装着車は、ブザー音と同時に音声案内を行います。

■ フロント側またはリヤ側のみで障害物を感知しているとき

- 障害物との距離が近付くと、ブザーの断続時間が短くなります。障害物との距離が次のとき、ブザーは断続音「ピピピ」から連続音「ピー」になります。
  - ・フロントコーナーセンサーが感知した障害物との距離が約30cm 以下
  - ・フロントセンサーが感知した障害物との距離が約 35cm 以下
  - ・リヤコーナーセンサーが感知した障害物との距離が約 30cm 以下
  - ・バックセンサーが感知した障害物との距離が約 35cm 以下
- 複数のセンサーが同時に障害物を感知しているときは、もっとも近い障害物との距離に合わせたブザー音が鳴ります。

■ 障害物を車両の前後で同時に感知したとき

- フロント側、またはリヤ側で障害物を感知してブザーが連続で鳴っているとき、反対側（フロントまたはリヤ）で新たに障害物を感知すると、ブザー音は「ピピピピピピピ　ピー」をくり返します。
- フロント側、またはリヤ側で障害物を感知してブザーが連続で鳴っているとき、反対側（フロントまたはリヤ）でもブザーが連続で鳴る範囲内に障害物を感知すると、ブザー音は「ピピピ　ピー」をくり返します。

ブザーの音量と鳴るタイミングを変更することができます。

- ナビゲーションシステム装着車：→P. 222
- ナビゲーションシステム非装着車：→P. 413

障害物を感知できる範囲

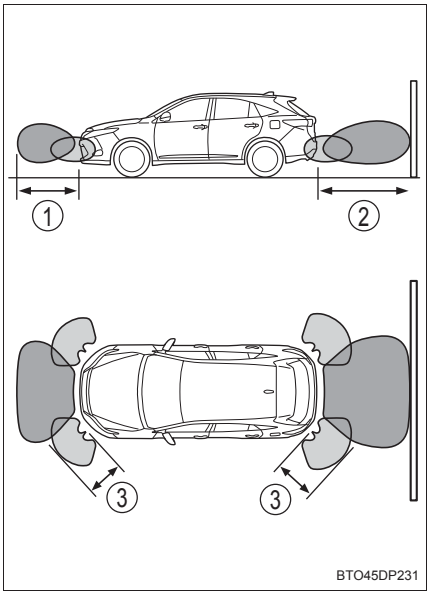
① 約 100cm（約 1.0m）

② 約 150cm（約 1.5m）

③ 約 60cm（約 0.6m）

感知できる範囲は左図のとおりです。ただし、障害物がセンサーに近付きすぎると感知できません。

障害物の形状・条件によっては感知できる距離が短くなることや、感知できないことがあります。



障害物を感知できる範囲を変更することができます。

● ナビゲーションシステム装着車：→P. 222

● ナビゲーションシステム非装着車：→P. 413

音声案内・ナビゲーション画面表示・ブザーの設定（メーカーオプションのナビゲーションシステム装着車）

エンジンスイッチがイグニッション ON モードのとき、クリアランスソナーの設定をすることができます。

1 画面外の「SETUP」にタッチする

2 画面内の「運転支援」を選択する

3 画面内の「クリアランスソナー設定」を選択する

■ ブザー音量設定

設定したい音量にタッチする

ブザー音量を調整することができます。

■ 画面表示の ON・OFF（ソナー表示）

画面内の「ソナー表示なし」を選択する

● 選択するごとに、「表示される」と「表示されない」が切りかわります。

●「表示されない」にすると、スイッチの作動表示灯が点灯します。

障害物が感知されたとき、自動的にクリアランスソナー画面が表示されるかどうか設定することができます。

■ 画面表示・ブザータイミング

画面内の「切替え」を選択する

● フロントセンサー：
選択するごとに、感知範囲が「遠」（緑色、約 100cm 以内）と「近」（黄色、約 60cm 以内）に切りかわります。

● バックセンサー：
選択するごとに、感知範囲が「遠」（緑色、約 150cm 以内）と「近」（黄色、約 65cm 以内）に切りかわります。

フロントセンサー・バックセンサーの割り込み表示が表示される感知範囲と、ブザーが出力される感知範囲を調整することができます。

知識

■作動条件

●フロントコーナーセンサー：

・エンジンスイッチがイグニッション ON モードのとき
・シフトレバーが P 以外にあるとき
・車両の速度が約 10km/h 以下のとき（シフトレバーが R にあるときは除く）

●フロントセンサー：

・エンジンスイッチがイグニッション ON モードのとき
・シフトレバーが P・R 以外にあるとき
・車両の速度が約 10km/h 以下のとき

●リヤコーナーセンサー・バックセンサー：

・エンジンスイッチがイグニッション ON モードのとき
・シフトレバーが R にあるとき

■センサーの感知について

●センサーの感知範囲は車両前部と後部のバンパー周辺に限られます。

●障害物の形状・条件によって感知できる範囲が短くなることや、感知できないことがあります。

●センサーが障害物に近付きすぎると感知できないことがあります。

●障害物を感知してから、表示やブザーが出るまでに多少時間がかかります。低速走行時の場合でも表示やブザーが出る前に、障害物まで約 25cm 以内に接近するおそれがあります。

■クリアランスソナーに異常があるときは

マルチインフォメーションディスプレイに異常を知らせる表示が出ます。
（→P. 349）

警告

■クリアランスソナーをお使いになる前に

必ず次のことをお守りください。
お守りいただかないと思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●車両の速度が約 10km/h をこえないようにしてください

●センサーの感知範囲、作動速度には限界があります。車を前進・後退するときは、必ず車両周辺（特に車両側面など）センサー感知範囲外の安全を確認し、ブレーキで車速を十分に制御し、ゆっくり運転してください

●センサーが感知する範囲にはアクセサリー用品などを取り付けないでください

警告

■センサーについて

次のとき、クリアランスソナーが正常に作動しないことがあり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。注意して運転してください。

- センサーに氷・雪・泥などが付着したとき（取り除けば、正常に復帰します）
- センサー部が凍結したとき（解ければ、正常に復帰します）
  特に低温時には凍結などにより異常表示が出たり、障害物があっても感知しないことがあります。
- センサーを手などで覆ったとき
- 炎天下や寒冷時
- 凸凹道・坂道・砂利道・草むら走行時など
- 他車のホーン・オートバイのエンジン音・大型車のエアブレーキ音・他車のクリアランスソナーなどの超音波を発生するものが近付いたとき
- どしゃぶりの雨や水しぶきがかかったとき
- 車両姿勢が大きく傾いたとき
- 市販のフェンダーポール、無線機アンテナ、フォグランプを車に付けたとき
- 背の高い縁石や直角の縁石に向かって進んだとき
- 標識などのものによっては感知距離が短くなります。
- バンパー真下付近は感知しません。
  センサーより低いものや細い杭などは、一度感知しても接近すると突然感知しなくなることがあります。
- センサーに障害物が近付きすぎたとき
- バンパーやセンサー部付近にものをぶつけたときや、たたくなどの強い衝撃を与えたとき
- トヨタ純正品以外のサスペンションを取り付けたとき
- けん引フックを取り付けたとき
- 字光式ナンバープレートを取り付けたとき

障害物の形状・条件によっては感知できる範囲が短くなることや、感知できないことがあります。

警告

■**正確に感知できないことがある障害物**

次のようなものは感知しないことがあります。注意して運転してください。

●針金・フェンス・ロープなどの細いもの

●綿・雪などの音波を吸収しやすいもの

●鋭角的な形のもの

●背の低いもの

●背が高く上部が張り出しているもの

特に人は衣類の種類によっても検知できない場合がありますので、常に目視で確認してください。

注意

■**クリアランスソナー使用時の注意**

次のとき、センサーの異常などにより装置が正常に作動しなくなっているおそれがあります。トヨタ販売店で点検を受けてください。

●障害物を検知してない状態で、クリアランスソナーの作動表示が点滅し、ブザーが鳴ったとき

●センサー部付近に物をぶつけたときや、たたくなどの強い衝撃を与えたとき

●バンパーをぶつけたとき

●ブザー音がしないのに表示が点灯したままのとき

■**洗車時の注意**

●高圧洗車機を使用して洗車するときは、センサー部に直接水をあてないでください。強い水圧により衝撃が加わり、正常に作動しなくなるおそれがあります。

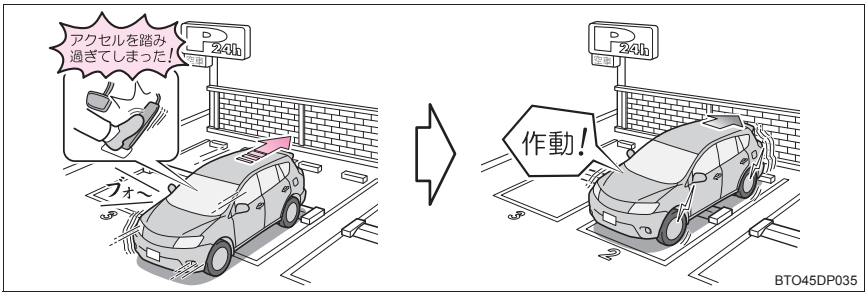
●スチームを使用した洗車機などで洗車するときは、スチームをセンサー部に近付けすぎないようにしてください。スチームにより、正常に作動しなくなるおそれがあります。

インテリジェントクリアランスソナー★

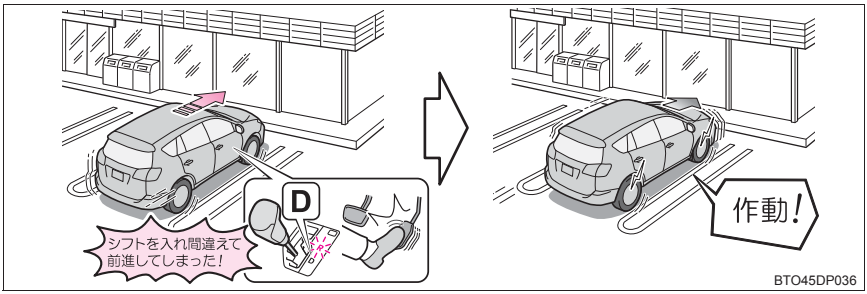
アクセルペダルの踏み間違いや踏みすぎなどによる急発進時、およびシフトレバーの入れ間違いによる発進時に、センサーが前後進行方向の障害物を感知するとシステムが作動し、壁などの障害物への衝突を緩和し被害軽減に寄与します。

システム作動例

◆ アクセルペダルを踏みすぎてしまったが、進行方向の障害物を感知してシステムが作動した



◆ 誤ってシフトレバーを D に入れ前進してしまったが、進行方向の障害物を感知してシステムが作動した



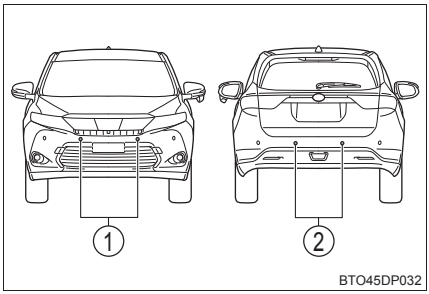
★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

センサーの種類

クリアランスソナー（→P. 216）のフロントセンサーとバックセンサーを使用します。

① フロントセンサー

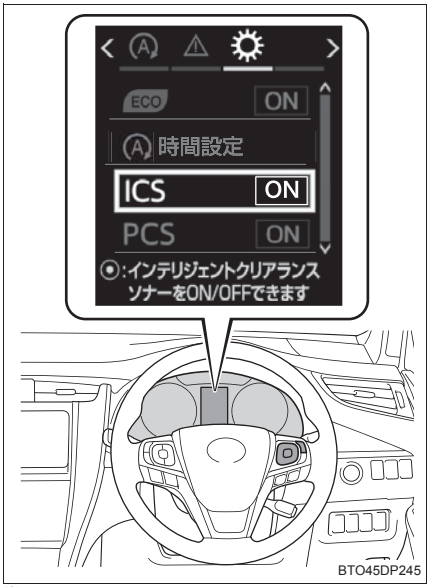
② バックセンサー



インテリジェントクリアランスソナーの切りかえ

マルチインフォメーションディスプレイの「設定」（→P. 71）でインテリジェントクリアランスソナーの ON（作動）・OFF（停止）の切りかえができます。

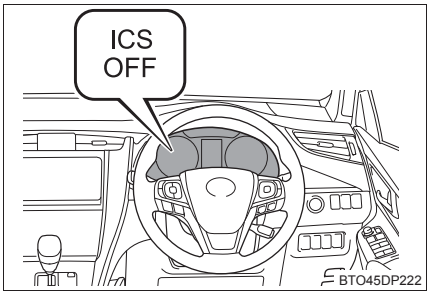
1 メーター操作スイッチ（→P. 70）の ∧ または、∨ を押して「ICS」を選択し、メーター操作スイッチの ◎ を押す



※グレード、オプションなどにより、マルチインフォメーションディスプレイに表示される項目は、上図と異なる場合があります。

2 マルチインフォメーションディスプレイの表示内容に従って、メーター操作スイッチの ∧ または、∨ を押して「はい」または、「いいえ」を選択し、メーター操作スイッチの ⊙ を押す

インテリジェントクリアランスソナーが OFF（停止）になっているときは、ICS OFF 表示灯が点灯します。



OFF（停止）に切りかえて、インテリジェントクリアランスソナーを停止させた場合、再度、マルチインフォメーションディスプレイの「設定」から「ICS」を ON（作動）に切りかえないとシステムは復帰しません。
（エンジンスイッチの操作では復帰しません）

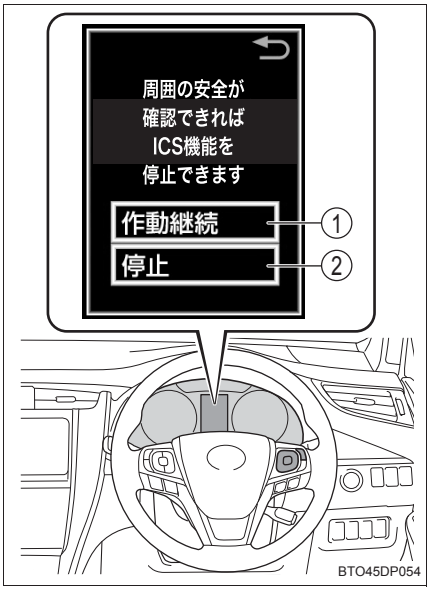
インテリジェントクリアランスソナーを一時的に停止させるには

システム作動中に運転者のブレーキ操作によって、車両を停止させた場合、マルチインフォメーションディスプレイに次の表示が出て、インテリジェントクリアランスソナーを一時的に停止させることができます。

メータ操作スイッチ（→P. 70）の ⌃ または、⌄ を押して「作動継続」または、「停止」を選択し、◎ を押す

① インテリジェントクリアランスソナーの作動を継続する

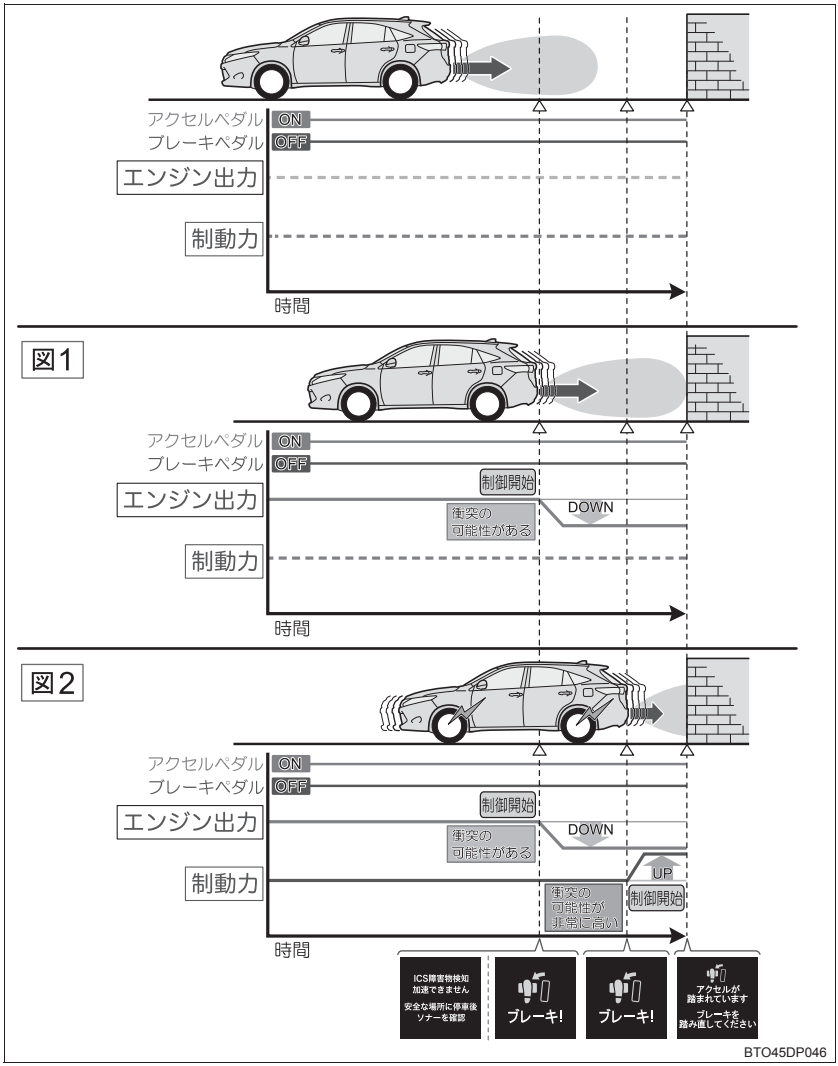
② インテリジェントクリアランスソナーの作動を一時的に停止する



エンジンスイッチをいったん OFF にしてから再度、イグニッション ON モードにすると一時停止は解除されます。

作動について

インテリジェントクリアランスソナーは、衝突の可能性がある障害物を感知したとき、エンジンの出力を抑制することにより車速の上昇を抑えます。（エンジン出力抑制制御）
また、そのままアクセルペダルを踏み続けた場合は、ブレーキをかけ減速させます。（ブレーキ制御）



作動条件について

■ 作動開始条件

ICS OFF 表示灯が点灯・点滅（→P. 345, 355, 356）しておらず、次の条件をすべて満たすと作動します。

▶エンジン出力抑制制御

・車速が 15km/h 以下
・アクセルペダルを踏んでいる
・ブレーキペダルを踏んでいない
・車両進行方向に障害物がある（2 ～ 3m 先まで）
・衝突回避には、通常よりやや強めのブレーキ操作が必要とシステムが判断した
・ワイパーが高速作動していない（オート作動時含む）
・ハンドルを切っていない（直進状態）

▶ブレーキ制御

・エンジン出力抑制制御作動中
・衝突回避には、急ブレーキ操作が必要とシステムが判断した

■ 作動終了条件

次のいずれかの条件のときに作動が終了します。

▶エンジン出力抑制制御

・通常のブレーキ操作で衝突回避が可能になった

▶ブレーキ制御

・ブレーキ制御により車両が停止して約２秒が経過した
・ブレーキ制御により車両が停止したあとに、ブレーキペダルを踏んだ
・車両進行方向の障害物がなくなった

インテリジェントクリアランスソナーの切りかえで、「ICS」を「OFF」にしても作動が終了します。（→P. 227）

エンジン出力抑制制御・ブレーキ制御の表示・ブザーについて

エンジン出力抑制制御・ブレーキ制御が作動したときは、ブザーでお知らせするとともに、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

出力抑制制御は状況により、加速制限制御か出力最大抑制制御のいずれかが作動します。

制御	状況	マルチインフォメーションディスプレイ表示	ICS OFF表示灯	ブザー
エンジン出力抑制制御作動中（加速制限制御）	一定以上の加速ができない状況	ICS障害物検知 加速できません 安全な場所に停車後 ソナーを確認	消灯のまま	“ポーン”（単発音）
エンジン出力抑制制御作動中（出力最大抑制制御）	通常よりやや強めのブレーキ操作が必要な状況	ブレーキ!	消灯のまま	“ポーン”（単発音）
ブレーキ制御作動中	急ブレーキが必要な状況	ブレーキ!	消灯のまま	“ポーン”（単発音）
システム作動により車両停止	ブレーキ制御作動後に車両が停止した状況	アクセルが 踏まれています ブレーキを 踏み直してください	点灯	“ポーン”（単発音）

知識

■センサーの感知範囲について

インテリジェントクリアランスソナーの感知範囲は、クリアランスソナーの感知範囲（→P. 221）とは異なります。
そのため、クリアランスソナーが障害物との接近をお知らせしても、インテリジェントクリアランスソナーは作動を開始していない場合があります。

■システムが作動したときは

システム作動により車両が停止した場合、インテリジェントクリアランスソナーが停止して、ICS OFF 表示灯が点灯します。

■システムの復帰について

システム作動によりインテリジェントクリアランスソナーが停止した場合に、インテリジェントクリアランスソナーを復帰させたい場合は、再度、インテリジェントクリアランスソナーを ON にし停止を解除（→P. 227）するか、エンジンスイッチ をいったん OFF にしてから再度、イグニッション ON モードにしてください。

■システムが対象とする障害物

次の条件を満たす障害物が対象です。

- 車両進行方向にある
- 高さが 1m 以上
- 幅が車幅以上
- 地面に垂直の壁（車両進行方向に対してもほぼ直角）

上記以外の障害物では作動しない、または作動を感じられない場合があります。

■センサーが感知しない障害物について

次のような障害物は、センサーが感知しない場合があります。

- 人や綿、雪など音波を反射しにくいもの
  （特に人は衣類の種類によっても感知できない場合があります）
- 地面に対して垂直でない壁、車両進行方向に対して直角でない壁、凸凹な壁、波打っている壁
- 背の低いもの
- 針金、フェンス、ロープなどの細いもの

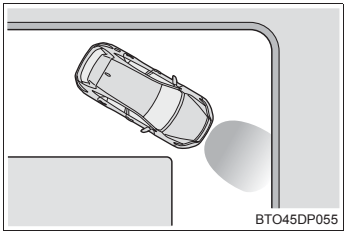
■クリアランスソナーのブザーについて

クリアランスソナーの ON・OFF に関係なく（→P. 217）、インテリジェントクリアランスソナーを停止させていなければ（→P. 227）、フロントソナーまたはバックソナーが障害物を感知してブレーキ制御が作動すると、クリアランスソナーのブザーも鳴り、障害物とのおよその距離をお知らせします。

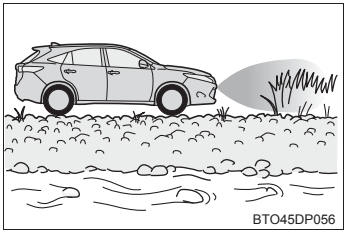
■衝突の可能性がなくてもシステムが作動する状況

次のような状況では、衝突の可能性がなくてもシステムが作動する場合があります。

▶ 狭い道を走行するとき



▶ 砂利道・草むらなどを走行するとき



●周辺環境の影響

・狭い道路を走行するとき
・砂利道・草むらなどを走行するとき
・垂れ幕や旗、垂れ下がった枝、遮断機（踏切のバー・ETC のバー・駐車場のバーなど）に向かって走行するとき
・道路脇に障害物があったとき（狭いトンネル・狭い鉄橋・狭い道路などを走行したとき）
・縦列駐車時
・地面にわだちや穴がある場合
・排水溝などの金属のフタ（グレーチング）走行時
・急な登坂路を走行するとき

●天候の影響

・センサーに氷、雪、泥などが付着したとき（取り除けば、正常に復帰します）
・どしゃぶりの雨や水しぶきが掛かったとき
・霧、雪、砂嵐などの悪天候の状況

●他の音波の影響

・他車のホーン、オートバイのエンジン音、大型車のエアブレーキ音、車両感知器、他車のクリアランスソナーなど超音波を発生するものが付近にいたとき
・センサー付近に市販の電装部品（字光式ナンバープレート＜特に蛍光灯タイプ＞・フォグランプ・フェンダーポール・無線アンテナなど）を取り付けたとき

●車両の変化

・車両姿勢が大きく傾いたとき
・積載状況などにより車高が著しく変化した場合（ノーズアップ・ノーズダウンなど）
・衝突などで、センサーの方向ズレが発生したとき

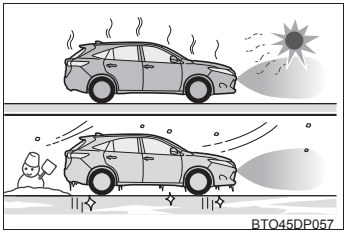
■万一、踏切などでインテリジェントクリアランスソナーが誤って作動したときは

万一、踏切などでインテリジェントクリアランスソナーが誤って作動しても、ブレーキ制御は約２秒で解除されるため、そのまま前進することで脱出できます。また、ブレーキペダルを踏んでも、ブレーキ制御は解除されるため、再度アクセルペダルを踏むことで前進し、脱出できます。

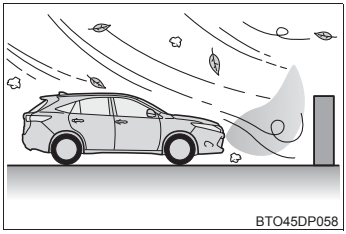
■システムが正常に作動しないおそれのある状況

次のような状況では、システムが正常に作動しない場合があります。

▶ 炎天下や寒冷時



▶ 風が強いとき



●周辺環境の影響

・ 感知できる障害物と車両のあいだに、感知できない障害物がある場合

●天候の影響

・ 炎天下や寒冷時でセンサー周辺部が著しく高温または低温の場合
・ センサーに氷、雪、泥などが付着したとき（取り除けば、正常に復帰します）
・ どしゃぶりの雨や水しぶきが掛かったとき
・ 風が強いとき
・ 霧、雪、砂嵐などの悪天候の状況

●他の音波の影響

・ 他車のホーン、オートバイのエンジン音、大型車のエアブレーキ音、車両感知器、他車のクリアランスソナーなど超音波を発生するものが付近にいたとき
・ センサー付近に市販の電装部品（字光式ナンバープレート＜特に蛍光灯タイプ＞・フォグランプ・フェンダーポール・無線アンテナなど）を取り付けたとき

●車両の変化

・ 車両姿勢が大きく傾いたとき
・ 積載状況などにより車高が著しく変化した場合（ノーズアップ・ノーズダウンなど）
・ 衝突などで、センサーの方向ズレが発生したとき

■バッテリーを脱着したときは

システムを初期化する必要があります。
約 35km/h 以上の速度で５秒以上直進走行することで初期化できます。

■システムに異常があるとき

ICS OFF 表示灯が点滅し、警告メッセージが表示されます。（→P. 355）

警告

■安全にお使いいただくために

システムを過信しないでください。システムを過信すると思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●安全運転を行う責任は運転者にあります。常に周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。インテリジェントクリアランスソナーは衝突緩和という支援ができる場合がありますが、状況によっては作動しない場合もあります。

●インテリジェントクリアランスソナーは、完全に車両を停止させるシステムではありません。また、車両を停止させることができたとしても、ブレーキ制御は約２秒で解除されるため、すぐにブレーキペダルを踏んでください。

■システムを正しく作動させるために

センサー（→P. 227）について、以下のことをお守りください。お守りいただかないと、センサーが正しく作動せず、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です

●改造・分解・塗装などをしない

●純正品以外に交換しない

●センサー周辺へ衝撃を与えない

●センサーに傷を付けたりせずに、常にきれいにしておく

■サスペンションの取り扱いについて

車高や車の傾きが変化すると、センサーが障害物を正しく感知できなくなり、システムが作動しなくなったり、不要に作動してしまう場合があるため、サスペンションの改造はしないでください。

⚠注意

■センサーの故障を防ぐために

- ●センサー周辺に衝撃を受けたときは、センサーの故障などにより装置が正常に作動しなくなっているおそれがあります。トヨタ販売店で点検を受けてください。
- ●高圧洗車機を使用して洗車するときは、センサー部に直接水をあてないでください。強い水圧により衝撃が加わり、正常に作動しなくなるおそれがあります。
- ●スチームを使用した洗車機などで洗車するときは、スチームをセンサー部に近付けすぎないようにしてください。スチームにより、正常に作動しなくなるおそれがあります。

■不要な作動を防ぐために

次のときは、インテリジェントクリアランスソナーを OFF にしてください。
衝突の可能性がなくてもシステムが作動する場合があります。

- ●点検などで、シャシーローラー・シャシーダイナモ・フリーローラーなどを使用する場合
- ●船舶・トラックなどへ積載する際の進入時
- ●ローダウンサスペンションや、純正と異なるサイズのタイヤを取り付けた場合
- ●積載状況などにより車高が著しく変化した場合（ノーズアップ、ノーズダウンなど）
- ●けん引フックを取り付けた場合

運転を補助する装置

走行の安全性や運転性能を高めるため、走行状況に応じて次の装置が自動で作動します。ただし、これらのシステムは補助的なものなので、過信せずに運転には十分に注意してください。

◆ ABS（アンチロックブレーキシステム）

急ブレーキ時やすべりやすい路面でのブレーキ時にタイヤのロックを防ぎ、スリップを抑制します。

◆ ブレーキアシスト

急ブレーキ時などに、より大きなブレーキ力を発生させます。

◆ VSC（ビークルスタビリティコントロール）

急なハンドル操作や、すべりやすい路面で旋回するときに横すべりを抑え、車両の姿勢維持に寄与します。

◆ TRC（トラクションコントロール）

すべりやすい路面での発進時や加速時に前輪の空転を抑え、駆動力の確保に貢献します。

◆ ヒルスタートアシストコントロール

上り坂やすべりやすい丘面で発進するときに、車が後退するのを防止します。

◆ EPS（エレクトリックパワーステアリング）

電気式モーターを利用して、ハンドル操作を補助します。

◆ PCS（プリクラッシュセーフティシステム）★

→P. 245

◆ 緊急ブレーキシグナル

急ブレーキ時に非常点滅灯を自動的に点滅させることにより、後続車に注意をうながし、追突される可能性を低減させます。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

◆ S-VSC（ステアリングアシステッドビークルスタビリティコントロール）

ABS・TRC・VSC・EPS を協調して制御します。

すべりやすい路面などでの走行で急なハンドル操作をした際に、ハンドル操作力を制御することで、車両の方向安定性確保に貢献します。

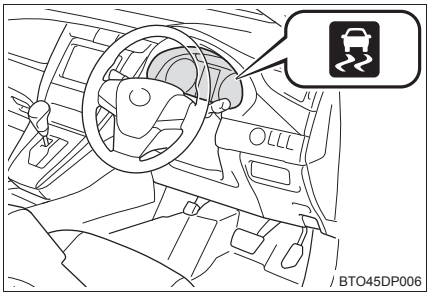
◆ ダイナミックトルクコントロール 4WD ★

通常走行からコーナリング時、登坂時、発進時、加速時や雪や雨などですべりやすい路面など様々な走行状態に応じて、FF（前輪駆動）走行状態から 4WD（4 輪駆動）走行状態まで自動的に制御し、安定した操縦性・安定性の確保に貢献します。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

TRC・VSC が作動しているとき

TRC･VSC が作動しているときは、スリップ表示灯が点滅します。



TRC のみを停止するには

ぬかるみや新雪などから脱出するときに、TRC が作動していると、アクセルペダルを踏み込んでもエンジンの出力が上がらず、脱出が困難な場合があります。

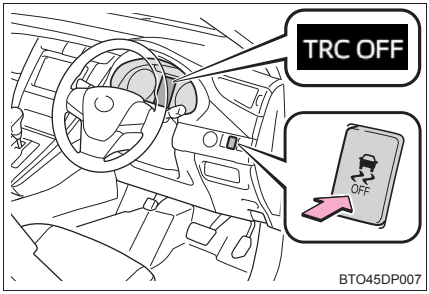
このようなときに [OFF] を押すことにより、脱出しやすくなります。

■ TRC を停止するには

TRC を停止するには [OFF] を押す

マルチインフォメーションディスプレイに「TRC OFF」と表示されます。

もう一度スイッチを押すと、システム作動可能状態にもどります。



VSC と TRC を停止するには

TRC と VSC を停止するには、停車時に [OFF] を押し 3 秒以上保持する

VSC OFF 表示灯が点灯し、マルチインフォメーションディスプレイに「TRC OFF」と表示されます。

もう一度 [OFF] を押すと、システム作動可能状態にもどります。

知識

■

を押さなくてもマルチインフォメーションディスプレイに「TRC　OFF」が表示されたとき

TRC が作動できない状態になっています。トヨタ販売店にご相談ください。

■TRC と VSC を停止したとき

プリクラッシュブレーキ、プリクラッシュブレーキアシスト（→P. 245）も作動を停止になります。
PCS 警告灯が点灯し、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。（→P. 357）

■ABS・ブレーキアシスト・VSC・TRC・ヒルスタートアシストコントロールの作動音と振動

●エンジン始動時や発進直後、ブレーキペダルをくり返し踏んだときに、エンジンルームから作動音が聞こえることがありますが、異常ではありません。

●上記のシステムが作動すると、次のような現象が発生することがありますが、異常ではありません。

・車体やハンドルに振動を感じる
・車両停止後もモーター音が聞こえる
・ABS の作動時に、ブレーキペダルが小刻みに動く
・ABS の作動終了後、ブレーキペダルが少し奥に入る

■EPS モーターの作動音

ハンドル操作を行ったとき、モーターの音（“ウィーン”という音）が聞こえることがありますが、異常ではありません。

■TRC や VSC の自動復帰について

TRC や VSC を作動停止にした場合でも、エンジン停止後に再始動すると、自動的に TRC や VSC は作動可能状態にもどります。

■TRC OFF の作動制限

TRC のみ作動を停止している場合は、車速が高くなると TRC は作動を再開します。
ただし、TRC と VSC の作動を停止している場合は、車速による作動再開はありません。

■EPS の効果が下がるとき

停車中か極低速走行中に長時間ハンドルをまわし続けると、EPS システムのオーバーヒートを避けるため、EPS の効果が下がりハンドルが重く感じられるようになります。また、このあいだ LDA（ステアリング制御付）の操舵力支援が作動しない場合があります。（→P. 352）
その場合は、ハンドル操作を控えるか、停車し、エンジンを停止してください。10 分程度でもとの状態にもどります。

■ヒルスタートアシストコントロールの作動条件

次のときシステムが作動します。

●シフトレバーの位置が P または N 以外（前進または後退での上り坂発進時）

●車両停止状態

●アクセルを踏んでいない

●パーキングブレーキがかかっていない

■ヒルスタートアシストコントロールの自動解除

次のいずれかのときシステムが解除されます。

●シフトレバーを P または N の位置にした

●アクセルを踏んだ

●パーキングブレーキをかけた

●ブレーキペダルから足を離して約 2 秒経過した

■緊急ブレーキシグナルの作動条件

次のときシステムが作動します。

●非常点滅灯が点滅していないこと

●車速が約 55km/h 以上

●ブレーキペダルが踏み込まれ、車両の減速度から急ブレーキだと判断された

■緊急ブレーキシグナルの自動解除

次のいずれかのときシステムが解除されます。

●非常点滅灯を点滅させた

●ブレーキペダルを離した

●車両の減速度から急ブレーキではないと判断された

警告

■ABS の効果を発揮できないとき

●タイヤのグリップ性能の限界をこえたとき（雪に覆われた路面を過剰に摩耗したタイヤで走行するときなど）

●雨でぬれた路面やすべりやすい路面での高速走行時に、ハイドロプレーニング現象が発生したとき

■ABS が作動することで、制動距離が通常よりも長くなる可能性があるとき

ABS は制動距離を短くする装置ではありません。特に次の状況では、常に速度を控えめにして前車と安全な車間距離をとってください。

●泥・砂利の道路や積雪路を走行しているとき

●タイヤチェーンを装着しているとき

●道路のつなぎ目など、段差をこえたとき

●凹凸のある路面や石だたみなどの悪路を走行しているとき

■TRC の効果を発揮できないとき

すべりやすい路面では、TRC が作動していても、車両の方向安定性や駆動力が得られないことがあります。車両の方向安定性や駆動力を失うような状況では、特に慎重に運転してください。

■ヒルスタートアシストコントロールの効果を発揮できないとき

ヒルスタートアシストコントロールを過信しないでください。急勾配の坂や、凍った路面ではヒルスタートアシストコントロールが効かないことがあります。

■スリップ表示灯が点滅しているとき

VSC または TRC が作動中であることを知らせています。常に安全運転を心がけてください。無謀な運転は思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。表示灯が点滅したら特に慎重に運転してください。

警告

■**TRC や VSC を OFF にするとき**

TRC や VSC は駆動力や車両の方向安定性を確保しようとするシステムです。そのため、必要なとき以外は TRC 機能、VSC 機能を作動停止状態にしないでください。TRC や VSC を作動停止状態にしたときは、路面状況に応じた速度で、特に慎重な運転を心がけてください。

■**タイヤを交換するとき**

4 輪とも指定されたサイズで、同じメーカー・銘柄・トレッドパターン（溝模様）のタイヤを使用し、推奨された空気圧にしてください。（→P. 407）
異なったタイヤを装着すると、ABS・TRC・VSC が正常に作動しません。
タイヤ、またはホイールを交換するときは、トヨタ販売店に相談してください。

■**タイヤとサスペンションの取り扱い**

問題があるタイヤを使用したり、サスペンションを改造したりすると、運転を補助するシステムに悪影響をおよぼし、システムの故障につながるおそれがあります。

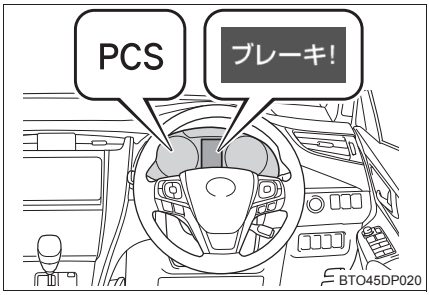
PCS（プリクラッシュセーフティシステム）★

レーダーセンサーにより、前方の車両や障害物と衝突の可能性があると判断したときに、警報により運転者に対して回避操作をうながし、衝突の防止に役立ちます。前方の障害物と衝突の可能性が高い、または前方の障害物と衝突が避けられないと検知したとき、自動的にブレーキを作動させ、乗員や車両への衝撃の軽減に寄与します。

必要に応じて、マルチインフォメーションディスプレイの操作でプリクラッシュセーフティシステムの ON ／ OFF を切りかえることができます。（→P. 246）

◆ 衝突警告表示

衝突の可能性が高いと検知したとき、“ピピピ・・・”とブザー音が鳴り、PCS 警告灯が点滅し、マルチインフォメーションディスプレイに衝突警告表示を出し、回避操作をうながします。



◆ プリクラッシュブレーキアシスト

衝突の可能性が高いときには、ブレーキペダルが踏まれる強さに反応してブレーキ力を増強します。

◆ プリクラッシュブレーキ

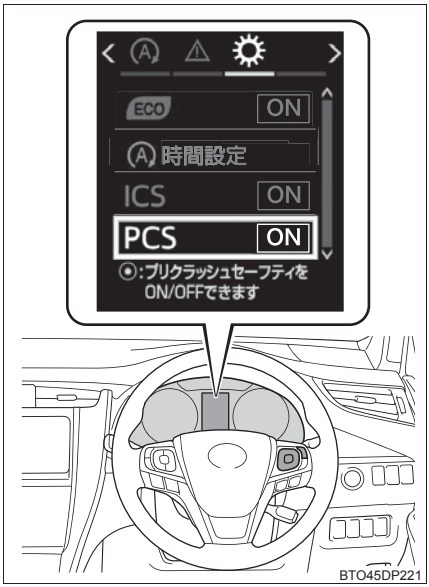
衝突の可能性が高いときに警告灯・警告表示・ブザー音で警報を行い、さらに衝突が避けられないと判断したときは、ブレーキが自動でかかり、衝突速度を低減します。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

プリクラッシュセーフティシステムの切りかえ

マルチインフォメーションディスプレイの「設定」（→P. 71）で ON（作動）／ OFF（停止）の切りかえができます。

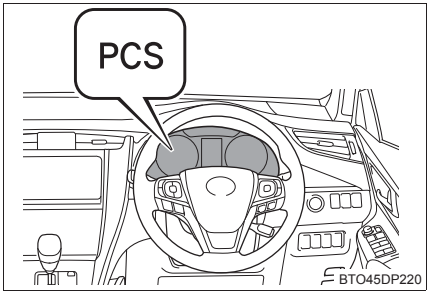
1 メーター操作スイッチ（→P. 70）の ⌃ または、⌄ を押して「PCS」を選択し、メーター操作スイッチの ◎ を押す



※グレード、オプションなどにより、マルチインフォメーションディスプレイに表示される項目は、上図と異なる場合があります。

2 マルチインフォメーションディスプレイの表示内容に従って、メーター操作スイッチの ⌃ または、⌄ を押して「はい」または、「いいえ」を選択し、メーター操作スイッチの ◎ を押す

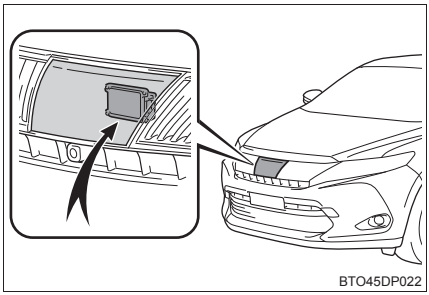
プリクラッシュセーフティシステムが OFF（停止）になっているときは、PCS 警告灯が点灯します。



OFF（停止）に切りかえて、プリクラッシュセーフティシステムを停止させた場合、再度、マルチインフォメーションディスプレイの「設定」から「PCS」を ON（作動）に切りかえないとシステムは復帰しません。（エンジンスイッチの操作では復帰しません）

レーダーセンサー

レーダーセンサーにより、走行中に路上またはその付近に車や障害物があるかどうかを検知し、そのものの位置や車速・進路から衝突する可能性を事前に判断します。



知識

■システムの作動条件

「PCS」が ON（→P. 246）で、次の状態のとき、作動します。

●警報の作動条件：

・車速が約 15km/h 以上
・自車から見た前方の車両や障害物の相対速度が約 15km/h 以上

●プリクラッシュブレーキアシストの作動条件：

・VSC OFF スイッチが押されていないとき
・車速が約 30km/h 以上
・自車から見た前方の車両や障害物の相対速度が約 30km/h 以上
・ブレーキペダルが踏まれているとき

●プリクラッシュブレーキの作動条件：

・VSC OFF スイッチが押されていないとき
・車速が約 15km/h 以上
・自車から見た前方の車両や障害物との相対速度が約 15km/h 以上

■衝突の可能性がなくてもシステムが作動するとき

センサーの前方がさえぎられる次のような場合、システムが衝突の可能性があると判断し、作動することがあります。

●カーブまたは右左折時に対向車とすれ違ったとき

●車両前方の障害物（前方車両・ETC ゲートなど）に急速に接近したとき

●上り坂を走行中など進行方向の道路上方に構造物（看板・低い天井・蛍光灯など）があるとき

●幅が狭い、または天井の低い場所（橋・トンネル・高架下など）を通過するとき

●凹凸のある路面を走行するとき

●路面上に金属物、段差または突起物があるとき

●車高が極端に変化しているとき

●センサー周辺への強い衝撃などにより、センサーの向きがずれているとき

●カーブの入り口の道路脇に障害物（ガードレールなど）があるとき

●自車の車両姿勢が前上がりになる場合（重い荷物を積んだときなど）

また、このとき、ブレーキをかけると通常よりブレーキが強くかかる場合があります。

■センサーが検知しない場合

パイロンなどのプラスチック類は検知できません。人や動物・二輪車・木・雪の吹きだまりなどは検知しない場合があります。

■システムの作動しない環境

プリクラッシュセーフティシステムは、想定されていない状況では有効に作動しない場合があります。

●きついカーブや起伏がある場所

●交差点などで、自車の進行方向に急な飛び出しがある状況

●自車の進行方向に車の急な割り込みがある状況

●雨・霧・雪・砂嵐などの悪天候の状況

●車両姿勢が極端に変化している状態

●レーダーセンサー周辺への強い衝撃などにより、レーダーセンサーの向きがずれているとき

●VSC システムが作動していないときに、車が横すべりしている状態

■システムの自動解除

システムの異常が検知された場合、センサーが障害物を検知できない状況（センサーの汚れなど）では、システムの動作が自動的に解除されます。このような場合には、衝突の可能性があってもシステムは有効に作動しません。

■システムに異常があるとき

PCS 警告灯が点滅し、マルチインフォメーションディスプレイに警告メッセージが表示されます。（→P. 349）

■TRC と VSC を停止したとき

●TRC と VSC の作動を停止（→P. 240）したときは、プリクラッシュブレーキ、プリクラッシュブレーキアシストの作動も停止します。
ただし、警報機能は作動します。

●PCS 警告灯が点灯し、マルチインフォメーションディスプレイに警告メッセージが表示されます。（→P. 357）

警告

■安全にお使いいただくために

●安全運転を行う責任は運転者にあります。常に周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。
プリクラッシュセーフティシステムを日常のブレーキ操作のかわりには絶対に使用しないでください。本システムはあらゆる状況で衝突を回避または軽減するものではありません。システムに頼ったり、安全を委ねる運転をすると思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●本システムは衝突の回避を支援、あるいは衝突の被害を軽減することを目的として設計していますが、その効果はさまざまな条件（→P. 247）によりかわります。そのため、常に同じ性能が発揮できるものではありません。また、プリクラッシュブレーキは運転者の操作状態によっては作動しません。運転者がブレーキペダルを踏んでいたり、ハンドルを操作していると、その操作状態によっては運転者の回避操作と判断され、自動ブレーキが作動しない場合があります。

■レーダーセンサーの取り扱い

プリクラッシュセーフティシステムが効果を発揮できるように次のことをお守りください。お守りいただかないと、センサーが正しく作動せず、思わぬ事故につながるおそれがあります。

●センサーとグリルカバーは常にきれいにしておく
お手入れをする際は、センサーやグリルカバーを傷付けないよう、やわらかい布を使ってください。

●センサー周辺への強い衝撃を避ける
センサーの位置がずれると、システムに誤動作または、異常が起こるおそれがあります。センサー、または周辺に強い衝撃を受けた際は、必ずトヨタ販売店にて点検を受け、調整してください。

●センサーを分解しない

●センサーやグリルカバー周辺にアクセサリーを付けたり、ステッカーを貼ったりしない

●センサーやグリルカバーを改造したり塗装したりしない

●レーダーセンサーの交換が必要な場合は、トヨタ販売店にご相談ください

●センサーは電波法の基準に適合しています。センサーに貼り付けられているラベルはその証明ですので、はがさないでください。また、センサーを分解・改造すると罰せられることがあります。

警告

■システムの支援内容に関する注意点

プリクラッシュセーフティシステムは、警報やブレーキ制御により衝突回避支援を行うために、運転者が「見る」・「判断する」・「操作する」過程で、支援を行います。システムの支援には限界があるため、次の点に注意してください。システムを過信すると思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●運転者が見る過程での支援内容
プリクラッシュセーフティシステムは、前方の障害物を可能な範囲で検知するのみであり、わき見やぼんやり運転を許容するシステムでも、視界不良時の運転を補助するシステムでもありません。運転者自らが周囲の状況に注意を払う必要があります。

●運転者が判断する過程での支援内容
プリクラッシュセーフティシステムは、検知しうる前方の障害物の情報のみから衝突の可能性を判断するものです。安全の確保の判断は運転者自らが行う必要があります。

●運転者が操作する過程での支援内容
プリクラッシュセーフティシステムの制動制御は、衝突が避けられないと判断した段階で作動するもので、運転者の適切な操作なしに衝突を回避したり、安全に停止させるものではありません。このため、危険性があれば自らが安全を確保する必要があります。

寒冷時の運転

寒冷時に備えて、準備や点検など正しく処置していただいた上で適切に運転してください。

冬を迎える前の準備

● 次のものはそれぞれ外気温に適したものをお使いください。
・エンジンオイル
・冷却水
・ウォッシャー液

● バッテリーの点検を受けてください。

● 冬用タイヤ（4 輪）やタイヤチェーン※を使用してください。

タイヤは 4 輪とも指定サイズで同一銘柄のものを、タイヤチェーン※はタイヤサイズに合ったものを使用してください。
（タイヤについて：→P. 303）

※ G's を除く

運転する前に

状況に応じて次のことを行ってください。

● ドアやワイパーが凍結したときは無理に開けたり動かしたりせず、ぬるま湯をかけるなどして氷を溶かし、すぐに水分を十分にふき取ってください。

● フロントウインドウガラス前の外気取り入れ口に雪が積もっているときは、エアコンのファンを正常に作動させるために、雪を取り除いてください。

● 外装ランプ・車両の屋根・タイヤの周辺やブレーキ装置に雪や氷が付いているときは、取り除いてください。

● 乗車する前に靴底に付いた雪をよく落としてください。

運転するとき

ゆっくりスタートし、車間距離を十分にとって控えめな速度で走行してください。

駐車するとき

パーキングブレーキをかけると、ブレーキ装置が凍結して解除できなくなるおそれがあります。パーキングブレーキはかけずに、シフトレバーをPに入れて駐車し、輪止め※をしてください。

※ 輪止めは、トヨタ販売店で購入することができます。

知識

■タイヤチェーンについて

▶ G's を除く

取り付け・取りはずし・取り扱い方法については次の指示に従ってください。

●安全に作業できる場所で行う

●前輪に取り付ける

●タイヤチェーンに付属の取扱説明書に従う

●取り付け後約 0.5 ～ 1.0km 走行したら締め直しを行う

▶ G's

この車にはタイヤチェーンは装着できません。

■寒冷地用ワイパーブレードについて

●降雪期に使用する寒冷地用ワイパーブレードは、雪が付着するのを防ぐために金属部分をゴムで覆ってあります。トヨタ販売店で各車指定のブレードをお求めください。

●高速走行時は、通常のワイパーブレードよりガラスがふき取りにくくなることがあります。その場合には速度を落としてください。

警告

■冬用タイヤ装着時の警告

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、車両のコントロールが不能となり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡事故につながるおそれがあります。

- 指定サイズのタイヤを使用する
- 空気圧を推奨値に調整する
- 装着する冬用タイヤの最高許容速度や制限速度をこえる速度で走行しない
- 冬用タイヤを装着する際は、必ず 4 輪とも装着する

■タイヤチェーン装着時の警告（G's を除く）

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、安全に車を運転することができずに、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 装着したチェーンに定められた制限速度、もしくは約 30km/h のどちらか低い方をこえる速度で走行しない
- 路面の凹凸や穴を避ける
- 急加速・急ハンドル・急ブレーキやシフト操作による急激なエンジンブレーキの使用は避ける
- カーブの入り口手前で十分減速して、車のコントロールを失うのを防ぐ

■駐車時の警告

パーキングブレーキをかけずに駐車するときは、必ず輪止めをしてください。
輪止めをしないと、車が動き思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

注意

■タイヤチェーンの使用について（G's を除く）

トヨタ純正タイヤチェーンのご使用をおすすめします。
トヨタ純正品以外のタイヤチェーンの中には、使用すると車体にあたり、走行のさまたげとなるおそれがあるものもあります。
詳しくはトヨタ販売店にご相談ください。

■フロントウインドウガラスに付いた氷を除去するとき

たたいて割らないでください。
ウインドウガラスの内側（車内側）が割れるおそれがあります。

室内装備・機能

5

5-1. エアコンとデフォッガーの使い方

オートエアコン 256

シートヒーター 265

5-2. 室内灯のつけ方

室内灯一覧 267

・フロントパーソナルランプ／フロントルームランプ 268

・リヤルームランプ 268

5-3. 収納装備

収納装備一覧 270

・小物入れ 271

・グローブボックス 271

・コンソールボックス 272

・カップホルダー／ボトルホルダー 273

ラゲージルーム内装備 275

・デッキフック 275

・ネットフック 275

・デッキアンダートレイ 276

5-4. その他の室内装備の使い方

その他の室内装備 277

・サンバイザー 277

・バニティミラー 277

・時計 278

・アクセサリーソケット／アクセサリーコンセント 279

・ワイヤレス充電器（おくだけ充電） 281

・アームレスト 287

・コートフック 288

・アシストグリップ 288

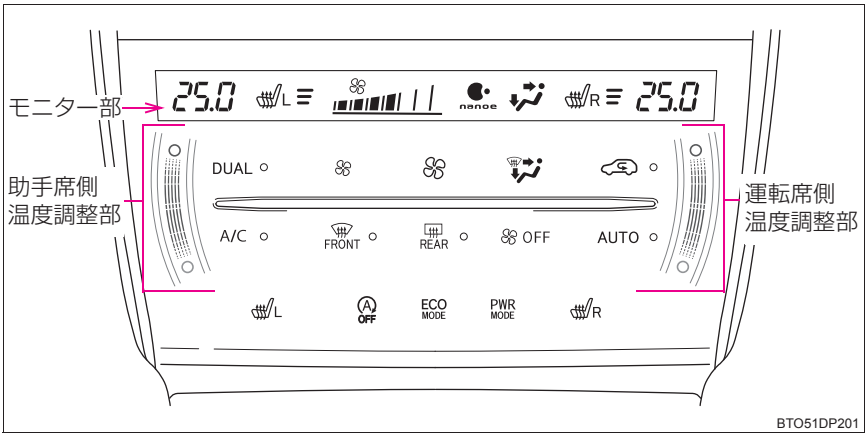
・ステアリングスイッチ 289

オートエアコン

設定温度に合わせて吹き出し口と風量を自動で調整します。

エアコン操作スイッチについて

スイッチにタッチすると操作音が鳴ります。

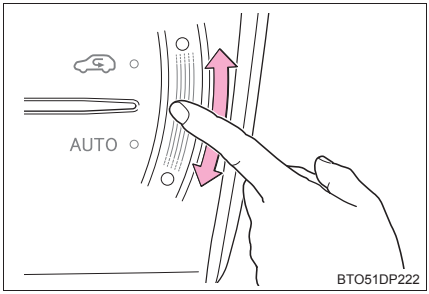


■ 温度を調整する

温度調整部にふれながら、指を上または下にスライドする

温度調整部の ○ 部分にタッチしても温度を調整することができます。

フリック操作について（→P. 260）



■ 風量を切りかえる

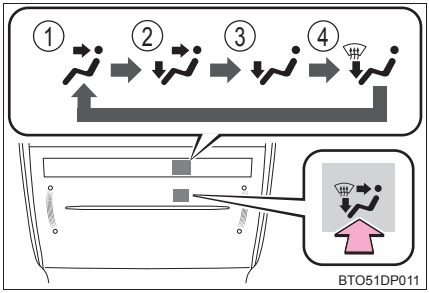
風量を増やすには： にタッチする

風量を減らすには： にタッチする

■ 吹き出し口を切りかえる

にタッチする

タッチするたびに吹き出し口が切りかわります。



① 上半身に送風

② 上半身と足元に送風

③ 足元に送風

④ 足元に送風・フロントウインドウガラスの曇りを取る

■ その他の機能

● 内気循環／外気導入を切りかえる（→P. 258）

● フロントウインドウガラスの曇りを取る（→P. 258）

● リヤウインドウの曇りやミラーの霜をとる（→P. 258）

オート設定で使用する

1 エアコン操作スイッチの AUTO にタッチする

2 温度を設定する

3 ファンをとめたいときは、OFF にタッチする

■ オート設定時の作動表示灯について

風量や吹き出し口を切りかえると、AUTO スイッチの作動表示灯が消灯しますが、操作した機能以外のオート設定は継続します。

■ 運転席と助手席の設定温度を別々に設定する（左右独立モード）

次のいずれかの操作をすると、左右独立モードが ON になります。

● エアコン操作パネルの DUAL にタッチする

● 助手席の設定温度を変更する

左右独立モードになり DUAL の作動表示灯が点灯します。

左右独立モードのとき、後席の吹き出し口の温度は、運転席側に連動しています。

その他の機能

■ 内気循環／外気導入を切りかえるには

にタッチするごとに、内気循環／外気導入が切りかわります。

内気循環：作動表示灯が点灯

外気導入：作動表示灯が消灯

■ フロントウインドウガラスの曇りをとるには

FRONT にタッチする

除湿機能が作動し、風量が増えます。内気循環にしている場合は、外気導入にしてください。（自動的に外気導入に切りかわることがあります。）

風量を強くし、設定温度を上げると、より早く曇りを取ることができます。曇りが取れたら再度 FRONT にタッチすると前のモードにもどります。

■ リヤウインドウデフォッガー & ミラーヒーター★

リヤウインドウの曇りを取るときや、ドアミラーから雨滴や霜を取るときに使用ください。

REAR にタッチする

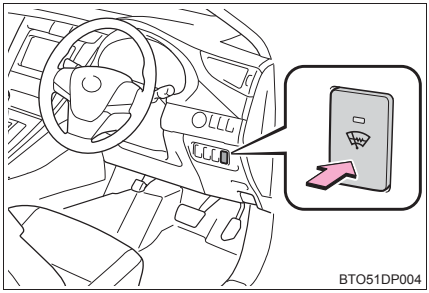
リヤウインドウデフォッガーは、しばらくすると自動的に OFF になります。

■ フロントワイパーデアイサー★

フロントウインドウガラスとワイパーブレードの凍結を防ぐために使用ください。

フロントワイパーデアイサーが ON のとき、スイッチの作動表示灯が点灯します。

フロントワイパーデアイサーは、しばらくすると自動的に OFF になります。

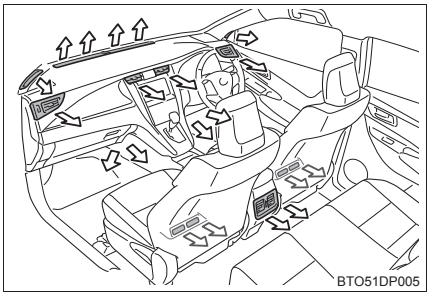


★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

吹き出し口について

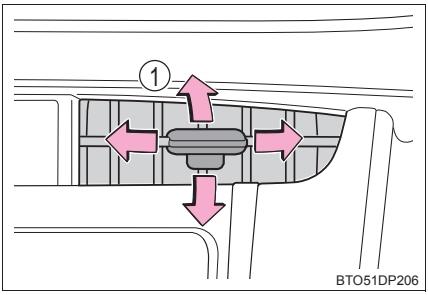
■ 吹き出し口の位置

吹き出し口の切りかえ設定により、風が出る位置や風量が変化します。

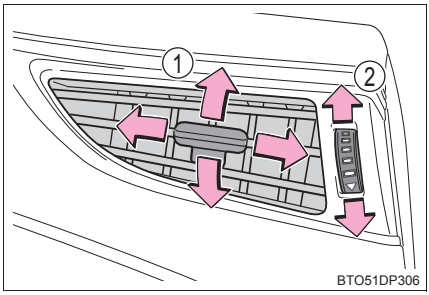


■ 風向きの調整と吹き出し口の開閉

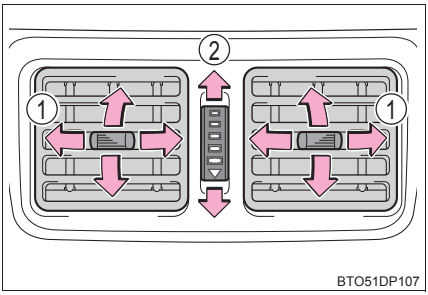
▶ フロント中央吹き出し口



▶ フロント左右吹き出し口



▶ リヤ吹き出し口



① 風向きの調整

② 吹き出し口の開閉

知識

■オート設定の作動について

風量は温度設定と外気の状態により自動で調整されるため、 AUTO にタッチした直後、温風や冷風の準備ができるまでしばらく送風が停止する場合があります。

■ガラスの曇りについて

●車室内の湿度が高いときはガラスが曇りやすくなります。その場合は、 A/C を ON にすると、吹き出し口から除湿された風が出るため、効果的に曇りを取ることができます。

● A/C を ON から OFF にすると、ガラスが曇りやすくなります。

●内気循環を使うとガラスが曇る場合があります。

■外気導入・内気循環について

●トンネルや渋滞などで、汚れた外気を車内に入れたくないときや、外気温度が高いときに冷房効果を高めたい場合は、内気循環にすると効果的です。

●設定温度や室内温度などにより、自動的に切りかわる場合があります。

■温度調整時のフリック操作について

温度調整部にふれながら、指を上または下にすばやくスライドすると、設定温度をすばやく（最大 8 ℃ずつの間隔）調整できます。

■エコドライブモードのエアコン作動について

●エコドライブモードは燃費性能を優先させるため、空調システムが次のように制御されます。

・エンジン回転数やコンプレッサーの作動を制御し、暖房 / 冷房の能力を抑制します。
・オート設定での使用時、ファンの風量を抑制します。

●空調の効きをより良くしたいときは、次の操作をおこなってください。

・風量を調整する
・エコドライブモードを解除する

■タッチ操作についてご留意いただきたいこと

●指（指の腹）で操作してください。

●操作部の表面にフィルムなどを貼ったり、塗装をしたとき、反応しないことがあります。

●ペン等は反応しません。

●モニター部はタッチ操作できません。

●操作するときは、他の指などがエアコン操作部にふれないようにしてください。

●連続して操作するときは、確実に指を離してから操作しなおしてください。

●操作部を強く押さないでください。

●操作部に水・異物が付着した場合、反応することがありますので、拭き取ってから操作してください。

■タッチ操作が正常に反応しないおそれのある状況

●手袋などを装着しているとき

●操作部の表面にフィルムなどを貼ったり、塗装をしたとき

●エアコン操作部が汚れていたり、水などが付着しているとき

●近くにテレビ塔や発電所・ガソリンスタンド・放送局・大型ディスプレイ・空港があるなど、強い電波やノイズの発生する場所にいるとき

●無線機や携帯電話などの無線通信機器を携帯しているとき

●エアコン操作部が次のような金属製のものに接していたり、覆われたりしているとき

・アルミ箔などの金属の貼られたカード
・アルミ箔を使用したタバコの箱
・金属製の財布やかばん
・小銭
・カイロ
・CD や DVD などのメディア

●エアコン操作部に触れていたり、手を近づけた状態でエンジンスイッチをアクセサリーモードまたはイグニッション ON モードにすると、エアコン操作部が反応しないことがあります。その場合、エアコン操作部から手を離し、約 10 秒待ってから再度エアコン操作部にタッチしてください。

■タッチ操作が反応しにくいときは

エアコン操作部が汚れていると、タッチ操作の際に反応しにくい場合があります。タッチ操作部は、こまめに清掃してください。

■エアコン操作部を清掃するときは

清掃する際にスイッチが反応することがあります。エンジンスイッチを OFF にしてから清掃してください。

■「ナノイー」※1について★

エアコンには「ナノイー」技術が搭載されています。この技術は運転席外側吹き出し口を通じて、水に包まれた肌や髪にやさしい弱酸性の「ナノイー」を放出し、室内を爽やかな空気環境に導きます※2。

●ファンが作動すると自動的に「ナノイー」が作動します。

●「ナノイー」の作動中、次の条件で効果を発揮します。次の条件以外では、効果が十分に得られない場合があります。

・吹き出し口が上半身に送風、上半身と足元に送風、または足元に送風のとき
・運転席外側吹き出し口が開いているとき

●「ナノイー」作動時は、微量のオゾンが発生し、かすかに臭うことがありますが、森林など、自然界に存在する程度の量なので、人体に影響はありません。

●作動中、かすかに作動音が聞こえることがありますが、異常ではありません。

※1「nanoe」、「ナノイー」および「nanoe」マークは、パナソニック株式会社の商標です。

※2 温湿度環境、風量・風向きによっては「ナノイー」の効果が十分に得られない場合があります。

■換気とエアコンの臭いについて

●車室外の空気を車室内に取り入れたいときは、外気導入にしてください。

●エアコン使用中に、車室内外のさまざまな臭いがエアコン装置内に取り込まれて混ざり合うことにより、吹き出し口からの風に臭いがすることがあります。

●エアコン始動時に発生する臭いを抑えるために、駐車時は外気導入にしておくことをおすすめします。

●エアコン始動時に発生する臭いを抑えるために、オート設定での使用時にはエアコン始動直後、しばらく送風が停止する場合があります。

■エアコンフィルターついて

→P. 308

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■エアコン操作パネルのスイッチの反応を変更するには

次の操作により、スイッチにタッチしてから反応するまでの時間を変更できます。

操作中はエアコンの操作はできません。

1 と A/C を約 3 秒間タッチする

モニター内の助手席側温度部に「01」～「05」が表示されます。

2 REAR にタッチするたびに、反応するまでの時間が次のように切りかわります。

01（約 0.06 秒）→ 02（約 0.10 秒）→ 03（約 0.14 秒）→ 04（約 0.16 秒）→ 05（約 0.20 秒）

お好みの設定を表示した状態のまま、約 5 秒間タッチ操作を行わないと、通常の助手席側温度表示に戻り、設定が完了します。

設定変更後、しばらくの間モニター部の表示がすべて点灯しますが、この間にエンジンスイッチを OFF にしないでください。
設定した内容が取り消しになります。

■エアコン操作パネルのスイッチ操作音を ON ／ OFF するには

次の操作により、スイッチにタッチした時の操作音を ON ／ OFF できます。

操作中はエアコンの操作はできません。

1 と A/C を約 3 秒間タッチする

モニター内の助手席側温度部に「On」または、「OFF」と表示されます。

2 REAR にタッチするたびに、ON ／ OFF が切りかわります。

「On」または、「OFF」を表示した状態のまま、約 5 秒間タッチ操作を行わないと、通常の助手席側温度表示にもどり、設定が完了します。

設定変更後、しばらくの間モニター部の表示がすべて点灯しますが、この間にエンジンスイッチを OFF にしないでください。
設定した内容が取り消しになります。

■カスタマイズ機能

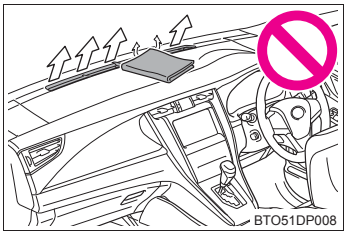
AUTO を ON にしたとき、連動して A/C を ON にさせるかどうかなどを設定できます。（カスタマイズ一覧 →P. 413）

警告

■フロントウインドウガラスの曇りを防止するために

●外気の湿度が高いときにエアコンを低い設定温度で作動させているときは、FRONT にタッチしないでください。外気とガラスの温度差でガラスの外側が曇り、視界をさまたげる場合があります。

●フロントウインドウガラスの曇り取りを妨げないために、吹き出し口をさえぎるようなものを置かないでください。送風がさえぎられ、曇りが取れにくくなることがあります。



■リヤウインドウデフォッガー＆ミラーヒーター★／フロントワイパーデアイサー作動中の警告★

●ドアミラーの表面が非常に熱くなります。やけどをするおそれがあるのでふれないでください。

●フロントウインドウガラス下部およびフロントピラー横の表面が熱くなっており、やけどをするおそれがあるのでふれないでください。

■「ナノイー」★について

このシステムは、高電圧の部品を含むため、分解・修理はしないでください。修理が必要な場合は、トヨタ販売店にお問い合わせください。

注意

■「ナノイー」★の損傷を防ぐために

運転席外側吹き出し口の近くでスプレーを使用したり、吹き出し口にものをはめ込んだり貼ったりしないでください。システムが正常に働かなくなるおそれがあります。

■バッテリーあがりを防ぐために

エンジン停止中は、エアコンを必要以上に使用しないでください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

シートヒーター★

フロントシートを暖めることができます。

警告

■**低温やけどを負うおそれがあるため、次のかたがシートヒーターにふれないようにご注意ください。**

●乳幼児、お子さま、お年寄り、病人、体の不自由なかた

●皮膚の弱いかた

●疲労の激しいかた

●深酒や眠気をさそう薬（睡眠薬、風邪薬など）を服用されたかた

■**異常加熱や低温やけどの原因になるおそれがあるため、シートヒーターを使用するときは次のことをお守りください。**

●長時間連続使用しないでください。

●毛布・クッションなどを使用しないでください。

注意

■**損傷を防ぐために**

凹凸のある重量物をシートの上に置いたり、針金や針などの鋭利なものを突き刺したりしないでください。

■**バッテリーあがりを防ぐために**

エンジンが停止した状態で使用しないでください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

操作のしかた

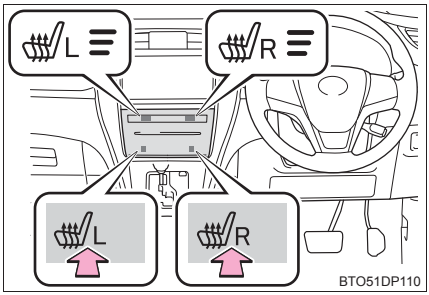
スイッチにタッチする

表示灯が点灯し ON になります。

スイッチにタッチするたびに、作動状態が次のように切りかわり、バーの数がかわります。

・強（3 個点灯）→ 中（2 個点灯）→ 弱（1 個点灯）→ OFF

R: 運転席
L: 助手席

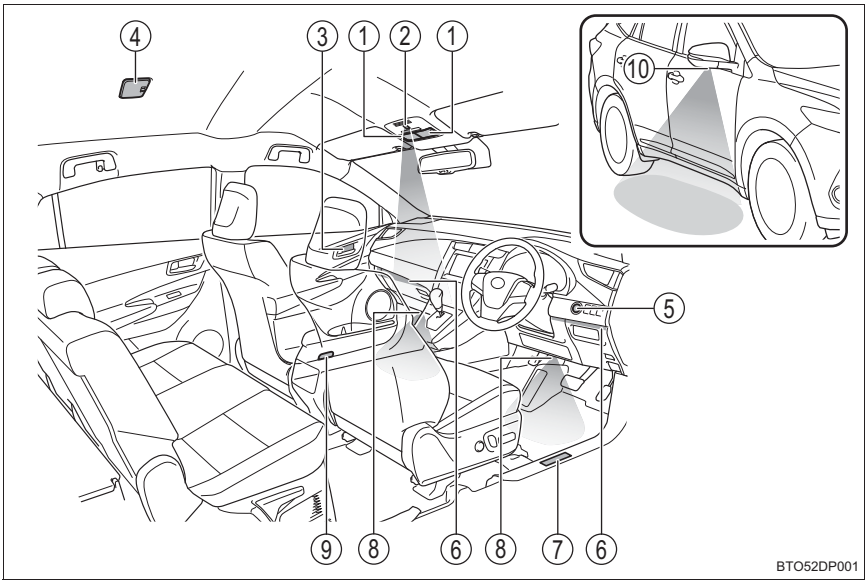


知識

■作動条件

エンジンスイッチがイグニッション ON モードのとき

室内灯一覧



① フロントパーソナルランプ／フロントルームランプ（→P. 268）

② フロントカップホルダー間接照明

③ フロントドアハンドル照明★

④ リヤルームランプ（→P. 268）

⑤ エンジンスイッチ照明

⑥ 運転席・助手席間接照明

⑦ フロントスカッフ照明★

⑧ 足元照明★

⑨ フロントドアカーテシランプ

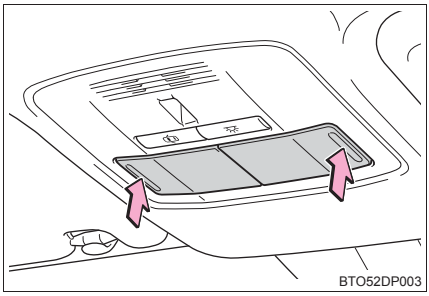
⑩ ドアミラー照明★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

フロントパーソナルランプ／フロントルームランプ

■ フロントパーソナルランプ

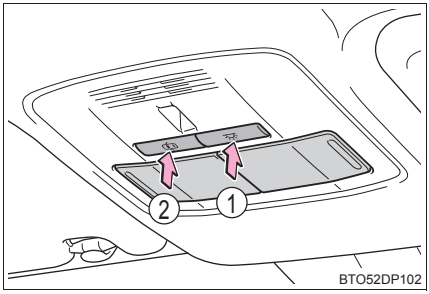
ランプを点灯・消灯する



■ フロントルームランプ

① ランプを点灯・消灯する

② ドアの開閉に連動してランプの点灯・消灯を切りかえる

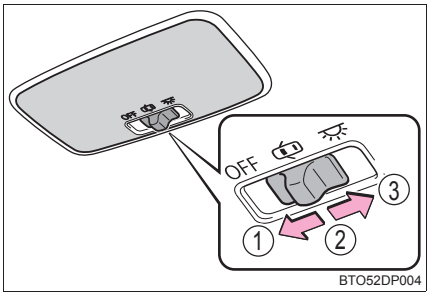


リヤルームランプ

① ランプを消灯する

② ドアの開閉に連動してランプの点灯・消灯を切りかえる

③ ランプを点灯する



知識

■イルミネーテッドエントリーシステム

電子キーの検知・ドアの施錠／解錠・ドアの開閉・エンジンスイッチのモードにより、各部の照明が自動的に点灯・消灯します。

■足元照明・フロントドアハンドル照明★について

シフトレバーをPからP以外にすると減光されます。

■バッテリーあがりを防ぐために

エンジンスイッチがOFFの場合、室内灯が点灯したままのときは、約20分後に自動消灯します。

■カスタマイズ機能

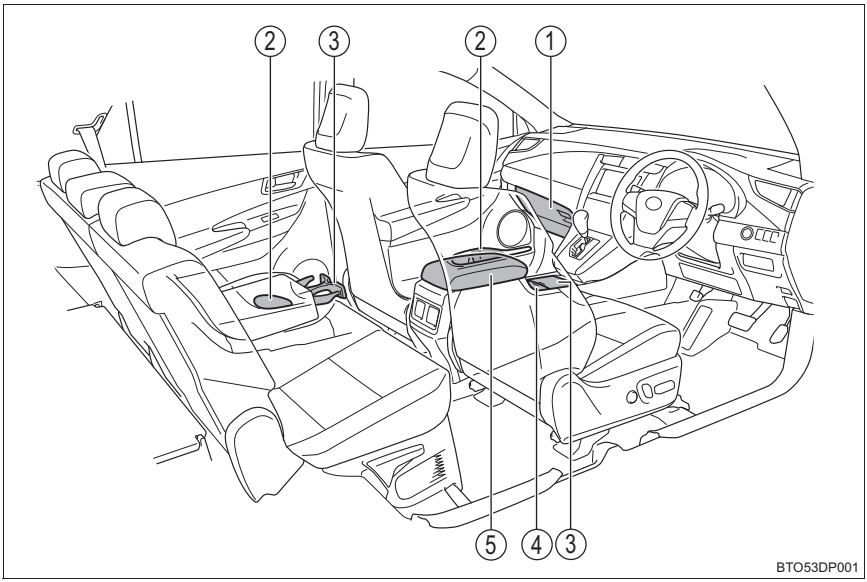
室内灯の消灯までの時間などの設定を変更できます。
（カスタマイズ一覧：→P. 414）

注意

バッテリーあがりを防ぐために、エンジンが停止した状態で、長時間ランプを点灯しないでください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

収納装備一覧



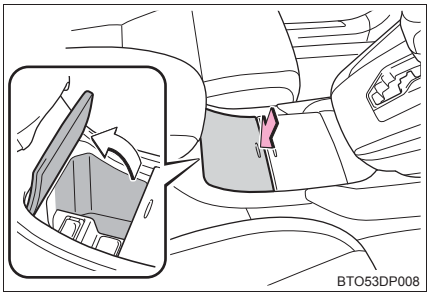
① グローブボックス（→P. 271）
② ボトルホルダー（→P. 273）
③ カップホルダー（→P. 273）
④ 小物入れ（→P. 271）
⑤ コンソールボックス（→P. 272）

警告

- メガネ･ライターやスプレー缶を収納装備内に放置したままにしないでください。
  放置したままでいると、次のようなことが起こるおそれがあり危険です。
  - ・室温が高くなったときの熱や、他の収納物との接触などにより、メガネが変形やひび割れを起こす
  - ・室温が高くなったときにライターやスプレー缶が爆発したり、他の収納物との接触でライターが着火したりスプレー缶のガスがもれるなどして火災につながる
- 収納装備を使わないときは、フタを必ず閉じてください。
  急ブレーキ時などに、開いたフタに体があたったり、収納していたものが飛び出したりして、思わぬ事故につながるおそれがあります。

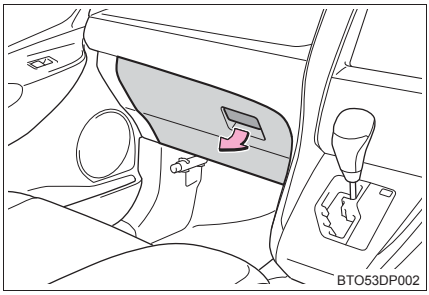
小物入れ

フタを押す

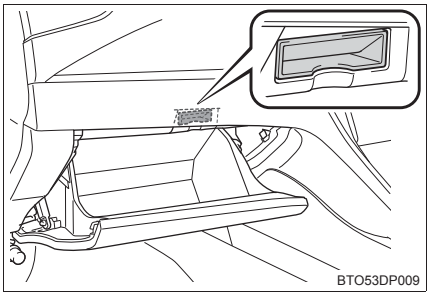


グローブボックス

開ける（レバーを引く）



■ カードホルダー



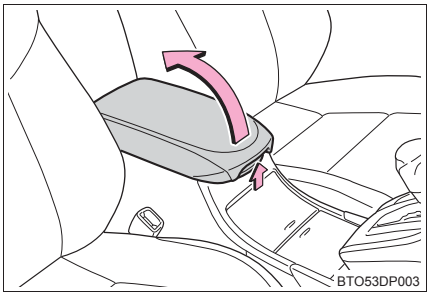
⚠ 注意

カードホルダーには、カード以外のものを入れないでください。カードホルダーが破損するおそれがあります。

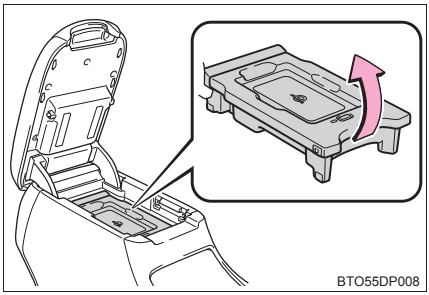
コンソールボックス

■ 開ける

1 ノブを持ち上げてロックを解除し開ける



2 ワイヤレス充電器（おくだけ充電）装着車は、ワイヤレス充電器を持ち上げる



知識

■ フロントアームレストについて

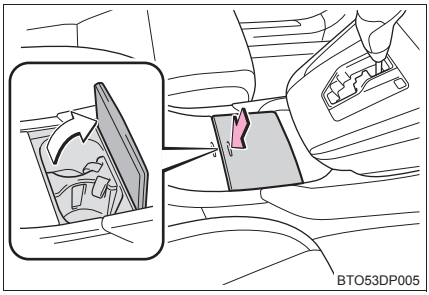
スライドして使用することができます。（→P. 287）

カップホルダー／ボトルホルダー

■ カップホルダー

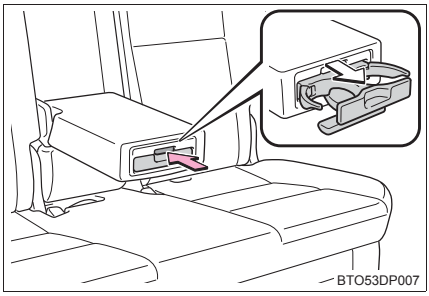
▶ フロント

カップホルダーのフタを押す



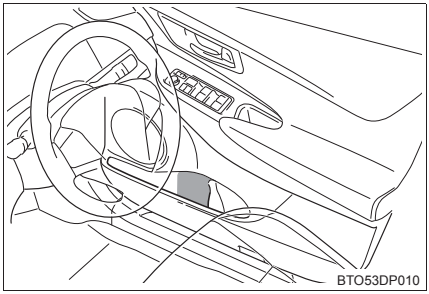
▶ リヤ

リヤアームレストを倒し、ボタンを押す

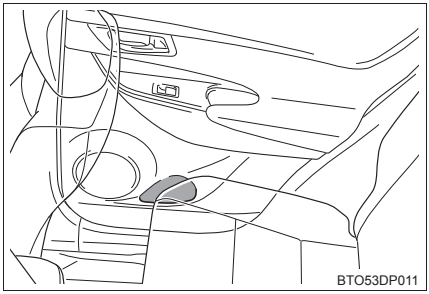


■ ボトルホルダー

▶ フロント



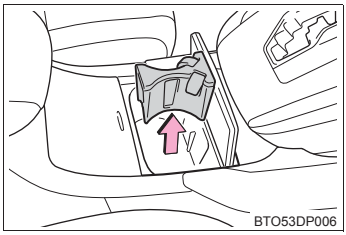
▶ リヤ



知識

■仕切りの取りはずし（フロントカップホルダー）

カップホルダー内を清掃するために、仕切りを取りはずすことができます。



■リヤカップホルダーを収納するとき

アームレストを倒した状態で収納してください。アームレストを倒した状態にしないと、収納できません。

■ボトルホルダーについて

●ペットボトルのフタを必ず閉めてから収納してください。

●ペットボトルの大きさ・形によっては収納できないことがあります。

警告

●カップホルダーにはカップや缶以外のものを置かないでください。
急ブレーキや事故により落ちてけがをするおそれがあります。

●やけどを防ぐために、カップホルダーに温かい飲み物を置くときはフタを閉めてください。

注意

●破損を防ぐためにリヤカップホルダーが出ている状態で、リヤアームレストを格納しないでください。

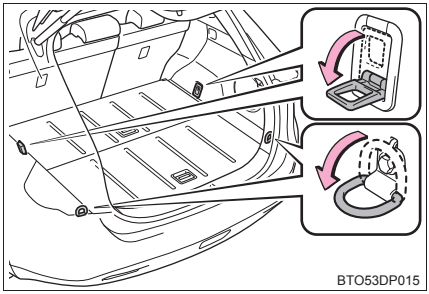
●ボトルホルダーには、ジュースなどが入っている紙コップ・ガラス製のコップなどを収納しないでください。ジュースなどがこぼれたり、ガラス製品が割れたりするおそれがあります。

ラゲージルーム内装備

デッキフック

フックを起こして使用してください。

フックを使って荷物を固定することができます。

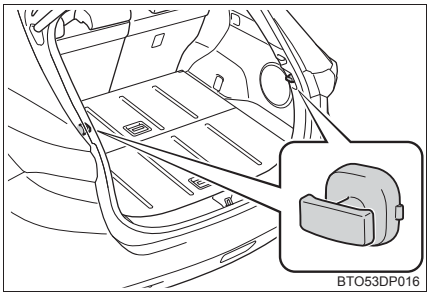


警告

デッキフックを使用しないときは、けがをしないように、必ずもとの位置にもどしておいてください。

ネットフック

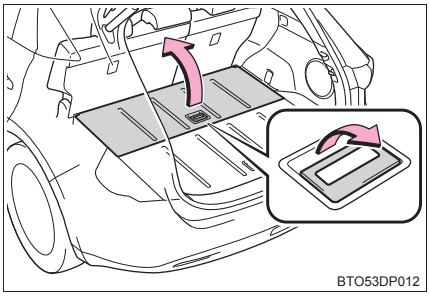
積荷ネットなどをかけるフックです。



デッキアンダートレイ

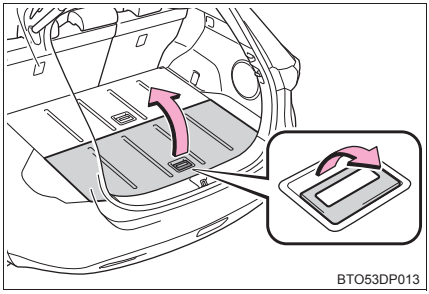
▶ 前側

レバーを引き上げ、カバーを持ち上げる



▶ うしろ側

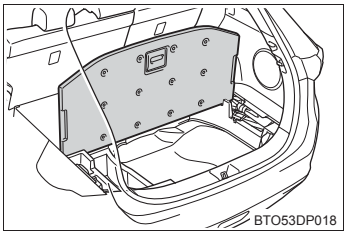
レバーを引き上げ、デッキボードを持ち上げる



知識

■ **デッキボードについて**

デッキアンダートレイの溝に立てて使用することができます。



警告

■ **デッキボードについて**

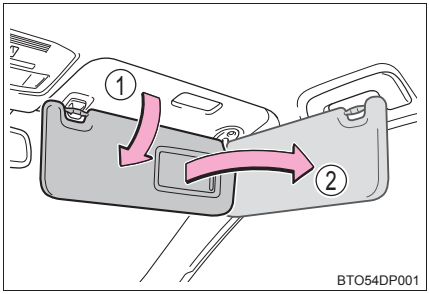
デッキアンダートレイの溝に立てたまま走行しないでください。思わぬ事故や急停車によりけがをするおそれがあります。

その他の室内装備

サンバイザー

① 前方をさえぎるには、バイザーを下ろす

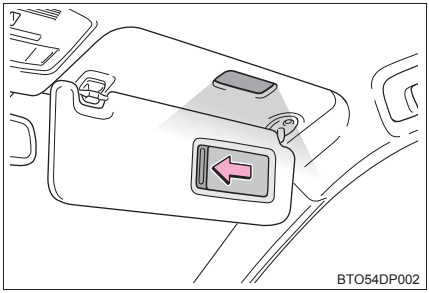
② 側方をさえぎるには、バイザーを下ろした状態でフックからはずし、横へまわす



バニティミラー

カバーをスライドして開ける

カバーを開けるとバニティミラーランプが点灯します。



⚠ 注意

バッテリーあがりを防止するために、エンジンが停止した状態で、長時間ランプを点灯しないでください。

時計

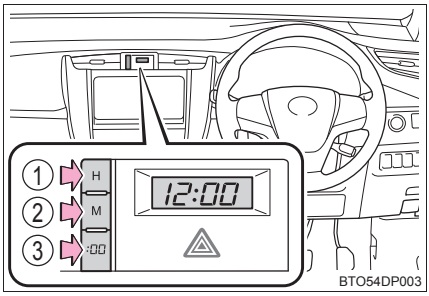
ボタンを押して時刻を調整することができます。

① “時”を調整する（H）

② “分”を調整する（M）

③ “分”を 00 にする※（：00）

※（例）1:00 ～ 1:29→1:00
1:30 ～ 1:59→2:00



知識

■時刻が表示されるとき

エンジンスイッチがアクセサリーモードまたはイグニッション ON モードのとき

アクセサリーソケット／アクセサリーコンセント★

次の電気製品を使うときの電源としてお使いください。

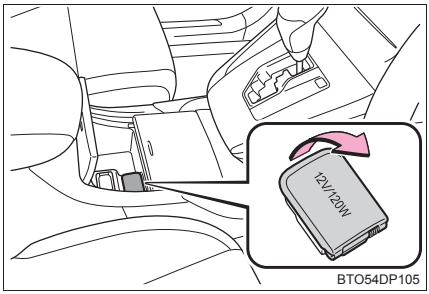
アクセサリーソケット：
DC12V/10A（消費電力 120W）未満の電気製品が使用するときの電源としてお使いください。

アクセサリーコンセント：
AC100V で最大消費電力 100W 以下の電気製品

■ アクセサリーソケット

▶ 小物入れ内

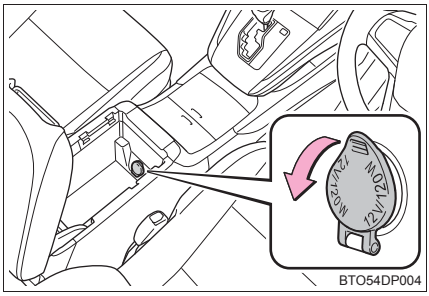
フタを開けて使用する



BTO54DP105

▶ コンソールボックス内

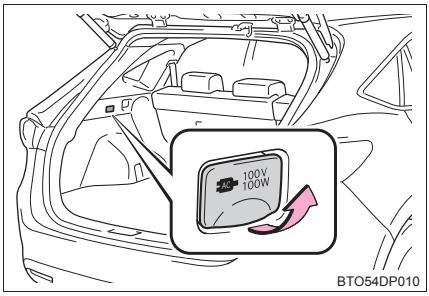
フタを開けて使用する



BTO54DP004

■ アクセサリーコンセント

フタを開けて使用する



BTO54DP010

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

知識

■使用条件

▶アクセサリーソケット

エンジンスイッチがアクセサリーモード、またはイグニッション ON モードのとき

▶アクセサリーコンセント

エンジンスイッチがイグニッション ON モードのとき

■アクセサリーソケットを使用するときは

接続する機器によっては、USB 接続端子★と同時に使用することができない場合があります。
USB 接続端子については、別冊「ナビゲーションシステム取扱書」を参照してください。

■Stop & Start システムが作動しているときは

Stop & Start システムの作動により、エンジン停止状態からエンジンが再始動するとき、一時的にアクセサリーコンセントが使用できないことがありますが、異常ではありません。

注意

■ショートや故障を防ぐために

挿し込み口に異物が入ったり、飲料水などがかかったりしないように、使用しないときは、フタを閉めておいてください。

■ヒューズが切れるのを防ぐために（アクセサリーコンセント）

AC100V で最大消費電力 100W 以上の電気製品を使用しないでください。消費電力が 100W をこえる電気製品を使用すると、保護回路が作動して電源を遮断します。

■バッテリーあがりを防ぐために

エンジンが停止した状態で、アクセサリーソケット／アクセサリーコンセントを長時間使用しないでください。

■正常に使用できないおそれのある電気製品（アクセサリーコンセント）

次のような AC100V の電気製品は、消費電力が 100W 以下の場合でも正常に作動しないおそれがあります。

- 起動時のピーク電力が高い電気製品
- 精密なデータを処理する計測機器
- 電源周波数の切りかえ（50 ／ 60Hz）のある機器
- 極めて安定した電力供給を必要とするその他の電気製品

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

ワイヤレス充電器（おくだけ充電）★

ワイヤレスパワーコンソーシアム（WPC）によるワイヤレス充電規格 Qi に適合した携帯電話やスマートフォンなどの携帯機器を充電エリアに置くだけで、携帯機器を充電することができます。

充電エリアより大きい携帯機器には本機能を使用できません。また、携帯機器によっては、正常に作動しない場合があります。
ご使用になる携帯機器に付属の取扱説明書もお読みください。

■「Qi」マークについて

「Qi」および Qi マークは、ワイヤレスパワーコンソーシアム（WPC）の登録商標です。

■「おくだけ充電」マークについて

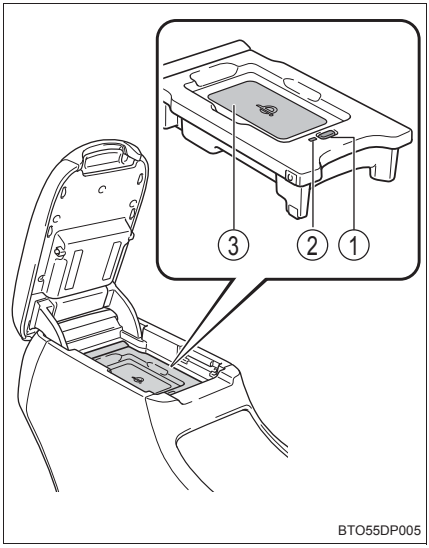
「おくだけ充電」および「おくだけ充電」マークは、株式会社 NTT ドコモの登録商標です。

■ 各部の名称

① 電源スイッチ

② 作動表示灯

③ 充電エリア

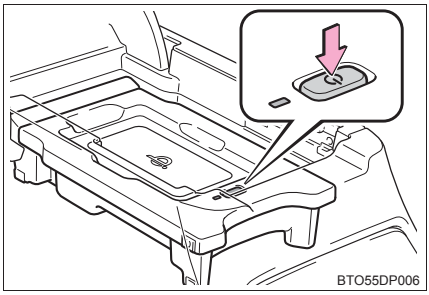


★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ 充電する

1 コンソールボックスのフタを開ける（→P. 272）

2 電源スイッチを押す

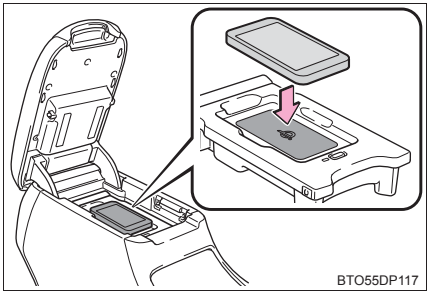


押すごとにONとOFFに切りかわります。

ON にすると作動表示灯が緑色に点灯します。

ワイヤレス充電器の電源の状態（ON／OFF）はエンジンスイッチを OFF にしても記憶されます。

3 充電エリアに携帯機器を置く



携帯機器の充電面が下になるように置いてください。

充電中は作動表示灯が橙色に点灯します。

充電が行われないときは、できるだけ充電エリアの中央付近に携帯機器を置き直してください。

充電が完了すると作動表示灯が緑色に点灯します。

● 再充電機能

・充電が完了し、充電停止状態が一定時間経過すると充電を再開します。
・携帯機器が移動すると、いったん充電が停止しますが、ただちに充電を再開します。

■ 作動表示灯の点灯状況

作動表示灯	状況
消灯	ワイヤレス充電器の電源が OFF のとき
緑（点灯）	待機中（充電可能状態）
	充電完了時※
橙（点灯）	充電エリアに携帯機器を置いたとき（携帯機器を検出中）
	充電中

※ 携帯機器によっては、充電完了後も表示灯が橙色に点灯し続ける場合があります。

● 作動表示灯が点滅したときは

エラーが発生すると作動表示灯が橙色に点滅します。次の表に基づき、対処をしてください。

作動表示灯	想定される原因	対処方法
1 秒間に 1 回の点滅をくり返す（橙色）	**ワイヤレス充電器の故障**	トヨタ販売店へお問い合わせください。
3 回連続の点滅をくり返す（橙色）	**異物検知** 携帯機器と充電エリアの間に異物がある	携帯機器と充電エリアの間にある異物を取り除いてください。
	携帯機器のずれ 置かれた場所から携帯機器がずれている	携帯機器を充電エリアの中央付近に置き直してください。
4 回連続の点滅をくり返す（橙色）	**ワイヤレス充電器内の温度上昇**	いったん充電を停止し、しばらく待ってから充電を開始してください。

知識

■作動条件

エンジンスイッチがアクセサリーモードまたはイグニッションONモードのとき

■使用できる携帯機器について

●ワイヤレス充電規格 Qi 準拠機器を使用できます。ただし、すべての Qi 準拠機器と互換性を保証しているものではありません。

●携帯電話やスマートフォンをはじめとする携帯機器を対象とした 5W 以下の低電力給電を対象としています。

■スマートエントリー＆スタートシステムの使用について

スマートエントリー＆スタートシステムが作動中は、一時的に充電が停止することがありますが、異常ではありません。

■携帯機器にカバーやアクセサリーを付けるときは

携帯機器に、「Qi」非対応のカバーやアクセサリーを付けた状態で充電しないでください。カバーやアクセサリーの種類によっては充電できない場合があります。充電エリアに携帯機器を置いても充電が行われないときは、カバーやアクセサリーをはずしてください。

■充電中に、AM ラジオにノイズが入るときは

ワイヤレス充電器の電源を OFF にして、ノイズが低減するか確認してください。ノイズが低減する場合は、充電中にワイヤレス充電器の電源スイッチを約 2 秒間押し続けることで、充電の周波数を切りかえてノイズを低減することができます。
また、その際、作動表示灯が橙色に 2 回点滅します。

■充電中の留意事項

充電中は、ワイヤレス充電器と携帯機器が温かくなりますが、異常ではありません。
充電中に携帯機器が温かくなったときは、携帯機器側の保護機能により、充電が停止することがあります。この場合、携帯機器の温度が十分に下がってから、再度、充電を行ってください。

■作動中の音について

電源スイッチを押して電源を ON にしたときや、携帯機器を検出中は“ジー”と作動音がしますが、異常ではありません。

■清掃について

→P. 297

警告

■車両走行中はコンソールボックスのフタを必ず閉じてください

急ブレーキ時などに、開いたフタに体があたったり、携帯機器が飛び出したりして、思わぬ事故につながるおそれがあります。

■運転中に携帯機器の操作をしないでください

携帯機器を充電する場合、安全のため、運転者は運転中に携帯機器本体の操作をしないでください。

■電波がおよぼす影響について

植込み型心臓ペースメーカー、植込み型両心室ペーシングパルスジェネレータおよび植込み型除細動器などの医療用電気機器を装着されている方は、ワイヤレス充電器のご使用にあたっては医師とよくご相談ください。ワイヤレス充電器の動作が医療用電気機器に影響を与えるおそれがあります。

■故障や火災を防ぐために

次のことをお守りください。
お守りいただかないと装置の故障や損傷、車両火災、発熱によるやけど、または感電につながるおそれがあります。

- 充電エリアと携帯機器の間に金属物をはさまない
- 小物入れがわりにものを置かない
- 強い力や衝撃をかけない
- 分解や改造、取りはずしをしない
- 指定された携帯機器以外は充電しない
- 磁気を帯びたものを近付けない
- 充電エリアに、ほこりがかぶった状態で充電しない
- ワイヤレス充電器に異物が入ったり、飲料水などがかかったりしないように、使用しないときは、コンソールボックスのフタを閉めておく
- 布などをかぶせて充電しない
- 充電エリアにアルミなどのシールや金属製のものを貼り付けない

⚠注意

■機能が正常に働かないおそれのある状況

次のような場合は正常に充電しない場合があります。

●携帯機器が満充電

●充電エリアと携帯機器の間に異物がある

●充電により、携帯機器の温度が高温になっている

●携帯機器の充電面を上にして置いた

●携帯機器の置き場所が充電エリアからずれている

●近くにテレビ塔や発電所・ガソリンスタンド・放送局・大型ディスプレイ・空港があるなど、強い電波やノイズの発生する場所にいるとき

●携帯機器が、次のような金属製のものに接していたり、覆われたりしているとき

・アルミ箔などの金属の貼られたカード
・アルミ箔を使用したタバコの箱
・金属製の財布やかばん
・小銭
・カイロ
・CD や DVD などのメディア

●近くで電波式ワイヤレスリモコンを使用しているとき

また、上記以外で、充電が正常に行われない、または、作動表示灯が点滅したままのときは、ワイヤレス充電器の異常が考えられます。トヨタ販売店へお問い合わせください。

■磁気カードや磁気記録メディア、精密機器などを近付けないでください。

充電エリアにクレジットカード・ETC カードなどの磁気カードや磁気記録メディアなどを近付けると、磁気の影響によりデータが消えることがあります。また、腕時計などの精密機器を近付けると、こわれたりすることがありますので、近付けないでください。

■バッテリーあがりを防止するために

エンジンを停止した状態で、ワイヤレス充電器を長時間使用しないでください。

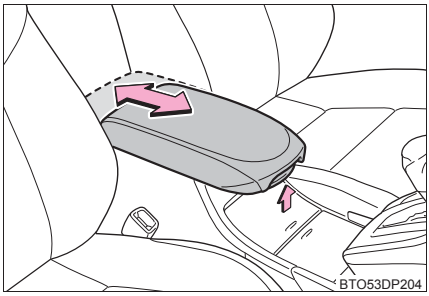
■携帯機器は車室内に放置しないでください

炎天下など、車室内が高温となり、故障の原因となります。

アームレスト

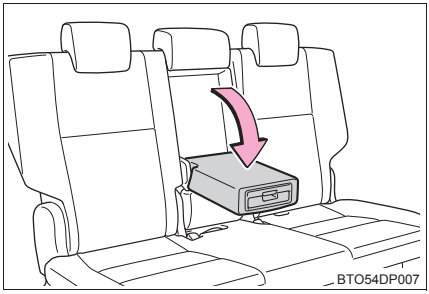
▶ フロント

ノブを持ち上げてロックを解除し、アームレストをスライドする



▶ リヤ

手前に倒して使用します。



知識

■ **フロントアームレストについて**

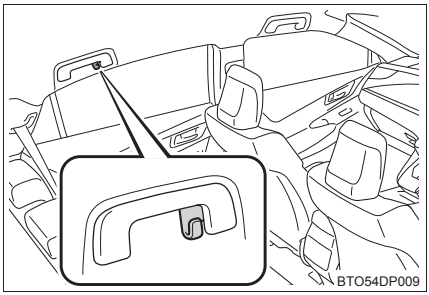
アームレストをスライドさせた状態からでもコンソールボックスを開けることができます。(→P. 272)

注意

アームレストの破損を防ぐために、過度の負荷をかけないでください。

コートフック

コートフックは、リヤのアシストグリップに付いています。

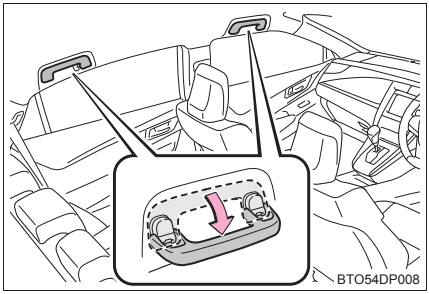


警告

ハンガーや他の硬いもの、鋭利なものをかけないでください。
SRS カーテンシールドエアバッグがふくらんだときにそれらのものが飛び、重大な傷害または死亡につながるおそれがあります。

アシストグリップ

天井に取り付けられているアシストグリップは、走行中にシートに座っている状態で体を支えるときにお使いください。



警告

アシストグリップは、乗車時やシートから立ち上がるときなどに使用しないでください。

注意

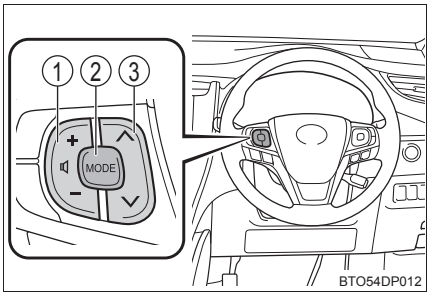
損傷を防ぐために、アシストグリップに過度の負荷をかけないでください。

ステアリングスイッチ

ハンドル左側にあるスイッチで、オーディオを操作することができます。装着されているオーディオ・ナビゲーションシステムによっては、操作が異なる場合があります。詳しくは製品に付属の各説明書をご覧ください。

メーカーオプションのナビゲーションシステム装着車にお乗りのかたは、別冊「ナビゲーションシステム取扱書」をご覧ください。

① 音量を調整する
② 電源を入れる、モードの切りかえ
③ CD、ラジオなどの操作



■ 電源を入れる

を押す

スイッチを長押しするとオーディオの電源が OFF になります。
・装着されたオーディオにより“ピッ”と音が鳴ることがあります。

■ モードを切りかえる

オーディオの電源が ON のとき、

を押す

押すごとにモード（CD、ラジオなど）が切りかわります。

■ 音量を調整する

音量を大きくするには

の“＋”側を、小さくするときは“－”側を押す

スイッチを押し続けると、音量を連続して調整できます。

⚠ 警告

運転中にオーディオスイッチを操作するときは、十分注意してください。

お手入れのしかた

6

6-1. お手入れのしかた
外装の手入れ.....292
内装の手入れ.....296
6-2. 簡単な点検・部品交換
ボンネット 299
ガレージジャッキ.....301
ウォッシャー液の補充.....302
タイヤについて.....303
タイヤ空気圧について 306
エアコンフィルターの交換 ...308
電子キーの電池交換.....310
ヒューズの点検・交換.....312
電球（バルブ）の交換.....315

外装の手入れ

お手入れは、次の項目を実施してください。

- 水を十分かけながら車体・足まわり・下まわりの順番に上から下へ汚れを洗い落とす
- 車体はスポンジやセーム皮のようなやわらかいもので洗う
- 汚れがひどいときはカーシャンプーを使用し、水で十分洗い流す
- 水をふき取る
- 水のはじきが悪くなったときは、ワックスがけを行う

  ボデーの表面の汚れを落としても水が玉状にならないときは、車体の温度が冷えているときにワックスをかける（およそ体温以下を目安としてください）

なお、ボデーコート・ホイールコート・ガラスコートなど、トヨタケミカル商品を施工された場合は、お手入れ方法が異なります。
詳しくはトヨタ販売店にお問い合わせください。

知識

■自動洗車機を使うとき

- ドアミラーを格納し、車両前側から洗車してください。また、走行前は必ずドアミラーを復帰状態にもどしてください。
- ブラシで車体に傷が付き、塗装を損なうことがあります。

■高圧洗浄機を使うとき

- 室内に水が入るおそれがあるため、ノズルの先端をドアガラスやドア枠付近に近付けすぎないでください。
- 洗車の前に給油口が確実に閉まっていることを確認してください。
- 駆動系部品（ディファレンシャルギヤなど）のベアリングやオイルシール部品に近付けすぎないでください。
  近付けすぎると、水圧が高いため、内部への水入りやグリス流出により、性能が劣化するおそれがあります。

■洗車などで車に水をかけたとき

電子キーを携帯して洗車などで水をドアハンドルにかけた場合、施錠・解錠動作をくり返すことがあります。その場合は次のような処置をして、洗車などをしてください。

●電子キーを車両から 2m 以上離れた場所に保管する
（電子キーの盗難に注意してください）

●電子キーを節電モードに設定し、スマートエントリー＆スタートシステムの作動を停止する（→P. 104）

■アルミホイール★

●中性洗剤を使用し、早めに汚れを落としてください。研磨剤の入った洗剤や硬いブラシは塗装を傷めますので使用しないでください。

●夏場の長距離走行後などでホイールが熱いときは、洗剤は使用しないでください。

●洗剤を使用したあとは早めに十分洗い流してください。

■バンパーについて

研磨剤入りの洗剤でこすらないようにしてください。

■フロントドアガラスの撥水コーティングについて

●撥水効果を長持ちさせるため、次のことに注意してください。

・フロントドアガラス表面の泥などの汚れを落とす
・汚れは早めにやわらかい湿った布などで清掃する
・コンパウンド（磨き粉）が入ったガラスクリーナーやワックスを使用しない
・金属製の道具で霜取りをしない

●水滴のはじきが悪くなったときは補修することができます。
詳しくはトヨタ販売店にお問い合わせください。

■レインクリアリングミラーの親水効果回復作業について

鏡面の親水効果は、太陽光をあてることにより徐々に回復します（→P. 124）が、速く回復させたいときは次の作業を行ってください。

1 鏡面に水をかけ、泥汚れなどを洗い流す

2 水を含ませたきれいなやわらかい布などで汚れを落とす

3 ガラスクリーナーか中性洗剤で洗浄後、十分な水で洗剤を洗い流す

4 きれいなやわらかい布などで鏡面に付いた水をふき取る

5 屋外に車両を駐車し、鏡面に太陽光を 5 時間程度あてる
（汚れの量や種類により、回復時間は異なります）

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

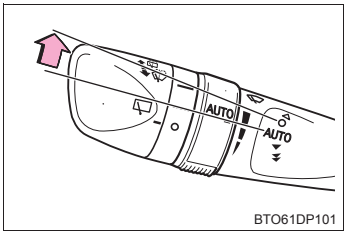
警告

■洗車をするとき

エンジンルーム内に水をかけないでください。
電気部品などに水がかかると、車両火災につながるおそれがあり危険です。

■フロントウインドウガラスを清掃するとき（雨滴感知式ワイパー装着車）

ワイパースイッチを停止の位置にしてください。AUTO モードになっていると、次のようなときにワイパーが不意に作動し、指などを挟み重大な傷害を受けたり、ワイパーブレードなどを損傷するおそれがあります。



- 雨滴センサー上部のフロントウインドウガラスに手でふれたとき
- 水分を含んだ布などを雨滴センサーに近付けたとき
- フロントウインドウガラスに衝撃を与えたとき
- 車内から雨滴センサー本体にふれるなどして衝撃を与えたとき

■排気管について

排気管は排気ガスにより高温になります。洗車などでふれる場合は、十分に排気管が冷めてからにしてください。やけどをするおそれがあります。

注意

■塗装の劣化や車体・部品（ホイールなど）の腐食を防ぐために

- 次のような場合は、ただちに洗車してください。
  - ・海岸地帯を走行したあと
  - ・凍結防止剤を散布した道路を走行したあと
  - ・コールタール・花粉・樹液・鳥のふん・虫の死がいなどが付着したとき
  - ・ばい煙･油煙･粉じん･鉄粉･化学物質などの降下が多い場所を走行したあと
  - ・ほこり・泥などで激しく汚れたとき
  - ・塗装にベンジンやガソリンなどの有機溶剤が付着したとき
- 塗装に傷が付いた場合は、早めに補修してください。
- ホイール保管時は、腐食を防ぐために汚れを落とし、湿気の少ない場所へ保管してください。

⚠注意

■ランプの清掃

●注意して洗ってください。有機溶剤や硬いブラシは使用しないでください。
ランプを損傷させるおそれがあります。

●ランプにワックスがけを行わないでください。
レンズを損傷するおそれがあります。

■ラジエターグリルの清掃

次のことをお守りください。お守りいただかないと、ラジエターグリルの表面を損傷するおそれがあります。

●洗車前には、あらかじめラジエターグリル表面についたほこりや、泥・砂などの異物を水で取り除いておく

●硬いブラシやたわし、先のとがったものなどは使用せず、やわらかい布・スポンジなどを使って清掃する

●汚れを落とすときは中性洗剤を使用し、ガラスコート・カーワックスなどの油脂類・ガラスクリーナーなどのアルコール類・研磨剤の入ったものは使用しない
洗車後は、洗剤が残らないように水を十分にかけて洗い流してください。

●鉄粉が付着したときは、乾いた布でこすらず、水を流しながら軽く拭きとるようにして取り除く

■自動洗車機を使用するとき（雨滴感知式ワイパー装着車）

ワイパースイッチを停止の位置にしてください。（→P. 170）
AUTO になっていると、不意にワイパーが作動してワイパーブレードなどを損傷するおそれがあります。

■高圧洗浄機を使用するとき

ノズルの先端を、下記部品の結合部やブーツ類（ゴム又は樹脂製のカバー）、コネクタ類に近付けすぎないでください。
高い水圧がかかることにより、部品が損傷するおそれがあります。

・駆動系部品
・ステアリング部品
・サスペンション部品
・ブレーキ部品

内装の手入れ

お手入れは、次の要領で実施してください。

室内の手入れ

- 掃除機などでほこりを取り除き、水またはぬるま湯を含ませた布でふき取る
- 汚れが落ちない場合は、中性洗剤を水で約 1%に薄めてやわらかい布に含ませふき取る
  水を浸した布を固くしぼり、表面に残った洗剤・水分をふき取る

本革部分の手入れ

- 掃除機などでほこりや砂を取り除く
- うすめた洗剤をやわらかい布に含ませ、汚れをふき取る
  ウール用の中性洗剤を水で約 5% に薄めて使用してください。
- 水を浸した布を固くしぼり、表面に残った洗剤をふき取る
- 乾いたやわらかい布で表面の水分をふき取り、風通しのよい日陰で乾燥させる

合成皮革部分の手入れ

- 掃除機などでほこりを取り除く
- 中性洗剤を水で約 1%に薄めてやわらかい布に含ませふき取る
- 水を浸した布を固くしぼり、表面に残った洗剤・水分をふき取る

知識

■本革部分のお手入れの目安

品質を長く保つため、年に 2 回程度の定期的なお手入れをおすすめします。

■カーペットの洗浄

カーペットは常に乾いた状態を保つことをおすすめします。洗浄には、市販の泡タイプクリーナーがご利用になれます。
スポンジまたはブラシを使用して泡をカーペットに広げ、円を描くように塗り込んでください。直接水をかけたりせず、ふき取ってから乾燥させてください。

■シートベルト

刺激の少ない洗剤とぬるま湯で、布やスポンジを使って洗ってください。
シートベルトのすり切れ・ほつれ・傷などを定期的に点検してください。

■スーパー UV カットガラス★について

- ドアガラスが汚れているときは、早めに水またはぬるま湯を含ませた布で軽くふいて清掃してください。
- ドアガラスの汚れがひどいときは、ドアガラスの開閉をくり返さないでください。

⚠警告

■車両への水の浸入

- 車内に水をかけたり液体をこぼしたりしないでください。
  電気部品などに水がかかると、故障や車両火災につながるおそれがあり危険です。
- SRS エアバッグの構成部品や電気配線をぬらさないでください。（→P. 33）
  電気の不具合により、SRSエアバッグが作動したり、正常に機能しなくなり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- ワイヤレス充電器（おくだけ充電）★（→P. 281）をぬらさないでください。
  発熱によるやけど、または感電により重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■内装の手入れをするときは（特にインストルメントパネル）

艶出しワックスや艶出しクリーナーを使用しないでください。インストルメントパネルがフロントウインドウガラスへ映り込み、運転者の視界をさまたげ思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

⚠注意

■清掃するとき使用する溶剤について

●変色・しみ・塗装はがれの原因になるため、次の溶剤は使用しないでください。

・シート以外の部分：ベンジン・ガソリンなどの有機溶剤や酸性またはアルカリ性の溶剤・染色剤・漂白剤

・シート部分：シンナー・ベンジン・アルコール、その他の酸性やアルカリ性の溶剤

●艶出しワックスや艶出しクリーナーを使用しないでください。
インストルメントパネルやその他内装の塗装のはがれ・溶解・変形の原因になるおそれがあります。

■革の傷みを避けるために

皮革の表面の劣化や損傷を避けるために、次のことをお守りください。

●革に付着したほこりや砂はすぐに取り除く

●直射日光に長時間さらさないようにする
特に夏場は日陰で車を保管する

●ビニール製・プラスチック製・ワックス含有のものは、車内が高温になると革に張り付くおそれがあるため、革張りの上に置かない

■床に水がかかると

水で洗わないでください。
オーディオやフロアカーペット下にある電気部品に水がかかると、車の故障の原因となったり、ボデーが錆びるおそれがあります。

■フロントウインドウガラスの内側を掃除するときは（LDA< ステアリング制御付 > 装着車）

白線認識用カメラ（→P. 201）にさわらないように注意してください。
誤って傷を付けたり衝撃を与えたりすると、LDA（ステアリング制御付）の誤作動や故障につながるおそれがあります。

■リヤウインドウガラスの内側を掃除するときは

●熱線を損傷するおそれがあるため、ガラスクリーナーなどを使わず、熱線にそって水またはぬるま湯を含ませた布で軽くふいてください。

●熱線を引っかいたり、損傷させないように気を付けてください。

■スーパー UV カットガラス★を清掃するときは

ドアガラスを清掃するときは、コンパウンドまたは研磨剤入り用品（ガラスクリーナー・洗剤・ワックスなど）を使用しないでください。コーティングを損傷させるおそれがあります。

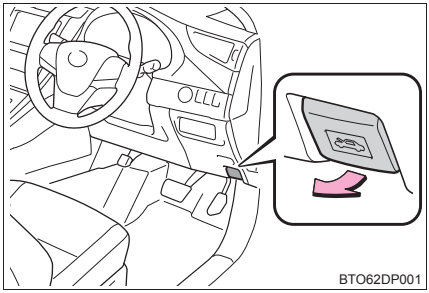
★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

ボンネット

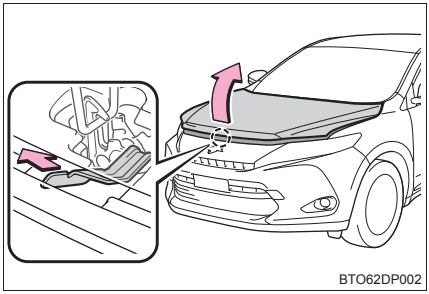
室内からロックを解除して、ボンネットを開けます。

1 ボンネット解除レバーを引く

ボンネットが少し浮き上がります。



2 レバーを引き上げて、ボンネットを開ける



警告

■走行前の確認

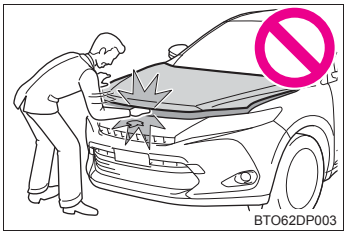
ボンネットがしっかりロックされていることを確認してください。
ロックせずに走行すると、走行中にボンネットが突然開いて、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■エンジンルーム点検後の確認

エンジンルーム内に工具や布を置き忘れていないことを確認してください。
点検や清掃に使用した工具や布などをエンジンルーム内に置き忘れていると、故障の原因になったり、また、エンジンルーム内は高温になるため車両火災につながるおそれがあり危険です。

■ボンネットを閉めるとき

手などを挟まないように注意してください。
重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。



注意

■ボンネットやダンパーステーへの損傷を防ぐために

- ボンネットを閉めるときは、体重をかけるなどして強く押さないでください。ボンネットがへこむおそれがあります。
- ボンネットには、ボンネットを支えるためのダンパーステーが取り付けられています。ダンパーステーの損傷や作動不良を防ぐため、次のことをお守りください。
  - ・ビニール片・ステッカー・粘着材などの異物をステーのロッド部（棒部）に付着させない
  - ・ロッド部を軍手などでふれない
  - ・ボンネットにトヨタ純正品以外のアクセサリー用品を付けない
  - ・ステーに手をかけたり、横方向に力をかけたりしない

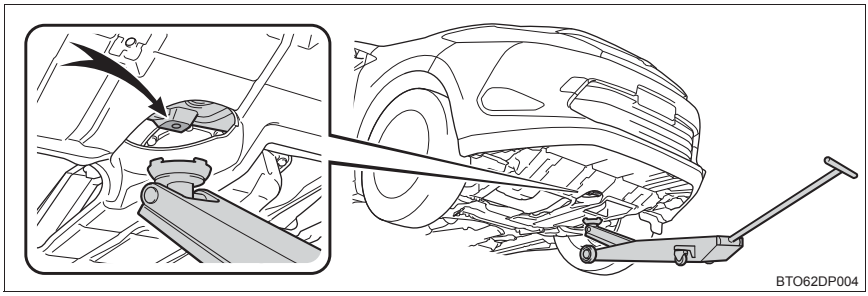
ガレージジャッキ

ガレージジャッキを使用するときは、ガレージジャッキに付属の取扱説明書に従って、安全に作業してください。

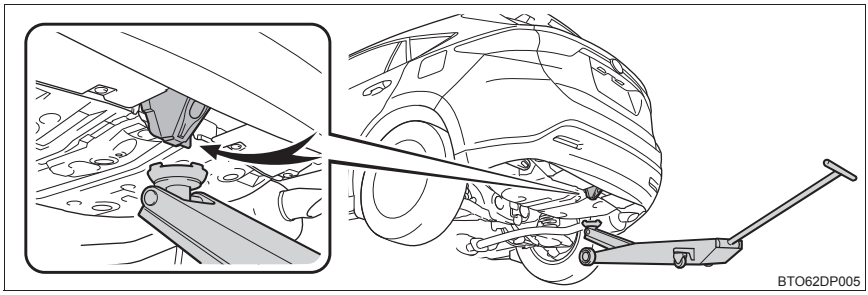
ガレージジャッキを使用して車両を持ち上げるときは、正しい位置にガレージジャッキをセットしてください。

正しい位置にセットしないと、車両が損傷したり、けがをするおそれがあります。

◆ フロント側



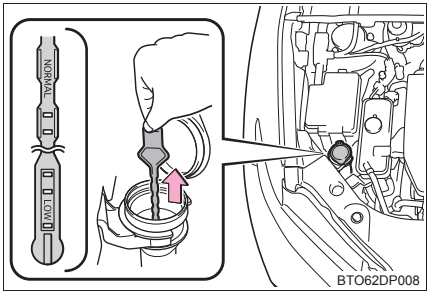
◆ リヤ側



ウォッシャー液の補充

補充のしかた

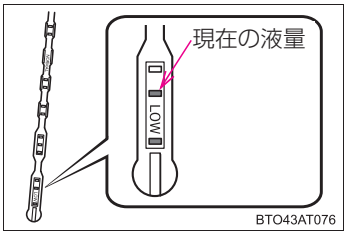
液面が LOW の位置に近付いたらウォッシャー液を補給してください。



知識

■ゲージの使い方

ウォッシャー液の膜が張っているゲージの穴部の位置を確認して、ウォッシャー液の残量を判断します。
残量がゲージの先端から 2 つめの穴部より下まわった（LOW の位置まで低下した）ら、ウォッシャー液を補給してください。



警告

■ウォッシャー液を補充するとき

エンジンが熱いときやエンジンがかかっているときは、ウォッシャー液を補充しないでください。
ウォッシャー液にはアルコール成分が含まれているため、エンジンなどにかかると出火するおそれがあり危険です。

注意

■ウォッシャー液について

ウォッシャー液のかわりに、せっけん水やエンジン不凍液などを入れないでください。塗装にしみが付くおそれがあります。

■ウォッシャー液のうすめ方

必要に応じて水でうすめてください。水とウォッシャー液の割合は、ウォッシャー液の容器に表示してある凍結温度を参考にしてください。

タイヤについて

タイヤの点検は、法律で義務付けられています。日常点検として必ずタイヤを点検してください。
タイヤの摩耗を均等にし寿命をのばすために、タイヤローテーション（タイヤ位置交換）を 5,000km ごとに行ってください。

タイヤの点検項目

タイヤは次の項目を点検してください。
点検方法は別冊「メンテナンスノート」を参照してください。

- タイヤ空気圧

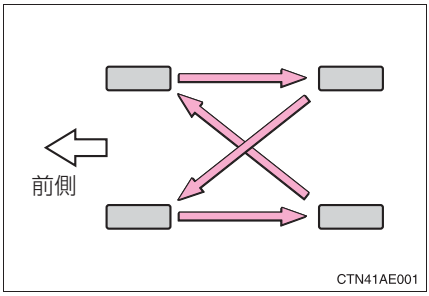
  空気圧の点検は、タイヤが冷えているときに行ってください。

- タイヤの亀裂・損傷の有無
- タイヤの溝の深さ
- タイヤの異常摩耗（極端にタイヤの片側のみが摩耗していたり、摩耗程度が他のタイヤと著しく異なるなど）の有無

タイヤローテーションのしかた

図で示すようにタイヤのローテーションを行います。

タイヤの摩耗状態を均一にし、寿命をのばすために、トヨタは定期点検ごとのタイヤローテーションをおすすめします。



知識

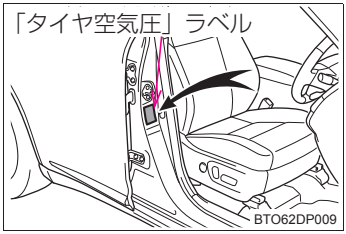
■タイヤ空気圧の数値

タイヤサイズ	ホイールサイズ	空気圧※ kPa（kg/cm^2）	
		前輪	後輪
225/65R17 102H	17 × 6 1/2J	240（2.4）	
	17 × 7 J		
235/55R18 100H	18 × 7 1/2J	220（2.2）	
235/50R19 99V	19 × 8J		

応急用タイヤ★：420kPa（4.2kg/cm^2）※

タイヤの指定空気圧は、運転席側のタイヤ空気圧ラベルで確認することができます。

※ タイヤが冷えているときの空気圧



■タイヤ関連の部品を交換するとき

タイヤ・ディスクホイール・ホイール取り付けナットを交換するときは、トヨタ販売店にご相談ください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

警告

■点検・交換時の警告

必ず次のことをお守りください。
お守りいただかないと、駆動系部品の損傷や不安定な操縦特性により、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- タイヤはすべて同一メーカー・同一銘柄・同一トレッドパターンで、摩耗差のないタイヤを使用する
- メーカー指定サイズ以外のタイヤやホイールを使用しない
- ラジアルタイヤ・バイアスベルテッドタイヤ・バイアスプライタイヤを混在使用しない
- サマータイヤ・オールシーズンタイヤ・冬用タイヤを混在使用しない

■異常があるタイヤの使用禁止

異常があるタイヤをそのまま装着していると、走行時にハンドルをとられたり、異常な振動を感じることがあります。また、次のような事態になり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

- 破裂などの修理できない損傷を与える
- 車両が横すべりする
- 車両の本来の性能（燃費・車両の安定性・制動距離など）が発揮されない

注意

■走行中に空気もれが起こったら

走行を続けないでください。
タイヤまたはホイールが損傷することがあります。

■悪路走行に対する注意

段差や凹凸のある路上を走行するときは注意してください。
タイヤの空気が抜けて、タイヤのクッション作用が低下します。また、タイヤ・ホイール・車体などの部品も損傷するおそれがあります。

タイヤ空気圧について

タイヤの空気圧を適正に維持するために、タイヤの空気圧点検を月に 1 回以上実施してください。（→ 407）

知識

■タイヤ空気圧が適正でない場合

適切に調整されていないタイヤ空気圧で走行すると、次のようなことが起こる場合があります。

- 燃費の悪化
- 乗り心地や操縦安定性の低下
- 摩耗によるタイヤ寿命の低下
- 安全性の低下

ひんぱんにタイヤ空気圧が低下する場合は、トヨタ販売店でタイヤの点検を受けてください。

■タイヤ空気圧の点検のしかた

タイヤ空気圧の点検の際は、次のことをお守りください。

- タイヤが冷えているときに点検する
- タイヤ空気圧ゲージを必ず使用する
  タイヤの外観だけでは空気圧が適正がどうか判断できません。
- 走行後はタイヤの発熱により空気圧が高くなります。異常ではありませんので減圧しないでください。
- 荷物を積んだり、多人数で乗車するときは荷重を不均等にかけないようにする

警告

■**タイヤの性能を発揮するために**

適正なタイヤ空気圧を維持してください。
タイヤ空気圧が適正に保たれていないと、次のようなことが起こるおそれがあり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 過度の摩耗
- 偏摩耗
- 操縦安定性の低下
- タイヤの過熱による破裂
- タイヤとホイールのあいだからの空気漏れ
- ホイールの変形、タイヤの損傷
- 走行時にタイヤが損傷する可能性の増大
  （路上障害物、道路のつなぎ目や段差など）

注意

■**タイヤ空気圧の点検・調整をしたあとは**

タイヤのバルブキャップを確実に取り付けてください。
バルブキャップをはずしていると、ほこりや水分がバルブに入り空気が漏れ、タイヤの空気圧が低下するおそれがあります。

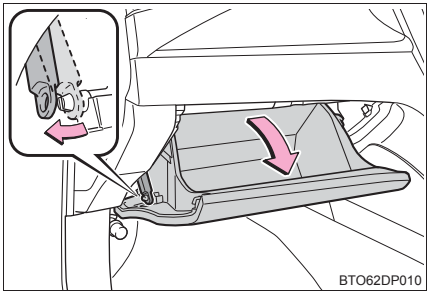
エアコンフィルターの交換

エアコンを快適にお使いいただくために、エアコンフィルターを定期的に交換してください。

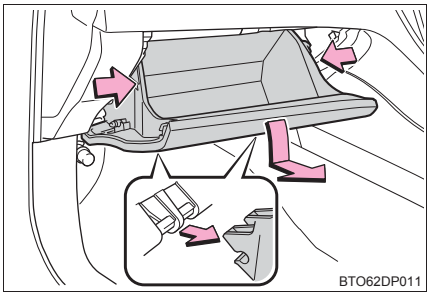
交換のしかた

1 エンジンスイッチを OFF にする

2 グローブボックスを開き、ダンパーステーのピンをはずす



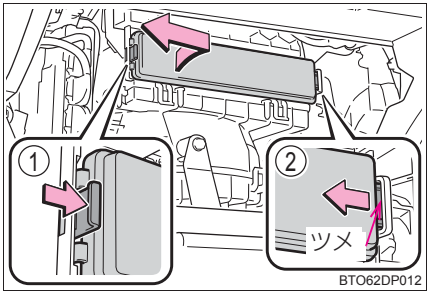
3 グローブボックス側面を内側に押して上部のツメを片側ずつはずし、下部のツメを下方向へ引きながらはずして取りはずす



4 フィルターカバーを取りはずす

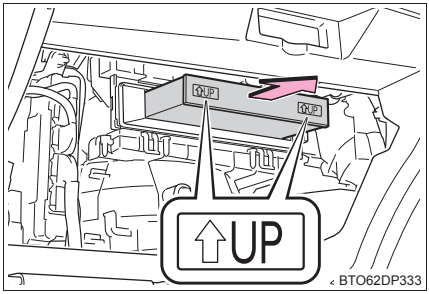
① フィルターカバーの固定を解除する

② フィルターカバーを矢印の方向にずらし、ツメからフィルターカバーを抜く



5 フィルターを取りはずし、新しいフィルターと交換する

「↑ UP」マークの矢印が上を向くように取り付けます。



知識

■エアコンフィルターの交換について

エアコンフィルターは次の時期を目安に交換してください。

15,000km[7,500km ※] ごと

※大都市や寒冷地など、交通量や粉じんの多い地区

■エアコンの風量が減少したときは

フィルターの目詰まりが考えられますので、フィルターを交換してください。

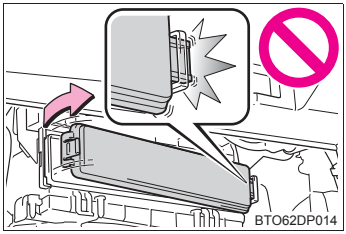
注意

■エアコンを使用するときの注意

- フィルターを装着せずにエアコンを使用すると、故障の原因になることがあります。必ずフィルターを装着してください。
- フィルターは交換するタイプです。
  水洗いやエアブローによる清掃はしないでください。

■破損を防ぐために

フィルターカバーの固定を解除するときに、フィルターカバーを矢印の方向に動かす際は、ツメに無理な力が加わらないよう注意してください。
ツメが破損するおそれがあります。



電子キーの電池交換

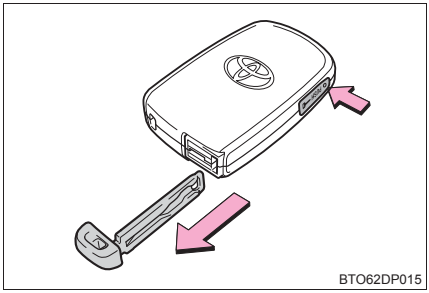
電池が消耗しているときは、新しい電池に交換してください。

用意するもの

- マイナスドライバー
- 小さいマイナスドライバー
- リチウム電池 CR2032

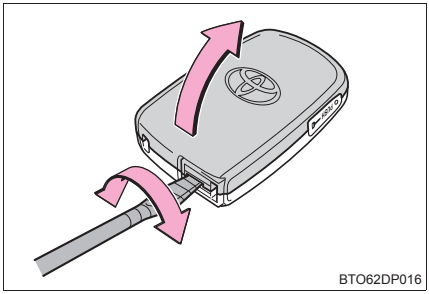
電池交換のしかた

1 メカニカルキーを抜く


BTO62DP015

2 カバーをはずす

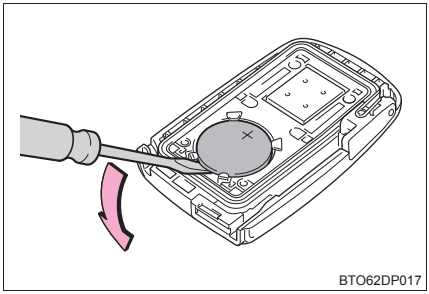
傷が付くのを防ぐため、マイナスドライバーの先端に布などを巻いて保護してください。


BTO62DP016

3 消耗した電池を取り出す

カバーをはずしたときに、上側のカバーに電子キーのモジュールが貼り付き、電池面が隠れている場合があります。この場合、電子キーのモジュールをひっくり返し、図のように電池が見える状態で作業してください。

新しい電池は、＋極を上にして取り付けます。


BTO62DP017

4 取り付けるときは、取りはずしたときと逆の手順で取り付ける

知識

■リチウム電池 CR2032 の入手

電池はトヨタ販売店・時計店およびカメラ店などで購入できます。

■電子キーの電池が消耗していると

次のような状態になります。

●スマートエントリー＆スタートシステム・ワイヤレス機能が作動しない

●作動距離が短くなる

警告

■取りはずした電池と部品について

お子さまにさわらせないでください。
部品が小さいため、誤って飲み込むと、のどなどにつまらせ重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

注意

■交換後、正常に機能させるために

次のことを必ずお守りください。

●ぬれた手で電池を交換しない
錆の原因になります。

●電池以外の部品に、ふれたり動かしたりしない

●電極を曲げない

ヒューズの点検・交換

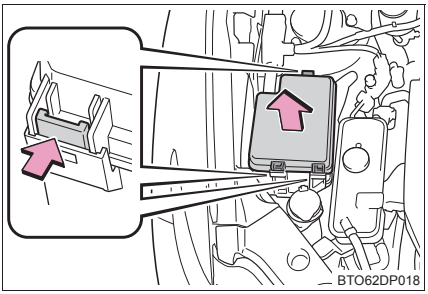
ランプがつかないときや電気系統の装置が働かないときは、ヒューズ切れが考えられます。ヒューズの点検を行ってください。

1 エンジンスイッチを OFF にする

2 ヒューズボックスを開ける

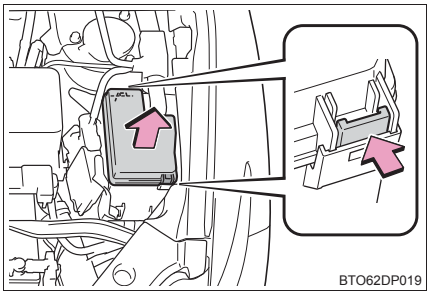
▶ エンジンルーム（1）

ツメを押しながら、カバーを取りはずす



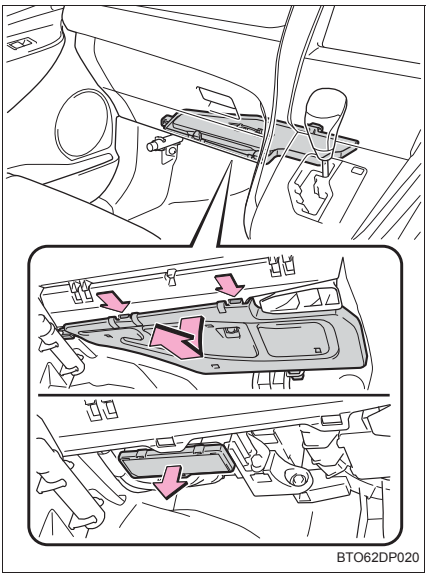
▶ エンジンルーム（2）

ツメを押しながら、カバーを取りはずす



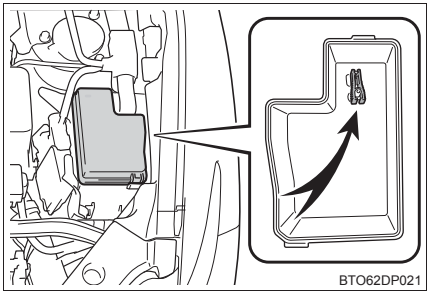
▶ 助手席足元

足元のカバーを取りはずし、ヒューズボックスのカバーを取りはずす



3 ヒューズを引き抜く

ヒューズはずしでヒューズを引き抜くことができます。

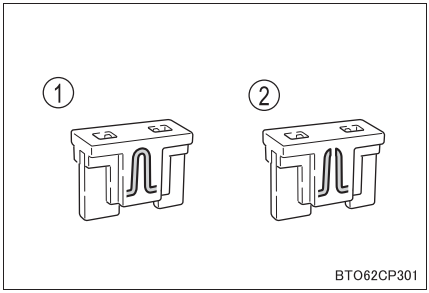


4 ヒューズが切れていないか点検する

① 正常

② ヒューズ切れ

ヒューズボックスの表示に従い、規定容量のヒューズに交換します。



知識

■ヒューズを交換したあとは

●交換してもランプ類が点灯しないときは、電球を交換してください。（→P. 315）

●交換しても再度ヒューズが切れる場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。

■バッテリーからの回路に過剰な負荷がかかると

配線が損傷を受ける前にヒューズが切れるように設計されています。

■電球（バルブ）を交換するとき

この車両に指定されているトヨタ純正品のご使用をおすすめします。一部の電球は過電流を防止する専用回路に接続されているため、この車両指定のトヨタ純正品以外は使用できない場合があります。

警告

■**車の故障や、車両火災を防ぐために**

次のことをお守りください。
お守りいただかないと、車の故障や火災、けがをするおそれがあります。

●規定容量以外のヒューズ、またはヒューズ以外のものを使用しないでください。

●必ずトヨタ純正ヒューズか同等品を使用してください。

●ヒューズやヒューズボックスを改造しないでください。

注意

■**ヒューズを交換する前に**

ヒューズが切れた原因が電気の過剰負荷だと判明したときは、トヨタ販売店で点検を受けてください。

電球（バルブ）の交換

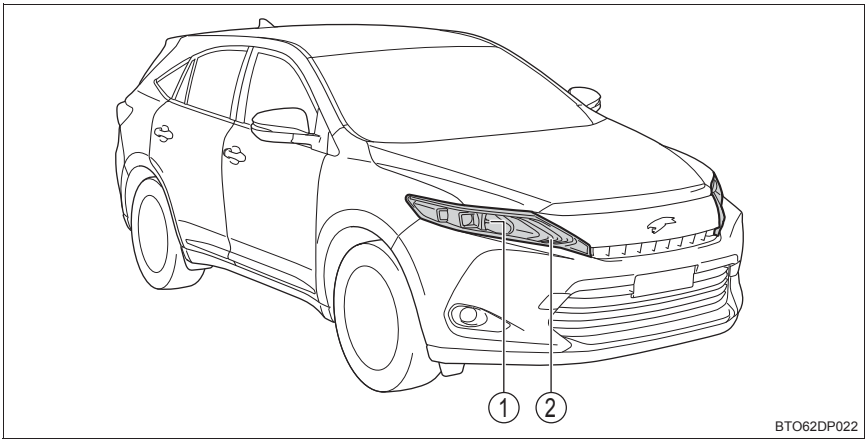
次に記載する電球は、ご自身で交換できます。電球交換の難易度は電球によって異なります。部品が破損するおそれがあるので、トヨタ販売店で交換することをおすすめします。

電球の用意

切れた電球の W（ワット）数を確認してください。（→P. 407）

バルブ位置

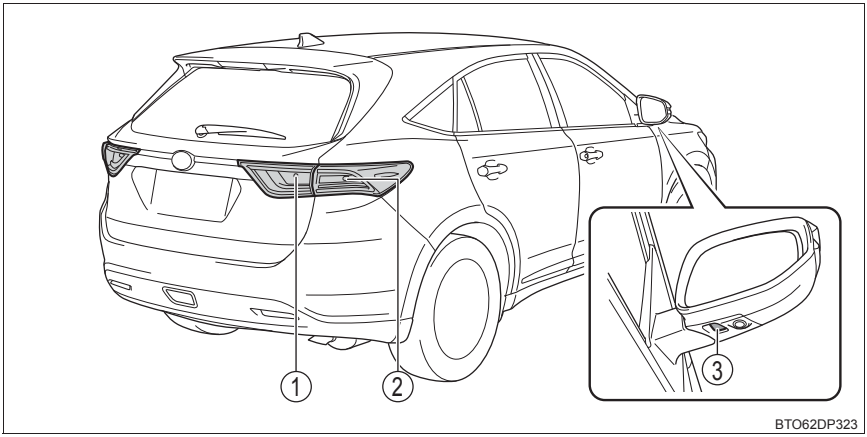
■ フロント



① ヘッドランプハイビーム

② フロント方向指示灯／非常点滅灯

■ リヤ



① 後退灯

② リヤ方向指示灯／非常点滅灯

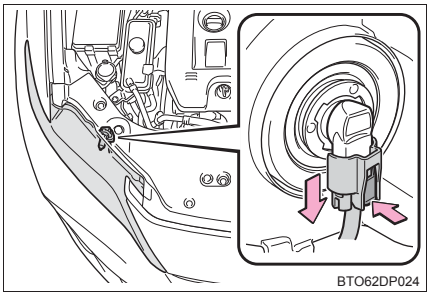
③ ドアミラー照明★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

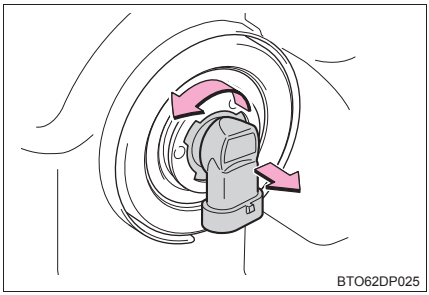
電球交換のしかた

■ ヘッドランプハイビーム

1 ツメを押し、コネクターを取りはずす



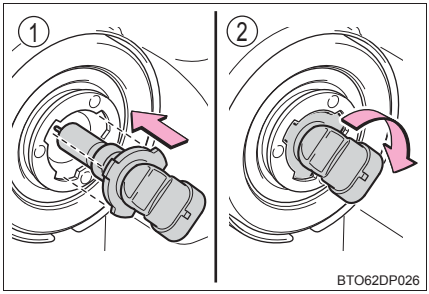
2 電球を左にまわして取りはずす



3 新しい電球を取り付ける

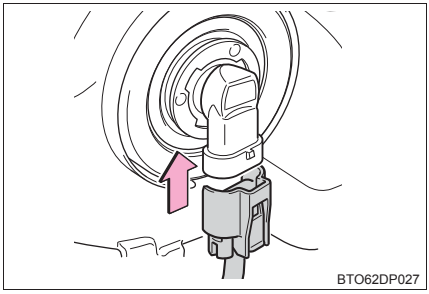
①取り付け部と電球のツメ（3ヶ所）が合うように、電球を図のように約 45° 傾けながら挿し込みます。

②電球を右にまわして固定します。



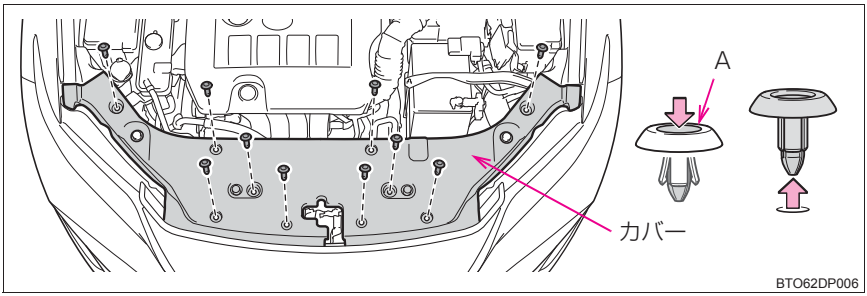
4 コネクターを取り付ける

コネクターを取り付けたあとは、ソケットを軽くゆさぶってぐらつきがないことを確認し、いったんヘッドランプハイビームを点灯させ、バルブの取り付け部からランプの光がもれていないことを目視確認してください。

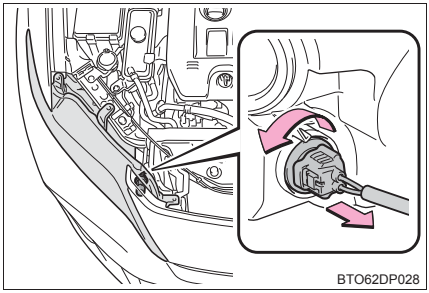


■ フロント方向指示灯／非常点滅灯

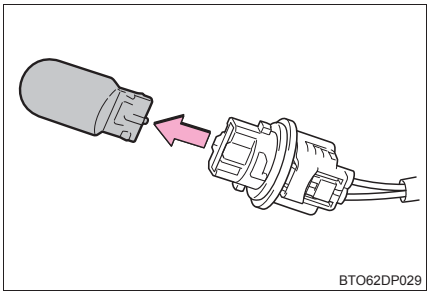
1 ボンネットを開けてクリップの A 部を押し込みクリップをはずし、カバーを取りはずす



2 ソケットを左にまわして取りはずす

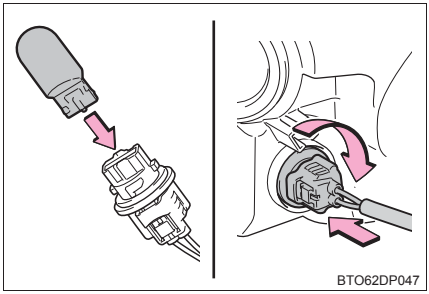


3 電球を取りはずす



4 新しい電球を取り付け、ソケットをランプ本体に挿し込み右にまわして取り付ける

ソケットを取り付けたあとは、ソケットを軽くゆさぶってぐらつきがないことを確認し、いったんフロント方向指示灯 / 非常点滅灯を点灯させ、ソケットの取り付け部からランプの光がもれていないことを目視確認してください



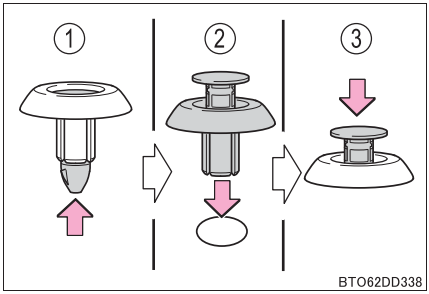
5 エンジンルームのカバーをもとにもどす

■ クリップの取り付け方

① クリップ中央部分を押し上げる

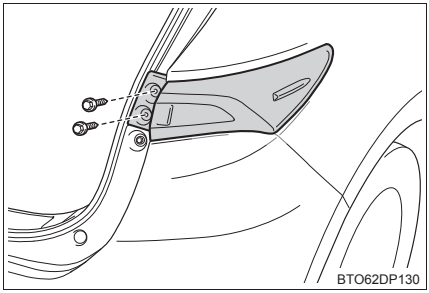
② 挿し込む

③ クリップ中央部分を押す



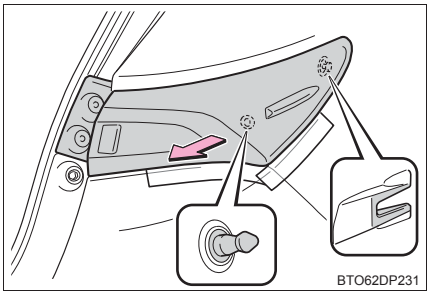
■ リヤ方向指示灯／非常点滅灯

1 バックドアを開け、スクリュー（2 本）を取りはずす

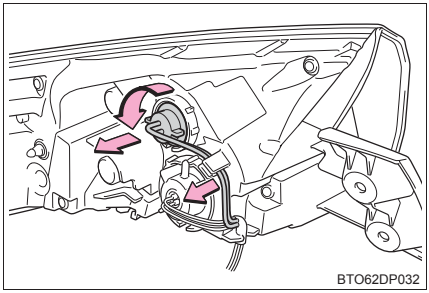


2 ランプ本体を車両後方に向かって引く

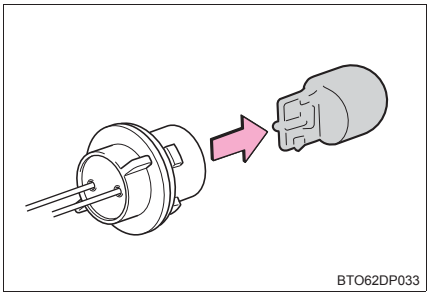
傷が付くのを防ぐため、ランプ本体の周り（リヤバンパーなど）に保護テープを貼ってください。



3 コードをツメからはずし、ソケットを左にまわして取りはずす



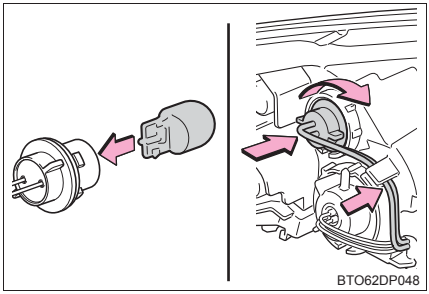
4 電球を取りはずす



5 新しい電球を取り付け、ソケットをランプ本体に挿し込み右にまわして取り付ける

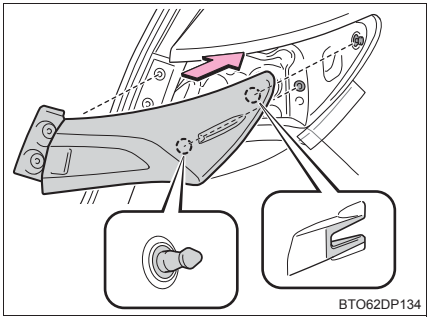
コードはもとどおりツメに固定します。

ソケットを取り付けたあとは、ソケットを軽くゆさぶってぐらつきがないことを確認し、いったんリヤ方向指示灯 / 非常点滅灯を点灯させ、ソケットの取り付け部からランプの光がもれていないことを目視確認してください。

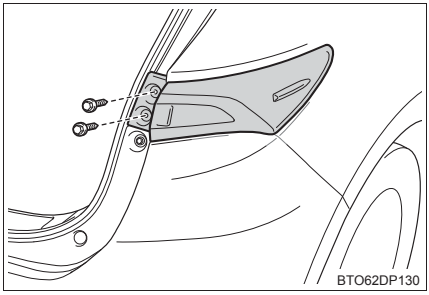


6 ランプ本体側と車両側のツメの位置を合わせ、ランプ本体を車両前方へ押す

ランプ本体を取り付けたあと、ランプ本体の周り（リヤバンパーなど）に貼り付けた保護テープをはがしてください。



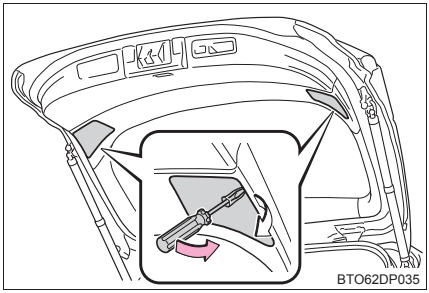
7 スクリュー（2 本）で固定する



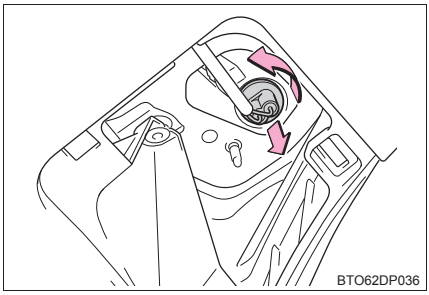
■ 後退灯

1 バックドアを開け、カバーの切り欠きにマイナスドライバーなどを挿し込んで取りはずす

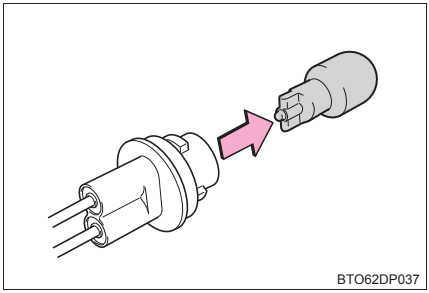
傷付き防止のため、ドライバーの先端にテープを巻いて保護してください。


BTO62DP035

2 ソケットを左にまわして取りはずす

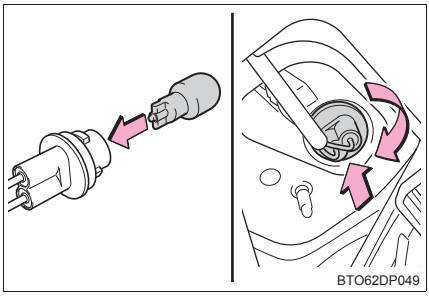

BTO62DP036

3 電球を取りはずす


BTO62DP037

4 新しい電球を取り付け、ソケットをランプ本体に挿し込み右にまわして取り付ける

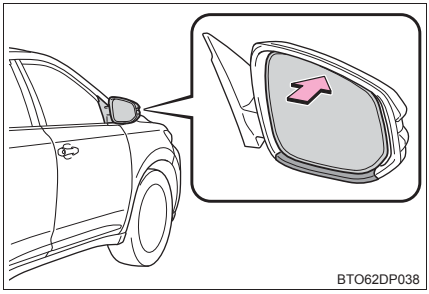
ソケットを取り付けたあとは、ソケットを軽くゆさぶってぐらつきがないことを確認し、いったん後退灯を点灯させ、ソケットの取り付け部からランプの光がもれていないことを目視確認してください。


BTO62DP049

5 バックドアのカバーをもとにもどす

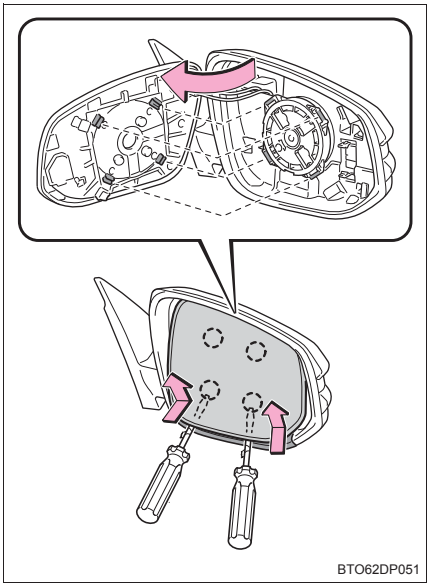
■ ドアミラー照明★

1 鏡面の上端を押して鏡面を上向きにし、鏡面のカバー下部に保護テープを貼り付ける


BTO62DP038

2 保護テープを巻いたマイナスドライバー（2 本）の先端を挿し込んで、鏡面裏下側の 2ヶ所のツメをはずしてから、鏡面の下部を持って手前に引き、残りのツメ（上側の 2ヶ所）をはずす

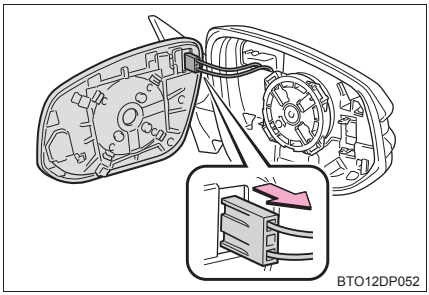
鏡面を落とさないように、慎重に作業してください。


BTO62DP051

3 裏面にあるコネクターをはずし、鏡面を取りはずす（ミラーヒーター装着車）

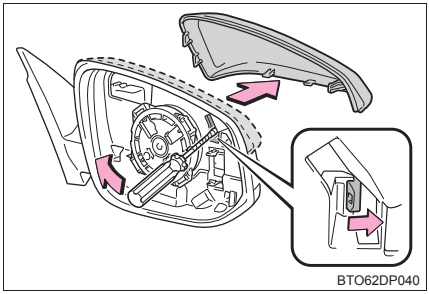
鏡面を落とさないように、慎重に作業してください。

鏡面を持つときは、グリースが塗布してある箇所をつかまないように注意してください。

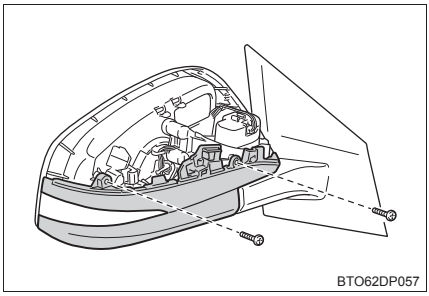

BTO12DP052

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

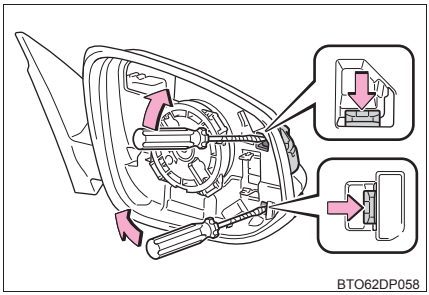
4 保護テープを巻いたマイナスドライバーの先端を挿し込んでツメをはずして、カバー（上側）を取りはずす



5 ネジ（2 本）を取りはずす

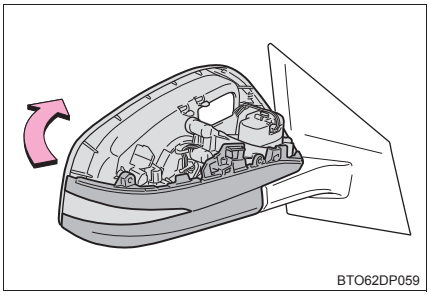


6 保護テープを巻いたマイナスドライバーの先端を挿し込んでツメをはずす

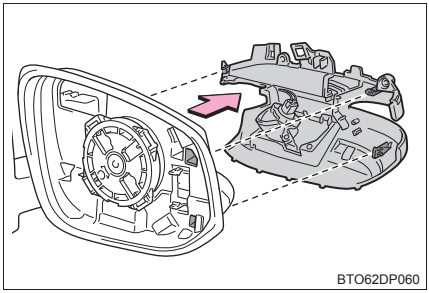


7 カバー（下側）を取りはずす前に、ミラー本体を格納する

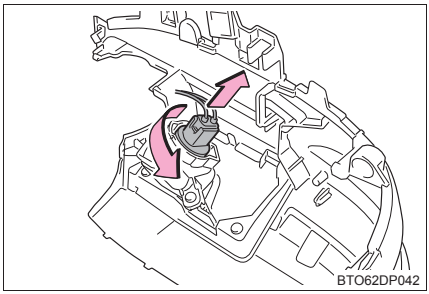
カバー（下側）はミラー本体を格納しないと取りはずしできません。



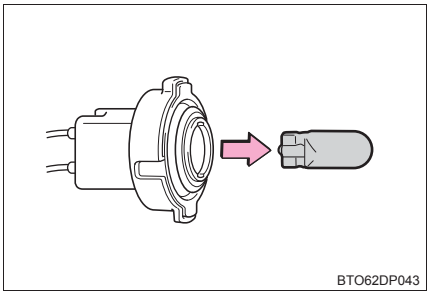
8 カバー（下側）をはずす


BTO62DP060

9 ソケットを左にまわして取りはずす

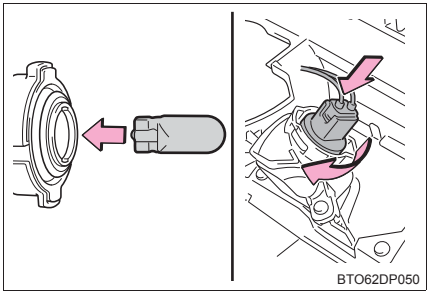

BTO62DP042

10 電球を取りはずす


BTO62DP043

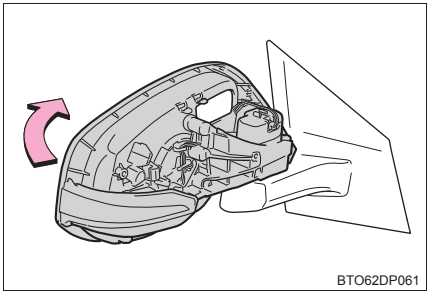
11 新しい電球を取り付け、ソケットをランプ本体に挿し込み右にまわして取り付ける

ソケットを取り付けたあとは、ソケットを軽くゆさぶってぐらつきがないことを確認し、いったんドアミラー照明を点灯させ、ソケットの取り付け部からランプの光がもれていないことを目視確認してください。

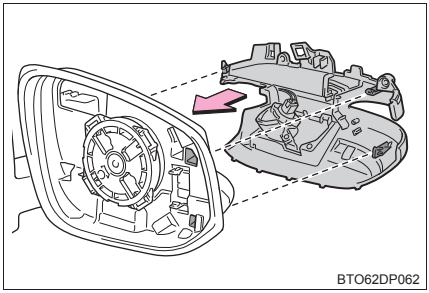

BTO62DP050

12 カバー（下側）を取り付ける前に、ミラー本体を格納しておく

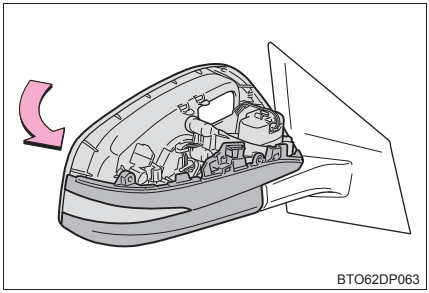
カバー（下側）はミラー本体を格納した状態でないと取り付けできません。


BTO62DP061

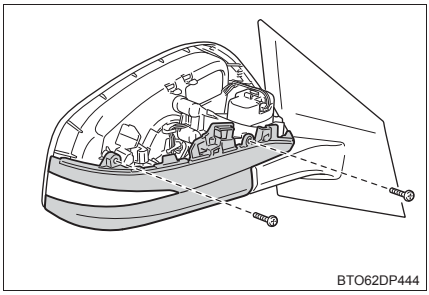
13 ツメの位置を合わせ、カバー（下側）を取り付ける


BTO62DP062

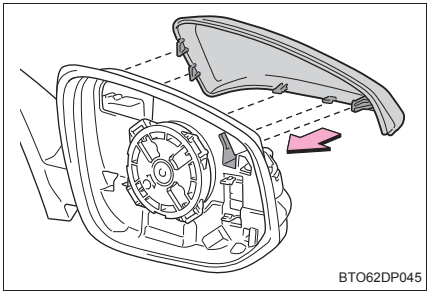
14 ミラー本体の格納をもどす


BTO62DP063

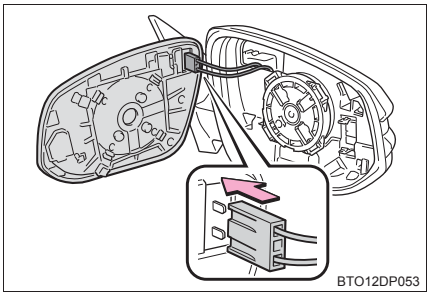
15 ネジ（2 本）で固定する


BTO62DP444

16 ツメの位置を合わせ、カバー（上側）を取り付ける



17 取りはずしたコネクターをもとどおりに取り付ける（ミラーヒーター装着車）

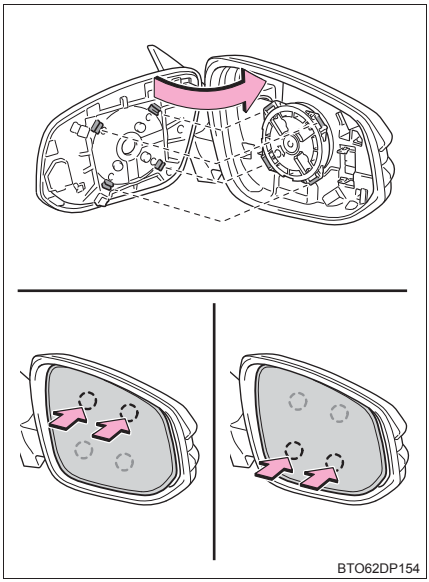


18 ツメの位置を合わせ、鏡面の上端を押し込んで鏡面裏上側の2ヶ所のツメを固定してから、鏡面の下端を押し込んで鏡面裏下側の 2ヶ所のツメを固定する

ツメは必ず2ヶ所ずつを同時に押し込み、パチッと音がしてツメが固定されたことを確認してください。

音が確認できないときは、無理に押し込まずにいったん鏡面をはずして、ツメの位置が合っているか確認してください。

鏡面を固定したあと、ミラーのカバー下部に貼り付けた保護テープをはがしてください。



■ 次の電球を交換するには

次のランプが切れたときは、トヨタ販売店で交換してください。

- ヘッドランプ（ロービーム）
- 車幅灯
- フロントフォグランプ
- サイド方向指示灯／非常点滅灯
- 尾灯
- 尾灯／制動灯
- ハイマウントストップランプ
- 番号灯
- リヤフォグランプ★

知識

■LED ランプについて

ヘッドランプ（ロービーム）、車幅灯、フロントフォグランプ、サイド方向指示灯／非常点滅灯、尾灯、制動灯、ハイマウントストップランプ、番号灯、リヤフォグランプは、数個の LED で構成されています。もし LED がひとつでも点灯しないときは、トヨタ販売店で交換してください。

■レンズ内の水滴と曇り

レンズ内の一時的な曇りは、機能上問題ありません。ただし、次のようなときは、トヨタ販売店にご相談ください。

- レンズ内側に大粒の水滴が付いている
- ランプ内に水がたまっている

■電球（バルブ）を交換するとき

→P. 313

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

警告

■けがを防ぐために

エンジンルームカバーを取りはずす前に、エンジンスイッチを OFF にしてください。熱くなった部品でやけどをしたり、作動中の部品に巻き込まれて重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

■電球を交換するとき

●ランプは消灯してください。消灯直後は高温になっているため、交換しないでください。やけどをすることがあります。

●電球のガラス部を素手でふれないでください。
やむを得ずガラス部を持つ場合は、電球に油脂や水分を付着させないために、乾いた清潔な布などを介して持ってください。
また、電球を傷付けたり、落下させたりすると球切れや破裂することがあります。

●電球や電球を固定するための部品はしっかり取り付けてください。取り付けが不十分な場合、発熱や発火、またはヘッドランプ内部への浸水による故障や、レンズ内に曇りが発生することがあります。

■お車の故障や火災を防ぐために

電球が正しい位置にしっかりと取り付けられていることを確認してください。

注意

■ドアミラー照明★を交換するとき

工具・体がフロントドアガラスにあたって作業しづらい場合は、ドアガラスを開けて作業スペースを広げてください。無理に作業すると、車両に傷が付く原因になります。

■エンジンルームカバー取り付け後の確認

もとの場所に確実に取り付けられていることを確認してください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

万一の場合には

7

7-1. まず初めに

故障したときは.....332

非常点滅灯
（ハザードランプ）.....333

発炎筒.....334

車両を緊急停止するには.....336

7-2. 緊急時の対処法

けん引について.....337

警告灯がついたときは.....344

警告メッセージが
表示されたときは.....347

パンクしたときは
（応急用タイヤ装着車）.....364

パンクしたときは（タイヤパンク
応急修理キット装着車）.....374

エンジンが
始動できないときは.....387

シフトレバーが
シフトできないときは.....389

電子キーが正常に
働かないときは.....390

バッテリーが
あがったときは.....392

オーバーヒートしたときは...396

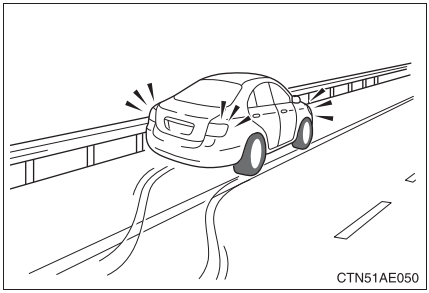
スタックしたときは.....399

故障したときは

故障のときはすみやかに次の指示に従ってください。

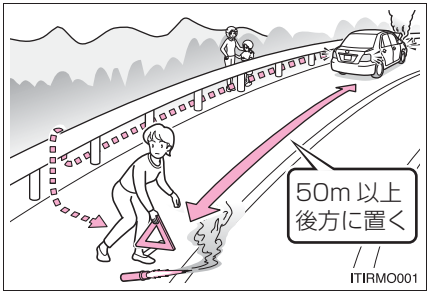
非常点滅灯（→P. 333）を点滅させながら、車を路肩に寄せ停車する

非常点滅灯は、故障などでやむを得ず路上駐車する場合、他車に知らせるため使用します。



高速道路や自動車専用道路では、次のことに従う

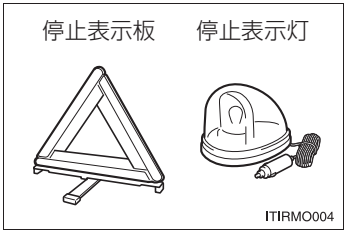
- 同乗者を避難させる
- 車両の 50m 以上後方に発炎筒（→P. 334）と停止表示板を置くか、停止表示灯を使用する
  - ・見通しが悪い場合はさらに後方に置いてください。
  - ・発炎筒は、燃料もれの際やトンネル内では使用しないでください。
- その後、ガードレールの外側などに避難する



知識

■停止表示板・停止表示灯について

- 高速道路や自動車専用道路でやむを得ず駐停車する場合は、停止表示板または停止表示灯の表示が、法律で義務付けられています。
- 停止表示板・停止表示灯のご購入については、トヨタ販売店にお問い合わせください。

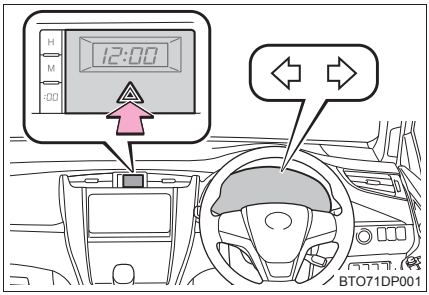


非常点滅灯（ハザードランプ）

事故などでやむを得ず路上駐車する場合、他車に知らせるために使用してください。

スイッチを押す

すべての方向指示灯が点滅します。
もう一度押すと消灯します。



知識

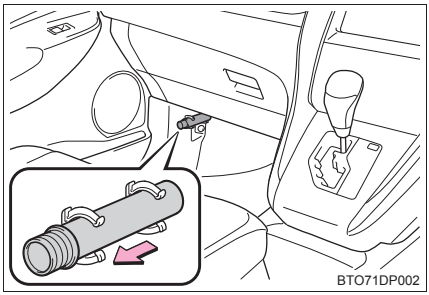
■非常点滅灯について

エンジン停止中に、非常点滅灯を長時間使用すると、バッテリーがあがるおそれがあります。

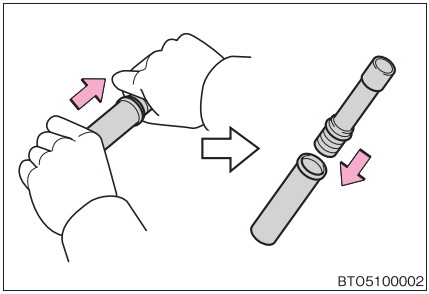
発炎筒

高速道路や踏切などでの故障・事故時に非常信号用として使用します。
（トンネル内や可燃物の近くでは使用しないでください）
発炎時間は約５分です。非常点滅灯と併用してください。

1 助手席足元の発炎筒を取り出す

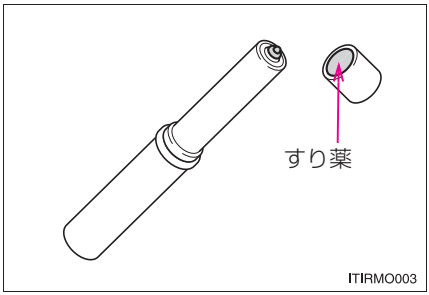


2 本体をまわしながら抜き、本体を逆さにして挿し込む



3 先端のフタを取り、すり薬で発炎筒の先端をこすり、着火させる

必ず車外で使用してください。
着火させる際は、筒先を顔や体に向けないでください。



知識

■発炎筒の有効期限

本体に表示してある有効期限が切れる前に、トヨタ販売店でお求めください。有効期限が切れると、着火しなかったり、炎が小さくなる場合があります。

警告

■発炎筒を使用してはいけない場所

次の場所では、発炎筒を使用しないでください。
煙で視界が悪くなったり、引火するおそれがあるため危険です。

- トンネル内
- ガソリンなど可燃物の近く

■発炎筒の取り扱いについて

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

- 使用中は、発炎筒を顔や体に向けたり、近付けたりしない
- 発炎筒は、お子さまにさわらせない

車両を緊急停止するには

万一、車が止まらなくなったときの非常時のみ、次の手順で車両を停止させてください。

1 ブレーキペダルを両足でしっかりと踏み続ける

ブレーキペダルをくり返し踏まないでください。通常より強い力が必要となり、制動距離も長くなります。

2 シフトレバーを N に入れる

▶ シフトレバーが N に入った場合

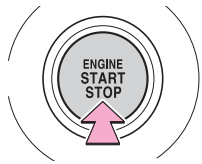
3 減速後、車を安全な道路脇に停める

4 エンジンを停止する

▶ シフトレバーが N に入らない場合

3 ブレーキペダルを両足で踏み続け、可能な限り減速させる

4 エンジンスイッチを 2 秒以上押し続けるか、素早く 3 回以上連続で押してエンジンを停止する



2 秒以上押すまたは
3 回以上連続で押す

CTY52AD212

5 車を安全な道路脇に停める

警告

■走行中にやむを得ずエンジンを停止するとき

ブレーキの効きが悪くなると共にハンドルが重くなるため、車のコントロールがしにくくなり危険です。エンジンを停止する前に、十分に減速するようにしてください。

けん引について

けん引は、できるだけトヨタ販売店または専門業者にご依頼ください。その場合は、レッカー車または、車両運搬車を使用することをおすすめします。

やむを得ず他車にロープでけん引してもらう場合は、車両積載車までの移動など、できるだけ短距離にとどめてください。

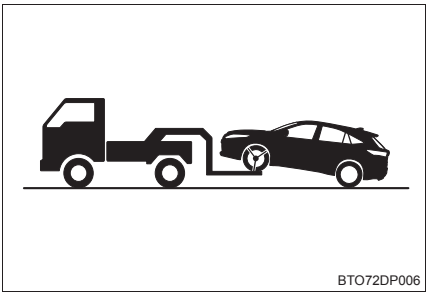
けん引の前に販売店への連絡が必要な状況

次の場合は、駆動系の故障が考えられるため、トヨタ販売店または専門業者へご連絡ください。

- エンジンはかかるが車が動かない
- 異常な音がする

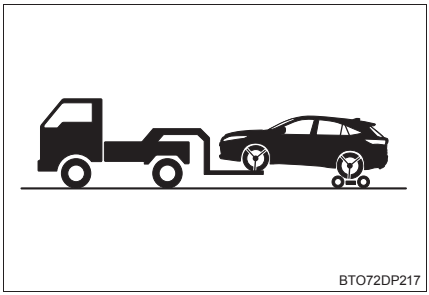
レッカー車でけん引するとき

▶ 前向きにけん引するときは（ＦＦ車）



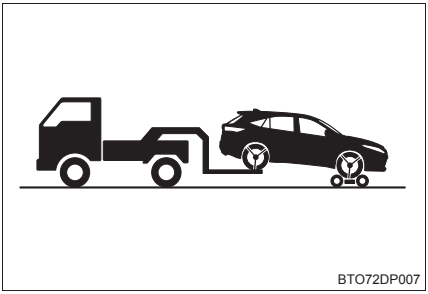
パーキングブレーキを解除する

▶ 前向きにけん引するときは（4WD車）



台車を使用して後輪を持ち上げる

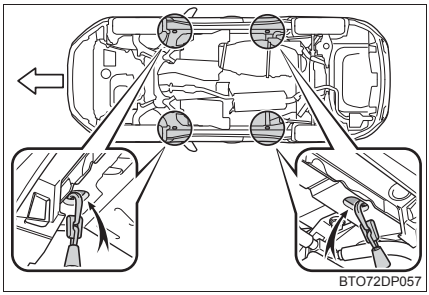
▶ うしろ向きにけん引するときは



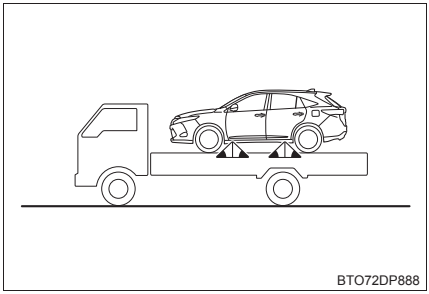
台車を使用して前輪を持ち上げる

車両運搬車を使用するときは

車両運搬車で輸送するときは、図の場所で固縛する



鎖やケーブルなどを使用して車両を固縛する場合は図に黒く示す角度が 45°になるように固縛する

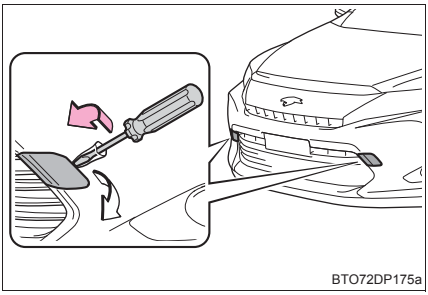


他車にけん引してもらうとき

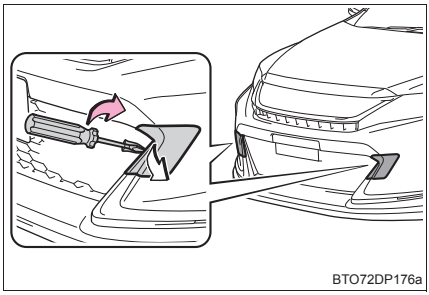
1 けん引フックを取り出す（→P. 365, 375）

2 マイナスドライバーを使ってフタをはずす
- 傷が付くのを防ぐため、マイナスドライバーの先端に布などを巻いて保護してください。
- 取り外したフタは紛失しないようにしてください。（G's）

▶ G's を除く

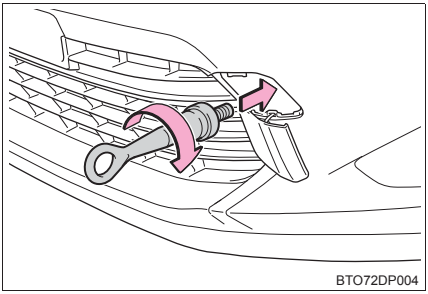


▶ G's

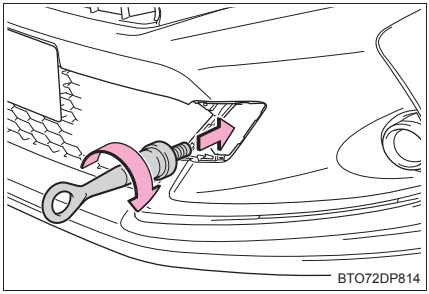


3 けん引フックを穴に挿し込んでまわし、軽く締める

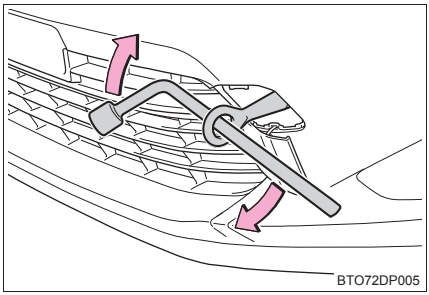
▶ G's を除く



▶ G's



4 ホイールナットレンチや金属の固い棒などを使い確実に取り付ける

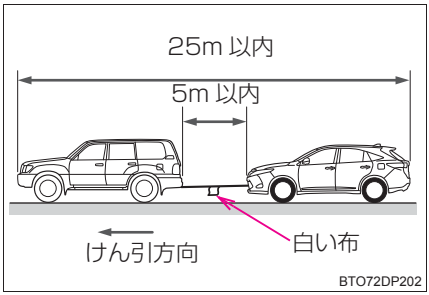


5 車体に傷が付かないようにロープをけん引フックにかける

車体に傷が付かないように注意してください。また、前進方向でけん引してください。

6 ロープの中央に白い布を付ける

布の大きさ：
0.3m 平方（30cm × 30cm）以上



7 運転者はけん引される車両に乗り、エンジンを始動する

エンジンが始動しないときは、エンジンスイッチをイグニッション ON モードにしてください。

8 けん引される車両のシフトレバーを N にしてから、パーキングブレーキを解除する

けん引中は、ロープがたるまないよう、減速時なども前の車の速度に合わせてください。

シフトレバーがシフトできないときは：→P. 389

知識

■けん引フックの使用目的

けん引フックはけん引されるときに使うものであり、他車をけん引するためのものではありません。

■けん引されるときに

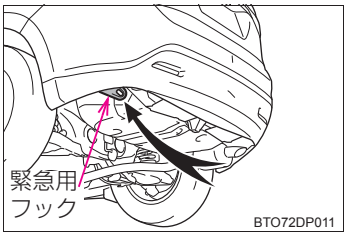
エンジンが停止しているとブレーキの効きが悪くなったり、ハンドル操作が通常より重くなったりします。

■ホイールナットレンチについて

ラゲージルーム内に搭載されています。（→P. 365, 375）

■緊急用フックについて

雪の吹きだまりなどでスタックして走行できなくなったとき、やむを得ず他車に引っ張り出してもらうために使用することができます。他車をけん引することはできません。



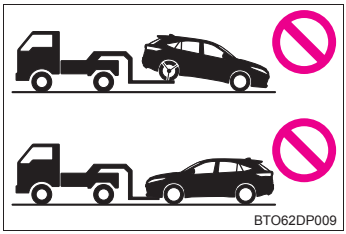
警告

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■レッカー車でけん引するとき

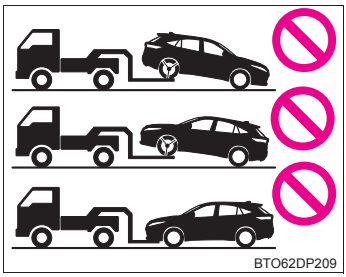
▶ ＦＦ車

必ず前輪を持ち上げるか、4 輪とも持ち上げた状態で運搬してください。前輪が地面に着いた状態でけん引すると、駆動系部品が破損するおそれがあります。



▶ 4WD 車

4 輪とも持ち上げた状態で運搬してください。タイヤが地面に着いた状態でけん引すると、駆動系部品が破損したり車が台車から飛び出したりするおそれがあります。



警告

■他車にけん引してもらうときの運転について

●けん引フックやロープに過剰な負荷をかける急発進などを避けてください。
けん引フックやロープが破損し、その破片が周囲の人などにあたり、重大な傷害を与えるおそれがあります。

●エンジンスイッチを OFF にしないでください。
ハンドルがロックされ、ハンドル操作ができなくなるおそれがあります。

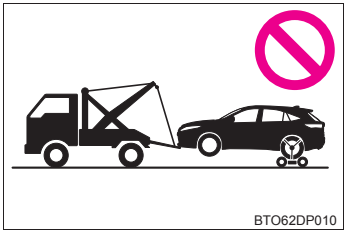
■けん引フックを車両に取り付けるとき

指定の位置にしっかりと取り付けてください。
指定の位置にしっかり取り付けていないと、けん引時にフックがはずれるおそれがあります。

注意

■レッカー車でけん引するとき

車両の損傷を防ぐために図のようなレッカー車ではけん引しないでください。



■車両運搬車に車を固縛するとき

ケーブル等を過度に締め付けすぎないでください。車両の損傷につながるおそれがあります。

■駆動系部品の損傷を防ぐために

●ロープでけん引されるときは次のことを必ずお守りください。

・ワイヤーロープは使用しない
・速度は 30km/h 以下、距離 80km 以内でけん引する
・前進方向でけん引する
・サスペンション部などにロープをかけない

●この車両で他車やボート（トレーラー）などをけん引しないでください。

⚠ 注意

■長い下り坂でけん引するときは

レッカー車で前輪を持ち上げるか（ＦＦ 車)、４ 輪とも持ち上げた状態でけん引してください。レッカー車でけん引しないと、ブレーキが過熱し効きが悪くなるおそれがあります。

■緊急用フックについて

次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、装置の変形や車両の損傷などにつながるおそれがあります。

●やむを得ない場合以外は使用しないでください。

●緊急用フックで他車をけん引しないでください。

警告灯がついたときは

警告灯が点灯または点滅したままの場合は、落ち着いて次のように対処してください。点灯・点滅しても、その後消灯すれば異常ではありません。ただし、同じ現象が再度発生した場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。

警告灯・警告ブザー一覧

警告灯	警告灯名・警告内容・対処方法
	ブレーキ警告灯（警告ブザー※1） ・ブレーキ液の不足 ・ブレーキ系統の異常 パーキングブレーキが解除されていないときも点灯します。 解除後、消灯すれば正常です。 **→ ただちに安全な場所に停車し、トヨタ販売店へ連絡してください。走行を続けると危険です。**
	エンジン警告灯 ・エンジン電子制御システムの異常 ・電子制御スロットルの異常 ・オートマチックトランスミッション電子制御システムの異常 **→ ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。**
	SRS エアバッグ／プリテンショナー警告灯 ・SRS エアバッグシステムの異常 ・プリテンショナー付シートベルトシステムの異常 **→ ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。**
	ABS ＆ブレーキアシスト警告灯 ・ABS の異常 ・ブレーキアシストの異常 **→ ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。**
（赤色 / 黄色）	**パワーステアリング警告灯（警告ブザー）** ・EPS（エレクトリックパワーステアリング）の異常 **→ ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。**

警告灯	警告灯名・警告内容・対処方法
	スリップ表示灯（点灯したままのとき） 次のいずれかの機能の異常 ・VSC 異常 ・TRC 異常 ・ヒルスタートアシストコントロールシステムの異常 VSC・TRC システムの作動時は点滅します。 **→ ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。**
PCS （点滅）	**PCS 警告灯★（点滅したままのとき）** プリクラッシュセーフティシステムの異常 システムの異常時以外にも、警告灯が次のように作動します。 ・システムの作動時には、速い点滅でお知らせします。（→245） ・プリクラッシュセーフティシステムを OFF にすると点灯します。（→246） ・VSC システムを OFF にすると点灯します。（→240） ・システムが一時的に使用できないときに点滅します。（→P. 355） **→ ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。**
ICS OFF （点滅）	**ICS OFF 表示灯★** インテリジェントクリアランスソナーの異常 システムの異常時以外にも、警告灯が次のように作動します。 ・センサー部の汚れなどによりシステムが一時的に使用できないときに点滅します。（→P. 356）
Ⓐ OFF （点滅）	**Stop & Start キャンセル表示灯** Stop & Start システムの異常 （Stop & Start システム非作動時は点灯します。→P. 179） **→ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。**
	燃料残量警告灯 燃料の残量が約 9 L 以下になった **→ 燃料を補給する**
	シートベルト非着用警告灯（警告ブザー※ 2） 運転席・助手席シートベルトの非着用 **→ シートベルトを着用する**
	マスターウォーニング システムの異常時にブザーと共に点灯・点滅し、マルチインフォメーションディスプレイ上に警告メッセージを表示します。 **→ P. 347**

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

※1 **パーキングブレーキ未解除走行時警告ブザー：**
→P. 355

※2 **運転席・助手席シートベルト非着用警告ブザー：**
運転席・助手席シートベルト非着用のまま車速が約 20km/h 以上になると警告ブザーが 1 回鳴ります。その後も運転席・助手席シートベルトを非着用のまま 30 秒を経過すると、30 秒間断続的に鳴り、さらにブザーの音がかわり 90 秒間鳴ります。

知識

■シートベルト非着用警告灯の乗員検知センサーの作動について

- 乗員がいなくても、シートに荷物などを置くと、センサーが重量を検知して警告灯が点滅することがあります。
- 座布団などを敷くと、センサーが乗員を検知せず警告灯が作動しないことがあります。

■パワーステアリング警告灯／警告ブザーについて

バッテリーの充電が不十分な場合、または一時的に電圧が下がった場合に警告灯が点灯し、警告ブザーが鳴ることがあります。

■警告ブザーについて

状況によっては、外部の騒音やオーディオの音などにより、ブザー音が聞こえない場合があります。

警告

■パワーステアリング警告灯が点灯したとき

黄色に点灯したときは操舵力補助が制限され、赤色に点灯したときは操舵力補助がなくなるため、ハンドル操作が非常に重くなることがあります。
ハンドル操作が通常より重いときは、ハンドルをしっかりと持ち、通常より強く操作してください。

警告メッセージが表示されたときは

マルチインフォメーションディスプレイに警告メッセージが表示された場合は、落ち着いて次のように対処してください。

① マスターウォーニング

マルチインフォメーションディスプレイに警告メッセージが表示されているとき、点灯・点滅します。

② マルチインフォメーションディスプレイ

処置後に再度メッセージが表示されたときは、トヨタ販売店へご連絡ください。

警告メッセージ・警告ブザー一覧

警告メッセージ	警告内容・対処方法
ブレーキ! PCS（点滅）	**衝突の可能性が高い** **プリクラッシュブレーキが作動している（プリクラッシュセーフティシステム）★** 警告ブザーが鳴ります。 → **ブレーキで減速する**
	（レーダークルーズコントロール★の車間制御中）衝突の危険性 警告ブザーが鳴ります。 → **ブレーキで減速する**

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

警告メッセージ	警告内容・対処方法
	（LDA< ステアリング制御付 >★制御中）車線逸脱警報 車両が車線から逸脱すると、逸脱している側の表示が黄色で点滅します。 警告ブザーが連続して鳴ります。 → **周囲の安全を確認してから、ハンドルを操作して車両を車線内にもどす。**
エンジン油圧不足 安全な場所に停車して 取扱書を 確認してください 	**エンジンオイル圧力の異常** エンジンオイルの圧力が異常に低いと表示されます。 ・車速が約 5km/h をこえたときには警告ブザーが約 30 秒鳴ります。 →**ただちに安全な場所に停車し、トヨタ販売店へ連絡してください。**
エンジン冷却水高温 取扱書を 確認してください 	**エンジン冷却水高温異常** 警告ブザーが鳴ります。 → P. 396
4WDシステム故障 2WD走行になります 販売店で点検 	**4WD システム★の異常** 4WD システムを中止し、前輪駆動走行に切りかわります。 警告ブザーが鳴ります。 →**ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。**
ATオイル高温 取扱書を 確認してください 	**トランスミッションフルードの過熱** 警告ブザーが鳴ります。 →**ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。**

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

警告メッセージ	警告内容・対処方法
PCS故障 販売店で 点検してください PCS （点滅）	**PCS（プリクラッシュセーフティシステム）★の異常** 警告ブザーが鳴ります。 → **ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。**
ソナー故障	**クリアランスソナー★の異常** すべてのセンサーが点滅して表示されます。 → **ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。**
ソナー汚れ	**クリアランスソナー★のセンサー部分の汚れ、氷などの付着** → **汚れおよび氷などを取り除く**
シートベルト非装着 ハンドル操作 ブレーキシステム エアコン優先 バッテリー充電	**アイドリングストップが中断されたとき** → P. 180

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

警告メッセージ	警告内容・対処方法
バッテリー充電 ブレーキシステム エアコン優先 シートベルト非装着 ハンドル操作	アイドリングストップが作動できないとき → P. 180
ブレーキをもう少し踏み込んでください	アイドリングストップ作動待機中 → P. 180
アイドリングストップ故障 販売店で点検してください A OFF（点滅）	Toyota Stop & Start System（SMART STOP）の故障 → ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。
EPS故障 販売店で 点検してください 故障のため ハンドルが重くなります 販売店で 点検してください 電源異常のため ハンドルが重くなります 販売店で 点検してください	パワーステアリングシステムの異常 警告ブザーが鳴ります。 → ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。
エンジン停止 ハンドルが 重くなります	走行中にエンジンが停止した 警告ブザーが鳴ります。 → 通常より力を入れてハンドルを操作する

警告メッセージ	警告内容・対処方法
ヘッドランプ システム故障 販売店で 点検してください	**ヘッドランプレベリングシステムの異常** **オートマチックハイビームの異常** **LED ヘッドランプの異常** 警告ブザーが鳴ります。 → **ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。**
	ドアが確実に閉まっていない 開いているドアが表示されます。 全ドアが確実に閉まっていない状態のまま、車速が約 5km/h をこえると が点滅し、警告ブザーが鳴ります。 → **開いているドアを閉める**
	ボンネットが確実に閉まっていない ボンネットが確実に閉まっていない状態のまま、車速が約 5km/h をこえると が点滅し、警告ブザーが鳴ります。 → **ボンネットを閉める**
	バックドアが確実に閉まっていない バックドアが確実に閉まっていない状態のまま、車速が約 5km/h をこえると が点滅し、警告ブザーが鳴ります。 → **バックドアを閉める**
ムーンルーフが 開いています （点滅）	**パノラマムーンルーフ★が確実に閉まっていない状態でエンジンスイッチを OFF にして運転席ドアを開けた** 警告ブザーが鳴ります。 → **パノラマムーンルーフを閉める**
LDA故障 販売店で 点検してください	**LDA（ステアリング制御付）★の異常** 警告ブザーが鳴ります。 → **ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。**

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

警告メッセージ	警告内容・対処方法
LDAカメラ 高温のため 一時使用できません ⚠	LDA（ステアリング制御付）★の一時停止（白線認識用カメラが作動範囲外の高温状態） 警告ブザーが鳴ります。 → しばらく LDA（ステアリング制御付）を OFF にして、カメラの温度が下がったことを確認してから、システムを再起動する
LDA　約50km/h以下で 使用できません	車速が約 50km/h 以下のため、LDA（ステアリング制御付）★が使用できない →50km/h 以上の車速で走行する
LDA 操舵支援抑制中のため 警報のみ有効です ⚠	LDA（ステアリング制御付）★操舵支援「有」中の操舵支援が一時停止 警告ブザーが鳴ります。 → LDA（ステアリング制御付）を OFF にして、しばらく走行してからシステムを再起動する
ハンドルを 保持して下さい	LDA（ステアリング制御付）★操舵支援「有」中にシステムが手放し運転と判断 → ハンドルをしっかりと持ちなおしてください。
LDA操舵支援停止 ハンドルを 保持して下さい ⚠	LDA（ステアリング制御付）★操舵支援「有」中にシステムが手放し運転と判断したため、操舵支援が一時停止 警告ブザーが鳴ります。（制御中のみ） → ハンドルをしっかりと持ちなおしてください。
4WDシステム高温 高負荷走行を 控えてください ⚠（点滅）	4WD システム★過熱 警告ブザーが鳴ります。 → しばらくのあいだ4WDシステムに負荷がかかる走行を控えて走行してください。 表示が消えないときは、ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

警告メッセージ	警告内容・対処方法
4WDシステム高温 2WD走行に 切りかわりました （点滅）	**4WD システム★過熱のため、4WD システムが一時解除し、前輪駆動走行に切りかわった** 警告ブザーが鳴ります。 **→ 4WD システムに負荷がかかる走行を控えて走行してください。 しばらくして表示が消えたら、4WD システムが自動的に復帰します。表示が消えないときは、ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。**
エンジンが停止 Pレンジに 入れてください （点滅）	**エンジン停止中の警告（停車中）** シフトレバーが P・N 以外でエンジンが停止したとき（アイドリングストップ作動時を除く）、または、エンジンスイッチがイグニッション ON モードで、エンジンが停止中にシフトレバーを P・N 以外にしたとき **→ シフトレバーを P にする**
エンジンが停止 安全な場所に 停車してください （点滅）	**エンジン停止中の警告（走行中）** 走行中にエンジンが突然停止したとき、または、エンジンスイッチがイグニッション ON モードで、エンジン停止中に、シフトレバーが P・N 以外で車両が動いたとき ・警告ブザーが鳴ります。 **→ 路肩など安全な場所に停車する**
	充電系統の異常（エンジン始動中） **→ただちに安全な場所に停車し、トヨタ販売店へ連絡してください。**
クルーズコントロール 使用不可 レーダーの汚れを 取ってください	**レーダークルーズコントロール★のセンサー部分の汚れ、氷などの付着** 警告ブザーが鳴ります。 **→汚れおよび氷などを取り除く**

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

警告メッセージ	警告内容・対処方法
クルーズコントロール 現在使用できません ⚠	**レーダークルーズコントロール★の車間制御の測定不可** ・警告ブザーが鳴ります。 → **ワイパーを止めるか、オートまたは高速作動以外にかえる**
クルーズ コントロール故障 販売店で 点検してください ⚠	**クルーズコントロールシステム★またはレーダークルーズコントロールシステム★の異常** ON/OFF スイッチを一度 OFF にし、再度設定してください。 警告ブザーが鳴ります。 → **ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。**
SRSエアバッグ故障 販売店で 点検してください ⚠	**SRS エアバッグ・シートベルトプリテンショナーの異常** 警告ブザーが鳴ります。 → **ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。**
ABS故障 販売店で 点検してください (ABS)	**ABS・ブレーキアシストの異常** 警告ブザーが鳴ります。 → **トヨタ販売店で点検を受けてください。**
アクセルを 戻してください ⚠（点滅）	**アクセルペダルを踏みながらシフトレバーを動かし、ドライブスタートコントロールが作動した** 警告ブザーが鳴ります。 → **一度アクセルペダルから足を離す**

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

警告メッセージ	警告内容・対処方法
ドライブスタート コントロール故障 販売店で点検	**ドライブスタートコントロールの異常** 警告ブザーが鳴ります。 → **ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。**
パーキングブレーキを 解除してください （点滅）	**パーキングブレーキが解除されず、車速が約 5km/h をこえたとき** 警告ブザーが鳴ります。 →**パーキングブレーキを解除してください**
PCS 現在使用できません PCS（点滅）	**PCS（プリクラッシュセーフティシステム）★が現在機能していない** →**グリルまたはレーダーセンサーの汚れを取り除く**
ICS故障販売店で 点検してください ICS OFF（点滅）	**インテリジェントクリアランスソナー★の異常** 警告ブザーが鳴ります。 → **ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。**
ブレーキ! （点滅）	**衝突の可能性が高い、またはインテリジェントクリアランスソナー★が作動している** 警告ブザーが鳴ります。 →**ブレーキで減速する**

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

警告メッセージ	警告内容・対処方法
ICS障害物検知 加速できません 安全な場所に停車後 ソナーを確認 （点滅）	**衝突の可能性が高い、またはインテリジェントクリアランスソナー★が作動している** 警告ブザーが鳴ります。 **→路肩など安全な場所に停車、ソナー（センサー）を確認する**
※ ICS現在使用できません ICS OFF（点滅） （点滅）	**センサー部分の汚れなどにより、インテリジェントクリアランスソナー★が現在機能していない** **→汚れおよび氷などを取り除く**
※ ICS現在使用できません ICS OFF （点滅）	**ワイパーが高速作動している。またはオート作動時の豪雨などによる高速作動により、インテリジェントクリアランスソナー★が現在機能していない** **→豪雨でない場合はワイパーを止めるか、低速作動にする**
アクセルが 踏まれています ブレーキを 踏み直して下さい ICS OFF （点滅）	**インテリジェントクリアランスソナー★の作動により、車両停止後にアクセルペダルが踏まれている** 警告ブザーが鳴ります。 **→アクセルペダルから足を離し、ブレーキペダルを踏む**

※ エンジンスイッチをイグニッションONモードにしてからOFFにするまでのあいだに 2 回以上警告が表示される場合は、2 回目以降は ICS OFF 表示灯の点灯、または点滅のみで警告を行います。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

警告メッセージ	警告内容・対処方法
ブレーキオーバーライド システム故障 販売店で 点検してください	ブレーキオーバーライドシステムの異常 警告ブザーが鳴ります。 → ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。
アクセルとブレーキが 両方踏まれています （点滅）	アクセルペダルとブレーキペダルが同時に踏まれ、ブレーキオーバーライドシステム（→P. 139）が作動した →アクセルペダル、またはブレーキペダルから足を離す
AHBは ハイビーム点灯が 必要です	ヘッドランプがロービームの状態でオートマチックハイビームスイッチ★を押した → ヘッドランプをハイビームに切りかえてから、オートマチックハイビームスイッチを押す
給油してください	燃料の残量が約 9L 以下になった → 燃料を補給する
VSCがOFFのため プリクラッシュブレーキも 停止します PCS OFF	VSC（ビークルスタビリティコントロール）が OFF になり、プリクラッシュブレーキ★の作動が停止した →VSC を ON にする（→P. 240）
TRC OFF	TRC（トラクションコントロール）が OFF になっている →TRC を ON にする（→P. 240）

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

警告メッセージ	警告内容・対処方法
電力消費が大きいため 一部の空調･ヒータ作動を 制限中	**電力消費が大きいため、エアコンやシートヒーター★などの作動を一時制限した** **→不要な電装品をオフにし、電力消費を控えてください。電源状態が復帰するまでしばらくお待ちください。** **ひんぱんに表示されるときは、ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。**

知識

■警告メッセージについて

文中の警告メッセージの表示は、使用状況や車両の仕様により実際の表示と異なる場合があります。

■LDA（ステアリング制御付）の車線逸脱警報について★

次のような場合は、車線を逸脱しても、警告メッセージが表示されないおそれがあります。

●作動条件以外の車速で走行しているとき

●走行中の白（黄）線が認識できなくなったとき

また、その他にも、システムが正常に作動しない場合があります。（→P. 208 ）

■レーダークルーズコントロール★の警告メッセージについて

次のような場合は、車間距離が短くても、車間制御中の警告メッセージが表示されないおそれがあります。

●先行車と自車の車速が同じか先行車の方が速いとき

●先行車が非常に低速で走行しているとき

●速度を設定した直後

●アクセルペダルが踏まれたとき

注意

■「電力消費が大きいため一部の空調・ヒーター作動を制限中」がひんぱんに表示されるときは

充電系の異常やバッテリーが劣化している可能性があります。トヨタ販売店で点検を受けてください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

ただちに処置してください。

それぞれの対処方法に従って処置し、警告メッセージが消灯するのを確認してください。

車内警告ブザー	車外警告ブザー	警告メッセージ	警告内容・対処方法
1回	なし	キーが見つかりません キーの所在を 確認してください （点滅）	電子キーを携帯していないか、電子キーが正常に作動しない状態でエンジンを始動しようとした ・警告ブザーが鳴ります。 **→電子キーを携帯してエンジンを始動する**
1回	3回	キーが見つかりません キーの所在を 確認してください （点滅）	エンジンスイッチが OFF 以外の状態で運転席以外のドアが開閉され同乗者が電子キーを持ち出した ・警告ブザーが鳴ります。 **→電子キーを車内にもどす**
			シフトレバーがPの状態でエンジンスイッチを OFF にせずにキーを持ち出したまま運転席ドアが開閉された ・警告ブザーが鳴ります。 **→エンジンスイッチを OFF にする、または電子キーを車内にもどす**
1回	連続音	キーが見つかりません キーの所在を 確認してください 電源を OFFしてください （交互に表示） （点滅）	シフトレバーがPの状態でエンジンスイッチを OFF にせずに、電子キーを外に持ち出してドアを施錠しようとした ・警告ブザーが鳴ります。 **→エンジンスイッチを OFF にしたあと、再度施錠する**

車内警告ブザー	車外警告ブザー	警告メッセージ	警告内容・対処方法
9回	なし	キーが見つかりません キーの所在を 確認してください （点滅）	正規の電子キーが車室内に無い状態で走行をはじめた ・警告ブザーが鳴ります。 **→車室内に電子キーがあるか確認する**
1回	なし	スマートエントリー& スタートシステム故障 取扱書を確認 （点滅）	**スマートエントリー＆スタートシステムの異常** 警告ブザーが鳴ります。 **→ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください**
連続音	なし	駐車時はPレンジに 入れてください （点滅）	シフトレバーがP以外の状態で、エンジンスイッチをOFFにせずに運転席ドアが開いた ・警告ブザーが鳴ります。 **→シフトレバーをPにする**
連続音	連続音	駐車時はPレンジに 入れてください キーが見つかりません キーの所在を 確認してください （交互に表示） （点滅）	シフトレバーがP以外の状態でエンジンスイッチをOFFにせずにキーを持ち出したまま運転席ドアが開閉された ・警告ブザーが鳴ります。 **→シフトレバーをPにする** **→電子キーを車内に入れる**
なし	連続音	車室内に キーがあります （点滅）	車内に電子キーを置いたまま、スマートエントリー＆スタートシステムでドアを施錠しようとした ・警告ブザーが鳴ります。 **→車内から電子キーを取り出したあと、再度施錠する**

車内警告ブザー	車外警告ブザー	警告メッセージ	警告内容・対処方法
1回	連続音	車室内に キーがあります （点滅）	車内に電子キーを置いたまま、フロントドアを開き、ロックレバーを施錠側にしてドアハンドルを引いたままドアを閉めて施錠しようとした ・警告ブザーが鳴ります。 → **車内から電子キーを取り出したあと、再度施錠する**
1回	なし	ブレーキを踏みながら キーで エンジンスイッチに 触れてください （点滅）	・メカニカルキーで解錠してエンジンスイッチを押した際、車室内でキーを検出できなかった ・エンジンスイッチを押したとき車室内でキーを検出できないことが2回連続で続いた ・警告ブザーが鳴ります。 → **ブレーキを踏みながら電子キーでエンジンスイッチにふれる**
なし	なし	バッテリ保護のため 自動で電源を OFFしました	自動電源OFF機能が作動した → **次回エンジン始動時にエンジン回転数を少し高めにし、約5分間その回転数を保持しバッテリーを充電する**
1回	なし	キーの電池残量が 少なくなっています 電池を 交換してください	電子キーの電池残量が少ない ・警告ブザーが鳴ります。 → **新しい電池と交換する** **（→ P. 310）**
1回	なし	始動時は ブレーキを踏みながら エンジンスイッチを 押してください	電子キーが正常に働かないときのエンジンの始動の方法（→ P. 390）でエンジンスイッチに電子キーをふれた ・警告ブザーが鳴ります。 → **ブレーキペダルを踏んでエンジンスイッチを押す**

車内警告ブザー	車外警告ブザー	警告メッセージ	警告内容・対処方法
1 回	なし	ハンドルを 左右に回しながら エンジンスイッチを 押してください （点滅）	エンジンスイッチを押してから約3秒以内にステアリングロックが解除できなかった ・警告ブザーが鳴ります。 → **ブレーキを踏んでハンドルを左右にまわしながらエンジンスイッチを押す**
1 回	なし	駐車時はPレンジに 入れてください （点滅）	シフトレバーが P または N 以外の状態でエンジンスイッチを OFF にした ・警告ブザーが鳴ります。 → **シフトレバーを P にする**
1 回	なし	電源を OFFしてください （点滅）	シフトレバーがP以外でエンジンスイッチを OFF にしたあとシフトレバーを P にした ・警告ブザーが鳴ります。 → **エンジンスイッチを押して OFF にする**
断続音	なし	エンジンスイッチを 押し続けると エンジン非常停止 （点滅）	走行中にエンジンスイッチを押した ・警告ブザーが鳴ります。 → **エンジンを緊急停止させるとき以外は、すみやかにエンジンスイッチから手を離す**
連続音	なし	再始動時は Nレンジにして エンジンスイッチを 押してください （点滅）	・走行中にエンジンを緊急停止させ、エンジンスイッチをアクセサリーモードにしたとき ・上記の状態から、エンジンスイッチを押してイグニッション ON モードにしたが、エンジンが再始動していない状態で、車両が動いているとき ・警告ブザーが鳴ります。 → **エンジンを再始動させる場合は、シフトレバーを N にし、エンジンスイッチを押す**

知識

■警告メッセージについて

→ P. 358

■警告ブザーについて

状況によっては、外部の騒音やオーディオの音などにより、ブザー音が聞こえない場合があります。

パンクしたときは（応急用タイヤ装着車）

この車両には、応急用タイヤが搭載されています。パンクしたタイヤを、備え付けの応急用タイヤと交換してください。
（タイヤについての詳しい説明は P. 303 を参照してください）

警告

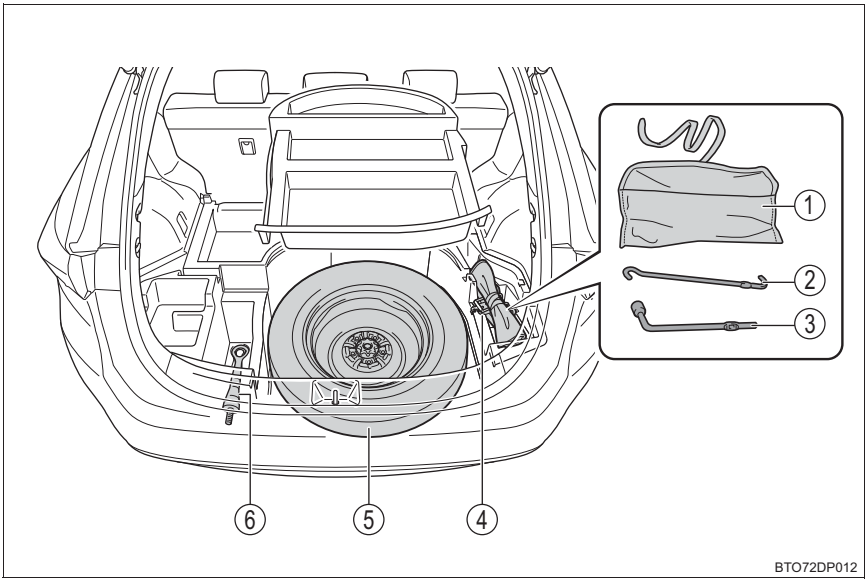
■タイヤがパンクしたときは

パンクしたまま走行しないでください。
短い距離でも、タイヤとホイールが修理できないほど損傷したり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

ジャッキで車体を持ち上げる前に

- 地面が固く平らな場所に移動する
- パーキングブレーキをかける
- シフトレバーを P にする
- エンジンを停止する
- 非常点滅灯を点滅させる

工具とジャッキの位置



① 工具袋
② ジャッキハンドル
③ ホイールナットレンチ
④ ジャッキ
⑤ 応急用タイヤ
⑥ けん引フック

警告

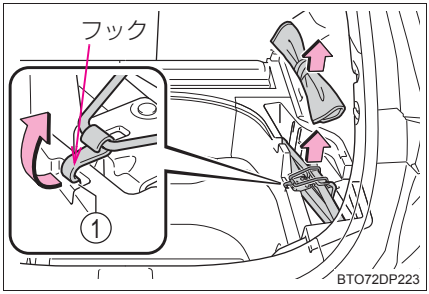
■**ジャッキの使用について**

次のことをお守りください。
ジャッキの取り扱いを誤ると、車が落下して重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ジャッキはタイヤ交換・タイヤチェーン取り付け・取りはずし以外の目的で使用しない
- 備え付けのジャッキは、お客様の車にしか使うことができないため、他の車に使ったり他の車のジャッキをお客様の車に使用したりしない
- ジャッキはジャッキセット位置に正しくかける
- ジャッキで支えられている車の下に体を入れない
- 車がジャッキで支えられている状態で、エンジンを始動したり車を走らせない
- 車内に人を乗せたまま車を持ち上げない
- 車を持ち上げるときは、ジャッキの上または下にものを置かない
- 車を持ち上げるときは、タイヤ交換できる高さ以上に上げない
- 車の下にもぐり込んで作業する場合は、ジャッキスタンドを使用する
- 車を下げるときは、周囲に人がいないことを確認し、人がいるときは声をかけてから下げる

ジャッキの取り出し方

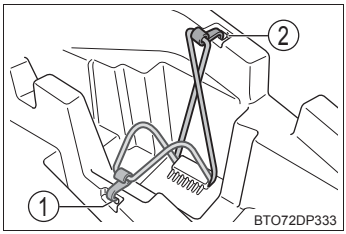
1. デッキボードを取りはずす（→ P. 276）
2. 工具袋を取り出す
3. ジャッキ固定バンドのフックを固定穴①からはずす
4. ジャッキを取り出す



知識

■ジャッキ固定バンドについて

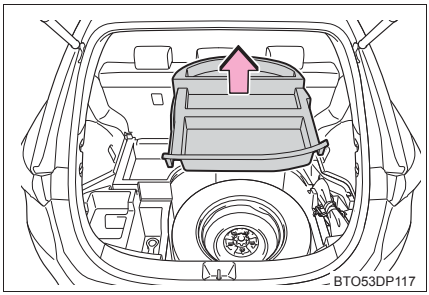
ジャッキ固定バンドのフックを固定穴 ① からはずしたときは、バンドをひねって固定穴 ② にフックをかけておいてください。



応急用タイヤの取り出し方

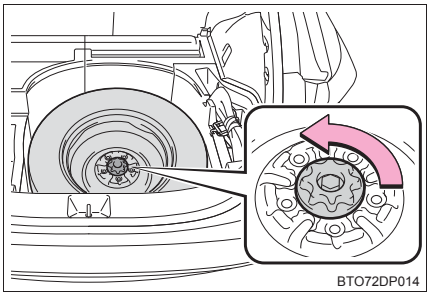
1 デッキボードを取りはずす（→ P. 276）

2 ラゲージアンダートレイを取りはずす



3 留め具をはずし、スペアタイヤを取り出す

スペアタイヤの留め具が固くてまわらないときは、車載のレンチを使用してください。（タイヤを固定するときは、留め具を手で取り付けてください。レンチなどの工具は使用しないでください。）



⚠警告

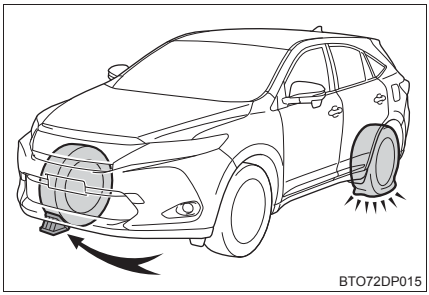
■応急用タイヤを収納するとき

ボデーと応急用タイヤとのあいだに、指などを挟まないように注意してください。

パンクしたタイヤの交換

1 輪止め※をする

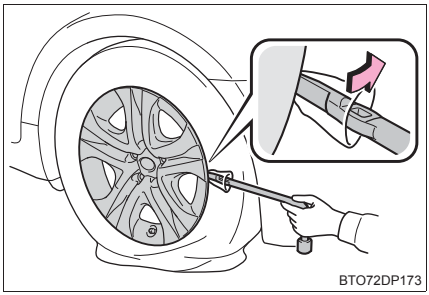
※ 輪止めは、トヨタ販売店で購入することができます。


BTO72DP015

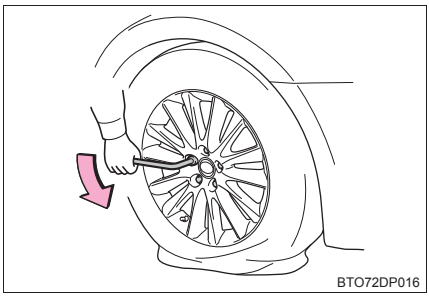
パンクしたタイヤ		輪止めの位置
前輪	左側	右側後輪うしろ
	右側	左側後輪うしろ
後輪	左側	右側前輪前
	右側	左側前輪前

2 フルホイールキャップをはずす（スチールホイールのみ）

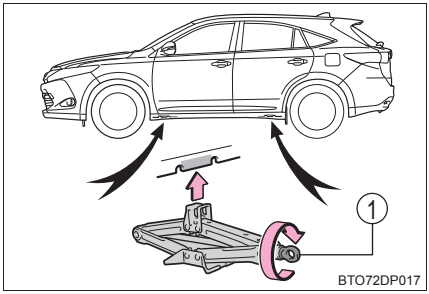
傷が付くのを防ぐため、ホイールナットレンチの先端に布などを巻いて保護してください。


BTO72DP173

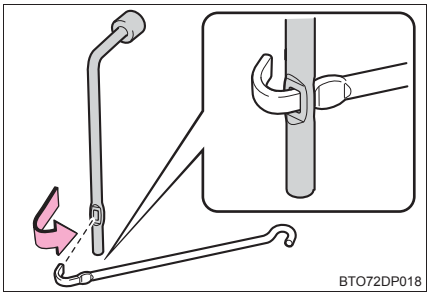
3 ナットを少し（約 1 回転）ゆるめる


BTO72DP016

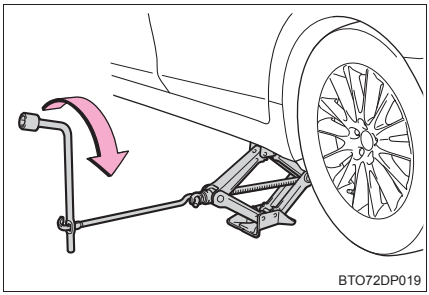
4 ジャッキの①部を手でまわして、ジャッキ溝をジャッキセット位置にしっかりかける



5 ホイールナットレンチをジャッキハンドルに組み付ける

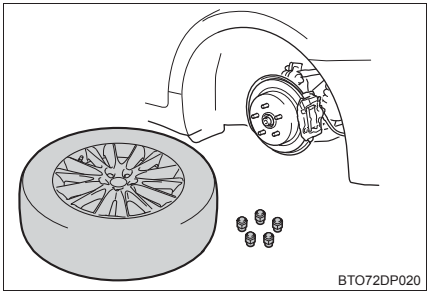


6 タイヤが地面から少し離れるまで、車体を上げる



7 ナットすべてを取りはずし、タイヤを取りはずす

タイヤを直接地面に置くときは、ホイールの表面に傷が付かないよう表面を上にします。



警告

■**タイヤ交換について**

●走行直後、ディスクホイールやブレーキまわりなどにはふれないでください。走行直後のディスクホイールやブレーキまわりは高温になっているためタイヤ交換などで手や足などがふれると、やけどをするおそれがあります。

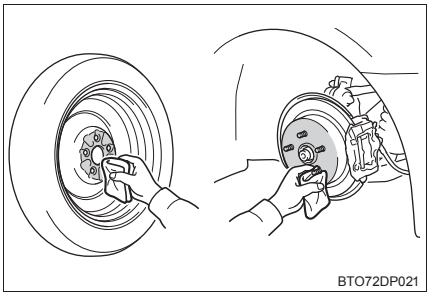
●次のことをお守りいただかないとナットがゆるみ、ホイールがはずれ落ち、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

・ねじ部にオイルやグリースを塗らない
ナットを締めるときに必要以上に締め付けられ、ボルトが破損したり、ディスクホイールが損傷するおそれがあります。またナットがゆるみホイールが落下するおそれがあります。オイルやグリースがねじ部に付いている場合はふき取ってください。
・ホイールの交換後は、すぐに 103N・m（1050kgf・cm）の力でナットを締める
・タイヤの取り付けには、使用しているホイール専用のナットを使用する
・ボルトやナットのねじ部や、ホイールのボルト穴につぶれや亀裂などの異常がある場合は、トヨタ販売店で点検を受ける

応急用タイヤの取り付け

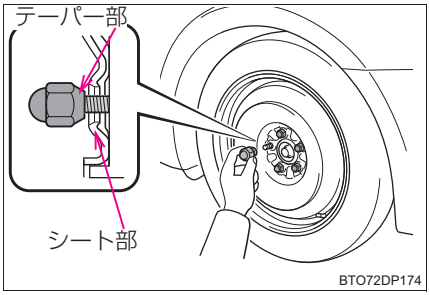
1 ホイール接触面の汚れをふき取る

ホイール接触面が汚れていると、走行中にナットがゆるみ、タイヤがはずれるおそれがあります。


BTO72DP021

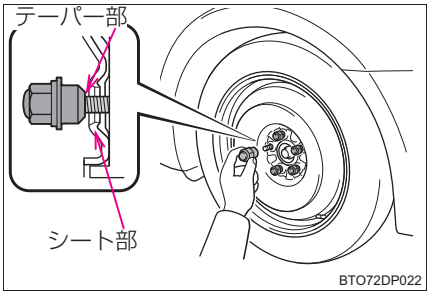
2 応急用タイヤを取り付け、タイヤががたつかない程度まで手でナットを仮締めする

スチールホイールから応急用タイヤにかえるとき：
ナットのテーパー部がホイールのシート部に軽くあたるまでまわす



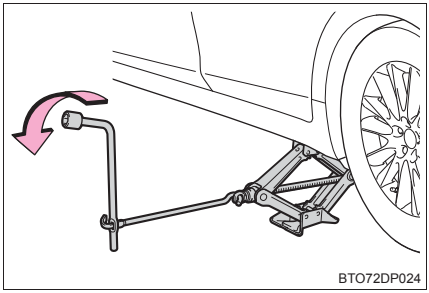
BTO72DP174

アルミホイールから応急用タイヤにかえるとき：
ナットのテーパー部がホイールのシート部に軽くあたるまでまわす



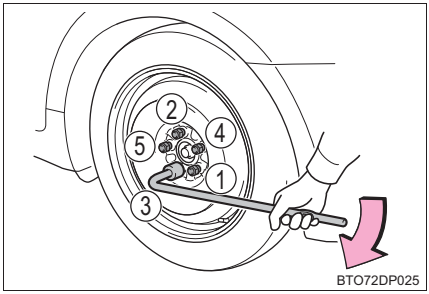
BTO72DP022

3 車体を下げる


BTO72DP024

4 図の番号順でナットを 2、3 度しっかり締め付ける

締め付けトルク：
103N・m（1050kgf・cm）



5 すべての工具・ジャッキ・パンクしたタイヤを収納する

知識

■応急用タイヤについて

- タイヤの側面に TEMPORARY USE ONLY と書かれています。応急用にのみ使用してください。
- 空気圧を必ず点検してください。（→P. 407）

■応急用タイヤを装着しているとき

標準タイヤ装着時にくらべ車高が低くなっています。

■雪道・凍結路で前輪がパンクしたとき

1 後輪を応急用タイヤに交換する

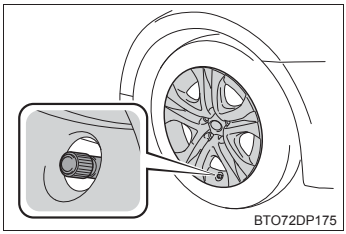
2 パンクした前輪をはずした後輪に交換する

3 タイヤチェーンを前輪に装着する

■ホイールキャップを取り付けるときは（スチールホイール装着車）※

タイヤのバルブ（空気口）に切り欠きを合わせてホイールキャップを確実に取り付けてください。

※ スチールホイールのみ（応急用タイヤに取り付けることはできません。）



警告

■応急用タイヤを使用するとき

- お客様の車専用になっているため、他の車には使用しないでください。
- 同時に 2 つ以上の応急用タイヤを使用しないでください。
- できるだけ早く通常のタイヤと交換してください。
- 急加速・急ハンドル・急ブレーキやシフト操作による急激なエンジンブレーキの使用は避けてください。

■応急用タイヤを装着しているとき

正確な車両速度が検出できない場合があり、次のシステムが正常に作動しなくなるおそれがあります。

- ABS
- ブレーキアシスト
- LDA（ステアリング制御付）★
- レーダークルーズコントロール★
- クルーズコントロール★
- クリアランスソナー★
- インテリジェントクリアランスソナー★
- TRC
- VSC
- PCS★
- オートマチックハイビーム★
- GPS ボイスナビゲーション★
- EPS
- バックガイドモニター★
- パノラミックビューモニター（左右確認サポート付）★

また、次のシステムは、性能が十分に発揮できないばかりでなく、駆動系部品に悪影響を与えるおそれがあります。

- 4WD システム★

■応急用タイヤ使用時の速度制限

応急用タイヤを装着しているときは、約 100km/h 以上の速度で走行しないでください。
応急用タイヤは、高速走行に適していないため、思わぬ事故につながるおそれがあります。

注意

■タイヤチェーンの装着について

応急用タイヤには、タイヤチェーンを装着しないでください。
タイヤチェーンが車体にあたり、車を損傷したり走行に悪影響をおよぼしたりするおそれがあります。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

パンクしたときは（タイヤパンク応急修理キット装着車）

タイヤパンク応急修理キット装着車には、スペアタイヤが搭載されていません。

タイヤがパンクしたときは、タイヤパンク応急修理キットで応急修理することができます。釘やネジなどが刺さった程度の軽度なパンクを応急修理できます。（パンク補修液 1 本につき、応急修理できるタイヤは 1 本です）

タイヤパンク応急修理キットで応急修理したタイヤの修理・交換については、トヨタ販売店にご相談ください。

警告

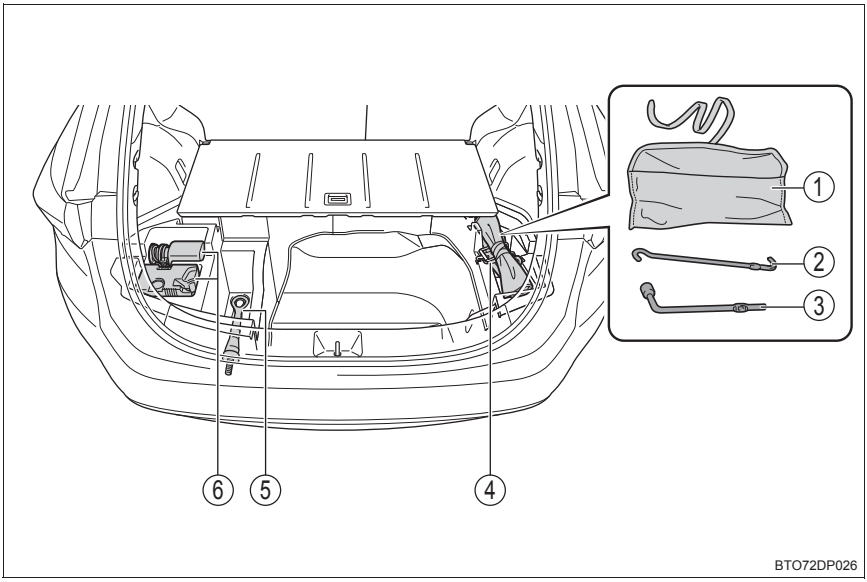
■パンクしたままの走行について

タイヤがパンクした状態で走行を続けないでください。
短い距離の運転でも、タイヤとホイールが修理できないほど損傷したり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

応急修理する前に

- 地面が固く平らな場所に移動する
- パーキングブレーキをかける
- シフトレバーを P にする
- エンジンを停止する
- 非常点滅灯を点滅させる

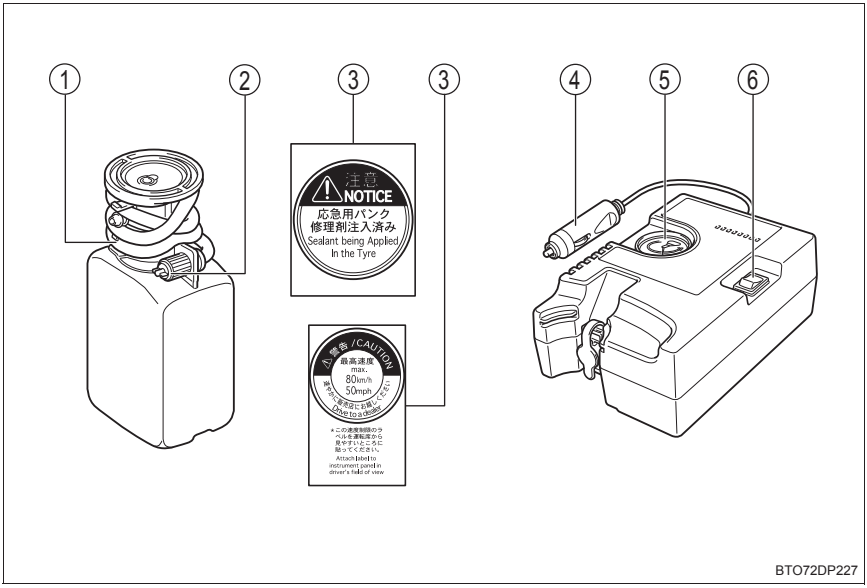
タイヤパンク応急修理キット・工具の搭載位置



① 工具袋
② ジャッキハンドル
③ ホイールナットレンチ
④ ジャッキ※
⑤ けん引フック
⑥ タイヤパンク応急修理キット

※ ジャッキの使い方（→P. 368）

タイヤパンク応急修理キットの内容／各部の名称

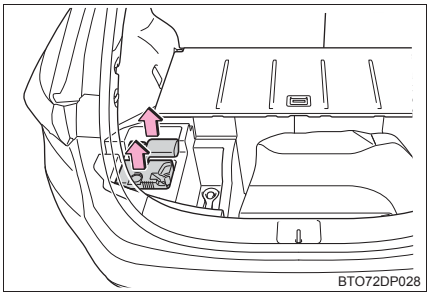


① ホース
② 空気逃がしキャップ
③ ラベル
④ 電源プラグ
⑤ 空気圧計
⑥ 電源スイッチ

応急修理キットの取り出し方

1 デッキボードを取りはずす（→ P. 276）

2 応急修理キットを取り出す



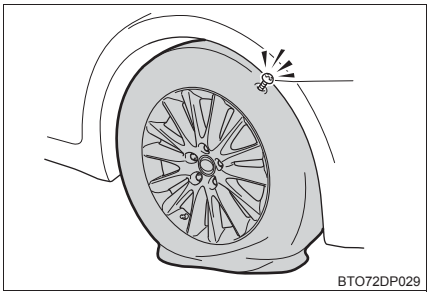
応急修理する前に

タイヤの損傷程度を確認してください。

釘やネジなどが刺さっている場合のみ、タイヤを応急修理してください。

・タイヤに刺さっている釘やネジなどは抜かないでください。抜いてしまうと穴が大きくなりすぎ、応急修理ができなくなることがあります。

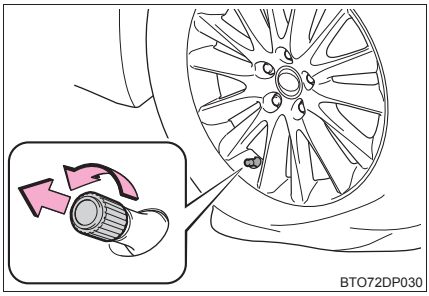
・パンク補修液がもれないようにするため、パンク箇所が分かっている場合は、パンク箇所が上になるように車両を移動してください。



応急修理するとき

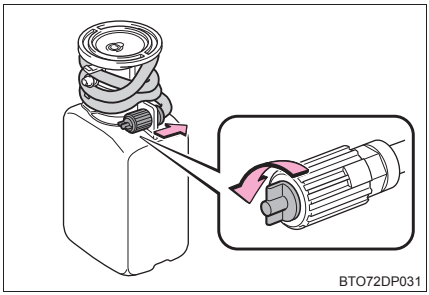
1 応急修理キットを取り出す

2 パンクしたタイヤのバルブから、バルブキャップを取りはずす


BTO72DP030

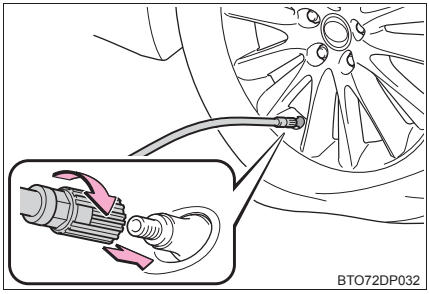
3 ホースをのばし、空気逃がしキャップを取りはずす

空気逃がしキャップは再度使用するため、なくさないように保管してください。

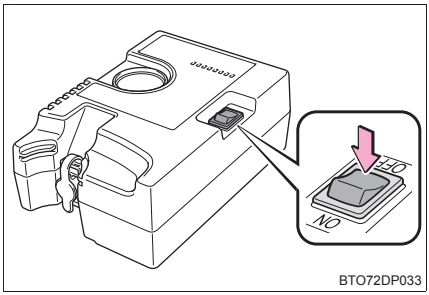

BTO72DP031

4 ホースをバルブに接続する

ホース先端を時計まわりにまわして、できるだけ奥までねじ込みます。

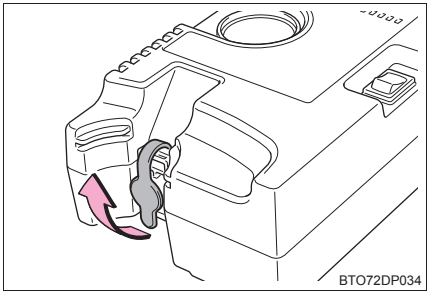

BTO72DP032

5 コンプレッサーのスイッチがOFF であることを確認する

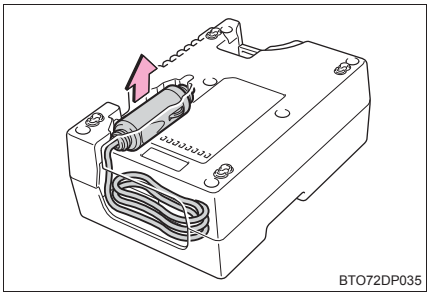


BTO72DP033

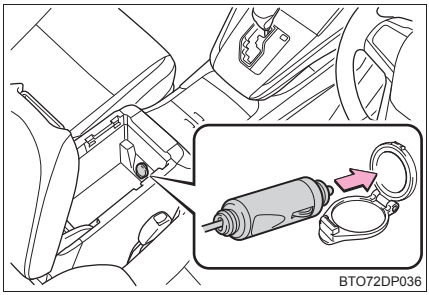
6 コンプレッサーのゴム栓をはずす



7 コンプレッサーの電源プラグを取りはずす

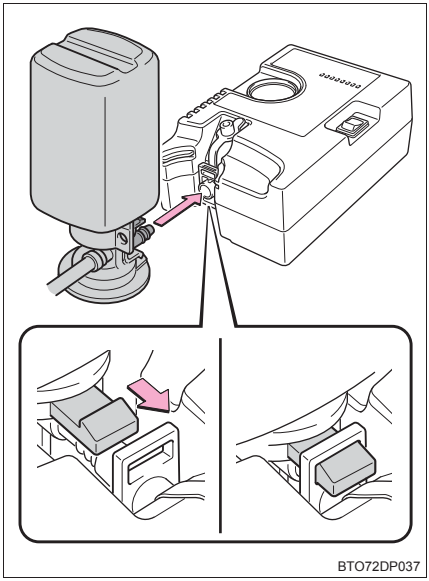


8 コンプレッサーの電源プラグをアクセサリーソケットに挿し込む（→P. 279）



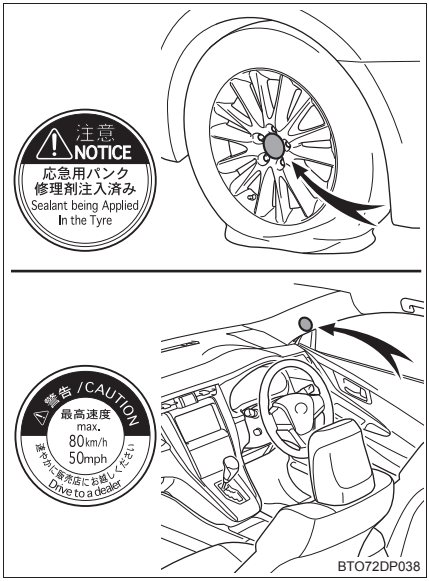
9 ボトルをコンプレッサーに接続する

しっかり接続されているか確認してください。



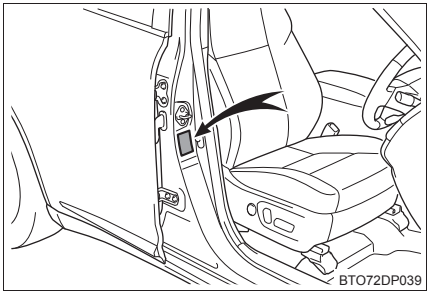
10 付属のラベル 2 枚を図のようにそれぞれ貼り付ける

ホイールの汚れや水分を十分にふき取ってからラベルを貼り付けてください。ラベルを貼り付けることができない場合は、トヨタ販売店にてタイヤを修理・交換するときにパンク補修液注入済みであることを必ずお伝えください。



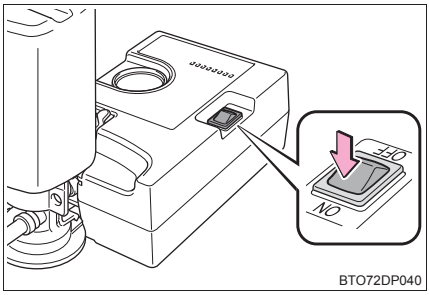
11 タイヤの指定空気圧を確認する

運転席側の空気圧ラベルで確認することができます。（→P. 304）



12 エンジンを始動する

13 コンプレッサーのスイッチを ON にし、パンク補修液と空気を充填する

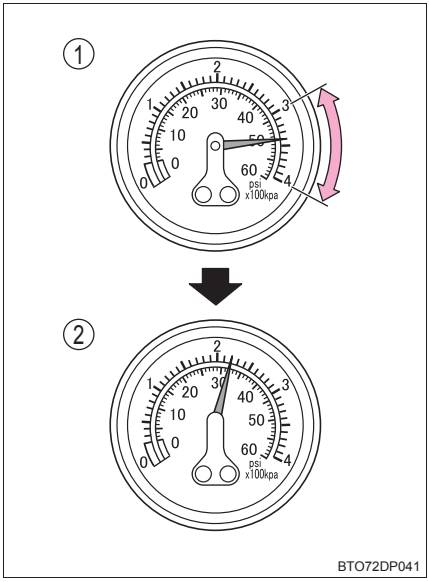


14 空気圧が指定空気圧になるまで充填する

① 一時的に空気圧計が 300 ～ 400kPa（3.0 ～ 4.0kg/cm^2）まで上昇し、徐々に減少します。

② スイッチを ON にしてから 1 分程度（低温の場合は 15 分程度）で実際の空気圧になります。

コンプレッサーのスイッチを OFF にして確認してください。空気の入れすぎに注意して、指定空気圧になるまで充填・確認をくり返してください。



10 分以上（低温の場合は 35 分以上）充填しても指定空気圧にならない場合は、応急修理できません。コンプレッサーのスイッチを OFF にしてトヨタ販売店にご連絡ください。
空気を入れすぎたときは、指定空気圧になるまで空気を抜いてください。
（→P. 384, 407）

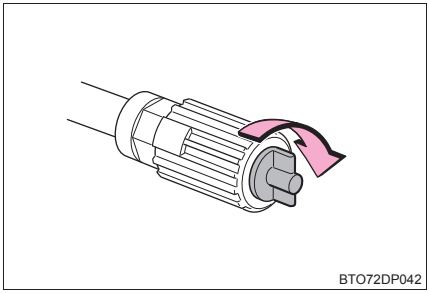
15 コンプレッサーのスイッチが OFF であることを確認した上で、アクセサリーソケットから電源プラグを抜き、タイヤのバルブから応急修理キットのホースを取りはずす

ホースを取りはずすときにパンク補修液がもれる可能性があります。

16 バルブキャップを応急修理したタイヤのバルブに取り付ける

17 ボトルのホース先端に空気逃がしキャップを取り付ける

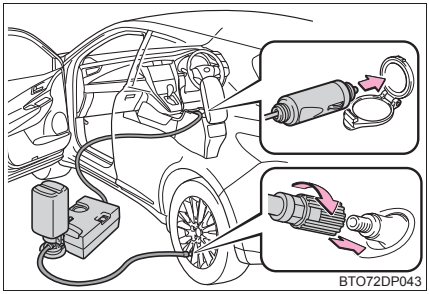
空気逃がしキャップを取り付けないとパンク補修液がもれ、お車が汚れる可能性があります。


BTO72DP042

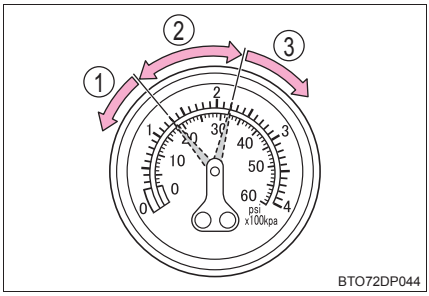
18 いったん、ボトルとコンプレッサーを接続したままラゲージルーム内に収納する

19 タイヤ内のパンク補修液を均等に広げるために、すみやかに約 5km 程度、速度 80km/h 以下で安全に走行する

20 走行後、平坦な場所に停車し、再度コンプレッサーを接続する


BTO72DP043

21 コンプレッサーのスイッチを ON にして数秒間経過後、スイッチを OFF にして空気圧を確認する



BTO72DP044

① 空気圧が 130kPa（1.3kg/cm^2）未満の場合：応急修理できません。トヨタ販売店にご連絡ください

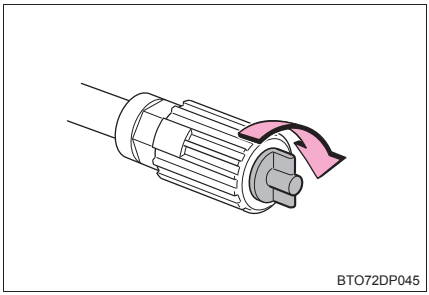
② 空気圧が 130kPa（1.3kg/cm^2）以上、指定空気圧未満の場合：手順 22 へ

③ 空気圧が指定空気圧（→P. 407）の場合：手順 23 へ

22 コンプレッサーのスイッチをONにして指定空気圧まで空気を充填し、再度、約 5km 走行後にあらためて手順 20 から実施する

23 ボトルのホース先端に空気逃がしキャップを取り付ける

空気逃がしキャップを取り付けないとパンク補修液がもれ、お車が汚れる可能性があります。



24 ボトルとコンプレッサーを接続したままラゲージルーム内に収納する

25 急ブレーキ、急加速、急ハンドルを避け、約 100km 以内、速度 80km/h 以下でトヨタ販売店まで慎重に運転する

知識

■応急修理キットで修理できないパンク

次の場合は、応急修理キットでは応急修理できません。トヨタ販売店にご連絡ください。

- ●タイヤ空気圧が不十分な状態で走行してタイヤが損傷しているとき
- ●タイヤ側面など、接地面以外に穴や損傷があるとき
- ●タイヤがホイールから明らかにはずれているとき
- ●タイヤに約 4mm 以上の切り傷や刺し傷があるとき
- ●ホイールが破損しているとき
- ●2 本以上のタイヤがパンクしているとき
- ●1 本のタイヤに 2 箇所以上の切り傷や刺し傷があるとき

■応急修理後のタイヤのバルブについて

応急修理キットを使用したときは、タイヤのバルブを新品に交換してください。

■応急修理キットの点検について

パンク補修液の有効期限の確認は定期的に行ってください。
有効期限はボトルに表示されています。
有効期限が切れたパンク修理液は使用しないでください。応急修理キットによる修理が正常にできない場合があります。

■応急修理キットについて

●応急修理キットは自動車タイヤの空気充填用です。

●パンク補修液には有効期限があります。有効期限は容器に表示されています。有効期限が切れる前に交換してください。交換については、トヨタ販売店にご相談ください。

●パンク補修液ボトル1本でタイヤ1本を1回応急修理できます。使用したパンク補修液の交換は、トヨタ販売店にご相談ください。コンプレッサーは、くり返し使用できます。

●外気温度が－40 ℃～60 ℃のときに使用できます。

●応急修理キット搭載車両の装着タイヤ専用です。指定タイヤサイズ以外のタイヤや、他の用途には使用しないでください。

●パンク補修液が衣服に付着すると、シミになる場合があります。

●パンク補修液がホイールやボデーに付着した場合、放置すると取れなくなるおそれがあります。ぬれた布などですみやかにふき取ってください。

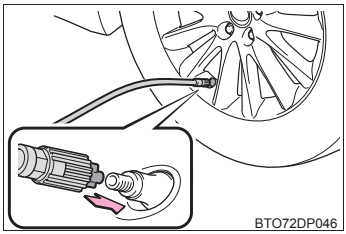
●コンプレッサー作動中は、大きな音がしますが故障ではありません。

●タイヤ空気圧の点検や調整には使用しないでください。

■空気を入れすぎてしまったとき

1 タイヤからホースを取りはずす

2 ホース先端に空気逃がしキャップをかぶせ、キャップの突起部をタイヤのバルブに押しあてて空気を抜く



3 ホースから空気逃がしキャップを取りはずし、ホースを再接続する

4 コンプレッサーのスイッチを ON にして数秒間経過後、スイッチを OFF にして空気圧計を確認する
指定空気圧より低いときは、再度、コンプレッサーのスイッチを ON にし、指定空気圧になるまで空気を充填してください。

警告

■応急修理キットについて

●応急修理キットは指定の位置に収納してください。
急ブレーキ時などに応急修理キットが飛び出したりして破損したり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●応急修理キットはお客様の車専用です。他の車には使わないでください。他の車に使うと思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●指定タイヤサイズ以外のタイヤや他の用途には使用しないでください。パンク修理が完全に行われず、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

■パンク補修液について

●誤って飲み込むと健康に害があります。その場合はできるだけたくさんの水を飲み、ただちに医師の診察を受けてください。

●もし目に入ったり、皮膚に付着したりした場合には、水でよく洗い流してください。それでも異常を感じたときは、医師の診察を受けてください。

■パンクしたタイヤを応急修理するとき

●車両を安全で平坦な場所に停止させてください。

●走行直後、ホイールやブレーキまわりなどにはふれないでください
走行直後のホイールやブレーキまわりは高温になっている可能性があるため手や足などがふれると、やけどをするおそれがあります。

●タイヤを車両に取り付けた状態で、バルブとホースをしっかりと接続してください。

●接続が不十分な場合、空気がもれたり、パンク補修液が飛散したりするおそれがあります。

●充填中にホースがはずれると、圧力でホースが急に動くおそれがあり危険です。

●充填後、ホースを取りはずすときや空気を抜くときにパンク補修液が飛散する場合があります。

●作業手順に従って応急修理を行ってください。
手順どおりに行わないとパンク補修液が噴出する場合があります。

●破裂の危険があるので、応急修理キットの作動中は補修中のタイヤから離れてください。タイヤに亀裂や変形が発生している場合、ただちにキットのスイッチを OFF にし、修理を中止してください。

●応急修理キットは、長時間作動させると過熱する可能性があります。35 分以上連続で作動させないでください。

警告

- 応急修理キットの作動中は、部分的に熱くなります。使用中、または使用後の取り扱いには注意してください。ボトルとコンプレッサー接続箇所の金属部分は特に熱くなるため、使用中、または使用直後はふれないでください。
- 速度制限ラベルは指定位置以外に貼らないでください。ハンドルのパッド部分などの SRS エアバッグ展開部に貼ると、SRS エアバッグが正常に作動しなくなるおそれがあります。

■補修液を均等に広げるための運転について

- 低速で慎重に運転してください。特にカーブや旋回時には注意してください。
- 車がまっすぐ走行しなかったり、ハンドルをとられたりする場合は、停車し、次のことを確認してください。
  - ・タイヤを確認してください。タイヤがホイールからはずれている可能性があります。
  - ・空気圧を確認してください。130kPa　未満の場合は、タイヤが大きなダメージを受けている可能性があります。

注意

■応急修理をするとき

- タイヤに刺さった釘やネジを取り除かずに応急修理を行ってください。取り除いてしまうと、応急修理キットでは応急修理ができなくなる場合があります。
- 応急修理キットに防水機能はありません。降雨時などは、水がかからないようにして使用してください。
- 砂地などの砂ぼこりの多い場所に直接置いて使用しないでください。砂ぼこりなどを吸い込むと、故障の原因になります。

■応急修理キットについて

- 応急修理キットは DC12V 専用です。他の電源での使用はできません。
- 応急修理キットにガソリンがかかると、劣化するおそれがあります。ガソリンがかからないようにしてください。
- 応急修理キットは砂埃や水を避けて収納してください。
- 応急修理キットは指定の位置に収納し、お子さまが誤って手をふれないようご注意ください。
- 分解・改造などは絶対にしないでください。また、圧力計などに衝撃を与えないでください。故障の原因になります。

エンジンが始動できないときは

正しいエンジンのかけ方（→P. 148）に従っても、エンジンがかからないときは、次のことを確認してください。

スターターは正常にまわっているのにエンジンがかからない場合

次の原因が考えられます。

- 燃料が入っていない可能性があります。
  給油してください。
- 燃料を吸い込みすぎている可能性があります。
  再度、正しい手順（→P. 148）に従って、エンジンをかけてください。
- エンジンイモビライザーシステムに異常がある可能性があります。（→P. 57）

スターターがゆっくりまわる／室内灯・ヘッドランプが暗い／ホーンの音が小さい、または鳴らない場合

次の原因が考えられます。

- バッテリーあがりの可能性があります。（→P. 392）
- バッテリーのターミナルがゆるんでいる可能性があります。

スターターがまわらない場合

電子キーの電池切れやヒューズ切れなど、電気系統異常の可能性があります。異常の種類によっては、エンジンを一時的な処置でかけることができます。（→P. 388）

スターターがまわらない／室内灯・ヘッドランプが点灯しない／ホーンが鳴らない場合

次の原因が考えられます。

- バッテリーのターミナルがはずれている可能性があります。
- バッテリーあがりの可能性があります。（→P. 392）
- ステアリングロックシステムに異常がある可能性があります。

対処の方法がわからないとき、あるいは対処をしてもエンジンが始動できないときは、トヨタ販売店にご連絡ください。

緊急始動機能

通常のエンジン始動操作でエンジンが始動しないときは、次の手順でエンジンが始動する場合があります。
緊急時以外は、この方法で始動させないでください。

1. パーキングブレーキがかかっていることを確認する
2. シフトレバーが P の位置にあることを確認する
3. エンジンスイッチをアクセサリーモードにする
4. ブレーキペダルをしっかり踏んでエンジンスイッチを約 15 秒以上押し続ける

上記の方法でエンジンが始動しても、システムの故障が考えられます。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

シフトレバーがシフトできないときは

ブレーキペダルを踏んだ状態でシフトレバーがシフトできない場合、シフトロックシステム（シフトレバーの誤操作を防ぐ装置）などの故障が考えられます。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。
ただし一時的な処置として、次の方法でシフトレバーをシフトすることができます。

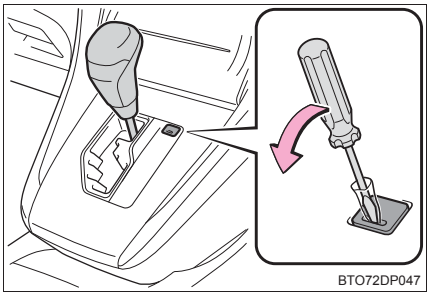
1 パーキングブレーキをかける

2 エンジンスイッチをアクセサリーモードにする

3 ブレーキペダルを踏む

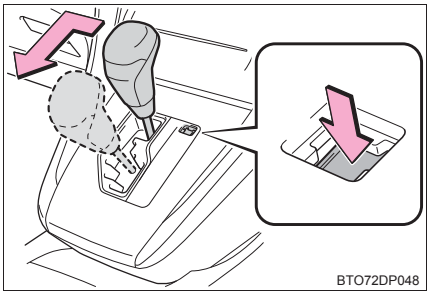
4 マイナスドライバーなどを使ってカバーを取りはずす

傷が付くのを防ぐため、マイナスドライバーの先端に布などを巻いて保護してください。


BTO72DP047

5 シフトロック解除ボタンを押す

ボタンを押しているあいだは、レバーをシフトできます。


BTO72DP048

電子キーが正常に働かないときは

電子キーと車両間の通信がさまたげられたり（→P. 104）、電子キーの電池が切れたときは、スマートエントリー＆スタートシステムとワイヤレスリモコンが使用できなくなります。このような場合、次の手順でドアを開けたり、エンジンを始動したりすることができます。

ドアの施錠・解錠

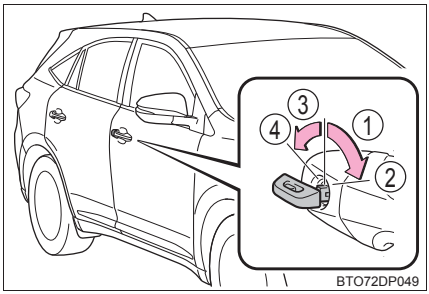
メカニカルキー（→P. 80）を使って次の操作ができます。

① 全ドア施錠

② ドアガラスが閉まる（まわし続ける）※

③ 全ドア解錠

④ ドアガラスが開く（まわし続ける）※



※ カスタマイズ機能での設定変更が必要です。（→P. 412）

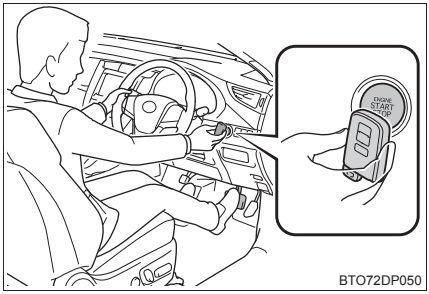
エンジン始動の方法

1 シフトレバーが P の状態でブレーキペダルを踏む

2 電子キーのトヨタエンブレム面で、エンジンスイッチにふれる

電子キーを認識するとブザーが鳴り、イグニッション ON モードへ切りかわります。

車両カスタマイズ機能でスマートエントリー＆スタートシステムの設定が非作動になっているときは、アクセサリーモードへ切りかわります。



3 ブレーキペダルをしっかりと踏み込んで、マルチインフォメーションディスプレイに が表示されていることを確認する

4 エンジンスイッチを押す

処置をしても作動しないときは、トヨタ販売店にご連絡ください。

知識

■エンジンの停止方法

通常のエンジンの停止方法と同様に、シフトレバーをPにしてエンジンスイッチを押します。

■電池交換について

ここで説明しているエンジンの始動方法は一時的な処置です。電池が切れたときは、ただちに電池の交換をおすすめします。（→P. 310）

■エンジンスイッチのモードの切りかえについて

エンジン始動方法の手順3で、ブレーキペダルから足を離してエンジンスイッチを押すと、エンジンが始動せず、スイッチを押すごとにモードが切りかわります。（→P. 149）

■電子キーが正常に働かない場合

- 車両カスタマイズ機能でスマートエントリー＆スタートシステムの設定を確認し、非作動になっている場合には、作動可能に設定変更してください。（→P. 411）
- 電子キーが節電モードに設定されていないことを確認してください。設定されている場合は解除してください。（→P. 104）

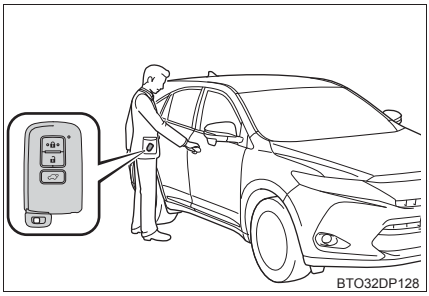
バッテリーがあがったときは

バッテリーがあがった場合、次の手順でエンジンを始動することができます。

ブースターケーブルと 12V のバッテリー付き救援車があれば、次の手順に従って、エンジンを始動させることができます。

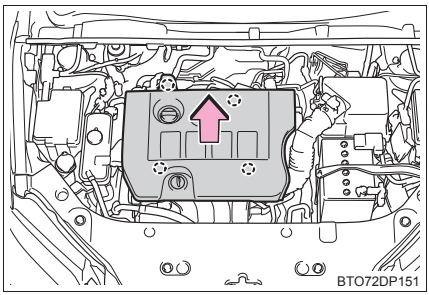
1 電子キーを携帯していることを確認する

ブースターケーブル接続時、場合によっては、オートアラームが作動し自動的にドアが施錠されます。(→P. 59)

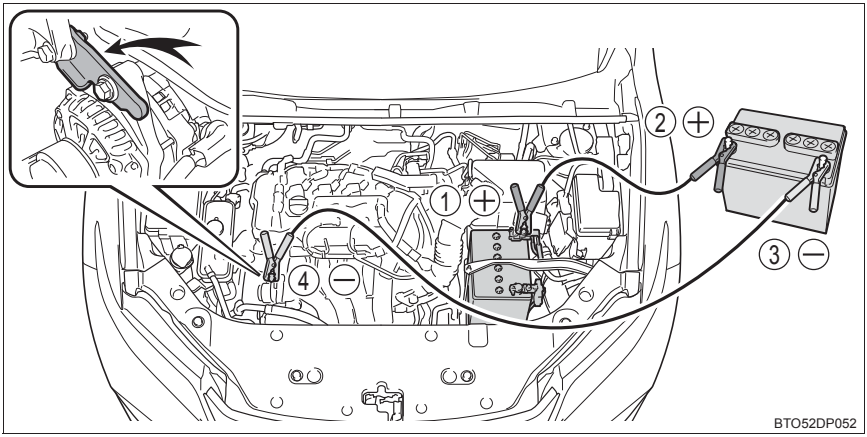


2 ボンネットを開ける（→P. 299）

3 エンジンルーム中央のカバーをはずす



4 バッテリーの＋端子のカバーをはずし、ブースターケーブルを次の順につなぐ



① 赤色のブースターケーブルを自車のバッテリーの＋端子につなぐ

② 赤色のブースターケーブルのもう一方の端を救援車のバッテリーの＋端子につなぐ

③ 黒色のブースターケーブルを救援車のバッテリーの－端子につなぐ

④ 黒色のブースターケーブルのもう一方の端を、未塗装の金属部（図に示すような固定された部分）につなぐ

5 救援車のエンジンをかけ、回転を少し高めにして、約 5 分間自車のバッテリーを充電する

6 エンジンスイッチが OFF の状態でいずれかのドアを開閉する

7 救援車のエンジン回転を維持したまま、エンジンスイッチをいったんイグニッション ON モードにしてからエンジンを始動する

8 エンジンが始動したら、ブースターケーブルをつないだときと逆の順ではずす

エンジンが始動しても、早めにトヨタ販売店で点検を受けてください。

知識

■バッテリーあがり時の始動について

この車両は、押しがけによる始動はできません。

■バッテリーあがりを防ぐために

●エンジンが停止しているときは、ランプやオーディオの電源を切ってください。

●渋滞などで長時間止まっているときは、不必要な電装品の電源を切ってください。

■バッテリーの充電について

バッテリーの電力は、車両を使用していないあいだも、一部の電装品による消費や自然放電のために、少しずつ消費されています。そのため、車両を長期間放置すると、バッテリーがあがってエンジンを始動できなくなるおそれがあります。（バッテリーは走行中に自動で充電されます）

■バッテリーあがり時や取りはずし時など

●バッテリーを充電・交換する場合は、車内にキーがないことを確認してください。オートアラームが作動するとキーが車内に閉じ込められるおそれがあります。（→P. 58）

●バッテリー脱着直後はスマートエントリー＆スタートシステムによるドアの解錠ができない場合があります。解錠できなかった場合はワイヤレスリモコン、またはメカニカルキーで解錠・施錠を実施してください。

●バッテリー脱着後、最初の始動操作ではエンジンが始動できないことがありますが異常ではありません。再度始動操作を行ってください。

●車両は常に電源の状態を記憶しています。バッテリー脱着時、車両はバッテリーをはずす前の状態に復帰します。バッテリーを脱着する際は、エンジンスイッチを OFF にしてから行ってください。
バッテリーがあがる前の状態が不明の場合、バッテリー接続時は特に注意してください。

警告

■**バッテリーの引火または爆発を防ぐために**

バッテリーから発生する可燃性ガスに引火して爆発するおそれがあり危険ですので、火や火花が発生しないよう、次のことをお守りください。

- ブースターケーブルは正しい端子以外に接続しない
- ＋端子に接続したブースターケーブルの先を付近のブラケットや未塗装の金属部に接触させない
- ブースターケーブルは＋側と－側の端子を絶対に接触させない
- バッテリー付近では、喫煙したりマッチやライターなどで火を起こさない

■**バッテリーの取り扱いについて**

バッテリー内には有毒で腐食性のある酸性の電解液が入っており、また関連部品には鉛または鉛の混合物を含んでいるので、取り扱いに関し、次のことを必ずお守りください。

- バッテリーを取り扱うときは保護メガネを着用し、液（酸）が皮膚・衣服・車体に付着しないようにする
- 必要以上、顔や頭などをバッテリーに近付けない
- 誤ってバッテリー液が体に付着したり目に入ったりした場合、ただちに大量の水で洗い、すぐに医師の診察を受ける
  また、医師の診察を受けるまで、水を含ませたスポンジや布を患部にあてておく
- 誤ってバッテリー液を飲み込んだ場合、多量の水を飲んで、すぐに医師の診察を受ける
- バッテリーの支柱・ターミナル・その他の関連部品の取り扱い後は手を洗う
- お子さまをバッテリーに近付けない

注意

■**ブースターケーブルの取扱いについて**

ブースターケーブルを接続したり、取りはずすときは、冷却ファンやベルトに巻き込まれないように十分注意してください。

オーバーヒートしたときは

次のような場合は、オーバーヒートの可能性があります。

- メーター内の水温計の針がレッドゾーンに入った：エンジン出力が低下する（スピードが出ないなど）
- エンジンルームから蒸気が出る

対処方法

1 安全な場所に停車し、エアコンをOFFにしてから、エンジンを停止する

2 蒸気が出ている場合：
蒸気が出なくなったことを確認してから、注意してボンネットを開ける

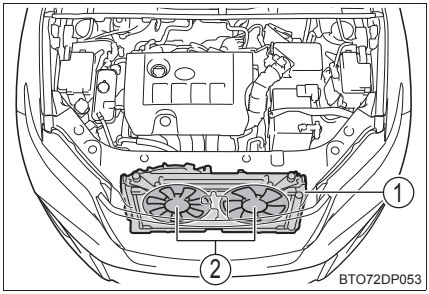
蒸気が出ていない場合：
注意してボンネットを開ける

3 エンジンが十分に冷えてから、ラジエーターコア部（放熱部）やホースなどからの冷却水もれを点検する

① ラジエーター

② ファン

多量の冷却水もれがある場合は、ただちにトヨタ販売店に連絡してください。

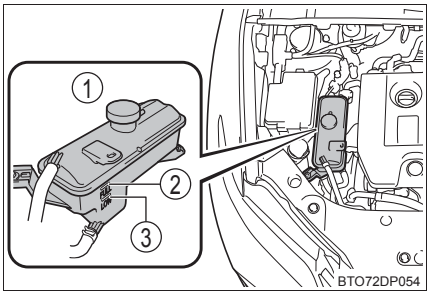


4 冷却水の量がリザーバータンクの“FULL”（上限）と“LOW”（下限）のあいだにあるかを点検する

① リザーバータンク

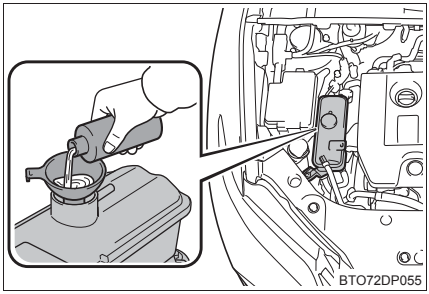
② “FULL”（上限）

③ “LOW”（下限）



5 冷却水が不足している場合は、冷却水を補給する

冷却水がない場合は、応急措置として水を補給してください。



6 エンジンを始動し、エアコンを作動させてラジエーター冷却用のファンが作動しているか、およびラジエーターコアやホースなどから冷却水もれがないことを再度確認する

エンジンが冷えた状態での始動直後は、エアコンを ON にすることでファンが作動します。ファンの音や風で確認してください。わかりにくいときは、エアコンの ON・OFF をくり返してください。
（ただし、氷点下となる寒冷地はファンが作動しないことがあります）

7 ファンが作動していない場合：
すぐにエンジンを停止し、トヨタ販売店に連絡する

ファンが作動している場合：
最寄りのトヨタ販売店で点検を受ける

警告

■エンジンルームを点検しているとき

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、やけどなどの重大な傷害を受けるおそれがあります。

- エンジンルームから蒸気が出ている場合は、蒸気が出なくなるまでボンネットを開けないでください。エンジンルーム内が高温になっています。
- 手や着衣（特にネクタイ・スカーフ・マフラーなど）をファンやベルトから離してください。手や着衣が巻き込まれ、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- エンジンおよびラジエーターが熱い場合は冷却水リザーバータンクのキャップを開けないでください。
高温の蒸気や冷却水が圧力によって噴き出すおそれがあります。

注意

■**冷却水を入れるとき**

エンジンが十分に冷えてからゆっくり入れてください。
エンジンが熱いときに急に冷たい冷却水を入れると、エンジンが損傷するおそれがあります。

■**冷却系統の故障を防ぐために**

次のことをお守りください。

●異物（砂やほこりなど）を冷却水に混入させない

●冷却水用添加剤を使用しない

スタックしたときは

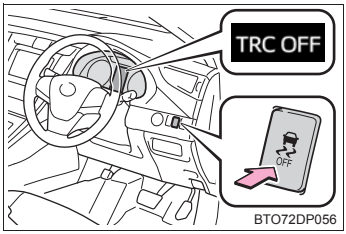
ぬかるみや砂地・雪道などでタイヤが空転したり埋まり込んで動けなくなったときは次の方法を試みてください。

1. パーキングブレーキをかけシフトレバーを P にして、エンジンを停止する
2. 前輪周辺の土や雪などを取り除く
3. 前輪の下に木や石などをあてがう
4. エンジンを再始動する
5. シフトレバーを D または R に入れ、パーキングブレーキを解除して注意しながらアクセルペダルを踏む

知識

■脱出しにくいとき

VSC OFF スイッチを押して TRC を OFF にしてください。



警告

■脱出するとき

前進と後退をくり返してスタックから脱出する場合、他の車・ものまたは人との衝突を避けるため周囲に何もないことを確認してください。
スタックから脱出するとき、車が前方または後方に飛び出すおそれがありますので、特に注意してください。

■シフトレバーを操作するとき

アクセルペダルを踏み込んだまま操作しないように気を付けてください。
車が急発進し、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

注意

■ **トランスミッションやその他の部品への損傷を避けるために**

- タイヤが空転するのを避け、必要以上にアクセルペダルを踏まないでください。
- 上記の方法で脱出できなかった場合、けん引による救援が必要です。

車両情報 8

8-1. 仕様一覧
メンテナンスデータ（指定燃料・オイル量など）.....402
8-2. カスタマイズ機能
ユーザーカスタマイズ機能一覧.....408
8-3. 初期設定
初期設定が必要な項目.....416

メンテナンスデータ（指定燃料・オイル量など）

使用するオイルや液類の品質により、お車の寿命は著しく左右されます。お車には、最も適した弊社純正オイル・液類（以下、「指定銘柄」といいます）のご使用をおすすめします。

指定銘柄以外を使用される場合は、指定銘柄に相当する品質のものをご使用ください。

燃料

指定燃料	容量［L］（参考値）
・無鉛レギュラーガソリン ・バイオ混合ガソリン（レギュラー）※	60

※ エタノールの混合率 10% 以下または、ETBE の混合率 22% 以下のガソリン（酸素含有率 3.7% 以下）を使用することができます。

エンジンオイル

指定銘柄	容量［L］（参考値※1）	
	オイルのみ交換	オイルとオイルフィルター交換
トヨタキヤッスルモーターオイル SN 0W-20※2（API SN/RC,ILSAC GF-5, SAE 0W-20） トヨタキヤッスルモーターオイル SN 5W-20（API SN/RC,ILSAC GF-5, SAE 5W-20） トヨタキヤッスルモーターオイル SN 5W-30（API SN/RC,ILSAC GF-5, SAE 5W-30） トヨタキヤッスルモーターオイル SN 10W-30（API SN/RC,ILSAC GF-5, SAE 10W-30）	3.9	4.2

※1 エンジンオイルの容量は交換する際の目安です。オイル量の確認は、エンジンの暖機後にエンジンを停止し、5 分以上経過してからレベルゲージで行ってください。

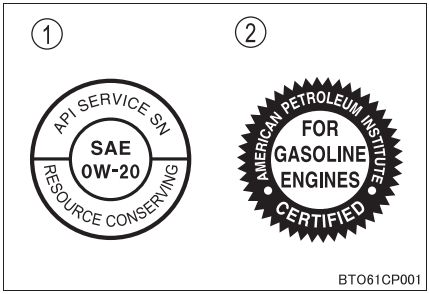
※2 0W-20 は上記表の指定銘柄の中では、最も省燃費性に優れるオイルです。

■ 指定エンジンオイル

API 規格 SN/RC、SM/EC か、ILSAC 規格合格油をおすすめします。なお、ILSAC 規格合格油の缶には ILSAC CERTIFICATION（イルサックサーティフィケーション）マークが付いています。

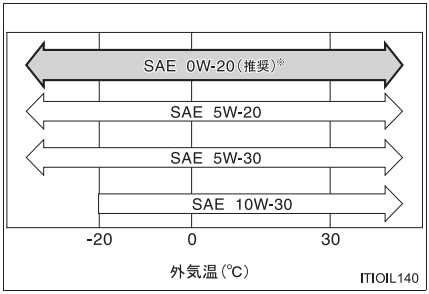
① API マーク

② ILSAC CERTIFICATIONマーク



■ エンジンオイル推奨粘度

下記図に基づき、外気温に適した粘度のものをご使用ください。



※ 0W-20 は新車時に充填されており、上記図に示す中では最も省燃費性に優れるオイルです。

オイル粘度について（例として 0W-20 で説明します）：

・0W-20 の 0W は、低温時のエンジン始動特性を示しています。W の前の数値が小さいほど冬場や寒冷時のエンジン始動が容易になります。

・0W-20 の 20 は、高温時の粘度特性を示しています。
粘度の高い（数値が大きい）オイルは高速または高負荷走行に適しています。

ラジエーター

指定銘柄	容量［L］（参考値）
トヨタ純正スーパーロングライフクーラント 凍結保証温度 濃度 30%　－ 12°C 濃度 50%　－ 35°C	5.9

オートマチックトランスミッション

指定銘柄	容量［L］（参考値※）
トヨタ純正 CVT フルード FE	7.1

※ 交換が必要な際はトヨタ販売店にご相談ください

⚠ 注意

■CVT フルードについて

上記で指定のトヨタ純正フルード以外をご使用の場合、変速不良、振動など不具合発生や破損に至るおそれがあります。

リアディファレンシャル（4WD 車）

オイルタイプ・推奨粘度	容量［L］（参考値）
トヨタ純正ディファレンシャルギヤオイル LT (API GL-5 SAE 75W-85)	0.5

トランスファー（4WD 車）

オイルタイプ・推奨粘度	容量［L］（参考値）
トヨタ純正ディファレンシャルギヤオイル LT (API GL-5 SAE 75W-85)	0.45

ブレーキ

■ ブレーキフルード

指定銘柄
トヨタ純正ブレーキフルード 2500H-A

■ ブレーキペダル

項目	基準値［mm］
遊び	1 ～ 6
踏み込んだときの床板とのすき間※	80

※ エンジン回転時に 500N（51.0kgf）の踏力をかけたときの床板とのすき間の最小値

■ パーキングブレーキ

項目	基準値（回数）
踏みしろ 操作力 300N（30.6kgf）のときのノッチ※数	7 ～ 10

※ ノッチとは、パーキングブレーキをかけるときの節度（“カチッ”という音）のことです

ウォッシャータンク

容量 [L]（参考値）
2.5 ※

※ 寒冷地仕様車は 4.8L

タイヤ・ホイール

タイヤサイズ		ホイールサイズ	タイヤが冷えているときの空気圧 kPa（kg/cm^2）	
			前輪	後輪
標準タイヤ	225/65R17 102H	17 × 6 1/2J	240（2.4）	
		17 × 7 J		
	235/55R18 100H	18 × 7 1/2J	220（2.2）	
	235/50R19 99V	19 × 8J		
応急用タイヤ★	T165/80D17 104M	17 × 4T	420（4.2）	

電球（バルブ）※

電球		W（ワット）数
車外	ヘッドランプハイビーム（バルブタイプ：HB3）	60
	フロント方向指示灯／非常点滅灯	21
	リヤ方向指示灯／非常点滅灯	21
	後退灯	16
	ドアミラー照明★	5
車内	フロントルームランプ	8
	リヤルームランプ	8
	バニティランプ	8
	ラゲージルームランプ	5
	カーテシランプ	5

※ 表に記載のないランプは LED を採用しています。

車両仕様

名称	型式	エンジン	駆動方式
ハリアー	ZSU60W	3Z R-FAE（2.0L ガソリン）	FF（前輪駆動）
	ZSU65W		4WD（4 輪駆動）

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

ユーザーカスタマイズ機能一覧

お車に装備されている各種の機能は、ご希望に合わせてトヨタ販売店で作動内容を変更することができます。また、メーカーオプションのナビゲーションシステム（装着車のみ）・マルチインフォメーションディスプレイの操作により、設定を変更することができる機能もあります。

機能によっては、他の機能と連動して設定が変わるものもあります。詳しくはトヨタ販売店へお問い合わせください。

設定変更のしかた

操作するときは、安全な場所に停車してシフトレバーを P に入れ、パーキングブレーキをかけた状態で行ってください。

■ マルチインフォメーションディスプレイで設定するには

1 「設定」を表示する（→P. 71）

2 メータ操作スイッチ（→P. 70）の選択スイッチ ⌃ または、⌄ を押して、設定変更したい項目を選択する

3 メータ操作スイッチの ⊙ を押す

押すごとに ON ／ OFF などが切りかわります。

■ ナビゲーションシステムで設定するには

1 「SETUP」スイッチにタッチする

2 「設定・編集」画面の「車両」を選択する

3 設定を変更したいカテゴリーを選択する

BTO20DR015

4 一覧表示された中から設定を変更する項目を選択する

5 機能の作動内容を選択する

作動・非作動を変更できる機能では、「する」（作動）・「しない」（非作動）を選択します。

音量やセンサーの感度などを変更できる機能では、「+」または「−」を選択します。

車両カスタマイズ設定一覧

機能によっては、他の機能と連動して設定がかわるものもあります。詳しくはトヨタ販売店へお問い合わせください。

① ナビゲーションシステムの画面操作で設定変更可能

② マルチインフォメーションディスプレイで設定変更可能

③ 車両側のスイッチなどで設定変更可能

④ トヨタ販売店で設定変更可能

■ メーター、マルチインフォメーションディスプレイ（→P. 71）

機能	初期設定	変更後	①	②	③	④
エコドライブインジケーターランプ	あり（自動点灯）	なし	―	○	―	―
割り込み表示	あり	なし	―	○	―	―
テーマカラー★	青白色	青色	○※	○	―	―
		赤色				
		金色				

※ 設定方法については、別冊「ナビゲーションシステム取扱書」を参照してください。

■ アイドリングストップ（→P. 178）

機能	初期設定	変更後	①	②	③	④
A/C（エアコン）が ON のときの Stop & Start System アイドル時間	普通	長め	―	○	―	―

■ オートアラーム（→P. 58）

機能	初期設定	変更後	①	②	③	④
メカニカルキーを使って解錠したときのアラーム解除	あり	なし	―	―	―	○

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ ドアロック（→P. 86）

機能	初期設定	変更後	①	②	③	④
車速感応オートドアロック	あり	なし	○	―	○※	○
シフトレバーをP以外にしたときの全ドア施錠（シフト操作連動ドアロック）	なし	あり	○	―	○※	○
シフトレバーをPにしたときの全ドア解錠（シフト操作連動アンロック）	あり	なし	○	―	○※	○
運転席ドアを開けたときの全ドア解錠（運転席ドア開連動アンロック）	なし	あり	○	―	○※	○

※ メーカーオプションのナビゲーションシステム装着車を除く

■ パワーバックドア★（→P. 89）

機能	初期設定	変更後	①	②	③	④
バックドア自動開停止位置（バックドア下部の スイッチ操作での設定）	自動開停止位置の設定を解除したときの位置（→P. 95）	お好みの位置で停止	―	―	○	―
バックドア自動開停止位置（ナビゲーションシステムの画面操作での設定）	開度５	開度１～５	○	―	―	―
バックドア自動開停止位置（トヨタ販売店での設定）	開度５	開度１～５	―	―	―	○
作動中のブザー音	なし	あり	―	―	―	○

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ スマートエントリー&スタートシステム、ワイヤレスドアロック共通（→P. 83, P. 89）

機能	初期設定	変更後	①	②	③	④
作動の合図（ブザー音量調整）	レベル 5	OFF	○	—	—	○
		レベル 1 ～ 7				
作動の合図（非常点滅灯）	あり	なし	○	—	—	○
解錠後、ドアを開けなかったときの自動施錠までの時間	30 秒	60 秒	—	—	—	○
		120 秒				
半ドア警告ブザー	あり	なし	—	—	—	○

■ スマートエントリー&スタートシステム（→P. 102）

機能	初期設定	変更後	①	②	③	④
スマートエントリー&スタートシステム	あり	なし	○	—	—	○
連続ロック操作の有効回数	2 回	無制限	—	—	—	○

■ ワイヤレスドアロック（→P. 83, P. 89）

機能	初期設定	変更後	①	②	③	④
ワイヤレス機能	あり	なし	—	—	—	○
ワイヤレスリモコンの [ ] スイッチ操作（→P. 89）でパワーバックドア★を開ける	バックドア施錠時：なし バックドア解錠時：長押し	なし	—	—	—	○
		バックドア施錠時：なし バックドア解錠時：単押し				
		バックドア施錠時：なし バックドア解錠時：2 回押し				
		バックドア施錠時・解錠時共に 2 回押し				
		バックドア施錠時・解錠時共に長押し				

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ フロントシート（→P. 112）

機能	初期設定	変更後	①	②	③	④
メモリーコール機能と連動するドアの選択★	運転席ドア	全ドア	―	―	―	○

■ ドアミラー（→P. 123）

機能	初期設定	変更後	①	②	③	④
オート電動格納作動	ドアの施錠・解錠と連動	OFF	―	―	―	○
		エンジンスイッチと連動				

■ パワーウインドウ（→P. 127）

機能	初期設定	変更後	①	②	③	④
ドアキー連動開閉機能	なし	あり	―	―	―	○
ワイヤレスリモコン連動開閉機能	なし	あり	―	―	―	○
ワイヤレスリモコン連動作動合図（ブザー）	あり	なし	―	―	―	○

■ パノラマムーンルーフ★（→P. 130）

機能	初期設定	変更後	①	②	③	④
ムーンルーフ開警告表示	あり	なし	―	―	―	○

■ ランプ自動点灯・消灯システム（→P. 160）

機能	初期設定	変更後	①	②	③	④
ライトセンサーの感度調整	標準	－2～+2	○	―	―	○
ライトを点灯するまでの時間	標準	長め	―	―	―	○

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ クリアランスソナー★（→P. 216）

機能	初期設定	変更後	①	②	③	④
フロントセンサーの検知可能距離	遠い	近い	○※	―	―	○
リヤセンサーの検知可能距離	遠い	近い	○※	―	―	○
ブザー音量	レベル 3	レベル 1 ～ 5	○※	―	―	○
センサー表示の切りかえ	すべて表示	表示なし	○※	―	―	○

※ →P. 222

■ LDA（ステアリング制御付）★（→P. 201）

機能	初期設定	変更後	①	②	③	④
操舵力支援	有	無	―	○	―	―
車線逸脱時の警報ブザーが吹鳴する感度	普通	高	―	○	―	―

■ エアコン（→P. 256）

機能	初期設定	変更後	①	②	③	④
エアコンスイッチにタッチしてから反応するまでの時間	0.14 秒	0.06 秒	―	―	○	―
		0.10 秒				
		0.16 秒				
		0.20 秒				
エアコンスイッチにタッチしたときの操作音	あり	なし	―	―	○	―
AUTOスイッチがONのとき、連動して外気導入と内気循環を自動的に切りかえる	する	しない	○	―	―	○
AUTOスイッチをONにしたとき、A/C（エアコン）スイッチが連動してONになる	する	しない	○	―	―	○

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ イルミネーション（→P. 267）

機能	初期設定	変更後	①	②	③	④
室内照明の点灯制御	あり	なし	○	―	―	○
室内灯の消灯までの時間	15 秒	7.5 秒 30 秒	○	―	―	○
エンジンスイッチOFF 後の作動	あり	なし	―	―	―	○
解錠時の照明の点灯	あり	なし	―	―	―	○
接近時の照明の点灯	あり	なし	―	―	―	○
足元照明の点灯★	あり	なし	―	―	―	○
ドアミラー照明の点灯制御★	あり	なし	―	―	―	○
ドアミラー照明の消灯までの時間★	15 秒	OFF 7.5 秒 30 秒	○	―	―	○
接近時のドアミラー照明の点灯★	あり	なし	―	―	―	○
解錠時のドアミラー照明の点灯★	あり	なし	―	―	―	○
周囲の明るさにより、メーターなどの照度を自動減光するためのセンサーの感度	0	－2～+2	―	―	―	○
周囲の明るさにより、減光したメーターなどの照度をもとにもどすためのセンサーの感度	0	－2～+2	―	―	―	○

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

知識

■車両カスタマイズについて

●「車速感応オートドアロック」と「シフトレバーをＰ以外にしたときの全ドア施錠（シフト操作連動ドアロック）」を両方とも「あり」にした場合、次のように作動します。

・シフトレバーをＰ以外に入れると全ドアが施錠されます。
・全ドアが施錠された状態で発進した場合、車速感応式自動ドアロックは作動しません。
・発進前にいずれかのドアロックを解錠してから発進した場合は、車速感応オートドアロックが作動します。

●解錠後、ドアを開けなかったときの自動施錠が作動したときの合図は、「作動の合図（非常点滅灯）」・「作動の合図音量（ブザー音量調整）」の設定に依存します。

■ナビゲーション画面でカスタマイズ設定を行うとき★

安全な場所に停車し、パーキングブレーキをかけ、シフトレバーをＰにしてください。また、バッテリーあがりを防ぐため、エンジンが作動している状態で操作を行ってください。

警告

■ナビゲーション画面でカスタマイズ設定を行うとき★

エンジンが作動した状態で操作を行うため、車庫内など囲まれた場所では、十分に換気をしてください。換気をしないと、排気ガスが充満し、排気ガスに含まれる一酸化炭素（CO）により、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

初期設定が必要な項目

次の項目はバッテリーを再接続したり、メンテナンスを行ったあとなどに、システムを正しく作動させるために初期設定が必要です。

項目	初期設定が必要なとき	参照
バックガイドモニター★	バッテリーの充電・交換後の再接続時	別冊「ナビゲーションシステム取扱書」
パノラミックビューモニター（左右確認サポート付）★		
パワーバックドア★		P. 95
パノラマムーンルーフ★		P. 133
インテリジェントクリアランスソナー★		P. 236

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

さくいん

こんなときは
（症状別さくいん）.....418
車から音が鳴ったときは
（音さくいん）.....421
アルファベット順さくいん.....423
五十音順さくいん.....424

こんなときは（症状別さくいん）

お困りの際は、トヨタ販売店にご連絡いただく前にまず次のことを確認してください。

施錠／解錠／ドアの開閉ができない

キーをなくした

- メカニカルキーをなくした場合、トヨタ販売店でトヨタ純正の新しいメカニカルキーを作ることができます。（→P. 81）
- 電子キーをなくすと盗難の危険性が極めて高くなるため、ただちにトヨタ販売店にご相談ください。（→P. 82）

施錠・解錠できない

- キーの電池が消耗、または電池が切れていませんか？ （→P. 310）
- エンジンスイッチがイグニッション ON モードになっていませんか？
  施錠するときは、エンジンスイッチを OFF にしてください。
  （→P. 149）
- 電子キーを車内に置き忘れていませんか？
  施錠するときは、電子キーを携帯していることを確認してください。
- 電波状況により、機能が正常に働いていない可能性があります。
  （→P. 104）

リヤドアが開かない

- チャイルドプロテクターがかかっていませんか？
  チャイルドプロテクターがかかっていると車内からは開きません。いったん車外から開けて、チャイルドプロテクターを解除してください。（→P. 86）

故障かな？と思ったら

エンジンがかからない

- ブレーキペダルをしっかりと踏みながらエンジンスイッチを押していますか？（→P. 148）
- シフトレバーは P になっていますか？（→P. 149）
- キーが車内の検知される場所にありますか？（→P. 102）
- ステアリングロックされていませんか？（→P. 151）
- キーの電池が消耗、または電池が切れていませんか？
  このときは、一時的な方法でエンジンをかけることができます。（→P. 390）
- バッテリーがあがっていませんか？（→P. 392）

ブレーキペダルを踏んでいてもシフトレバーが P から動かない

- エンジンスイッチはイグニッション ON モードになっていますか？
  エンジンスイッチがイグニッション ON モードでブレーキを踏んでも解除できないとき（→P. 389）

エンジンを停止したあとにハンドルがまわせなくなった

- 盗難防止のため、自動的にロックされます。（→P. 151）

パワーウインドウスイッチを操作してもドアガラスが開閉しない

- ウインドウロックスイッチが押されていませんか？
  ウインドウロックスイッチが押されていると、運転席以外のパワーウインドウは操作できなくなります。（→P. 127）

バックドアが開かない

- バックドアを内側から開けることができます。（→P. 94）

エンジンスイッチが自動的に OFF になった

- 一定時間アクセサリーモードまたはイグニッションONモード（エンジンがかかっていない状態）にしておくと、自動電源 OFF 機能が作動します。（→P. 150）

警告音・アラーム・ホーンが鳴りだした

- 警告音が鳴りだしたときは、「車から音が鳴ったときは（音さくいん）」（→P. 421）をご確認ください。

警告灯や警告メッセージが表示されたとき

- 警告灯や警告メッセージが表示されたときは、P. 344,347 をご確認ください。

トラブルが発生した

タイヤがパンクした

- 応急用タイヤ装着車
  車を安全な場所に停め、パンクしたタイヤを応急用タイヤに交換してください。（→P. 364）
- タイヤパンク応急修理キット装着車
  車を安全な場所に停め、タイヤパンク応急修理キットでパンクしたタイヤを応急修理してください。（→P. 374）

立ち往生した

- ぬかるみ・砂地・雪道などで動けなくなったときの脱出方法を試してください。（→P. 399）

車から音が鳴ったときは（音さくいん）

次の状況のとき、車の状態や誤操作などをお知らせするために警告音が鳴ります。

車に乗るとき／降りるとき

状況	原因	詳細
解錠したとき	盗難防止装置（オートアラーム）が作動した ※	P. 58
ドアを開閉したとき	電子キーを車内に置き忘れている	P. 360
	シフトポジションが P 以外になっている	P. 362
	パノラマムーンルーフ★が開いている（エンジン停止中のみ）	P. 132
	盗難防止装置（オートアラーム）が作動した ※	P. 58
エンジンを停止したとき	電子キーの電池残量が少なくなっている	P. 361
施錠しようとしたとき（施錠できないとき）	いずれかのドアが確実に閉まっていない	P. 103
	電子キーを車内に置き忘れている	P. 360
	シフトポジションが P 以外になっている	

※ ドアまたはバックドアを解錠する、またはエンジンスイッチをイグニッション ON モードにするか、エンジンを始動すると、警報を解除することができます。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

走行しているとき

状況	原因	詳細
走り出したとき	いずれかのドア・バックドア・ボンネットが確実に閉まっていない	P. 351
	パーキングブレーキが解除されていない	P. 344
	運転席・助手席のシートベルトを着用していない※	P. 345
シフトダウンしたとき	シフトダウン制限をこえて操作した	P. 155
ブレーキペダルを踏んだとき（きしみやひっかき音）	ブレーキパッドが摩耗しているおそれがある	P. 143
先行車に接近したとき	レーダークルーズコントロール★を使用している	P. 195
前方の障害物と衝突しそうになったとき	PCS（プリクラッシュセーフティシステム）★が作動した	P. 245
車線から逸脱したとき	LDA（ステアリング制御付）★を使用している	P. 202

※ 助手席に荷物を置いている場合にもブザーが鳴ることがあります。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

アルファベット順さくいん

A/C
（エアコン）. 256
ABS
（アンチロックブレーキシステム）. 238, 344, 354
AHB
（オートマチックハイビーム）. 162, 351
G AI-SHIFT
（ジー アーティフィカルインテリジェンスシフト）. 156
EDR
（イベントデータレコーダー）.. 8
EPS
（エレクトリックパワーステアリング）. 238, 344
FF
（フロントエンジンフロントドライブ） 407
ILSAC CERTIFICATION
（イルサックサーティフィケーション） 404
ICS
（インテリジェントクリアランスソナー）. 226
ISOFIX
（アイソフィックス／イソフィックス） 42, 50
PCS
（プリクラッシュセーフティシステム） 245, 347, 349
LDA
（レーンディパーチャーアラート／車線逸脱警報）. 201, 348
SRS
（サプリメンタルレストレイントシステム）. 33, 344
TRC
（トラクションコントロール） 238
VSC
（ビークルスタビリティコントロール）. 238
S-VSC
（ステアリングアシステッドビークルスタビリティコントロール）. . . 239

五十音順さくいん

あ

アームレスト 287
アイドリングストップ 178
　アイドリングストップ時間 71
　SMART STOP 178
　Stop & Start キャンセル表示灯 64
　Stop & Start システム 178
　Stop & Start 表示灯 178
アウターミラー（ドアミラー）... 123
　操作 123
アクセサリーソケット 279
アクセサリーコンセント 279
アクセサリーモード 149
アシストグリップ 288
足元照明 267
アラーム
　オートアラーム 58
　音さくいん 421
　警告ブザー 344, 347
アンチロックブレーキシステム（ABS）..... 238
アンテナ（スマートエントリー&スタートシステム）..... 102

い

イージークローザー
　バックドア 94
イグニッションスイッチ（エンジンスイッチ）..... 148
位置交換（タイヤローテーション）..... 303
イベントデータレコーダー（EDR）..... 8
イモビライザーシステム 57
イルミネーテッドエントリーシステム 269
インジケーター（表示灯）..... 63
インテリジェントクリアランスソナー 226
　警告灯 345
　警告メッセージ 232, 355, 356
　操作 226
　表示灯 63
インナーミラー 121

う

ウインカー（方向指示灯）..... 158
　電球（バルブ）の交換 315
　方向指示レバー 158
　ワット数 407
ウインドウ 127
　ウォッシャー 169, 173
　パワーウインドウ 127
　リヤウインドウデフォッガー 258
ウインドウロックスイッチ 127
ウォーニングランプ（警告灯）.... 344
ウォッシャー 169, 173
　液の補給 302
　スイッチ 169, 173
　タンク容量 406
　冬の前の準備・点検 252
動けなくなったときは（スタック）..... 399
雨滴感知式ワイパー 170
運転 138
　運転を補助する装置 238
　寒冷時の運転 252
　正しい運転姿勢 24
　手順 138
運転席シートポジションシステム 112

え

エアコン
フィルターの交換 308
オートエアコン 256
エアバッグ 33
SRS エアバッグ警告灯 344
作動条件 37
配置 33
エコドライブインジケーター 73
LED イルミネーションビーム 166
エレクトリック
パワーステアリング（EPS）.... 238
機能 238
パワーステアリング警告灯 ... 344
エンジン
エンジンイモビライザー
システム 57
エンジン回転計
（タコメーター）..... 65
エンジン警告灯 344
エンジンスイッチ 148
エンジンの始動方法 148
エンジンスイッチ
（イグニッションスイッチ／
エンジンスイッチ）..... 148
オーバーヒート 396
ボンネット 299
エンジンオイル..... 403
警告メッセージ 348
冬の前の準備・点検 252
メンテナンスデータ 403
エンジンスイッチ..... 148
エンジンフード（ボンネット）... 299
開け方..... 299
警告メッセージ 351

お

オイル（エンジンオイル）.....403
応急用タイヤ.....364
空気圧 407
交換方法 364
オートアラーム 58
オートドアロック・
アンロック機能 86
オートマチックトランスミッション
シフトダウン
制限警告ブザー 155
操作 154
7 速スポーツシーケンシャル
シフトマチックモード 155
メンテナンスデータ 405
オートマチックハイビーム.....162
オートレベリングシステム
（ヘッドランプ）.....161
オーバーヒート 396
オープナー
給油口 175
ボンネット 299
おくだけ充電（ワイヤレス充電器）
.....281
お子さまを乗せるとき.....41
ウインドウロックスイッチ 127
お子さまの安全のために 41
子供専用シート.....42
シートベルトの着用..... 30
チャイルドシートの取り付け ...50
チャイルドプロテクター 86
オドメーター 65
機能 65
表示の切りかえ・
リセットスイッチ 66

か

カーテシランプ
　装着位置 267
　ワット数 407
カーテンシールドエアバッグ 33
カードホルダー 271
カーペット 22
　洗浄 297
　フロアマットの取り付け方 22
外気温度表示 65
外装の電球（バルブ） 315
　交換要領 315
　ワット数 407
カスタマイズ機能 408
型式 407
カップホルダー 273
カメラ
　オートマチックハイビーム 165
　白線認識用カメラ（LDA） 201
ガラスの曇り取り
（リヤウインドウデフォッガー）
258
ガレージジャッキ 301
冠水路走行 146
寒冷時の運転 252

き

キー 80
　エンジンが始動できない 390
　キーナンバープレート 80
　キーの構成 80
　キーレスエントリー 83, 89
　キーをなくした 81, 82
　正常に働かない 390
　施錠・解錠ができない 390
　電子キー 80
　電池が切れた 310
　メカニカルキー 80
　ワイヤレスリモコン 80
キーレスエントリー 83, 89
　スマートエントリー＆
　スタートシステム 102
　ワイヤレスドアロック 80
給油 175
　給油口が開けられない 177
　給油のしかた 175
　メンテナンスデータ 402
緊急始動機能（エンジン） 388

緊急時の対処
エンジンが
始動できない 387
オーバーヒートした 396
キーの電池が切れた 310
警告灯がついた 344
警告メッセージが
表示された 347
けん引 337
故障したときは 332
シフトレバーが
シフトできない 389
車両を緊急停止する 336
スタックした 399
電子キーが正常に働かない 390
発炎筒 334
バッテリーがあがった 392
パンクした 364, 374
緊急ブレーキシグナル 238

く

空気圧（タイヤ）..... 407
メンテナンスデータ 407
区間距離計（トリップメーター）... 65
機能 65
切りかえ・リセットスイッチ ... 66
曇り取り 258
ミラーヒーター 258
リヤウインドウデフォッガー 258
クラクション（ホーン）..... 119
クリアランスソナー 216
警告メッセージ 349
操作 216
クリアランスランプ（車幅灯）... 160
電球（バルブ）の交換 328
スイッチ 160
クリップ
エンジンルームカバー 318
フロアマット 22
クルーズコントロール 186
クルーズコントロール 186
警告メッセージ 354
レーダークルーズコントロール
..... 190
グローブボックス 271

け

警音器（ホーン）..... 119
計器類（メーター）..... 65
照度調整 66
マルチインフォメーション
ディスプレイ 69
メーター 65
警告灯 62
ICS OFF 表示灯 345
ABS ＆ブレーキアシスト 344
SRS エアバッグ 344
エンジン 344
シートベルト非着用 345
Stop&Start キャンセル
表示灯 345
スリップ表示灯 345
燃料残量 345
パワーステアリング 344
PCS 345
プリテンショナー 344
ブレーキ 344
マスターウォーニング 345

警告ブザー
シートベルト非着用 345
シフトダウン制限 155
接近警報（レーダークルーズコントロール） 195
パーキングブレーキ未解除走行時 355
半ドア 84, 351
ブレーキ 344
パノラマムーンルーフ開 132
リバース 156
警告メッセージ 347
化粧ミラー（バニティミラー） ... 277
けん引 337
けん引のしかた 337
フック 339

こ

交換
キーの電池 310
タイヤ 364
電球（バルブ） 315
ヒューズ 312
工具（ツール） 365, 375
後退灯（バックアップランプ）
電球（バルブ）の交換 315
ワット数 407
コートフック 288
子供専用シート 42
選択方法 42
取り付け方 50
小物入れ 271
コンソールボックス 272
コンライト
（自動点灯・消灯装置） 160

さ

サイドエアバッグ 33
サイド方向指示灯 158
電球（バルブ）の交換 328
方向指示レバー 158
サイドミラー（ドアミラー） 123
操作 123
サンシェード
パノラマムーンルーフ 130
サンバイザー 277

し

シート 108, 110
子供専用シート 42
正しい運転姿勢 24
調整 108, 109, 110
手入れ 296
ポジションメモリー 112
ヘッドレスト 116
メモリーコール機能 114
シートヒーター 265
シートベルト 26
お子さまの着用 30
緊急時シートベルト固定機構 ... 30
シートベルト非着用警告灯 345
高さ調整 29
正しく着用するには 26
着け方・はずし方 26
手入れ 297
妊娠中の方の着用 31
シートベルト非着用警告灯 345
シートベルトプリテンショナー 29
機能 29
プリテンショナー警告灯 344
室内灯（ルームランプ） 268
始動のしかた 148
シフトポジション 154

シフトレバー 154
シフトレンジの切りかえ..... 154
シフトロックシステム
（解除ボタン）..... 389
操作 154
リバース警告ブザー 156
シフトレバーが
シフトできないときは 389
締め付けトルク（ホイール）..... 372
ジャッキ
ガレージジャッキ 301
車載ジャッキ 365, 375
ジャッキハンドル..... 365, 375
車幅灯 160
電球（バルブ）の交換..... 328
ランプスイッチ 160
車両型式 407
車両仕様（スペック）..... 402
車両データの記録..... 7
車両を緊急停止するには 336
ジュニアシート..... 43
収納装備 270
仕様（車両仕様）..... 402
衝撃感知ドアロック
解除システム..... 88

す

水温計.....65
スイッチ
イグニッション.....148
ウインドウロック.....127
ウォッシャー 169, 173
エアコン操作スイッチ.....256
LED イルミネーションビーム
スイッチ 166
LDA（ステアリング制御付）
スイッチ 203
エンジンスイッチ.....148
クルーズコントロール
.....186, 190
シート調整 108, 109, 110
シートヒーター.....266
車間距離切りかえ（レーダー
クルーズコントロール）.....192
ドアミラー 123
ドアロック 85
パワーウインドウ.....127
パノラマムーンルーフ.....130
ハンドル位置調整.....118
ポジションメモリー.....112
非常点滅灯
（ハザードランプ）.....333
VSC OFF.....240
フォグランプ 167
ヘッドランプ 160
方向指示レバー.....158
ホーン（警音器）.....119
ランプ 160
リヤウインドウデフォッガー
.....258
レーダークルーズコントロール
.....190
ワイパー 169, 173
スタック.....399

ステアリングホイール
（ハンドル）..... 118
位置調整..... 118
ステアリングスイッチ
.....66, 70, 289
ステアリングロック..... 151
解除できないとき 151
警告メッセージ..... 362
ストップランプ（制動灯）
電球（バルブ）の交換 328
スノータイヤ（冬用タイヤ）..... 252
スピードメーター..... 65
スペアタイヤ（応急用タイヤ）... 364
空気圧..... 407
交換方法 364
スペック（車両仕様）..... 402
スマートエントリー&
スタートシステム..... 102
アンテナの位置..... 102
エンジンの始動 148
カスタマイズ設定..... 411
警告ブザー..... 103
警告メッセージ..... 359
作動範囲..... 102
正常に働かないとき 390
節電機能..... 103
電波がおよぼす
影響について 107
ドアの解錠・施錠 83
バックドアの解錠・施錠..... 89
SMART STOP..... 178
アイドリングストップ時間
.....71
SMART STOP..... 178
Stop & Start キャンセル表示灯
..... 179
Stop & Start システム..... 178
Stop & Start 表示灯..... 178
スモールランプ（車幅灯）..... 160
電球（バルブ）の交換 328
ランプスイッチ..... 160

せ

清掃 292, 296
アルミホイール..... 293
エアコン操作スイッチ 261
外装..... 292
シートベルト 297
内装..... 296
ラジエターグリル..... 295
レーダーセンサー 200
ワイヤレス充電器..... 297
制動灯
電球（バルブ）の交換..... 328
積算距離計（オドメーター）..... 65
機能..... 65
表示の切りかえ・
リセットスイッチ..... 66
セキュリティ
インジケーター 57, 58
接近警報（レーダークルーズ
コントロール）..... 195
センサー
インナーミラー..... 122
ライトセンサー..... 161
レーダーセンサー..... 197, 247
洗車 292

前照灯（ヘッドランプ）..... 160
電球（バルブ）の交換..... 315
ライトセンサー..... 161
ランプ消し忘れ防止機能..... 161
ランプスイッチ..... 160
ワット数..... 407

そ

走行モード
（ドライブモード）..... 214
速度計（スピードメーター）..... 65

た

ターンシグナルランプ
（方向指示灯）..... 158
電球（バルブ）の交換
..... 315, 328
方向指示レバー..... 158
ワット数 407
タイヤ..... 303
応急用タイヤ..... 364
空気圧..... 306, 407
交換 364
締め付けトルク 372
点検 303
パンク応急修理キット..... 374
パンクしたときは 364, 374
ホイールサイズ..... 407
ローテーション
（位置交換）..... 303
タイヤが空まわりする
（スタックした）..... 399
タイヤチェーン..... 252

ち

チェーン（タイヤチェーン）.....252
チャイルドシート.....42
ISOFIX バーでの取り付け 52
シートベルトでの固定.....51
選択方法.....42
チャイルドプロテクター.....86
駐車ブレーキ
（パーキングブレーキ）.....159
操作.....159
未解除走行時警告ブザー 344
メンテナンスデータ.....406
チルト＆テレスコピック
ステアリング 118

つ

ツール（工具）.....365, 375

て

ディファレンシャル
リヤディファレンシャル 405
手入れ.....292, 296
アルミホイール.....293
エアコン操作スイッチ 261
外装.....292
シートベルト 297
内装.....296
ラジエターグリル.....295
レーダーセンサー.....200
ワイヤレス充電器.....297
デッキアンダートレイ.....276
デッキフック.....275

テールランプ（尾灯）..... 160
電球（バルブ）の交換..... 328
ランプスイッチ..... 160
デフォッガー（リヤウインドウデフォッガー）..... 258
電球（バルブ）
交換要領（外装バルブ）..... 315
ワット数..... 407
点検基準値（メンテナンスデータ）..... 402
電子キー..... 80
作動範囲..... 102
正常に働かないとき..... 390
節電機能..... 103
電池が切れた..... 390
電池交換..... 310
電池交換（キー）..... 310

と

ドア..... 83
オートドアロック・アンロック機能..... 86
警告メッセージ..... 351
衝撃感知ドアロック解除システム..... 88
スマートエントリー&スタートシステム..... 102
チャイルドプロテクター..... 86
ドアガラス..... 127
ドアロックスイッチ..... 85
半ドア警告表示..... 351
半ドア走行時警告ブザー..... 351
ロックレバー..... 85
ワイヤレスリモコン..... 83, 89
ドアカーテシランプ..... 267
位置..... 267
ワット数..... 407
ドアミラー..... 123
操作..... 123
ドアミラー照明..... 267
電球（バルブ）の交換..... 315
ワット数..... 407
盗難防止装置
エンジンイモビライザーシステム..... 57
オートアラーム..... 58
時計..... 278
トップテザーアンカー..... 50
Toyota Stop & Start System..... 178
アイドリングストップ時間..... 71
SMART STOP..... 178
Stop & Start キャンセル表示灯..... 179
Stop & Start システム..... 178
Stop & Start 表示灯..... 178
ドライビングポジションシステム..... 112
ドライブスタートコントロールシステム..... 139
トラクションコントロール（TRC）..... 238

トランスミッション..... 154
シフトダウン
制限警告ブザー 155
操作 154
7 速スポーツシーケンシャル
シフトマチックモード..... 155
メンテナンスデータ 405
トリップインフォメーション
（マルチインフォメーション
ディスプレイ）..... 70
トリップメーター..... 65
機能 65
切りかえ・リセットスイッチ... 66

な

内装
収納装備..... 270
手入れ 296
「ナノイー」..... 262

に

ニーエアバッグ..... 33
荷物
積むときの注意 147
ラゲージルーム 275

ぬ

ぬかるみにはまった
（スタック）..... 399

ね

燃費
平均燃費 70
燃費画面.....75
燃料 402
給油.....175
種類.....402
燃料残量警告灯.....345
容量 402
燃料計.....65

は

パーキングブレーキ 159
警告メッセージ.....355
操作.....159
未解除走行時警告ブザー 344
メンテナンスデータ 406
バックドア.....89
イージークローザー 94
警告メッセージ.....351
ラゲージルーム内装備 275
パーソナルランプ 268
ワット数 407
排気ガス.....56
ハイビーム（ヘッドランプ）.....160
オートマチックハイビーム 162
電球（バルブ）の交換.....315
ランプスイッチ.....160
ワット数.....407
ハイマウントストップランプ
電球（バルブ）の交換.....328
ハザードランプ（非常点滅灯）....333
スイッチ 333
電球（バルブ）の交換
.....315, 328
ワット数 407

挟み込み防止機能
パワーウインドウ 127
パノラマムーンルーフ..... 132
発炎筒 334
バックアップランプ（後退灯）
電球（バルブ）の交換..... 315
ワット数 407
バッテリーがあがった 392
バニティ（化粧用）ミラー 277
バニティミラーランプ 277
装備について 277
ワット数 407
パノラマムーンルーフ 130
警告ブザー 132
警告メッセージ 351
操作 130
挟み込み防止機能 132
バルブ（電球）
交換要領（外装のバルブ）..... 315
ワット数 407
パワーウインドウ 127
ウインドウロックスイッチ.... 127
閉めることが
できないときは 128
操作 127
ドアロック連動ドアガラス
開閉機能 128
挟み込み防止機能 127
巻き込み防止機能 128
パワーステアリング 238
警告メッセージ 350
パワーステアリング警告灯.... 344
パンクした
応急用タイヤ装着車 364
タイヤパンク応急修理キット
装着車 374
番号灯
（ライセンスプレートランプ）... 160
電球（バルブ）の交換 328
ランプスイッチ 160
ハンドル
（ステアリングホイール）..... 118
位置調整 118
オーディオスイッチ 289
ドライビングポジション
システム 112
TRIP スイッチ 66
メーター操作スイッチ 70

ひ

ビークルスタビリティ
コントロール（VSC）..... 238
ヒーター
エアコン 256
リヤウインドウ
デフォッガー 258
シートヒーター 265
非常点滅灯（ハザードランプ）.... 333
スイッチ 333
電球（バルブ）の交換
..... 315, 328
ワット数 407
尾灯（テールランプ）..... 160
電球（バルブ）の交換 328
ランプスイッチ 160
ヒューズ 312
表示灯 63
日よけ（サンバイザー）..... 277
ヒルスタートアシスト
コントロール 238

ふ

ブースターケーブルのつなぎ方 392
フォグランプ 167
スイッチ 167
電球（バルブ）の交換 328
ブザー
シートベルト非着用警告 345
シフトダウン制限警告 155
車線逸脱警報（LDA） 202
接近警報（レーダークルーズコントロール） 195
パーキングブレーキ未解除走行時警告 355
半ドア走行時警告 351
ブレーキ警告 344
ムーンルーフ開警告 351
リバース警告 156
フック
けん引フック 340
コートフック 288
デッキフック 275
ネットフック 275
フロアマット固定フック 22
フューエルメーター（燃料計） 65
フューエルリッド（給油口） 175
給油口が開かない 177
給油のしかた 175
冬の前の準備（寒冷時の運転） ... 252
冬用タイヤ 252
プリクラッシュセーフティシステム（PCS） 245
機能 245
PCS 警告灯 345
ブレーキ
緊急ブレーキシグナル 238
警告ブザー 344
パーキングブレーキ 159
ブレーキ警告灯 344
メンテナンスデータ 406
ブレーキアシスト 238
ABS ＆ブレーキアシスト警告灯 344
機能 238
ブレーキ付近からキーキー音が聞こえる 143
ブレーキフルード 406
フロアマット 22
フロントアームレスト 287
フロントシート 108
シートヒーター 265
シートポジションメモリー 112
正しい運転姿勢 24
調整 108, 109
手入れ 296
ドライビングポジションメモリー 112
ヘッドレスト 116
フロントパーソナルランプ 268
スイッチ 268
ワット数 407
フロントフォグランプ 167
スイッチ 167
電球（バルブ）の交換 328
フロント方向指示灯 158
電球（バルブ）の交換 315
方向指示レバー 158
ワット数 407
フロントワイパーデアイサー 258

へ

平均燃費 70, 75
ヘッドランプ 160
電球（バルブ）の交換 317, 328
ライトセンサー 161
ランプ消し忘れ防止機能 161
ランプスイッチ 160
ワット数 407
ヘッドランプオートレベリングシステム 161
ヘッドレスト 116
ベビーシート 43

ほ

ホイール
交換（タイヤ） 364
メンテナンスデータ 407
方向指示灯 158
電球（バルブ）の交換 315, 328
方向指示レバー 158
ワット数 407
ホーン（警音器） 119
保証 9
補助確認装置 126
ボトルホルダー 273
ボンネット 299
開け方 299
警告メッセージ 351

ま

巻き込み防止機能
パワーウインドウ 128
マスターウォーニング 345
マルチインフォメーションディスプレイ 69
警告メッセージ 347
トリップインフォメーション ... 70

み

ミラー
インナーミラー 121
ドアミラー 123
バニティミラー 277
補助確認装置 126

む

ムーンルーフ 130
警告ブザー 132
警告メッセージ 351
操作 130
挟み込み防止機能 132

め

メーター（計器類） 65
警告灯 344
照度調整 66
表示灯 63
マルチインフォメーションディスプレイ 69
メーター 65
メカニカルキー 80
メモリーコール機能 114
メンテナンスデータ 402

ゆ

ユーザーカスタマイズ機能 408
雪道ですべって動けない
（スタックした）..... 399
油脂類 402

ら

ライセンスプレートランプ
（番号灯）..... 160
電球（バルブ）の交換..... 328
ランプスイッチ 160
ラゲージルームランプ 93
ワット数..... 407
ラジエーター
オーバーヒート 396
メンテナンスデータ 405
ランプ
室内灯..... 268
電球（バルブ）の交換..... 315
パーソナルランプ 268
非常点滅灯
（ハザードランプ）..... 333
フロントパーソナルランプ.... 268
フロントフォグランプ..... 167
ヘッドランプ（前照灯）..... 160
方向指示灯（ターンシグナル
ランプ／ウインカー）..... 158
ライトセンサー 161
ランプ消し忘れ防止機能..... 161
リヤフォグランプ 168
ルームランプ 268
ワット数 407
ランプ消し忘れ防止機能 161

り

リヤアームレスト 287
リヤウインドウデフォッガー
スイッチ 258
リヤフォグランプ 168
スイッチ 168
電球（バルブ）の交換 328
リヤ方向指示灯 158
電球（バルブ）の交換.....315
方向指示レバー.....158
ワット数 407

る

ルームミラー
（インナーミラー）.....121
ルームランプ（室内灯）.....268

れ

冷却水.....405
水温計 65
冬の前の準備 252
メンテナンスデータ 405
冷却装置（ラジエーター）.....405
オーバーヒート.....396
メンテナンスデータ 405
レーダークルーズコントロール
接近警報 195
レーダーセンサー.....197
レバー
シフト 154
方向指示 158
ロック（ドア）.....85
レーンディパーチャーアラート
（LDA）
車線逸脱警報機能.....202
車線表示 206
ステアリング制御機能.....202

ろ

ロック
ウインドウロック 127
シフトロック 389
スマートエントリー＆
スタートシステム..... 102
チャイルドプロテクター..... 86
ドア 85
ワイヤレスリモコン 83, 89

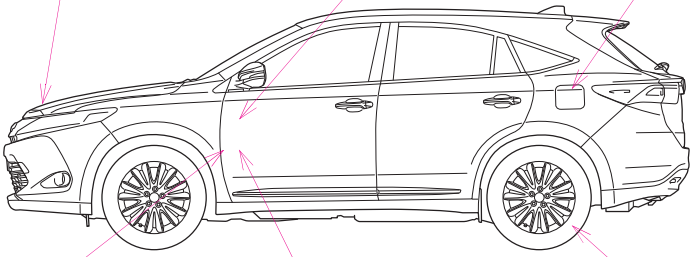
わ

ワイパー＆ウォッシャー
..... 169, 173
ワイパーデアイサー..... 258
ワイパーブレード（寒冷地用）... 253
ワイヤレス充電器..... 281
ワイヤレスリモコン..... 83, 89
作動の合図..... 84
操作 83, 89
電池の交換..... 310
半ドア警告ブザー 84
ワックス 292
ワット数 407
割り込み表示 72

ガソリンスタンドでの情報

給油や交換などの際に必要になる項目をまとめてあります。

ボンネットフック	バックドアスイッチ★	給油口
P. 299	P. 90	P. 176



ボンネット解除レバー	給油口オープナー	タイヤ空気圧
P. 299	P. 176	P. 407

燃料の容量（参考値）	60L
燃料の種類	・無鉛レギュラーガソリン　P. 175, 402 ・バイオ混合ガソリン（レギュラー）※ ※ エタノールの混合率 10% 以下または、ETBE の混合率 22% 以下のガソリン（酸素含有率 3.7% 以下）を使用することができます。
タイヤが冷えているときの空気圧	標準タイヤ：

タイヤサイズ	ホイールサイズ	前輪 kPa(kg/cm^2)	後輪 kPa(kg/cm^2)
225/65R17 102H	17 × 6 1/2J	240（2.4）	
	17 × 7 J		
235/55R18 100H	18 × 7 1/2J	220（2.2）	
235/50R19 99V	19 × 8J		

応急用タイヤ★：420kPa（4.2kg/cm^2）

エンジンオイル容量（参考値）	P. 403
エンジンオイルの種類	トヨタキヤッスルモーターオイル　P. 403

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

お問い合わせ、ご相談は
下記へお願いいたします。

トヨタ自動車株式会社　お客様相談センター

全国共通・フリーコール

0800-700-7700

オープン時間　365日　9:00～18:00

所在地　〒450－8711　名古屋市中村区名駅4丁目7番1号

ご愛用車のお問い合わせは、自動車検査証（車検証）をご用意頂くとスムーズな対応が可能です。

「個人情報保護方針」については、
http://www.toyota.co.jp にて掲載しております。

「リコール等情報」については、
http://toyota.jp/recall/index.html にて掲載しております。

トヨタ自動車株式会社
http://toyota.jp

ミ-32

M 48F17
01999ー48F17
NAB-2016年３月10日
2015年５月25日 初版
2016年３月17日 ４版
ハリアー(ガソリン車)